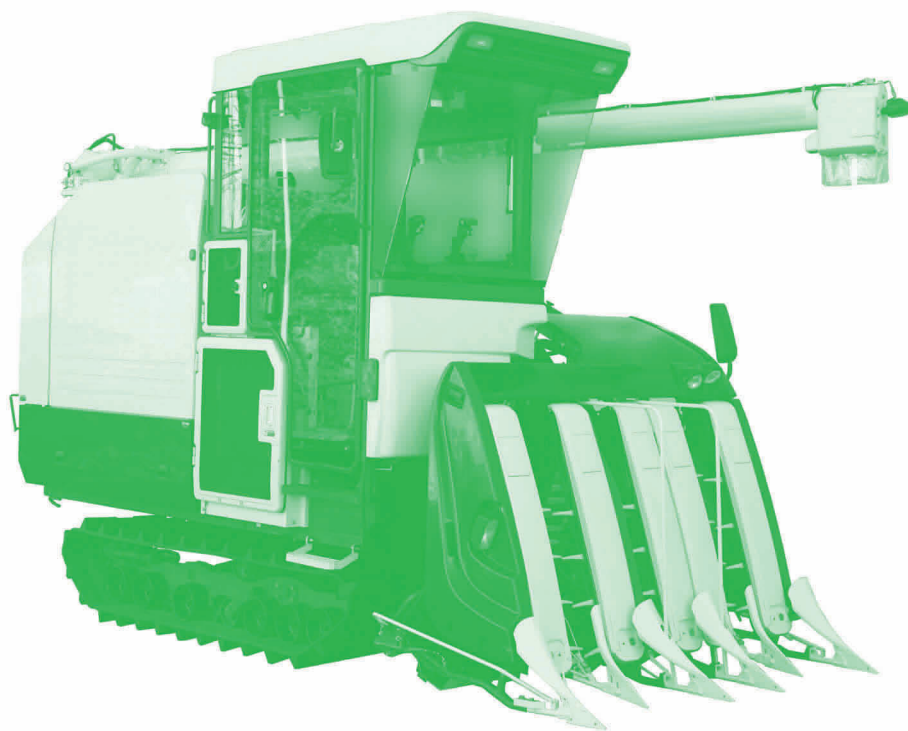


三菱コンバイン

取扱説明書

**VG563R・VY463R
VG570R**



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください




このたびはコンバインをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は、機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れのしかた、また、守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

- ・お読みになった後も身近な所に保管し、いつでも読めるようにしてください。（保管場所は5ページ参照）
- ・また、この機械を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。
- ・本書では、安全上重要な事項を(⚠)で示し、次のように表示しています。必ず守ってください。

 危険	その警告に従わなかった場合は、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警告	その警告に従わなかった場合は、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注意	その警告に従わなかった場合は、ケガを負うおそれのあるものを示します。

- ・なお、この機械の品質・性能向上あるいは安全のために、使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が、機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

●機械の使用目的について

- ・機械は稲・麦の収穫作業に使用してください。
- ・上記作業以外には使用しないでください。
- ・機械を使用目的以外の作業に使用したり、改造した場合は保証の対象になりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき、こんなことが知りたいとき、 ここを見てください!

この取扱説明書は、次のように構成されています。まず、**安全作業のために**からお読みいただき、基本事項から操作、点検まで機械の正しい取り扱い方を理解してください。

安全作業のために 安全な作業をするための注意事項は?

安全な作業をしていただくために、安全に関する基本事項、表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

ご使用まえに 使用前に知っておかなければならないことは?

機械の概要「仕様（装備）」などについて説明しています。

各部のはたらき 各部のはたらきを知るには?

各部の主な名称、操作レバー、装置の取扱いを説明しています。

運転のしかた コンバインを動かすには?

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動、走行のしかた、自動車への積込み・積降ろしのしかたなどを説明しています。

作業のしかた 収穫作業を行うには?

コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして、上手な収穫作業をしてください。

自動装置について 自動装置を使用して作業するには?

各自動装置の取扱いについて説明しています。

キャビンについて X仕様機の取扱いは?

各装置の取扱いについて説明しています。

手入れのしかた 機械を長もちさせるには?

機械をいつも正常な状態に保つために、手入れのしかたについて説明しています。「定期点検整備表」に従って保守、点検してください。

長期格納のしかた 機械を3ヶ月以上格納するときは?

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

不調時の処置 故障かなと思ったら?

作業中のトラブルや不調、異常を感じたときはすぐ原因を調べ処置してください。

付 表 諸元・関連部品は?

機械に係る諸元表・消耗部品などを一覧表で説明しています。

安全作業
のために

まご
え使
に用

は各
た部
らさ
きの

し運
が転
たの

し作
か業
たの

に自
つ動
し装
て置

にキ
つヤ
いビ
ン

し手
入
れ
た
の

の長
し期
か格
た納

処不
調
時
置の

付
表

も く じ

安全作業のために ……(安-1)～(安-24) (安全作業説明編)

ご使用まえに ……1

1. 保証とサービスについて …… 1
2. 仕様（装備）について …… 2
3. 用語について …… 3
4. 小型特殊自動車について …… 4
 1. 小型特殊自動車の届出 …… 4
 2. 公道走行するためには …… 4

各部のはたらき ……5

1. 各部の名称 …… 5
2. 運転装置の取扱い …… 6
 1. スイッチ・計器関係 …… 6
 2. ペダル・レバー関係 ……18

運転のしかた ……29

1. 運転まえの点検 ……29
2. エンジンの始動と停止 ……31
 1. エンジン始動のしかた ……31
 2. エンジン停止のしかた ……31
3. 走行・停車のしかた ……32
 1. 走行のしかた ……32
 2. 停車のしかた ……34
4. 自動車への積込み・積降ろし ……35
 1. 自動車・アユミについて ……36
 2. 機械の積込み要領 ……37
5. ほ場への出入り ……37
 1. ほ場への出入りのしかた ……37

作業のしかた ……38

1. 作業まえの準備 ……38
 1. 作物の条件について ……38
 2. ほ場の条件について ……38
 3. ほ場の準備 ……39
 4. 機械の準備 ……39
2. 刈取り作業のしかた ……45
 1. 刈取り操作の手順 ……45
 2. 作業速度の選びかた ……47

3. 刈取り手順 ……48
4. こく粒の排出操作方法 ……51
5. グレンタンク補助樋口の取扱い ……55
6. ツインハーモニー ……55
7. リフトシャットの取扱い ……56
8. 夜間作業 ……57
9. エンジン自動停止の取扱い ……58
10. 手こぎ作業 ……59
11. エンジン停止スイッチの取扱い ……60
12. 刈取り作業終了後の取扱い ……60
13. 警報装置について ……61

3. ワラ処理部の取扱い ……62

1. カッタ作業 ……62
2. 排ワラ作業 ……63

4. 麦刈り作業時の調整のしかた ……64

1. 選別ダイヤルの調節 ……64
2. こぎ胴回転数のセット ……64
3. 引起し変速のセット ……64

5. 刈刃の高さ調節のしかた ……64

自動装置について ……65

1. こぎ深さ自動制御 ……65
 1. 運転装置 ……65
 2. こぎ深さセンサの調整 ……66
 3. こぎ深さ自動制御が使えない条件 ……66
2. 方向自動制御【ディーラーオプション】 ……66
 1. 運転装置 ……66
 2. 自動での作業のしかた ……67
 3. 方向自動制御が使えない条件 ……67
3. 刈高さポジションコントロール ……68
 1. 運転装置 ……68
 2. 自動での作業のしかた ……68
 3. 手動での作業のしかた ……69
4. 水平自動制御 ……69
 1. 運転装置 ……69
 2. 自動での作業のしかた ……70
5. 選別自動制御 ……70
 1. 運転装置 ……70

6. 排出オーガ自動制御	71	4. 燃料回路のエア抜きのみしかた [463型,563型仕様]	105
1. 運転装置	72	5. 燃料フィルタ・セジメンタの 掃除・交換・エア抜き [570型仕様]	105
7. 送じん量自動調節	73	6. ソレノイドバルブのフィルタの点検と掃除	106
8. マイコン (マイクロコンピュータ)	74	7. エアフローセンサの点検と掃除	106
キャビンについて [X仕様]	75	8. 電装関係	108
1. 各部の名称	75	9. 電気配線の点検と掃除	111
2. 各部の取扱い	76	10. バッテリの点検と充電	111
1. ドア・ウインドウの開閉のみしかた	76	11. グレンタンクの回動のみしかた	117
2. スイッチ類の取扱い	78	12. こぎ胴部の開閉のみしかた	118
3. 室内装備の取扱い	79	13. 脱こく内部の掃除	119
4. エアコン	80	14. カッタのオープンのみしかた	123
5. モニタの取扱い	82	15. 切替板の開閉のみしかた [RET, RH仕様を除く]	124
6. 格納のみしかた	84	16. 揺動流板の掃除	124
手入れのみしかた	85	17. グレンタンク部の掃除	129
1. 定期点検整備	85	18. 刈取部の開閉のみしかた [RET, RH仕様を除く]	130
「定期点検整備表」	85	4. 各部の点検と部品交換のみしかた	136
2. 給油・注油・給水ののみしかた	87	1. カッタ刃組品の取外しと分解	136
「給油・注油・給水表」	88	2. 爪の交換のみしかた	145
1. 燃料の補給	89	3. ホース類の点検と交換	145
2. エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換	89	4. ワラ切カマの手入れ	146
3. ラジエータ冷却水の点検・交換	91	5. こぎ歯の点検と交換	147
4. トランスミッションケースのオイル点検・交換	92	6. 刈刃	148
5. 油圧作動油の点検・交換および油圧オイル フィルタ・HST (走行・搬送) オイルフィルタの交換	93	5. 各部の点検と調整のみしかた	149
6. 脱こくギヤケースのオイル点検・交換	95	「レバー・ペダルの点検・調整」	
7. こぎ胴ギヤケース	95	1. 走行クラッチペダル・駐車ブレーキ	150
8. 吸引ファンギヤケース	96	2. 脱こく・刈取クラッチ	151
9. 搬送HSTギヤケース	96	3. カッタ・排ワラ切替レバー [RET, RH仕様を除く]	152
10. グレン入力ギヤケースのオイル点検・補給	97	「ベルトの点検・調整」	
11. 集中注油タンク	97	4. 走行ベルト	153
12. 給脂箇所	98	5. コンプレッサ [X仕様]	153
13. ウォッシュタンク [X仕様]	99	6. かき込みベルト (刈取部)	154
14. 各部の注油	100	7. 脱こく入力ベルト	155
15. 集中注油装置の使い方	101	8. こぎ胴伝動ベルト	155
3. 各部の点検と掃除のみしかた	102	9. こぎ胴ベルト	156
1. ラジエータ吸気部の掃除	102	10. 選別ベルト	156
2. エアクリーナの掃除	103	11. 1番ラセン駆動ベルト	157
3. 燃料フィルタの掃除・交換 [463型,563型仕様]	104	12. 排ワラ駆動ベルト	157
		13. カッタベルト	158

安全作業
のために

まご
え使
に用

は各
た部
ら
きの

し運
が
転
たの

し作
か業
たの

に自
動装
置

にキ
ツビ
ン

し手
入れ
たの

の長
期格
た納

処不
調時
置の

付
表

14. グレン入力ベルト	158
15. 横ラセン駆動ベルト [X仕様]	159
16. こく粒排出レバー [X仕様を除く]	159
17. ファンベルト (オルタネータ) [463型,563型仕様]	160
18. ファンベルト (ラジエータ) [463型,563型仕様]	160
19. エンジンファンベルト (オルタネータ) [570型仕様]	160-1
20. エンジンファンベルト [570型仕様]	160-1
[チェーンの点検・調整]	
21. 株元搬送チェーン(右) [5条型]	161
22. 株元搬送チェーン(左) [5条型]	161
23. 株元搬送チェーン(中) [5条型]	161
24. 株元搬送チェーン(右) [4条型]	162
25. 株元搬送チェーン(左) [4条型]	162
26. かき込み搬送チェーン (左・中) 左[5条型・4条型], 中[5条型]	163
27. 穂先搬送チェーン	163
28. 補助搬送チェーン (上)	164
29. 引起しチェーン	164
30. こぎ深さ搬送チェーン	165
31. 脱こくフィードチェーン	165
32. 穂先排ワラチェーン	166
33. 排ワラチェーン	166
34. カキコミ軸駆動チェーン	167
35. 拡散装置駆動チェーン [ディーラーオプション取付時]	167
[クローラの点検・調整]	
36. クローラ	168

長期格納のしかた 169

1. 機械の掃除と洗浄	169
2. 錆止めと注油	169
3. エンジンの手入れ	169
4. 点検・整備	169
5. 格納	170
6. 再使用にあたって	171

不調時の処置 172

1. エンジン部	172
2. 走行・運転操作部	174
3. 電気・自動制御部	176
4. 刈取部	177

5. 脱こく部	178
6. ワラ処理部	181
7. グレンタンク部	182
8. キャビン部 [X仕様]	183

付 表 185

1. 主要諸元	185
2. ベルト一覧表	186
3. 主な消耗部品	187
1. 爪関係	187
2. カッタ関係	189
3. ヒューズ	189
4. 刈刃・カマ関係	190
4. 付属品一覧表	192
5. アタッチメント (別売り)	192
6. 潤滑油について	193
1. エンジンオイル	193
2. 油圧作動油	193
3. ギヤオイル	193
7. コンバイン関連商品	194

(安全作業説明編)

安全作業のために

	ページ
1. 安全作業のしかた	(安-1)
⚠ 作業前に次のことを守りましょう！	(安-1)
⚠ 安全作業のポイント	(安-2)
⚠ 作業前の一般的な注意事項	(安-4)
⚠ 点検, 整備および掃除をするときは	(安-5)
⚠ エンジンを始動するときは	(安-9)
⚠ 路上走行をするときは	(安-10)
⚠ 自動車への積込み・積降ろしをするときは	(安-12)
⚠ ほ場で作業をするときは	(安-14)
⚠ 1日の作業が終わったら	(安-17)
⚠ 長期格納するときは	(安-18)
2. 表示ラベルについて	(安-19)
(危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル)	

安全作業のために




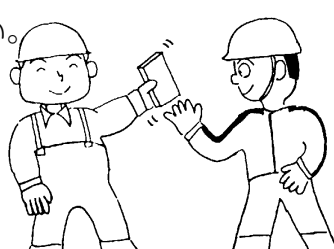
1. 安全作業のしかた

- ・安全上の重要な事項を、**危険** **警告** **注意** の3段階に分類して説明していますので、よく読んで理解し、安全作業に努めてください。
- ・なお、この項の安全作業の説明は、コンバイン全般についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので、よく読んで必ず守ってください。

⚠️ 作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください

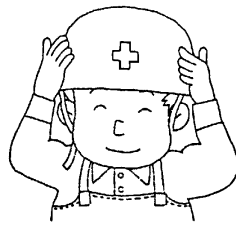
守らないとこんな事故が！

<p>警告 ◆このような人は、運転しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●酒気を帯びた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響、その他の理由により、正常な運転操作ができない人 <p>◆運転する人は、健康に気をつけて適当な睡眠と休憩をとってください。</p>	<p>誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。</p>  <p>今日は運転をやめておこう...</p>
<p>警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。</p>  <p>ヘルメット</p> <p>身体に合ったもの 袖口すっきり</p> <p>スベリ止めのある足に合った靴</p>	<p>このような服装は、衣服が回転部に巻込まれたり、足を滑らせたりして、思わぬ事故を起こすことがあります。</p>  <p>くわえタバコ 巻きタオル</p> <p>腰タオル</p> <p>ゲタ、ゾウリ</p>
<p>警告 ◆機械を他人に貸す場合は、取扱説明書も合わせて貸して、安全な作業ができるよう説明してください。</p> 	<p>借りた人が不慣れなため、思わぬ事故を引起こすことがあります。</p>



安全作業の

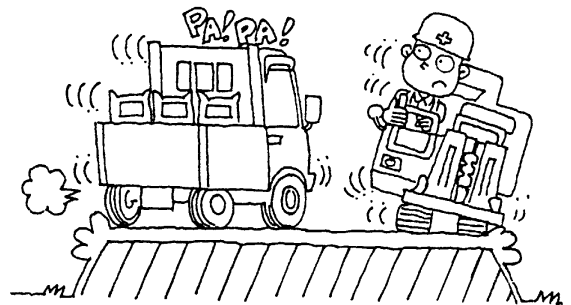
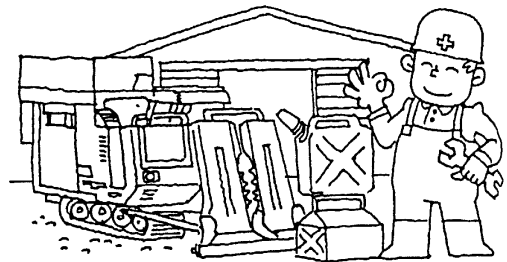
ポイント



- 取扱説明書、機械のラベルをよく読んでから運転をする。

始業・点検 準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止する。
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり、汚れたりして読めなくなったら、新しいラベルに貼り替える。
- エンジン、マフラ、バッテリー、燃料タンクの周囲を掃除する。
- バッテリーコードや電気配線、燃料ホースを点検する。
- 集中注油作業時は、運転者以外の人を機械に近づけない。
- 給油、冷却水の点検は、エンジンが冷えているときに行う。
- 燃料補給時は、エンジンを停止し、火気を近づけない。
- 方向指示器などの保安部品の作動を確認する。
- 刈取部を上げて掃除や点検をするときは、油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く。
- 機械は改造しない。
- 機械の制御系に影響を与える可能性があるため、業務用無線やアマチュア無線などの無線機器を設置しない。



エンジン始動

- 始動前にすべてのカバーを取付ける。
- 駐車ブレーキをかけ、各操作レバーを《中立》または《切》にする。
- 屋内で始動するときは、窓や戸を開けて換気をする。
- 機械の周囲から人を遠ざける。
- エンジンの始動は、座席に座って行う。
- 始動のときは、周囲の人に「合図」をする。

走行・運転

- 刈取部先端部にバンパを取付ける。
- ナローガイド、排出オーガを収納する。
- 機械に子供など、人や物を乗せない。
- 走行する前に、グレンタンク内のこく粒をすべて排出する。
- 発進時は、周囲を確かめる。
- 走行時の旋回は、低速で行う。
- 後進時は、後方を確認する。
- 急発進、急ブレーキ、急旋回はしない。
- わき見運転や手放し運転をしない。
- パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にする。
- 運転中は、子供など、人を機械に近づけない。

道路（公道）走行

- ナンバープレートの交付を受ける。
- 運転免許証を携帯し、交通法規を守る。
- 取扱説明書で指定された作業機以外は取外す。
- 前後左右を確認し、低速車線を走る。
- 夜間走行は、前照灯をつける。（作業灯は消す）
- 走行中に飛び乗り、飛び降りはいしない。

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

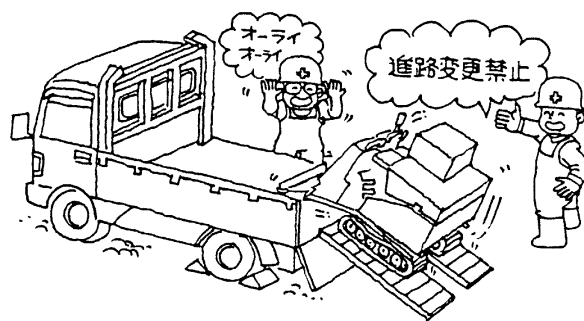
- 速度を落として走行する。
- 対向車を避けるとき、端に寄りすぎない。
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は、走行しない。
- 急な坂道でのギヤ変速操作はしない。
- 下り坂では、速度を下げた走行する。
- 急傾斜地は、走行しない。
- 坂道での旋回は、低速で行う。

停車・駐車

- 平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止する。
- 副変速は、[標準]に入れておく。
- 傾斜地では、駐車しない。
（やむを得ず駐車するときは、車止めをする）
- 機械を離れるときは、始動キーを抜取る。

自動車への積み込み・積降ろし

- アユミはじゅうぶんな強度、長さ（荷台の高さの4倍以上）、幅（クローラが外れない幅）すべり止め、フック付きを使用する。
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ、フックが外れないことを確認する。
- 周囲を確認し、機械の周囲には人を近づけない。
- パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチは《切》にする。
- 積み込みは前進、積降ろしは、後進で低速で行う。
- アユミの上では、進路変更や変速操作をしない。
- X仕様以外は機械から降りて行う。



ほ場作業 ほ場の出入り

- グレンタンク内のこく粒を排出して行う。
- 副変速は、標準であぜに対して直角に行う。
- あぜ、溝、急傾斜を越すときは、アユミを使用し、機械から降りて行う。
- あぜが崩れないことを確認しゆっくり行う。

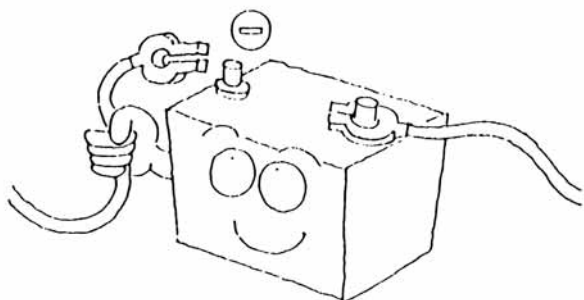


ほ場での作業

- エンジン始動、クラッチ《入》の前には、周囲を確認する。
- 刈取り作業は、機械の周囲に子供など、人を近づけない。
- 旋回時は、周囲の状況を確認し、低速で行う。
- 排出オーガの排出口内に手を入れない。
- 排出オーガの操作は、運転席から周囲の安全をよく確認してから行う。
- 運転走行中の乗り降りはしない。
- 過労にならぬよう余裕をもって、作業の間に休憩を入れる。
- あぜ際での旋回時は、周囲を確認する。
- ノッタの結束紐を交換するときは、エンジンを停止する。[ノッタ仕様]
- ノッタのそばに、手や身体を近づけない。[ノッタ仕様]

手こぎ作業

- パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》にして、走行を停止して行う。
- 手袋は、使用しない。
- 手や衣服を供給口に入れたり、脱こくフィードチェーンに触れない。
- カッタの切ワラが溜まったら、手こぎを中断して移動する。
- ワラクズの近くに、機械を停止しない。



作業中途の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ、駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する。
- 詰まりなどの異常時には、エンジンを停止して行う。
- カッタやグレンタンクをオープンしたときは、ストッパをかける。
- 取外したカバー類は、すべて取付けて作業を始める。

終業・格納 1日の作業が終わったら

- 平坦な場所に置き、刈取部を下げ、駐車ブレーキをかけて車止めをする。
- 始動キーを抜取っておく。
- エンジン、マフラ、バッテリー、燃料タンクの周囲を掃除する。
- マフラやラジエータなどは、冷えるまで直接触れない。
- シートカバーは、エンジンが冷えてからかける。



長期格納

- 1シーズンごとに定期点検をする。
- 燃料コックを閉じる。
- バッテリーコードの「⊖側」を外すか、バッテリーを取外す。
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け、駐車ブレーキをかけて、クローラに車止めをする。

⚠ 作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

<p>⚠ 警告 ◆機械を稲や麦の収穫作業以外には、使用しないでください。</p>	<p>思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。</p>  An illustration showing a worker in a hard hat operating a tractor. He is looking away from the tractor towards a star-shaped object in the air, indicating distraction. The tractor is shown in a state of motion, suggesting an accident is occurring or about to occur.
<p>⚠ 警告 ◆機械は、改造しないでください。</p>	<p>機械の機能に悪影響を与えるだけでなく、人身事故の原因となることがあります。</p>  An illustration showing a worker in a hard hat using a wrench to modify a tractor. The tractor is shown with smoke or sparks coming from it, indicating a malfunction or fire. The worker is running away from the tractor, suggesting an accident.
<p>⚠ 警告 ◆毎日の運転まえには、「運転まへの点検表」の項目を点検し、異常があれば整備してから運転してください。</p> <p>◆1年ごとに定期点検整備を行い、各部の保守を行なってください。</p>	<p>整備不良のまま使用すると、思わぬ事故を引起こす原因となります。</p>  An illustration showing a worker in a hard hat operating a tractor. The tractor has a large warning sign on its side. The worker is looking at the tractor with a concerned expression, suggesting a problem. The tractor is shown in a state of motion, indicating an accident.
<p>⚠ 警告 ◆屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。</p>	<p>排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠状態になって脳障害を起こしたり、死亡することがあります。</p>  An illustration showing a worker in a hard hat starting a tractor inside a building. The tractor is emitting exhaust gas. The worker is looking at the tractor with a concerned expression, suggesting a problem. The tractor is shown in a state of motion, indicating an accident.

⚠️ 点検・整備および掃除をするときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

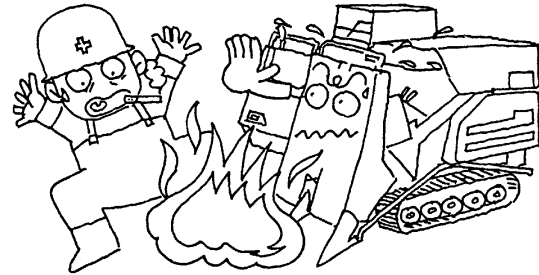


警告

◆燃料補給時は、くわえタバコなど火気を近づけないでください。

- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は給油、注油をしないでください。
- ◆燃料ホースの破損や燃料漏れがないか、点検してください。
- 燃料ホースは2年ごとに交換してください。

燃料などに引火し、火傷や火災の原因となります。



警告

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて、エンジンを停止し、各部の回転が止まってから行なってください。

機械が動き出し、思わぬ事故を起こすことがあります。

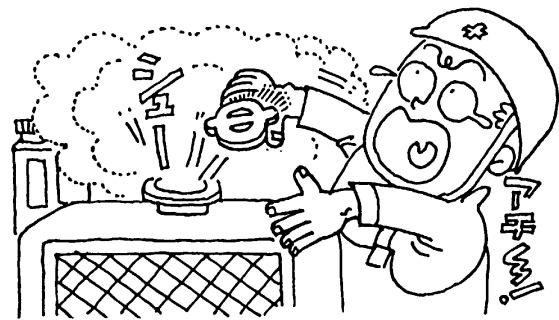


警告

◆ラジエータが熱いときは、ラジエータキャップを開けないでください。

- ラジエータキャップを開ける場合は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてからラジエータキャップを開けてください。
- 冷却水の点検は、補助タンクで行ってください。

熱湯が吹きだし、火傷することがあります。



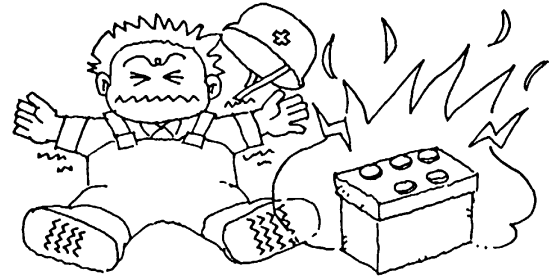
必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆バッテリーの点検時、火気（タバコ・ライターなど）を近づけないでください。

バッテリーから水素ガスが出ますので、引火により爆発して、傷害事故を引起こすことがあります。



◆バッテリー液を身体や服に付けないようにしてください。

バッテリー液（希硫酸）で服が破れたり、失明や火傷をすることがあります。

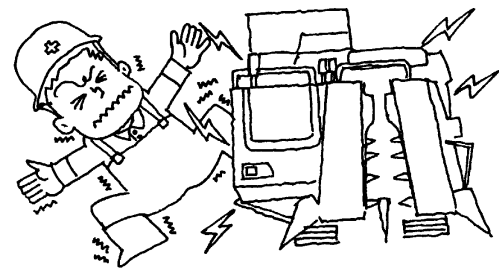
◆バッテリー液が、目、皮膚、衣服、物に付いたときは、すぐに多量の水で洗い、飲み込んだときは、すぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは、医師の診断を受けてください。



◆バッテリー端子からコードを取外すときは、⊖側を先に取外してください。取付けは⊕側を先に取付けてください。

ショートして、火傷や火災の原因となります。

- バッテリーは、指定されたバッテリーを使用してください。
- ⊕、⊖を逆に接続しないでください。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



警告

◆電気配線が他の部品に接触していないか、剥れや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。

- クランプや固定金具のゆるみがないか点検する。

火災事故を引起こすことがあります。

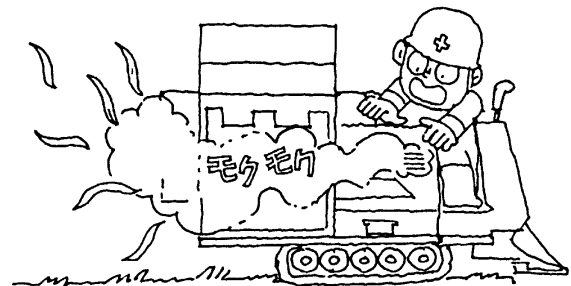


警告

◆エンジン、マフラ、バッテリー、燃料タンクの周囲にワラクスやゴミなどが付着していないか、作業前に点検して、付着していれば取除いてください。

- ベルトカバー内のワラクスを取除いてください。

火災の原因となることがあります。



警告

◆方向指示器などの保安部品の作動確認は、機械を動かす前に行なってください。

交通事故を引起こす原因となります。



警告

◆マルチステアリングレバーの効き具合や、片効きなどが点検し、異常であれば「お買いあげ先」で整備を受けてください。

正常な走行ができず、事故を引起こす原因となります。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



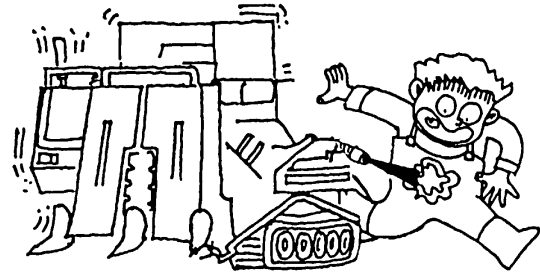
警告

◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に、エンジンを停止し、油圧リフト部をいっぱい下げた状態にして、残圧を抜いてから作業をしてください。

◆もし、高圧噴油に触れたら、直ちに医師の診断を受けてください。

圧力がかかって噴出した油は、皮膚に浸透し傷害の原因になります。

油が皮膚に浸入した場合、取除かないと壊疽（えそ）になる恐れがあります。



注意

◆点検・整備などで外したカバーなどは、すべて取付けてください。

機械に巻込まれたりして、傷害事故を起こすことがあります。



注意

◆排出オーガの作動確認は、周囲にゆとりのある広い場所で行なってください。

●屋外では、電線などに引掛けないでください。

屋内などの狭い場所で旋回すると、排出オーガの先端で電灯などを引掛けて、損害事故を起こすことがあります。



⚠ エンジンを始動するときは……

必ず守ってください

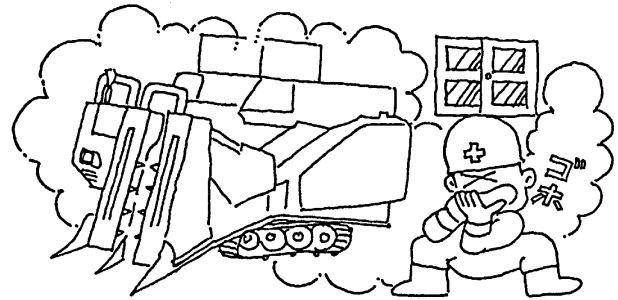
守らないとこんな事故が！



警告

◆屋内での始動は、窓や戸を開けて換気をしてください。

排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠状態になって脳障害を起こしたり、死亡することがあります。



警告

◆駐車ブレーキをかけてください。
◆変速を《中立》にしてください。

変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し、人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

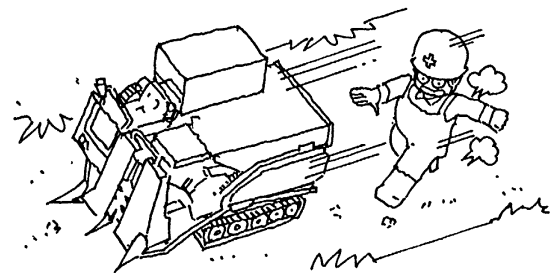
- ◆取外したカバーなどは、すべて取付けてください。
- 変速レバーが《中立》になっているか手で動かして確認する。
- 周囲を確認し、合図してから始動する。



警告

◆始動は、運転席の座席に座って行なってください。

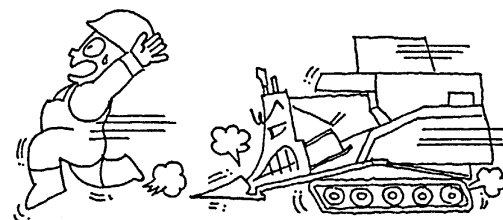
機械が急に動き出し、人身事故や傷害事故の原因となることがあります。



警告

◆暖機運転は、駐車ブレーキをかけ、主変速、副変速を《中立》、パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にして行なってください。

急に発進したりして、思わぬ事故の原因となります。



⚠️ 路上走行をするときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



警告

◆路上走行時は、交通法規を守り、ヘルメットを着用してください。

- 夜間の走行は、前照灯をつけ、作業灯は消してください。

思わぬ傷害事故の原因となります。



警告

◆子供など、人や物を機械に乗せないでください。

- 荷物は、別の自動車（運搬車）などで運んでください。

◆走行時は、サイドステップ、ナローガイド、排出オーガを収納してください。

思わぬ事故を起こす原因となります。



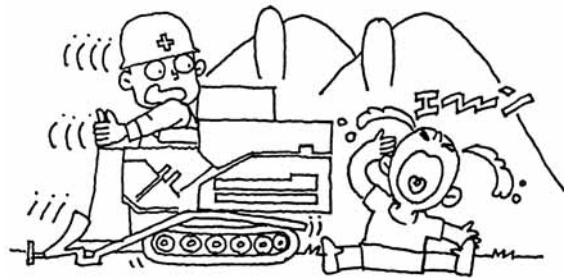
警告

◆発進するときは、機械の周囲から人を遠ざけて、低速で発進してください。

◆パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが《切》になっていることを確認してください。

- 急発進、急ブレーキ、急旋回しないでください。
- 前後、左右の確認をし、わき見運転はしないでください。

傷害事故を起こす原因となります。



警告

◆路上走行するときは、刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。

◆取扱説明書で指定された作業機以外は、取外してください。

- 刈取部先端を50cm程度上げてください。
- ◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。

思わぬ事故を起こす原因となります。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆道路の端には、寄りすぎないようにしてください。

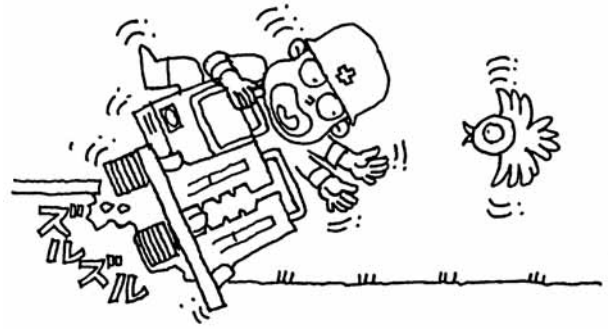
◆対向車を避けるとき、端に寄りすぎないでください。

◆軟弱な路肩や草が生い茂っている所は、走行しない。

◆雨天、雨あがりのときは、低速で慎重に走行してください。

◆凸凹道路、下り坂は速度を落とし、慎重に走行する。

路肩が崩れ、横転事故を引起こすことがあります。



◆坂道の途中で、走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。

●坂の手前で一旦停止して、副変速を《標準》に入れ変えてから、登り降りしてください。

◆坂道での斜め走行や旋回はしないでください。

◆急傾斜地を走行しないでください。

思わぬ事故を引起こすことがあります。



◆坂道では、駐車しない。やむを得ず坂道の途中で駐車するときは、駐車ブレーキをかけて、エンジンを停止し、木片などで車止めをしてください。

●刈取部は、下げておいてください。

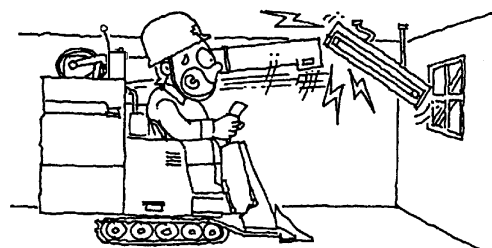
●機械から離れるときは、始動キーを抜取ってください。

機械が動き出し、事故の原因となることがあります。



◆業務用無線やアマチュア無線などの無線機器は機械の制御系に影響を与える可能性がありますので機械に設置しないでください。

思わぬ事故を引起こすことがあります。



⚠️ 自動車への積込み・積降ろしをするときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

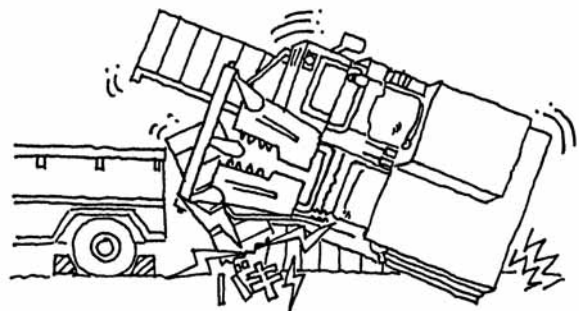


警告

◆積載重量が、自動車の最大積載量を超えない車で、かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

- 自動車は、駐車ブレーキをかけエンジンを停止し、変速を1速か後進に入れ、タイヤに車止めをしてください。
- ◆アユミは、じゅうぶんな強度、長さ、幅のある基準に合ったすべり止め、フック付きを使用してください。
- アユミの幅は、クローラ幅に合ったものを使用してください。

アユミが折れたりして、転倒事故を起こすことがあります。



警告

◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ、自動車の荷台に平行に真直ぐにかけてください。

- 荷台にアユミのフックをかけ、外れないことを確認してください。



警告

◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。

- ◆積込みは前進、積降ろしは後進で、副変速は標準で行なってください。
- ◆X仕様以外の積込み・積降ろしは、機械から降りて行ってください。
- ◆水平自動スイッチを「切」にして、機体を一番下げた状態で行なってください。
- ◆方向自動機付きの機械は、方向自動スイッチを「切」にして行ってください。[ディーラーオプション]

バランスを崩して、転落・転倒事故を引起こすことがあります。

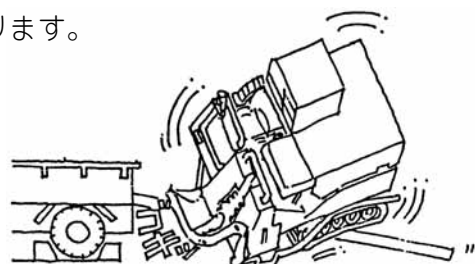


警告

◆アユミの上では、進路変更や変速操作をしないでください。





- 機械をアユミに対して真直ぐに止め、左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し、アユミの途中で機械を止める必要がないようにしてください。

急旋回したり、急降下したりして転倒事故を引起こすことがあります。



必ず守ってください

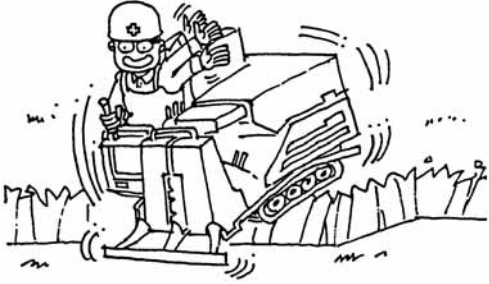


守らないとこんな事故が！

<p> 警告 ◆補助者立合誘導のもとに行なってください。機械の周囲に子供など、人を近づけないでください。</p>	<p>万一のときに逃げるができなくなり、傷害事故の原因となります。</p>
<p> 警告 ◆自動車の荷台の上では、刈取部を床に当たるまで降ろして駐車ブレーキを掛けてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●副変速レバーを《標準》位置にしてください。 ◆所定の [ロープ掛けフック (4箇所)] にロープを掛けてしっかり固定してください。 ●車止めをしてください。 	<p>機械が動き出し、事故の原因となることがあります。</p>
<p> 警告 ◆自動車での輸送時には機械の各カバーを固定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カバー類などは風圧で破損、脱落のおそれがありますので、確実に固定するか、外して荷台に置いてください。 	<p>輸送中にカバー類が脱落し、思わぬ事故の原因となることがあります。</p>
<p> 警告 ◆輸送中の急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。</p>	<p>輸送中に機械が動き、思わぬ事故の原因となることがあります。</p>

⚠ ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

<p>⚠ 警告 ◆10cm以上のあぜ、溝、10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは、アユミを使ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アユミ上では、進路変更しない。 ◆グレンタンク内のこく粒を排出して行ってください。 ◆X仕様以外は機械から降りて行ってください。 	<p>バランスを崩して、転倒事故を引き起こすことがあります。</p> 
<p>⚠ 警告 ◆あぜ越えは、副変速を《標準》にして、あぜに直角に横切るようにしてください。</p> <p>◆あぜが崩れないことを確認して行ってください。</p>	<p>転倒事故を引き起こすことがあります。</p> 
<p>⚠ 警告 ◆補助者との共同作業が多いので、作業前によく打合わせをしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●エンジン始動や発進するとき、パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを入れるときは、ホーンで合図してください。 ◆作業時の旋回は、低速で行なってください。 ●旋回するときは、周囲を確認し、低速で行ってください。 ●機械の周囲に人を近づけない。 	<p>傷害事故の原因となります。</p> 
<p>⚠ 警告 ◆手こぎ作業のときは、手や衣服を供給口に入れたり、脱こくフィードチェンに触れないでください。</p> <p>◆手こぎ作業をするときは、そで口はきっちり止めて、巻きタオル、腰タオルは着用しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●手袋は、使用しない。 ●供給口が見えなくなるほど、多量の作物を供給しない。 ●カッタ切ワラが溜まったら、手こぎ作業を中断して移動する。 ●手こぎ作業は、走行を停止してパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》にして行う。 	<p>機械に巻込まれたりして、傷害事故を起こします。</p> 

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



警告

◆詰まりなどの除去や、ノッタのひも交換（ノッタ仕様）をするときは、エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。

- 脱こく部やカッタの詰まり、チェーンやベルトのワラの巻付き、垂れ穂などに気付いても、作動中は手を出さない。
- こぎ胴部を開いたときは、《ロック》位置まで持ち上げてください。

傷害事故を引起こすことがあります。



警告

◆補助者は、作業中にワラの巻付き、詰まりを取除かないでください。

- ◆補助者は、機械に近づくとき運転者に合図をして、確認を取ってください。
- ◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動、脱こくクラッチ操作をしてください。
- ◆カッタでの事故が一番多く発生していることを、作業者は認識しておいてください。
- ◆エンジンが作動中は、カッタのそばに手・足・衣服を近づけないでください。
- ◆補助者に、機械の機構、運転や操作のしかたをよく知らせておいてください。
- ◆作業中は、機械に人を近づけないでください。
- ◆運転者は、常に補助者の状態を確認しながら作業をしてください。
- 特に、カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には、作業中は近づかない。
- ◆ワラなどの巻付き・詰まりなどが発生しても、作動中は手を出さないでください。
- ◆運転者と補助者は、常に「合図」し合いながら作業をしてください。

傷害事故を引起こすことがあります。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



警告

◆作業中にカマなどを使って、脱こく部やカッタの掃除をしないでください。

●カッタにワラが巻付いても、回転中は掃除をしない。カッタのカバーを開閉するときは、エンジンを停止してください。

◆カッタをオープンしたときは、ストッパをかけてください。

カマなどが跳ね飛ばされて、傷害事故の原因となります。



警告

◆ワラクズの近くには、機械を止めないでください。

●エンジン排気による火災を防ぐため、ワラのないところに機械を止めてください。

●手こぎ作業時、ワラの上に機械を止めて作業をしないでください。

マフラの排気で火災になることがあります。



警告

◆エンジンやマフラ、バッテリー、燃料タンクの周囲、ベルトカバーにワラクズが溜まった場合は、エンジンを停止して掃除をしてください。

火災の原因となることがあります。



注意

◆排出オーガの排出口内には、手を入れないでください。

◆排出オーガの操作は、運転席から周囲の安全を確認してから行ってください。

◆走行の前に、排出オーガがオーガ受けに収納され、固定されているか確認してください。

ラセンに巻込まれたりして、負傷することがあります。排出オーガが周囲の人に当り、負傷したりすることがあります。



⚠️ 1日の作業が終わったら……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



警告

◆作業が終了したら、平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い、掃除をしてゴミなどを取除いてください。

- 高温部が冷えてから、エンジン・マフラ・バッテリー・燃料タンクの周囲のワラクスを除去・掃除してください。

火災の原因となることがあります。

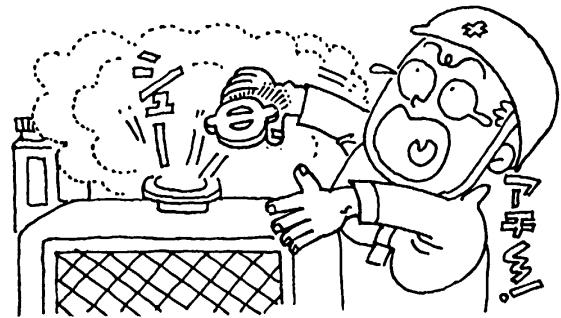


警告

◆ラジエータが熱いときは、ラジエータキャップを開けないでください。

- ラジエータキャップを開ける場合は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてからラジエータキャップを開けてください。
- 冷却水の点検は、補助タンクで行ってください。

熱湯が吹きだし、ヤケドすることがあります。

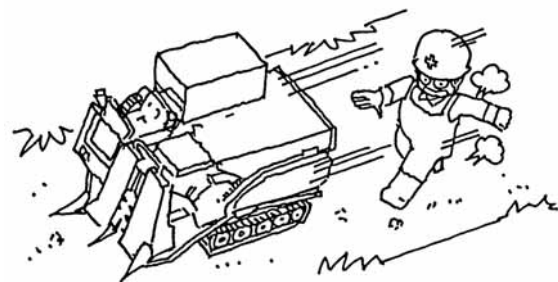


警告

◆保管は、平坦な場所に置き、刈取部を下げて、駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。

- 副変速レバーを《標準》に入れ、駐車ブレーキをかけてください。
- 始動キーを抜取っておいてください。

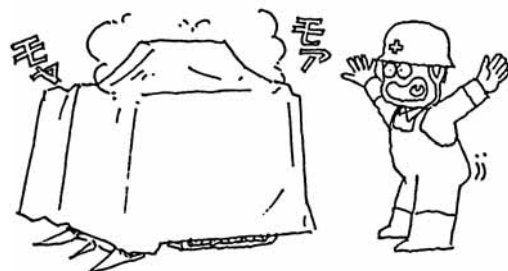
機械が動き出し、思わぬ事故の原因となります。



警告

◆エンジンが熱いときは、シートカバーをかけないでください。

火災の原因となることがあります。



⚠️ 長期格納するときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

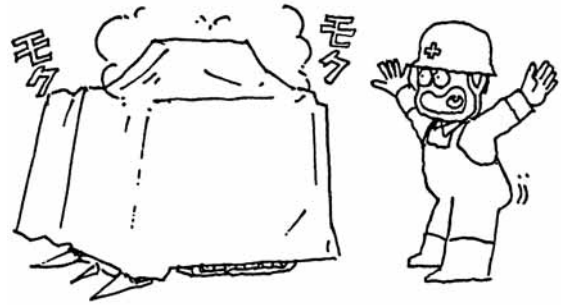


警告

◆バッテリーコードの「⊖側」を外すか、バッテリーを取外してください。

- 1ヶ月に1回程度充電をしてください。
- ◆ 燃料コックを閉じてください。

思わぬ火災事故を起こす場合があります。



警告

◆平坦な場所に置き、刈取部先端にバンパを取付け、駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。

- 副変速を《標準》に入れ、クローラに車止めをしてください。
- スタータスイッチ（始動キー）を抜取っておいてください。

機械が動き出し、思わぬ傷害事故を起こすことがあります。

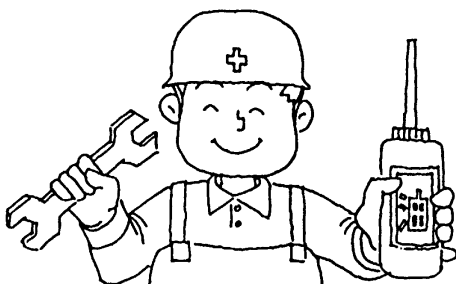


警告

◆シーズン終了後には、定期点検を受けてください。

- 1年ごとに定期点検・整備を「お買いあげ先」で、純正部品を使用して行なって、各部の保安を確保してください。

整備不良のまま使用すると、思わぬ事故を引起こす原因となります。



2. 表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また、機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「お買いあげ先」に注文して購入し貼り替えてください。

②

警告

0960320060

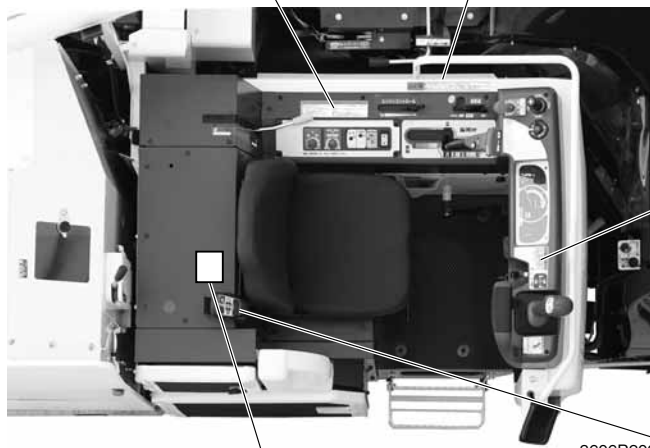
- 路上走行する時は
 - デバイダ先端にバンパを取付けてください。
 - ナローガイド、サイドステップを取納してください。
 - カッター下部カバーを取納してください。
 - カッター右側の補充開閉カバーを開けてください。
 - 脱こく刈取クラッチ、自動スイッチを《切》にしてください。
- マルチステアリングレバーで刈取部先端を50cm程度上げてください。
- 油圧固定スイッチを《油圧固定》にして、フックをかけてください。
- 急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
- デコボコ道、下り坂では速度を落して走行してください。
- 公道では作業機など突起物となるものは装着しないでください。

① [RET, RH仕様を除く]

警告

35868531700

- 路上走行をする時は、スピンドライターンは、使用しないでください。
- スピンドライターンの入、切は、前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください。
- 確実に切替わっていないと、マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません。



④

警告

3008931500

中立(N)位置でも動く場合がありますので、機械から離れる時は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。

切 ACC 入 始動

⑤ [463型, 563型]

警告

09603200013

- エンジンが熱い時はキャップを開けないでください。

[570型仕様]



3606P264

③

注意

36598555100

- 走行、あぜ越え、自動車への積込み、積降ろしの際は、グレンタンクを空にし、排出オーガは収納位置にしてください。
- 排出オーガを上げた状態での刈取作業、路上走行はしないでください。
- 傾斜地でエンジンを停止する時は、排出オーガを取納してください。
- 排出オーガの操作は、周囲を確認し、作動範囲内に頭や手を近づけないで行ってください。

オーガ旋回自動の取扱い

- 排出位置を選択してオーガ旋回スイッチを押すと選んだ排出位置まで自動的に旋回します。
- 収納位置以外でオーガ旋回スイッチを押すと収納位置へ戻ります。

⑤

警告

09603200013

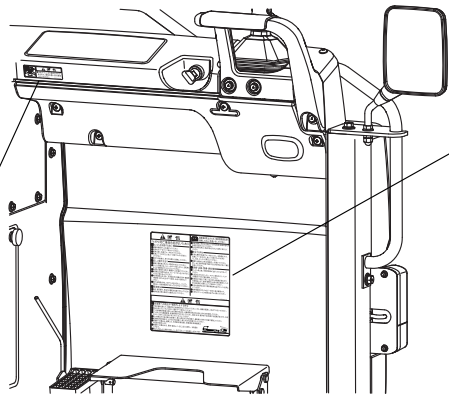
- エンジンが熱い時はキャップを開けないでください。

⑥

警告

09603200029

- 排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないでください。



36060159

A 矢視

⑭

警告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

ケガや死亡事故を起さないために

エンジンを開始する前に

- 機械の周囲から人を遠ざけてください。
- 各部のキャップをすべて取付けてください。
- 座席に座り、駐車ブレーキをかけてください。
- 変速レバーを《中立》、脱こく刈取クラッチを《切》にしてください。
- 扉内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。

正しい操作方法で

- 機械に運転者以外の人や物のせましないでください。
- エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転部に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- 発進及び旋回する時は、機械から人を遠ざけてください。
- 緊急停止が必要なときは、ブレーキペダルをすみやかに、いっしょに踏み込んでください。
- 刈取作業時以外（特に、あぜ越え時・移動走行時・選別時・格納時）は「もみ」はすべて排出、あるいは降ろしてください。
- 詰まりを排除（時は、各クラッチを《切》にし、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行ってください。

転倒防止

- 発進、旋回操作、高地での運転は低速で行ってください。
- 傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。

停止する時は

- 平坦な場所で駐車ブレーキをロックし、刈取部を下げ、変速レバーを《中立》、脱こく刈取クラッチを《切》にした後、エンジンを停止してください。
- 傾斜地に離れるときは必ず始動キーを押掛けてください。また、止むを得ず低速で駐車するときは必ず止めを巻いてください。

清掃・点検・整備・燃料補給


- エンジン停止後、各部の動きが止まってから行ってください。
- 火災防止のためエンジン、マフラー、燃料タンク、バッテリー周囲のアーク等を排除してください。
- 刈取部が不良に下降してはさまる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときは油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にシフトしてください。
- 火災の危険があるので燃料補給時は必ずエンジンを停止してください。
- 燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- こぼれたディーゼル油は必ずふき取ってください。

自動車への積込み・積降ろしをする時は

- 平坦な場所を選んで、補助者の立会誘導のもとに行ってください。また、機械の周囲に人を近づけないでください。
- 積込前にグレンタンク内のこぼれをすべて排出してください。
- アユミは機械の重量に耐えられる強度で表され、自動車用台高の4倍以上のものを使用してください。
- アユミの上では進路変更、変速操作を行わないでください。旋回（左右）操作をするとき転倒する危険があります。左右のクローラをアユミの中央に必ずセットしてください。
- 車への積込みやあぜ越え時は前進で、車から降ろすときは後進で、運転席から降りて低速で移動してください。
- 結束機仕様の場合は、上るときは後進で、降ろすときは前進で行ってください。
- 自動車への積込み・積降ろしは、主変速《前進低速》、副変速を《車両積降ろし》の位置で操作します。
- 自動車への積込みは、昇降・旋回レバーを《上》る際に操作し、刈取部を上げます。
- 積込みが終わったら昇降・旋回レバーを《下》る際に刈取部を一杯下げます。

安全作業のために

①⑦ [RET, RH仕様]



⚠ 危険

- カッター部点検の際は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行ってください。
- 回転中は、カバーの中に手を入れないでください。


35518658000

⚠ 注意 路上走行時およびカッター作業時は閉じてください。

35448656000


①② [RET, RH仕様を除く]

⚠ 危険



- カッター部の点検・調整、わら・雑草などの巻付きや詰りを取除く際は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行ってください。
- 回転中は、カバーの中に手を入れないでください。
- 点検・調整などが終わったら、危険ですのでカバーを必ず元通りに戻してください。

キリカエバンの開閉



キリカエバン **レバー** **固定ピン**

- キリカエバンを開くときは
- 1. レバーを手前に引き固定ピンから外します。
- 2. キリカエバンを後方に開きます。
- キリカエバンを閉めるときは
- 1. キリカエバンを持ち上げながらレバーを手前に引きます。
- 2. キリカエバン側の固定ピンにレバーを差し込みます。

35585927000

⚠ 注意

- カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

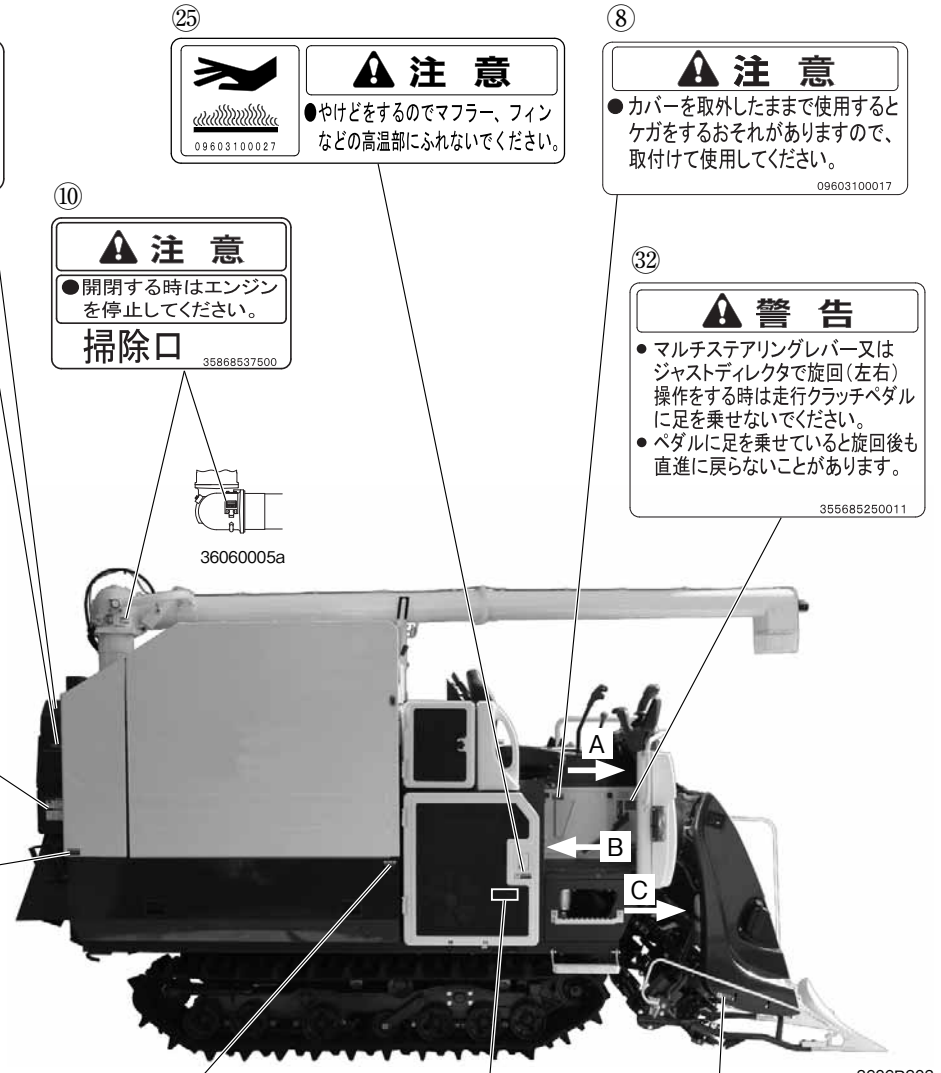
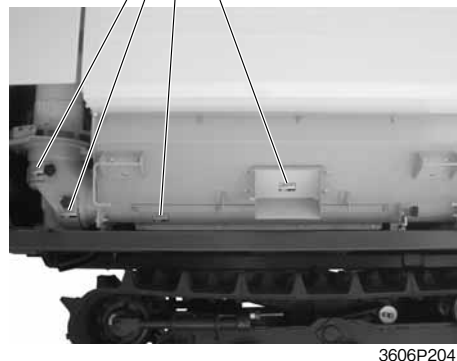
09603100017

⚠ 注意

- 開閉する時はエンジンを停止してください。

掃除口

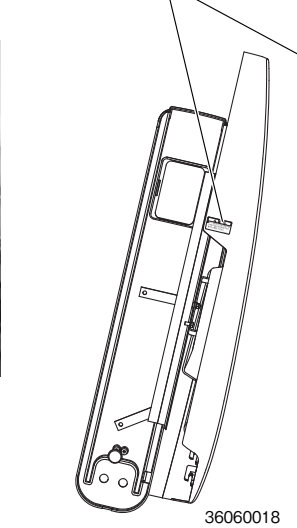
35868537500



⚠ 注意

- カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017



C 矢視

⚠ 注意

- やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。

09603100027

⚠ 注意

- カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

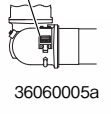
09603100017

⚠ 注意

- 開閉する時はエンジンを停止してください。

掃除口

35868537500



⚠ 警告

- マルチステアリングレバー又はジャストディレクタで旋回(左右)操作をする時は走行クラッチペダルに足を乗せないでください。
- ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。

355685250011

⚠ 危険

- 刃部に手をかけないでください。
- 着脱作業時は手袋をしてください。

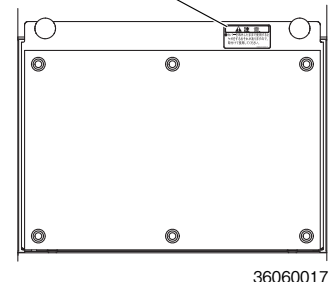
09603000019

③④ (エンジンカバー内側) [570型仕様を除く]

⚠ 警告

- ファンは自動的に始動します。手を触れないでください。

26737142000



B 矢視

15

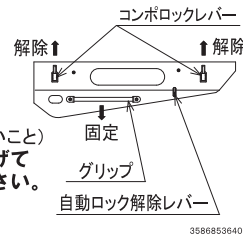
注意

- 開閉する時はエンジンを停止してください。
- カバーを取外したまま使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

ワラ切鎌交換力所

こぎ胴の開閉

- こぎ胴を開く時は
1. コンボロックレバーを **左右同時に《開く》**の方向に上げ、固定を解除します。
 2. グリップでこぎ胴を持ち上げ『カチッ』という音を確認して、ゆっくり手をはなします。
- こぎ胴を閉める時は
1. グリップでこぎ胴を一杯持ち上げ、自動ロック解除レバーを押し上げたままこぎ胴を下げます。
 2. グリップでこぎ胴をおろすと自動固定します。(コンボロックレバーを持って、こぎ胴を上げ下げしないこと)
 3. **コンボロックレバー(2ヶ所)を必ず下にさせてコンボロック位置にあることを確認してください。**
 4. コンボロックレバーがコンボロック位置にない場合は開く・閉めるの動作を繰り返してください。



7

注意

- 排出オーガは手押し厳禁
- 排出オーガの旋回は周囲を確認
- 排出中は手を排出口に近づけない

35448538200

18

手をのせないでください

35448541100

17

危険

- カッター部点検の際は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
- 回転中は、カバーの中に手を入れないでください。

35518650000

16

警告

- こぎ胴が回転しているときは、手・衣服等を近づけないでください。

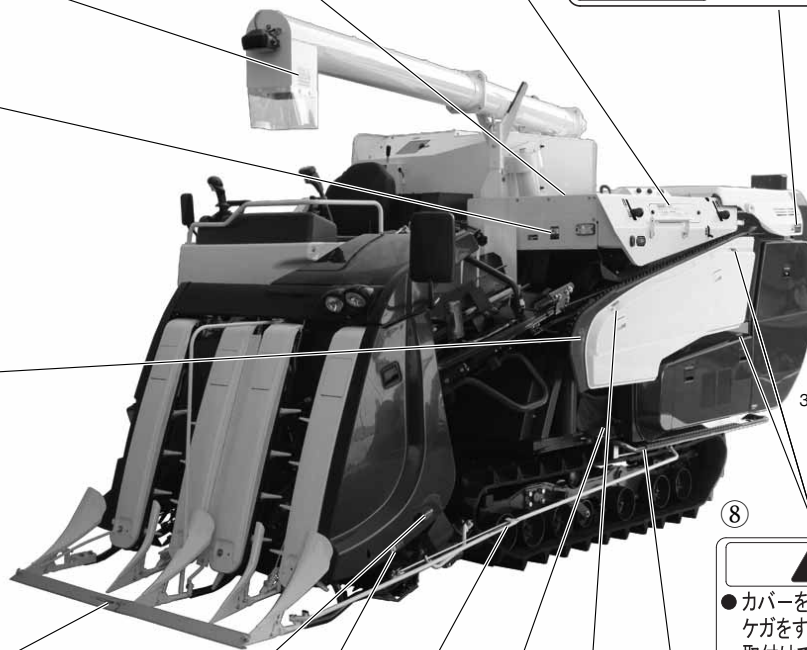
09603200034

19 [RET, RH仕様を除く]

警告

- 刈取オープン作業は平坦で安全な場所で、刈取部の昇降以外はエンジンを必ず停止して行ってください。
- 刈取部をオープンしたまま走行しないでください。
- 枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。

35838518100



3606P205a

8

注意

- カバーを取外したまま使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

31

注意 路上走行時は装着してください。

09603100023

21

注意 路上走行時は収納
刈取作業時は乗らないでください。

35448528100

8

注意

- カバーを取外したまま使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

22

警告

- ワラ等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めてください。
- 手こぎ作業をする時は、手・衣服を供給口に入れたり、フィードチェーンに触れたりしないでください。

35878524000

13

危険

- 刃部に手をかけないでください。
- 着脱作業時は手袋をしてください。

09603000019

20

注意 路上走行時は収納してください。

09603100024

23

危険

火気厳禁メガネ着用ことも禁止 硫酸注意説明書熟読爆発注意

- 水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
- 充電は風通しのよいところで行う。(充電時火気厳禁) ショートやスパークをさせない。
- バッテリー液(硫酸)で失明ややけどの恐れあり 液がついたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける。
- バッテリー液注入済(横倒し厳禁 液漏れ注意)
- 急速充電厳禁 ●開封厳禁(密封タイプ)

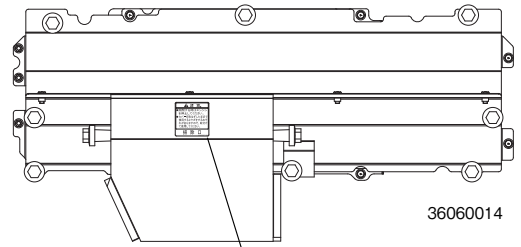
09603000020

ワラ切タイプ



カッタオープン

3606P232



36060014

⑨

注意

- 開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015

②④

注意

- 開閉する時はエンジンを停止してください。
- カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃除口

35868527100

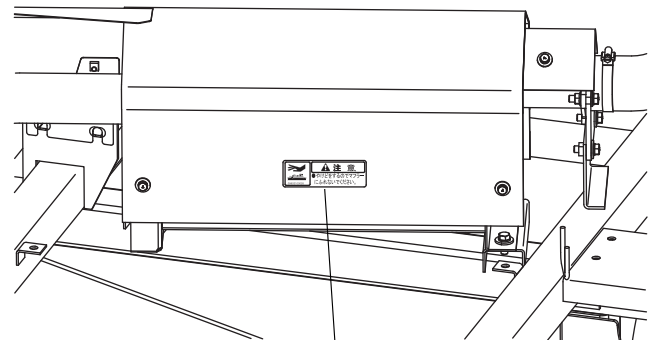
②④

注意

- 開閉する時はエンジンを停止してください。
- カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃除口

35868527100



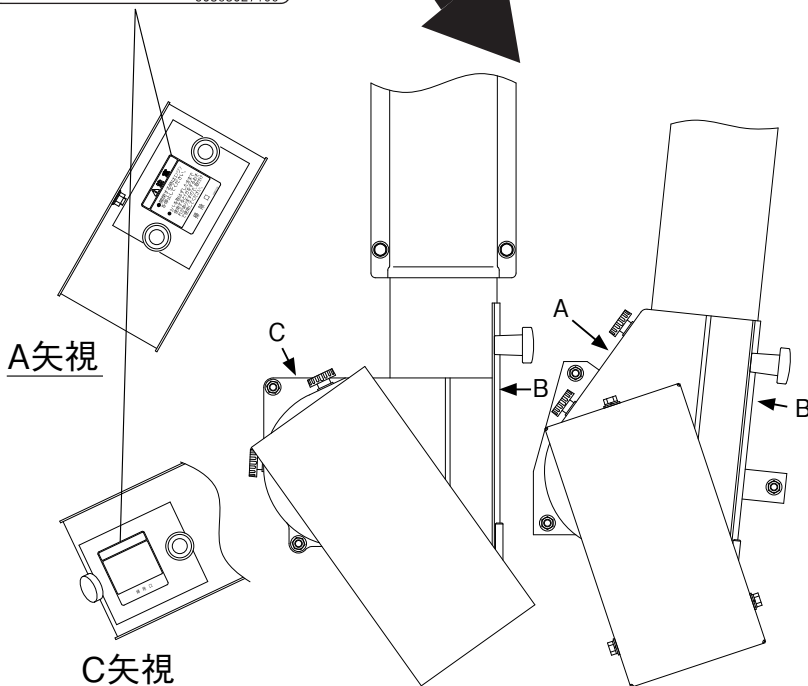
36060019

②⑤

注意

- やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。

09603100027



A矢視

C矢視

②④

注意

- 開閉する時はエンジンを停止してください。
- カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃除口

35868527100

B矢視

36062015



3606P206
カッタオープン

33

注意

1. カッタをオープンした時は、カッタを固定させるためロッドで確実にロックしてください。
2. カッタの刃に触れると手、指を切る恐れがあるので、刃に触れないでください。

35728592000

17



危険

- カッター部点検の際は、各クランチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行ってください。
- 回転中は、カバーの中に手を入れないでください。

35918850000

26

警告

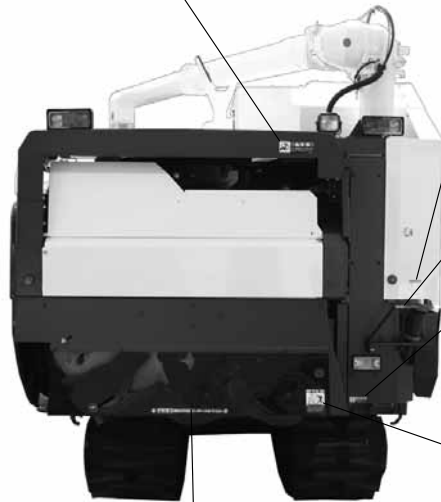


火気厳禁

- 火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めてください。

ディーゼル軽油

35878542000



3606P207

27 [RET, RH仕様を除く]

3598823500

注意

乗らないでください

25



09603100027

注意

- やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。

28

注意



- 排じんファンやカッタにより飛散する排出物(作物屑や小石等の異物)でケガをするおそれがあります。脱穀運転中は、排出物が飛散する付近に近づかないでください。

35328557000

29

- 注意** 回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。

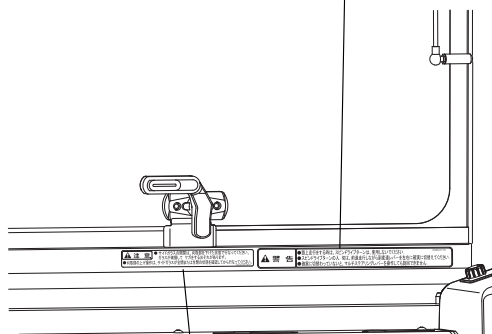
09603100020

1

警告

- 路上走行をする時は、スピンドライバターンは、使用しないでください。
- スピンドライバターンの入、切は、前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください。
- 確実に切替わっていないと、マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません。

35868531700



36060011

X仕様



3606P254

30

注意

- サイドガラスの開閉は、刈取部を下げた状態で行なってください。ガラスが破損してケガをするおそれがあります。
- 刈取部の上げ操作は、サイドガラスが全開または全閉の状態を確認してから行ってください。

35833804500

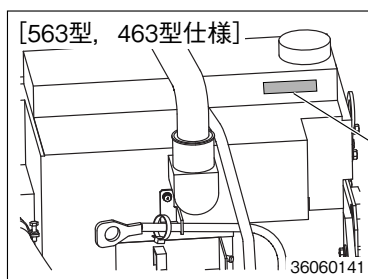
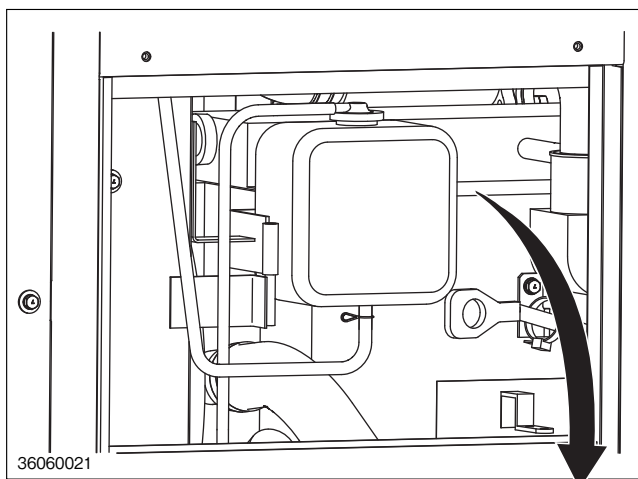
安全作業のために

No.	部 品 名 称	部 品 番 号	備 考
①	ケイコクマーク	3586 8531 700	
②	LABEL W LOAD	0960 3200 060	
③	トリアツカイマーク	3659 8555 100	
④	トリアツカイマーク	3606 8531 500	
⑤	ケイコクラベル・ラジエータ	0960 3200 013	
⑥	ケイコクラベル・ハイキ	0960 3200 029	
⑦	チュウイマーク	3544 8538 300	
⑧	チュウイラベル・カバー	0960 3100 017	
⑨	チュウイラベル・カイヘイ	0960 3100 015	
⑩	チュウイラベル	3586 8537 500	
⑪	チュウイマーク	3544 8656 000	
⑫	キケンラベルカッタ	3592 8557 000	
⑬	キケンラベル・カリハ	0960 3000 019	
⑭	ケイコクラベル	3586 8525 101	
⑮	トリアツカイマーク	3586 8536 400	
⑯	ケイコクラベル・コギドウ	0960 3200 034	
⑰	キケンラベル・カッタ	3551 8658 000	
⑱	チュウイマーク	3544 8541 100	
⑲	ケイコクラベル	3583 8518 100	
⑳	チュウイラベルシュウノウ	0960 3100 024	
㉑	チュウイマーク	3554 8528 100	
㉒	ケイコクラベル チェン	3587 8524 000	
㉓	キケンラベル・バッテリー	0960 3000 020	
㉔	チュウイラベル	3586 8527 100	
㉕	チュウイラベル	0960 3100 027	
㉖	ケイコクラベル・ケイユ	3587 8542 000	
㉗	チュウイラベル	3559 8523 500	
㉘	チュウイラベル・ハイジン	3532 8557 000	
㉙	チュウイラベル・カッタカバー	0960 3100 020	
㉚	チュウイラベル	3583 3804 500	
㉛	チュウイラベル・バンパ	0960 3100 023	
㉜	ケイコクラベル	3556 8525 001	
㉝	チュウイマーク	3572 8592 000	
㉞	ケイコクラベル・ファン	2673 7142 000	

ご使用まえに

1. 保証とサービスについて

- ・この機械には、保証書が添付されていますので、ご使用前によくお読みください。
- ・この機械のサービスについてのお問い合わせや、部品などのご用命のときは、「お買いあげ先」にご相談ください。その際「型式名」・「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」をお知らせください。



・型式名
・機械番号
(製造番号)

エンジン番号

- ・補修用部品の供給年限について
- ・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
- ・補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。
- ・機械の使用目的について
- ・この機械は、稲・麦の収穫作業以外には使用しないでください。
- ・この機械を使用目的以外の作業に使用したり、改造した場合は、保証の対象となりませんのでご注意ください。



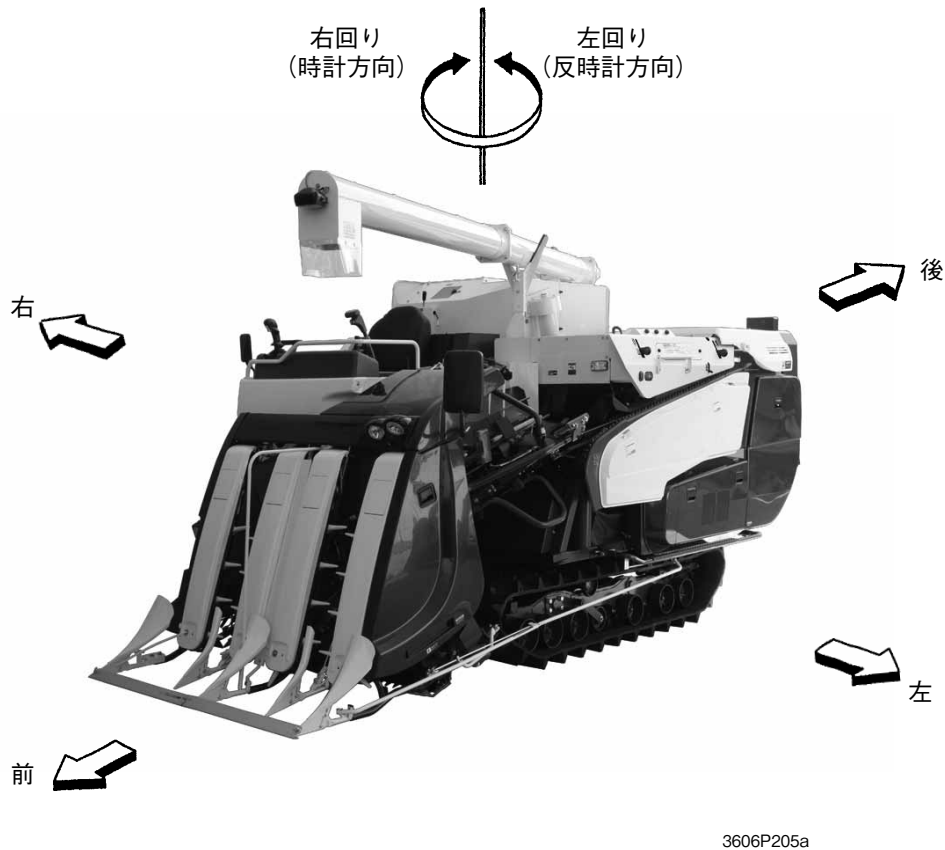
◆機械を使用目的以外の作業に、使用しないでください。

◆機械を改造しないでください。

◆使用目的以外の作業や改造すると、本来の機能を発揮できないばかりか、人身事故の原因になることがあります。

3. 用語について

(1) この取扱説明書に使用している「前後・左右・右回り・左回り」などの用語は、図示のとおりです。



(2) 型式表示

- ・この取扱説明書は、VY463R型を基本に説明しています。
- ・区分により仕様（装備）が異なるため、取扱い方法が変わる点は、そのつど [RET仕様] などで表示し、追加説明しています。

型 式 名	本文表示	
三菱 VG570R	570型	[5 条型]
三菱 VG563R	563型	
三菱 VY463R	463型	[4 条型]

(3) マークの説明

この取扱説明書では、その都度守っていただきたい事柄を、次のマークを使用して説明しています。

- ・ **⚠危険** **⚠警告** **⚠注意** ……安全上重要な事項を、3段階に分けて説明していますので、必ず読んでください。
- ・ **取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと、故障の原因になることがあります。

4. 小型特殊自動車について

このコンバインは、道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

1. 小型特殊自動車の届出

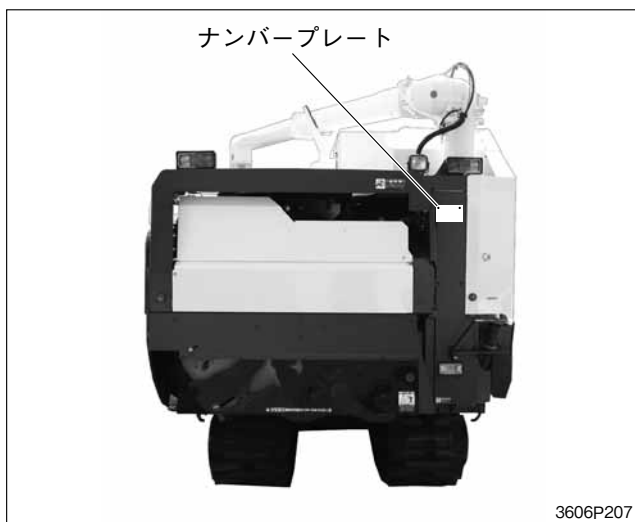
① 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方、または所有者となられた方は、市（町・村）条例により、その取得を市（町・村）役所に届出し、ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので、詳しいことは「市（町・村）役所」または「お買いあげ先」に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書など（「お買いあげ先」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出し、ナンバープレートの交付を受けます。

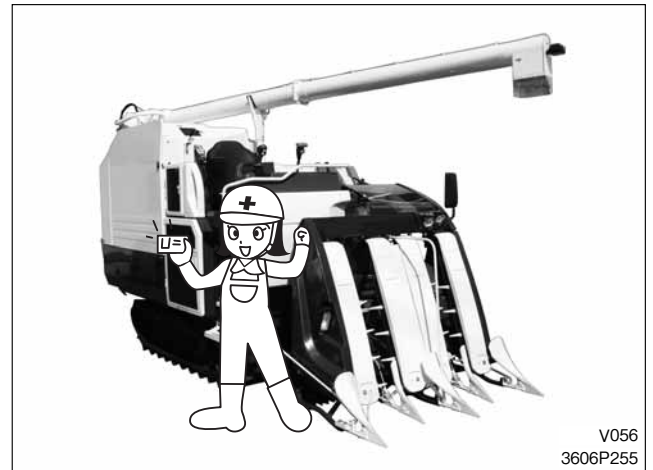
ナンバープレートは、機械の指定された位置に取付けます。



2. 公道走行するためには

① このコンバインは下記の基準を越えますので、公道を走行するときは、「大型特殊自動車の運転免許」が必要です。運転免許証を所持してください。

「小型特殊自動車」の運転免許で運転できません。



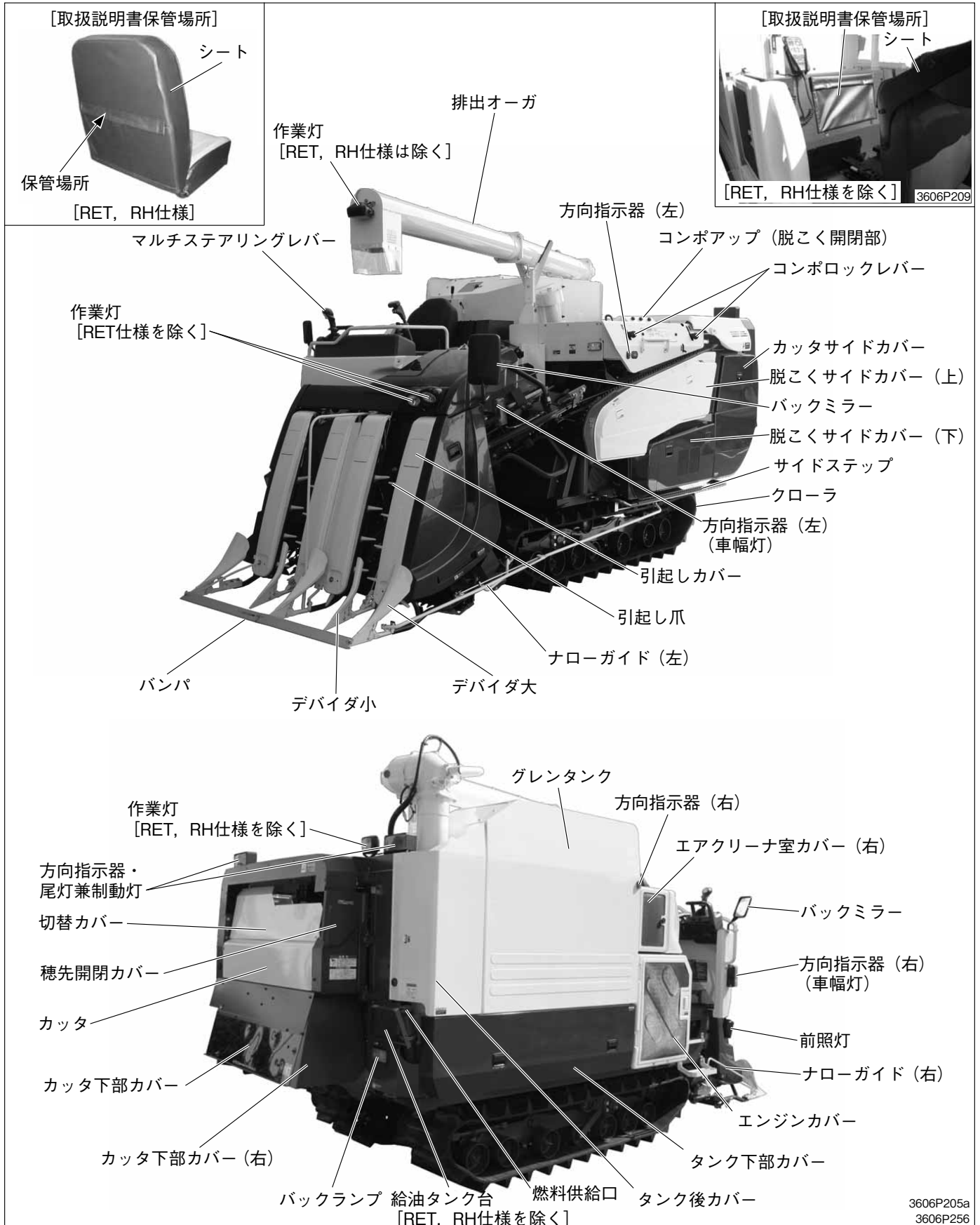
② 指定の作業機（カッタ）以外の作業機を取付けた状態では、公道走行はできません。

③ 任意保険のお勧め

万一の交通事故に備え、任意保険に加入されるようお勧めします。

各部のはたらき

1. 各部の名称

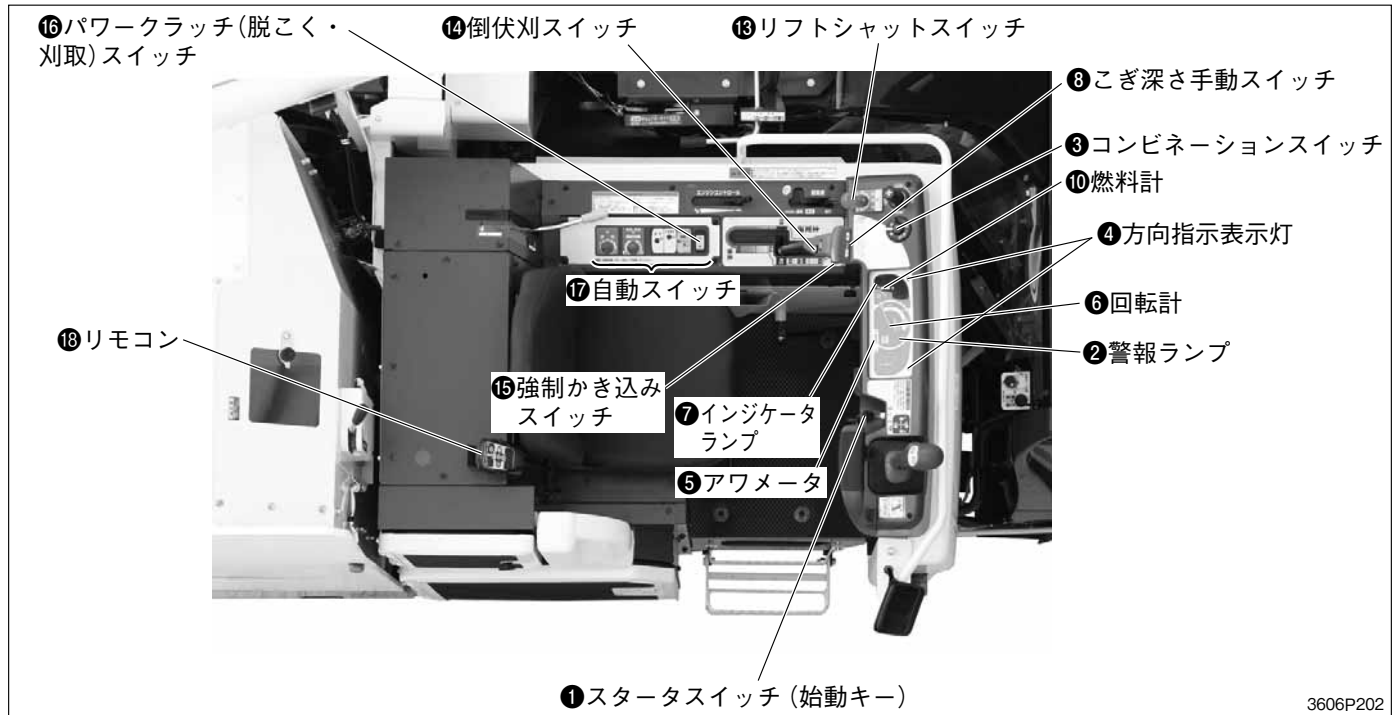


は各部のはたらきの

3606P205a
3606P256

2. 運転装置の取扱い

1. スイッチ・計器関係



① スタータスイッチ (始動キー)

《切》……電源切 (エンジン停止)

スタータスイッチを《切》にするとエンジンが停止します。

《ACC》……アクセサリ

カーステレオとシガライターが使用できます。

《入》……電源入 (運転中・予熱)

電気 (電装) 装置が使用できます。

スタータスイッチを《入》にすると、メータ内の予熱ランプが点灯し、エンジンを予熱します。

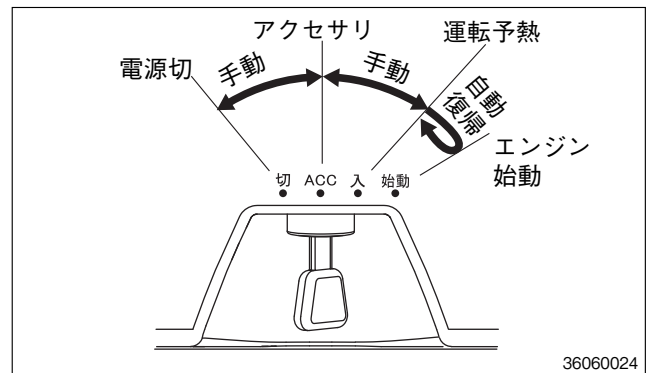
[570型仕様を除く]

約6秒後に消灯して、予熱が完了します。

《始動》……エンジン始動

スタータスイッチを《始動》位置に回すと、エンジンが始動します。

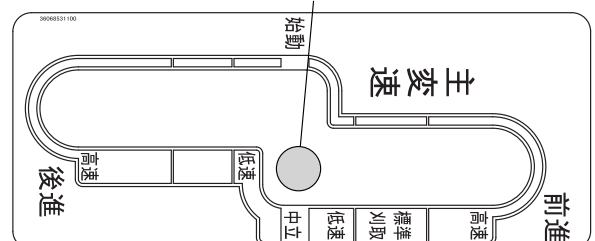
手を放せば、自動的に《入》位置に戻ります。



取扱いのポイント

- 主変速レバーを《中立始動》(前進側中立)位置にして、走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。

主変速レバー
《中立始動》位置

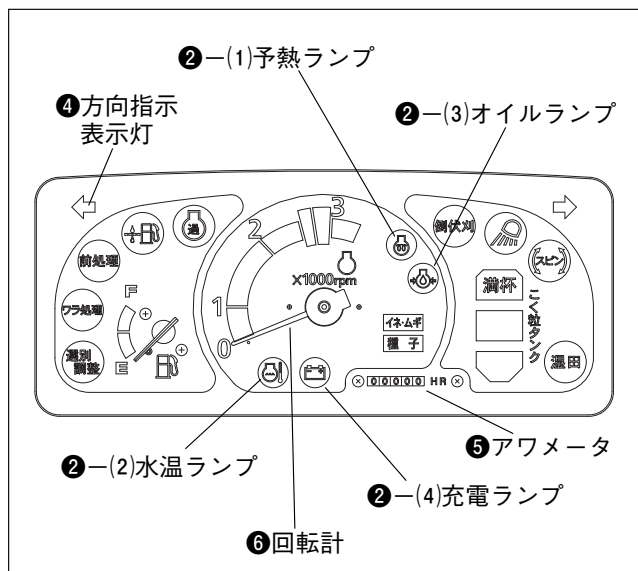


② 警報ランプ

(1) 予熱ランプ



スタータスイッチを《入》位置にすると、点灯してエンジンの予熱の状態を示します。約6秒後に消灯し予熱が完了します。[570型仕様を除く]



(2) 水温ランプ



エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）すると、「点灯」し、警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- 運転中にランプが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し、温度が下がるまでエンジンのみ「低速運転」してください。（警報ブザーは連続音から断続音になります）
- 冷却水温度が下がり、ランプが消灯したら、エンジンを停止し、エンジンが冷えてからエンジンカバー、ラジエータフィン、オイルクーラフィンなどのラジエータ吸気部のゴミ付着（102～103ページ参照）・ファンベルト（オルタネータ）の張り（160ページ参照）、および冷却水（補助タンク）の水量（91～92ページ参照）などを点検してください。

(3) オイルランプ



エンジン運転中、エンジンの潤滑系統に異常があれば「点灯」します。

正常なときは、スタータスイッチを《入》位置にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- 運転中に点灯したときは、直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。（89～90ページ参照）
オイル量が適量であれば、ほかに異常がありません。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

(4) 充電ランプ



エンジン運転中、充電系統に異常があると点灯します。

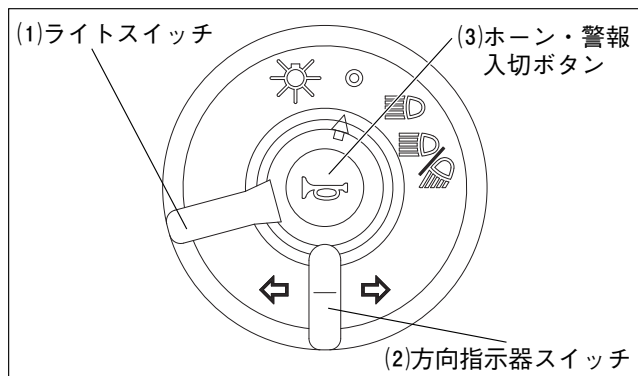
正常なときは、スタータスイッチを《入》位置にすると「点灯」し、エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- エンジンの運転中に連続点灯するときは、エンジンを停止し、ファンベルト（オルタネータ）の張りを点検し、調整してください。（160ページ参照）
- エンジンファンベルトが正常であれば、ほかに異常がありません。直ちに「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

各部のはたらき

③ コンビネーションスイッチ

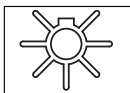


(1) ライトスイッチ

《 〇 》 ……消灯

《 〰 》 ……回転計の照明・前照灯が点灯します。

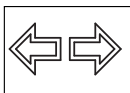
《 〰 》 ……回転計の照明が点灯し、前照灯およびすべての作業灯が点灯します。



(2) 方向指示器スイッチ

方向指示器（左）、（右）を点滅させます。

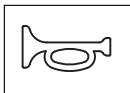
右折、左折のときに使用します。



(3) ホーン・警報切ボタン

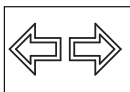
・スタータスイッチを《入》の位置にして、ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報、作業時の合図に使用します。

・こく粒タンクランプの点灯（タンク満杯）、および警報ブザーが鳴ったとき、このボタンを押すと警報ブザーが鳴り止みます。



④ 方向指示表示灯

方向指示器が点滅すると同時に点滅します。

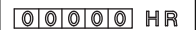


取扱いのポイント

- つぎの場合は、警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。右記の方法で警報を解除してください。

警報機能	解除方法
・水温ランプ点灯（オーバーヒート）	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」し、スタータスイッチ（始動キー）を《切》位置にする。
・ワラ処理ランプ点灯 （排ワラ詰まり、 脱こく搬送詰まり、 排ワラ切替カバー 後方オープン ランプ点滅 （ノッタひも切れ）	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にする。
・エンジン負荷ランプ点滅 （9ページ参照）	走行速度を下げる。
・倒伏刈ランプ点滅	刈取部または脱こくフィードチェン搬送部の前部の詰まりを取除きます。
・前処理ランプ点灯	こぎ深さ搬送の始端部または終端部の詰まりを取除きます。
・燃料フィルタランプ点灯 [570型仕様を除く]	水抜きをする。 （105ページ参照）

⑤ アワメータ



機械の運転の積算時間（スタータスイッチ《入》時間）を示します。

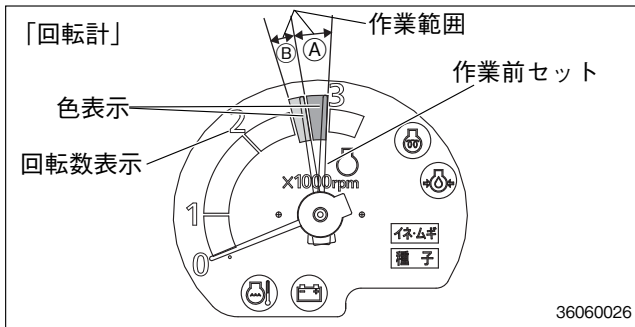
積算時間を目安に定期点検整備を行います。

⑥ 回転計

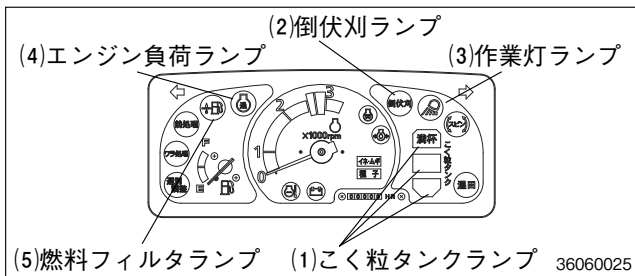
1分間のエンジン回転数を示します。

回転数は、イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦）、種子で刈取作業域に色表示がしてありません。


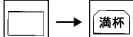
- ・イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦）の場合……………①の範囲（黄色）
- ・種子の場合……………②の範囲（緑色）




⑦ インジケータランプ



(1) こく粒タンクランプ

グレンタンク内のこく粒量を表示するランプで、こく粒量が増していくと、ランプも  →  の順に点灯します。

 ランプが点灯した後、しばらく刈取作業を続けると、方向指示器全てが点滅します。

満杯時には、ランプの点灯と警報ブザーの断続音で知らせます。

そのまま作業を続けると、エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- 最初の警報ブザーが鳴ったら、刈取り作業を中止し、グレンタンク内のこく粒を排出してください。
- 最初の警報ブザーは、警報入切ボタンを押すと鳴り止みます。
- エンジンが停止した場合は、主変速レバーを《中立始動》位置にし、走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと、エンジンを再始動できます。その後、こく粒を排出してください。

(2) 倒伏刈ランプ



主変速グリップの倒伏刈スイッチを押して《入》にすると、倒伏刈ランプが点灯し、刈取部の搬送速度が通常より速くなります。

刈取部の搬送部または脱こくフィードチェン搬送部の前部に詰まりが発生すると、ランプが点滅し、警報ブザーの断続音が鳴り、エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- 通常の刈取りで刈取部の搬送速度が最高速に達しているときは倒伏刈スイッチを《入》としても、それ以上は速くなりません。
- 搬送部に詰まりが発生した場合は、スタータスイッチを《切》位置にし、詰まりを取除いてください。
- 主変速レバーを《中立始動》位置にし、走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと、エンジンを再始動できます。

(3) 作業灯ランプ



スタータスイッチを《入》位置にし、コンビネーションスイッチを2段回すと作業灯表示ランプが点灯し、作業灯が点灯します。

・路上走行時は、作業灯を消灯します。

(4) エンジン負荷ランプ



エンジンの過負荷状態を知らせるランプです。刈取り作業中、過負荷運転でエンジン回転が下がると、モニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり、モニタランプが点滅し警報ブザーの断続音が鳴ったら、主変速レバーで走行速度を下げます。

取扱いのポイント

- エンジン回転負荷の警報ブザーは、警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を下げ、エンジンの負荷を軽くすると、ブザーは鳴り止みます。

は各部のはたらきの

各部のはたらき

(5) 燃料フィルタランプ [570型仕様を除く]

燃料フィルタに一定量の水が溜まったことを知らせるランプです。

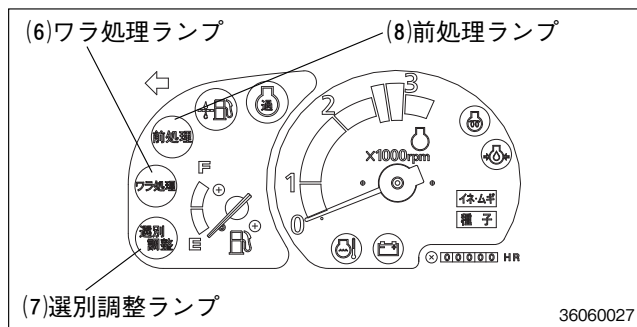


V177

燃料フィルタに水が溜まるとランプの点灯と警報ブザーの連続音で異常を知らせます。

警報ブザーは警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。(水抜きは104ページ参照)

(6) ワラ処理ランプ



脱こくフィードチェン終端部または排ワラチェン終端部の詰まり発生や排ワラ切替カバーが後方オープンしていると、ワラ処理ランプが点灯し、警報ブザーの連続音が鳴り、エンジンが停止します。

(7) 選別調整ランプ

選別部に処理能力以上のこく粒などがあるときに点滅します。作業速度を下げるか、選別ダイヤルを「開」側に回します。

取扱いのポイント

- 処理後もランプが点滅するときは、「お買いあげ先」で点検を受けてください。

(8) 前処理ランプ

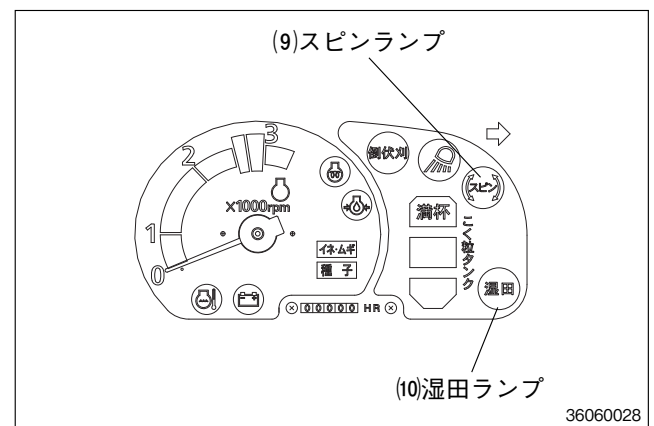
こぎ深さ搬送の始端部または終端部に詰まりが発生すると、ランプが点灯し、警報ブザーの連続音が鳴り、エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- エンジンが停止したら、スタータスイッチを《切》位置にし、詰まりを取除いてください。(ワラ処理ランプ・前処理ランプ)
- 主変速レバーを《中立始動》位置にし、走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと、エンジンを再始動できます。(ワラ処理ランプ・前処理ランプ)

(9) スピンランプ [RET, RH仕様を除く]

副変速レバーをスピンドライブターン位置にするとランプが点灯し、マルチステアリングレバーを左、右にいっぱい倒した状態にするとスピントーンが作動します。

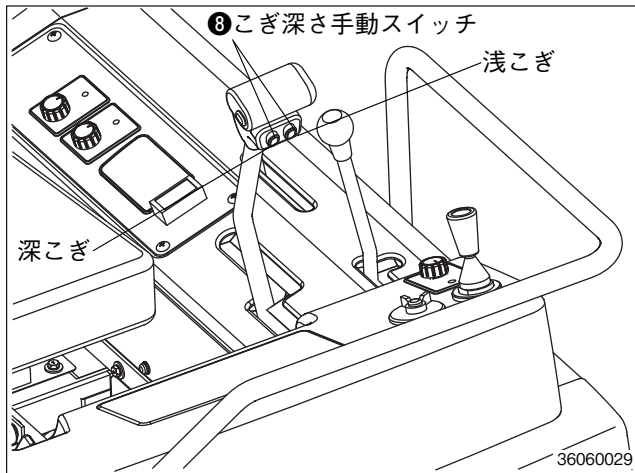


(10) 湿田ランプ [RET, RH仕様を除く]

湿田スイッチを《入》にすると点灯します。湿田などでの緩旋回時に旋回側クローラが停止するようなどに使用します。

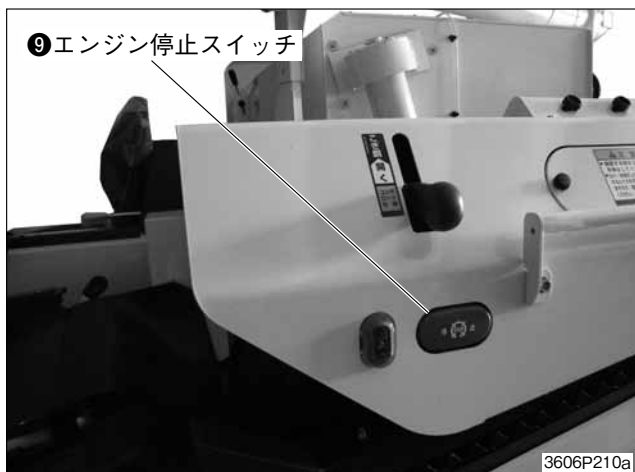
⑧ こぎ深さ手動スイッチ

作物の長さに合わせて、脱こく部へ供給される作物の穂の位置を、手動で調整するスイッチです。



⑨ エンジン停止スイッチ

手こぎ作業時などのトラブル発生時に、このスイッチを押すと、エンジンが停止します。

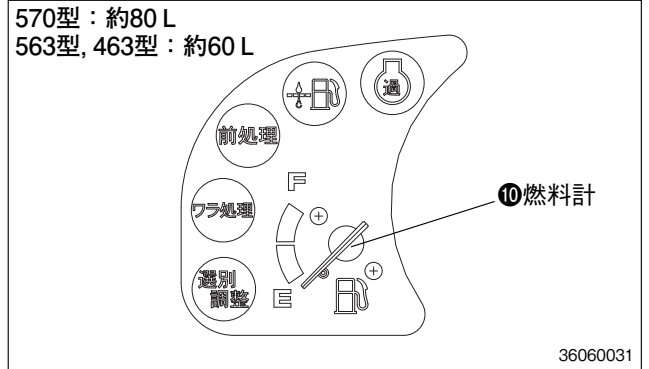


取扱いのポイント

- エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは、スタータスイッチを《切》位置にしてください。そのまま放置すると、バッテリーが上がります。

⑩ 燃料計

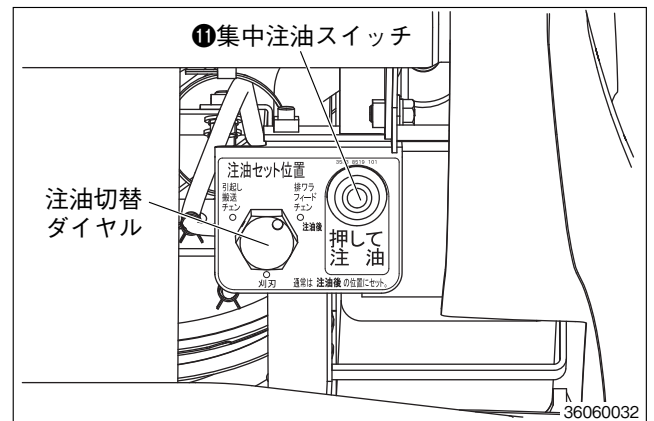
スタータスイッチが《入》位置のとき作動し、タンク内の燃料の量を示します。《F》は満量、《E》(ラベル下限)では約10Lの油量を示します。



取扱いのポイント

- 燃料計が《E》近くなったら早目に燃料を補給してください。

⑪ 集中注油スイッチ (注油切替ダイヤル)



- ・集中注油スイッチを押している間だけモータが作動し、刈刃やチェン類に注油します。
- ・注油切替ダイヤルを回し、注油箇所(搬送チェーン、引起しチェーン、刈刃、排ワラフィードチェーン、注油後)の切替えを行います。(詳細は、101～102ページ参照)

各部のはたらき

各部のはたらき

⑫ 油圧固定スイッチ

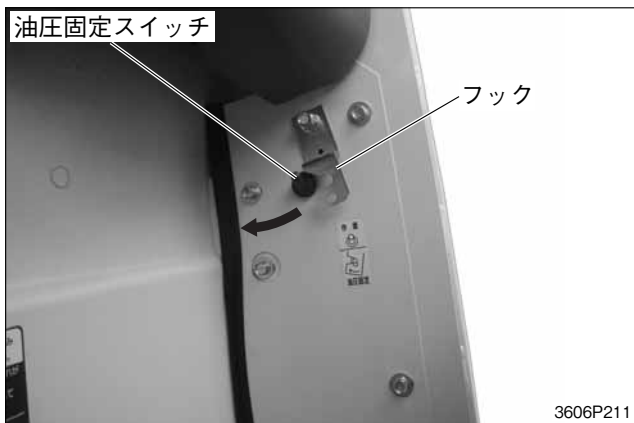
⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取部を上げて、その下で整備などするときは、エンジンを停止し、油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし、フックをかけてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚などをおいて作業してください。

◆油圧固定スイッチを操作するときは、刈取部付近に人がいないことを確認してください。

刈取部の「上げ」・「下げ」を固定します。

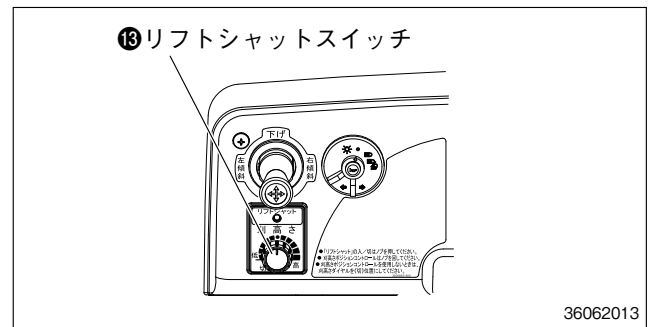
- ・《油圧固定》位置にすると、マルチステアリングレバーを操作しても作動しません。《油圧固定》位置にしたときはフックをかけてください。路上を走行するときは、《油圧固定》位置で使用します。
- ・作業時には、油圧固定スイッチを《作業時》の位置で使用します。



⑬ リフトシャットスイッチ〈ダイヤル一体型〉

刈取部を上げると刈取り搬送、脱こくフィードチェーンが停止する機構がリフトシャットです。刈高さダイヤルを押してリフトシャットの《入》《切》の切替えを行います。

リフトシャット《入》時はランプが点灯します。

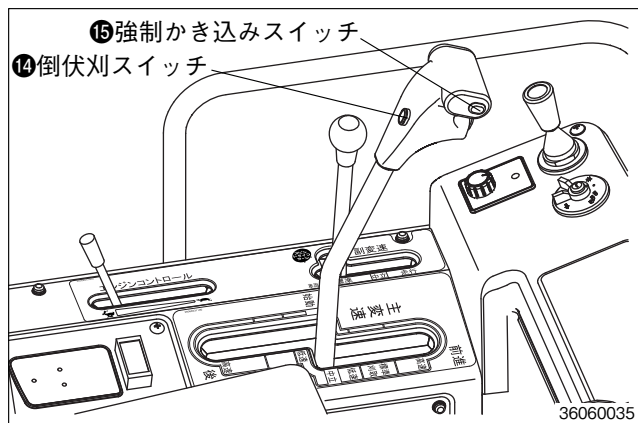


取扱いのポイント

- あぜ際や四隅刈りのときは、リフトシャットを《切》にして行なってください。
- 刈取り作業をする前に、リフトシャットの作動を確認してから、作業を始めてください。

14 倒伏刈スイッチ

倒伏刈取作業などで、刈取部の搬送速度を通常より速くしたいときは、倒伏刈スイッチを押してください。音が鳴ると同時に前パネルの倒伏刈ランプが点灯します。再度倒伏刈スイッチを押すと、音が鳴り倒伏刈ランプが消灯し通常の搬送速度になります。



取扱いのポイント

- 倒伏刈スイッチは、主変速《標準刈取》範囲で使用すると搬送姿勢が安定した刈取作業ができます。

15 強制かき込みスイッチ

パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチが《刈取》のとき、走行停止状態、リフトシャット作動時または後進時に刈取搬送および脱こくフィードチェンを作動させたいときは、強制かき込みスイッチを押してください。押しているあいだ作動します。

取扱いのポイント

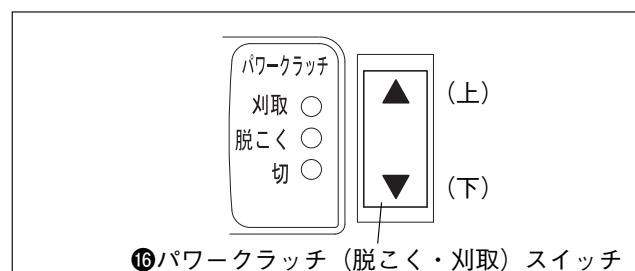
- 刈取走行中は強制かき込みスイッチを操作しないでください。搬送部の詰まりなどの原因になることがあります。

16 パワークラッチ (脱こく・刈取) スイッチ

警告 傷害事故防止のために

- ◆パワークラッチ (脱こく・刈取) スイッチを《脱こく》,《刈取》に操作するときは、コンバインの周囲から人を遠ざけてください。
- ◆スタータスイッチを《入》位置にしてパワークラッチ (脱こく・刈取) スイッチを《脱こく》または《刈取》にすると、エンジンを始動していてもエンジンカバー部の防塵ファン (570型仕様を除く) が定期的に回転します。パワークラッチ (脱こく・刈取) スイッチを操作するときはエンジンカバーを開けないでください。

- ・パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチの▲(上)を1回押すと《脱こく》インジケータが点灯し脱こく部が作動します。
- ・パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチの▲(上)をさらにもう1回押すと《脱こく》と《刈取》インジケータが点灯し脱こく部に連動して刈取部が作動します。

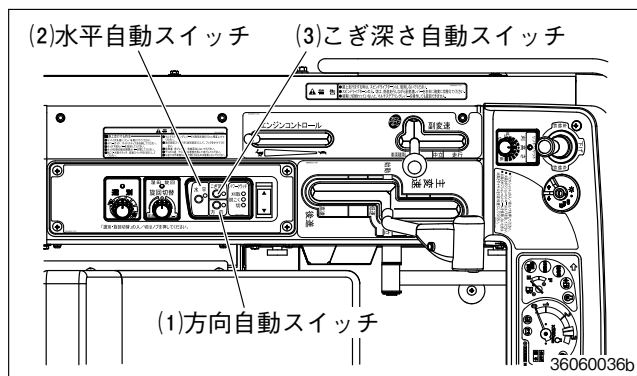


- ・パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチの▼(下)を1回押すと《刈取》インジケータが消灯し《脱こく》インジケータのみ点灯し、脱こく部のみが作動します。
- ・パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチの▼(下)をさらにもう1回押すと《切》インジケータが点灯し脱こく部が停止します。
- ・パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチの▲(上)▼(下)スイッチを長押しするとインジケータが連続して切替わります。

取扱いのポイント

- 刈取り作業を行うとき、回転計のそれぞれの「色別表示」(作業範囲)以下では《刈取》位置にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。
- 停止時のパークラッチ(脱こく・刈取)の位置により再始動時にスタータスイッチ《入》で2～3秒の準備時間がかかることがあります。ブザー音でお知らせしますが、異常ではありません。

17 自動スイッチ



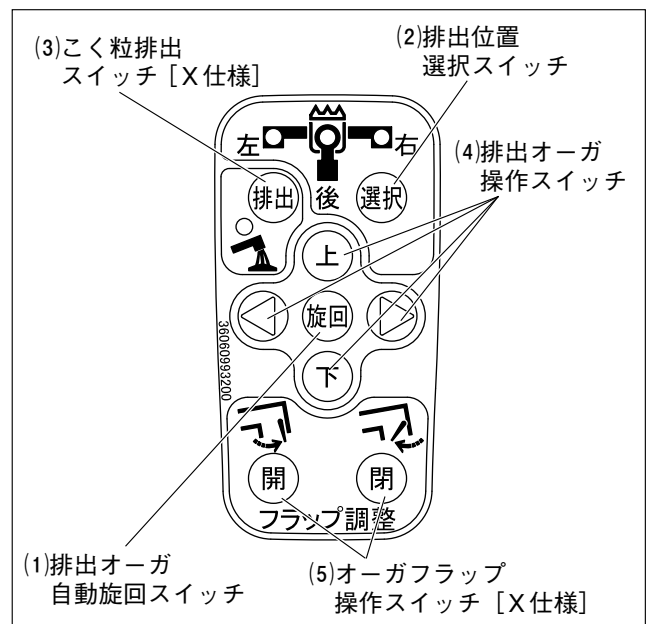
- (1) 方向自動スイッチ [ディーラーオプション]
方向自動を使用するときは、スイッチを押して、ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと、ランプが消灯し、自動は働きません。(詳細は、66～67ページ参照)
- (2) 水平自動スイッチ
水平自動を使用するときは、スイッチを押して、ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと、ランプが消灯し、自動は働きません。
水平自動スイッチを「切」(ランプ消灯)にしたら、水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。(詳細は、69～70ページ参照)
- (3) こぎ深さ自動スイッチ
スタータスイッチを《入》位置にすると、ランプが点灯し、こぎ深さ自動が「入」になります。点灯状態から再びスイッチを押すと、ランプが消灯し、自動は働きません。
(詳細は、65～66ページ参照)

18 オーガ操作リモコン

警告 傷害事故防止のために

- ◆排出オーガを操作するときは、排出オーガ固定リングをフックから外して周囲の障害物と衝突しないように行ってください。
- ◆排出オーガを上げたままの路上走行や、ほ場の移動はしないでください。上げたままで走行しますと、障害物との衝突により事故となることがあります。また、故障の原因にもなります。

オーガ操作リモコンのイラストは、[X仕様]の運転席側オーガ操作リモコンを示します。

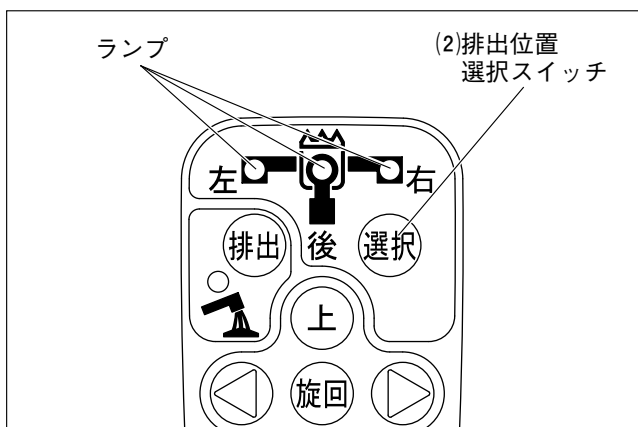


- (1) 排出オーガ自動旋回スイッチ [運転席側オーガ操作リモコン]
 - ・排出オーガ収納位置で、自動スイッチを押すと、排出オーガが排出位置まで、自動旋回します。
 - ・排出オーガ収納位置以外で、自動スイッチを押すと、排出オーガ収納位置へ戻ります。
 - ・排出オーガ自動旋回中、または自動収納途中で旋回停止を行う場合は、再度、自動スイッチを押すと停止します。(詳細は、71～72ページ参照)

(2) 排出位置選択スイッチ

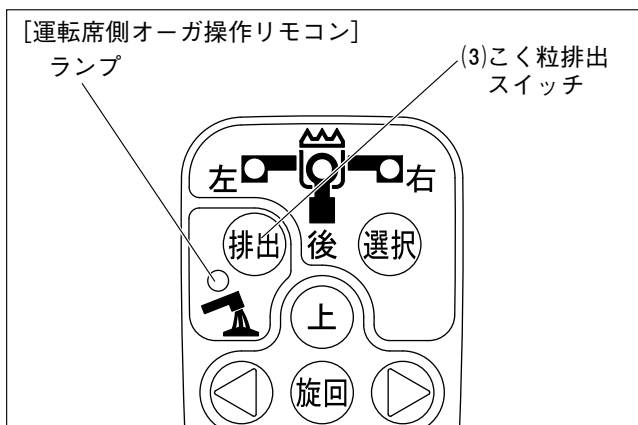
[運転席側オーガ操作リモコン]

- ・自動スイッチを押すと排出オーガが自動旋回し、停止する排出位置（「後」「右」「左」の3方向）の選択を行うスイッチです。
- ・排出位置選択スイッチを押すと「後」→「右」→「左」→「後」→の順に切り換え、ランプが点灯します。



(3) こく粒排出スイッチ [X仕様]

- ・このスイッチを押すとランプが点灯し、グレンタンク内のこく粒を排出します。再度スイッチを押すとランプが消灯し、排出を停止します。



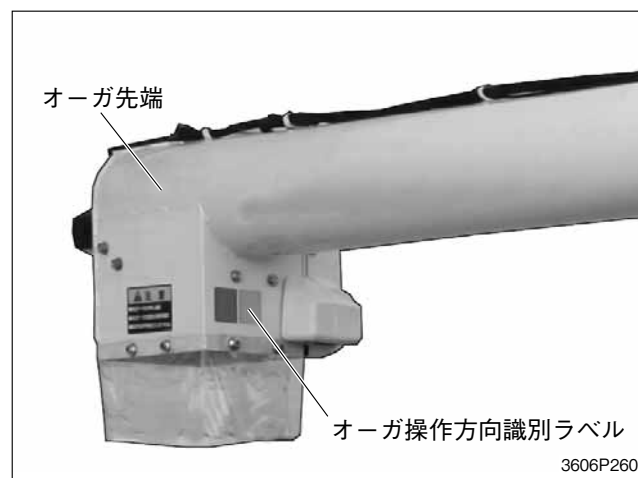
(4) 排出オーガ操作スイッチ

- ・排出オーガの旋回および上昇・下降の操作を行うスイッチです。
- ・排出オーガを旋回するときは、排出オーガを上限まで上げてから行います。

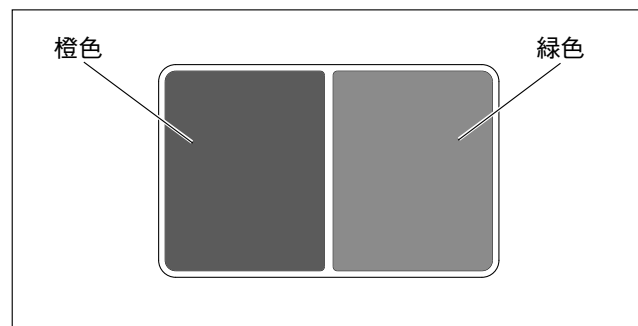
運転席側オーガ操作リモコン

スイッチの操作方向	オーガの動き
上	上昇
下	下降
左 (橙色)	左回り (反時計方向) に旋回
右 (緑色)	右回り (時計方向) に旋回

オーガ操作方向識別ラベル貼付位置



オーガ操作方向識別ラベル

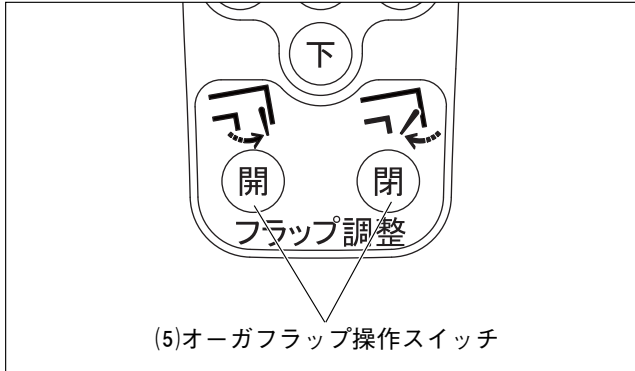


各部のはたらき

(5) オーガフラップ操作スイッチ [X仕様]

- ・オーガフラップの開閉操作を行うスイッチです。
- ・オーガフラップを開閉操作し、こく粒排出位置の微調整ができます。

(こく粒排出範囲は52ページ参照)

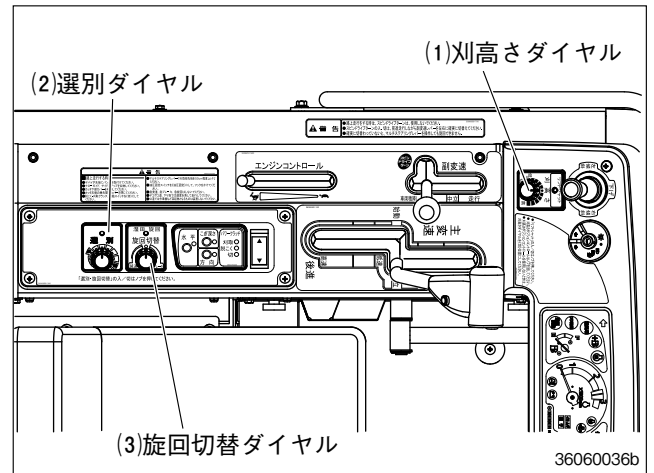


取扱いのポイント

- こく粒を排出する場合は、エンジン回転を回転計の「作業の上限 (黄色)」に合わせてください。回転が低いと詰まりの原因となります。
- 排出オーガを動かすときはフックから排出オーガ固定リングを外してください。
- 水平位置より下げた状態で排出オーガを旋回しないでください。

19 自動調整ダイヤル

各自動制御の調整ダイヤルが、装備されています。



(1) 刈高さダイヤル

刈高さポジションコントロールを使用するときはダイヤルを回して《切》位置以外で使用します。

- ・刈高さの調節は、刈高さダイヤルの操作によって、希望する「刈高さ位置」を設定することができます。
- ・刈高さダイヤルは、通常《標準》(●マーク)位置で使用します。

取扱いのポイント

- 刈高さポジションコントロールを使用しないときは、ダイヤルを《切》位置で使用します。
- ほ場の凹凸が多い場合には、マルチステアリングレバーで手動操作してください。
- 刈高さダイヤルをどの位置にセットしても、刈高さポジションコントロールが設定できないときは、エンジンを停止して、ヒューズの点検・配線接続部の外れなどがいないか確認してください。

(2) 選別ダイヤル（スイッチ一体型）

スタータスイッチを《入》位置にすると、ランプが点灯し、選別自動が「入」になります。点灯状態からダイヤル（スイッチ一体型）を押すと、ランプが消灯し、自動は働きません。

（詳細は、70～71ページ参照）

刈取る作物に合わせて、選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。

《麦》－通常のムギ刈り作業は、この位置で行います。

《稲》－通常のイネ刈り作業は、この位置で行います。

取扱いのポイント

- 選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると、刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。
- 選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも、選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。
- 選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが、良好な選別状態を得られない場合があります。
- スタータスイッチを《入》にして、選別自動スイッチのランプが点灯しないときは、作業を中止しエンジンを停止して、ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。
- ⑰、⑲の詳細は、自動装置についての項（65～74ページ）を参照してください。
- ダイヤル付自動スイッチはダイヤルノブを押すことにより自動の「入」・「切」ができます。

(3) 旋回切替ダイヤル（スイッチ一体型）

〔RET, RH仕様を除く〕

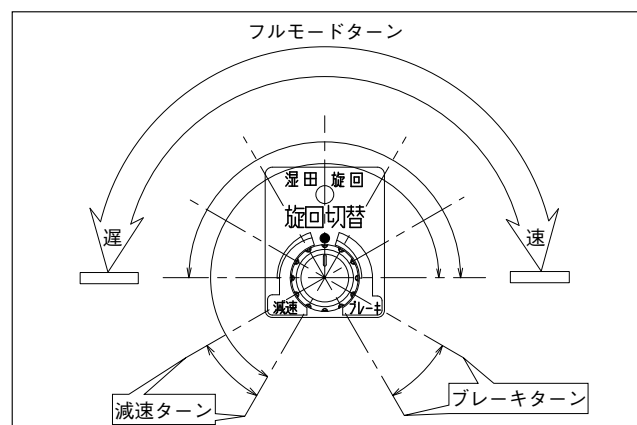
湿田旋回を使用するときは、ダイヤル（スイッチ一体型）を押して、ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びダイヤルを押すと、ランプが消灯し、標準旋回となります。

・湿田旋回は湿田などでの緩旋回時に旋回側クローラが停止するようなどに使用します。

「入」にすると、減速ターン領域での旋回側の駆動力がアップして、確実な減速ターンができます。

ダイヤル操作によって、希望する「旋回モード」を設定することができます。

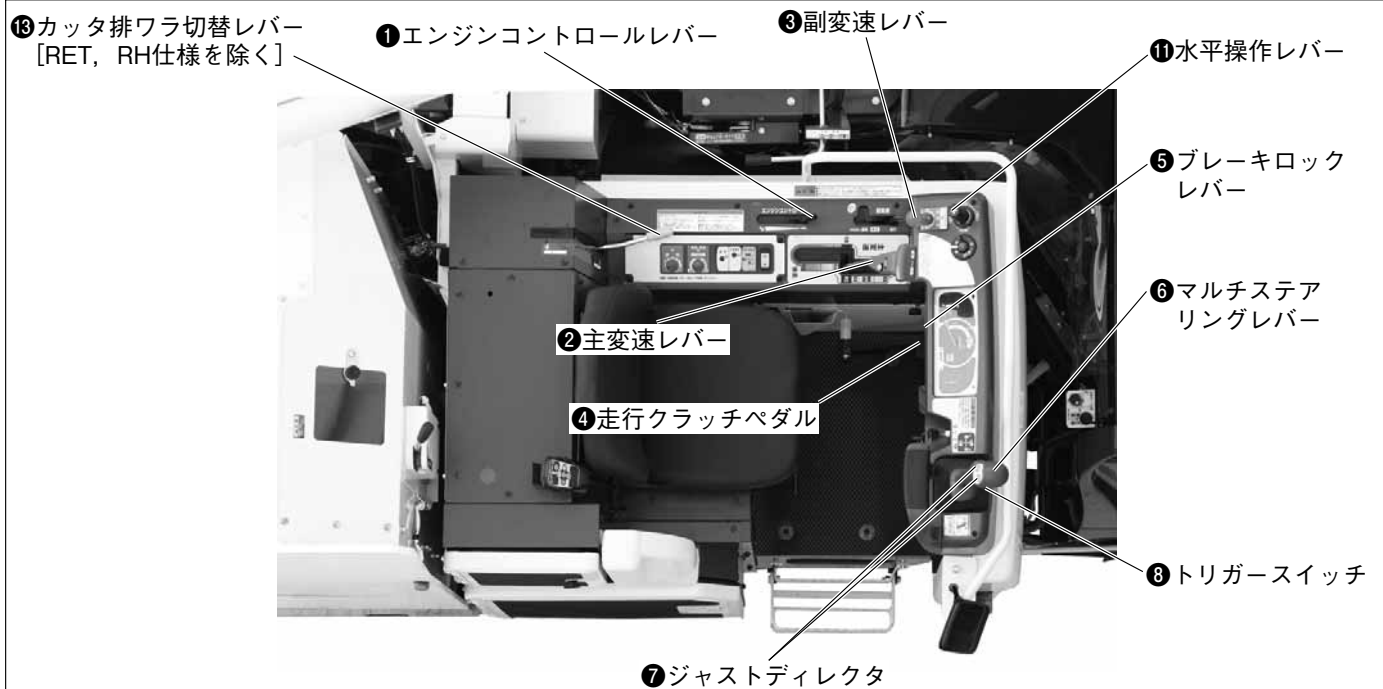
- ・《標準》位置（●印位置）およびその左右3ノッチ位置がフルモードターン（マルチステアリングレバー倒し角度により、減速ターン→ブレーキターン）となります。
- ・《減速》位置（最左およびその手前位置）が減速ターンになります。
- ・《ブレーキ》位置（最右およびその手前位置）がブレーキターンになります。



取扱いのポイント

- フルモードターンは通常《標準》位置で使用します。ダイヤルは、マルチステアリングレバーの操作角度に対して右に回すと旋回動作が速くなり、左に回すと遅くなります。
- フルモードターン、あるいは減速ターンを設定していても、路上走行時には自動的にブレーキターンとなります。



2. ペダル・レバー関係

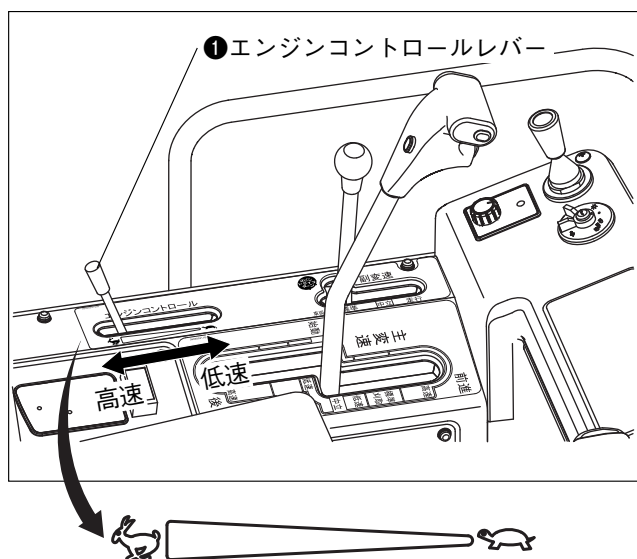


3606P202

① エンジンコントロールレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。

- ・「始動」のときは……エンジンコントロールレバーを手前に引き、《》(高速)の位置にしてエンジンを始動します。
- ・「作業」のときは……適正回転数になるよう回転計の指針を合わせます。
- ・「停止」のときは……《》(低速)の位置にしてエンジンを停止します。



② 主変速レバー

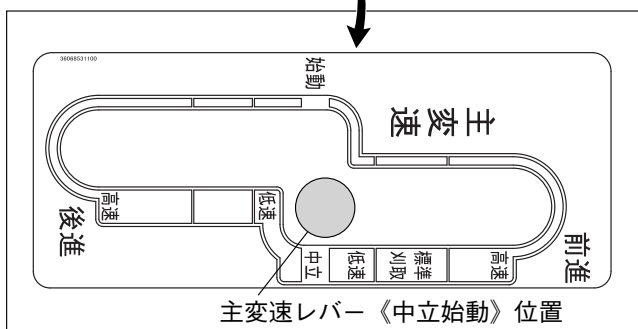
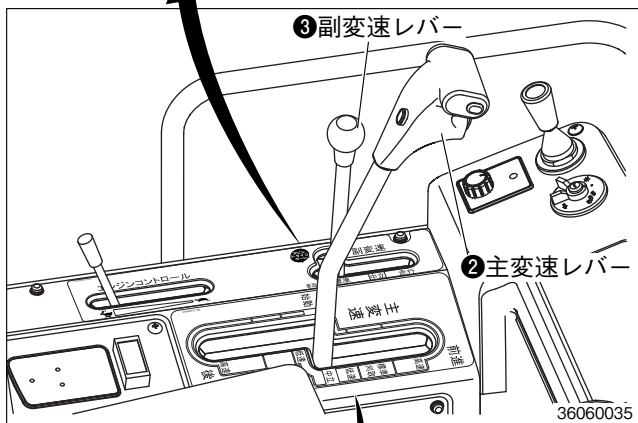
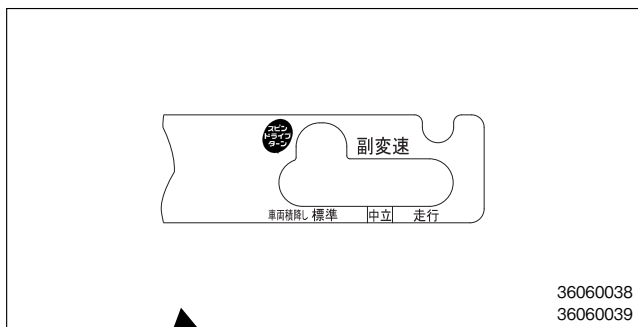
⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆走行中、主変速レバーを急激に増速・減速の操作をしないでください。
- ◆前後進の切替えは、機械が停止してから行ってください。
- ◆自動車などへの積込み・積降ろしの際は、アユミの上で変速操作、クラッチ操作をしないでください。
- ◆機械から離れるときは、《中立》(N)でも動く場合があるので、平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。前進・後進いずれも任意の位置に操作するだけで、作業に適した速度が得られます。

エンジンの始動は、主変速レバーを《中立始動》(前進側中立)位置にし、走行クラッチペダルをいっぱい踏まないといけません。

は各部のはたらきの



③ 副変速レバー

警告 傷害事故防止のために

- ◆スピンドライブターンの「入」「切」は、ゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください。確実に切替わっていないと、マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません。
- ◆路上走行するときはスピンドライブターンは使用しないでください。

作業目的や刈取り条件により《標準・車両積降し》、《走行》(高速)の2段に変速ができます。

- ・副変速レバー操作は、主変速レバーを《中立》にして、走行を停止してから走行クラッチペダルを踏込んで行います。
- ・自動車への積み込み・積降ろし、ほ場への出入りは《標準・車両積降し》位置で行います。
- ・刈取り作業は《標準・車両積降し》位置で行います。《走行》位置での刈取り作業はできません。
- ・見通しが良く平坦な道路では《走行》位置で走行します。狭い道路や凹凸のある道路は《標準・車両積降し》で走行します。
- ・「スピンドライブターン」[RET, RH仕様を除く]とは、左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。
《スピンドライブターン》への切替えは《標準》位置で、走行クラッチペダルを踏まずにゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左に確実に切替えます。

作業内容	副変速	主変速
積み込み、あぜ越え	車両積降し標準	[中立]から[前進・低速]
積降ろし		[中立]から[後進・低速]
路上、ほ場走行(前進)	標準 走行	[中立]から発進し、
路上、ほ場走行(後進)	標準	その場の状況に応じ
刈取時の後進		順次速度を上げる。
標準刈取り	標準	[中立]から[標準刈取]
倒状刈取り	標準	[中立]から[低速]または[標準刈取]
集中注油	N [中立]	[中立]から[標準刈取]

取扱いのポイント

- 副変速レバー《走行》で急旋回すると、主変速レバーが戻ることがありますので、《走行》では急旋回しないでください。

各部のはたらき

④ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

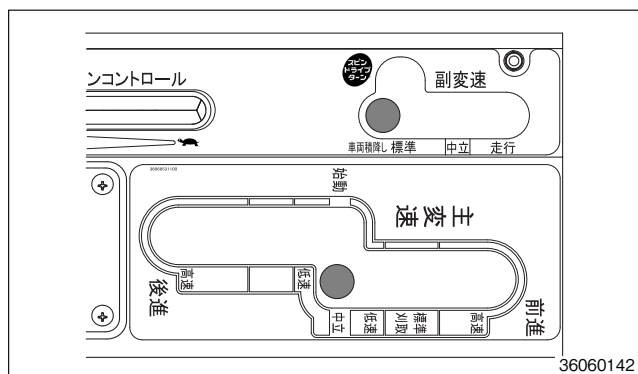
警告 傷害事故防止のために

- ◆走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。
- ◆走行クラッチペダルに足を乗せたまま旋回操作をしないでください。ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。



機械の始動、停止（ブレーキ）、副変速レバーの操作に使用します。

- (1) エンジンの始動に使用します。
 - ・エンジンを始動するときは走行クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。
- (2) 走行の停止（ブレーキ）に使用します。
 - ・走行クラッチペダルをいっぱい踏み込むと、主変速レバーが《中立》に戻りトランスミッションへの動力が絶たれ、ブレーキがかかる構造になっています。



- (3) 機械の副変速レバーの操作に使用します。

- ・副変速レバーを操作するときは、走行クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。

取扱いのポイント

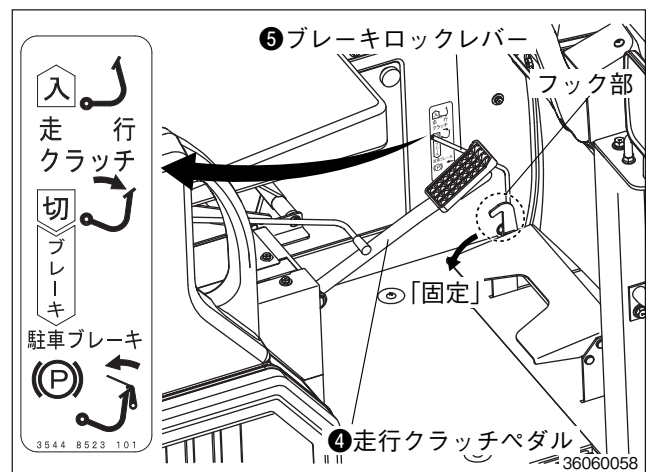
- 走行クラッチペダルを踏んだままですと、主変速レバーは操作できません。
- 作業中、走行クラッチペダルを踏むと走行と同時に刈取部も停止します。

⑤ ブレーキロックレバー

警告 傷害事故防止のために

- ◆坂道など傾斜のある所では、駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には、駐車ブレーキをかけ、木片などでクローラに「車止め」をします。
- ◆ブレーキロックレバーは、自動車への積込み、積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。機械がずり落ちることがあります。

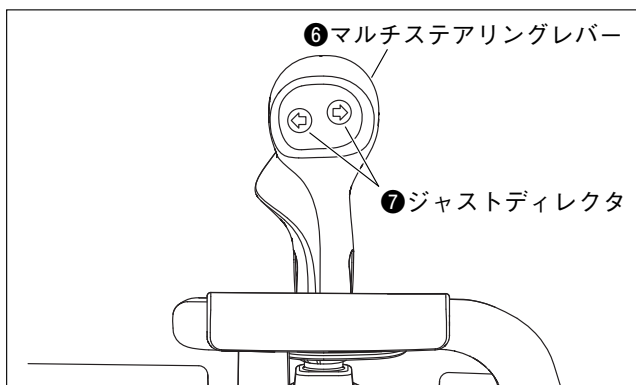
- ・駐車するときに使用します。走行クラッチペダルをいっぱい踏み込み、ブレーキロックレバーを操作してフックをペダルに掛けます。
- ・解除するときは、走行クラッチペダルをいっぱい踏み込むと、自動的にブレーキロックレバーのフックが外れます。



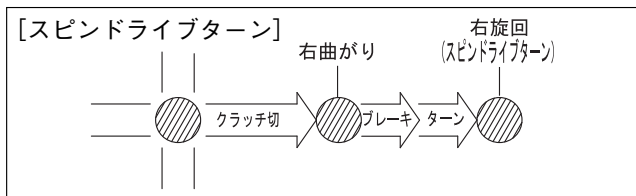
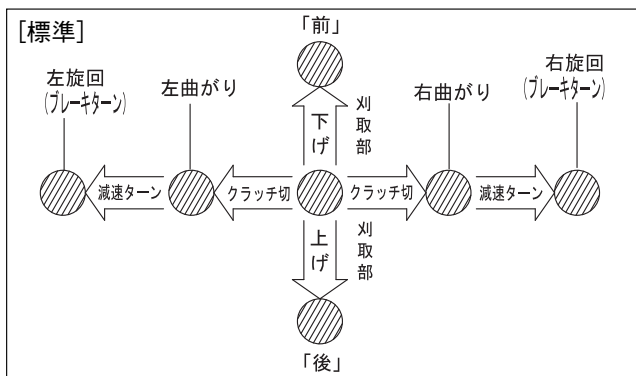
⑥ マルチステアリングレバー

警告 傷害事故防止のために

- ◆旋回するときは、主変速レバーで速度を落として行なってください。
- ◆自動車などへの積み込み・積降ろしの際は、アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



レバーの左右操作で「旋回」、前後操作で刈取部の「上げ」「下げ」ができます。



- ・ [RET, RH仕様] は、減速ターン、スピンドライブターンはありません。
- ・ マルチステアリングレバーを浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり、深く倒すと旋回します。

取扱いのポイント

- マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると、刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。

⑦ ジャストディレクタ [RET, RH仕様を除く]

警告 傷害事故防止のために

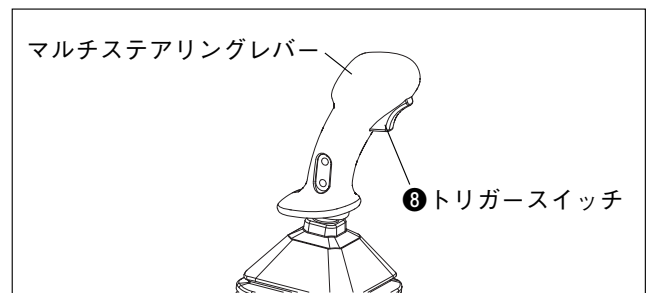
- ◆自動車などへの積み込み・積降ろしの際は、アユミの上でジャストディレクタを操作しないでください。ジャストディレクタを操作すると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。

- マルチステアリングレバーに内装されています。
- ・ ジャストディレクタの《⇐》を押すと左方向に、《⇒》を押すと右方向に機械の進行方向を修正します。
- ・ 刈始めの条合わせや、刈取り中の微調整に使用します。

取扱いのポイント

- ジャストディレクタと、マルチステアリングレバーとの併用はできません。マルチステアリングレバー操作が優先します。
- ジャストディレクタは旋回力が小さいので、旋回には使用しないでください。

⑧ トリガースイッチ



① 半自動後進上昇機能

湿田刈取などのとき車高上昇操作を容易にする機能です。

水平自動が作動している状態で機体後進時、トリガースイッチを握りながらマルチステアリングレバーを上げ操作し続けます。まず刈取部がいっぱいまで上昇した後、機体が上がります。(自動制御は一時停止) トリガースイッチを離すか、刈取部を下げると、元の車高に復帰してから自動制御が再び作動します。

各部のはたらき

各部のはたらき

② 刈高解除機能

刈高さポジションコントロールで設定された刈高さを解除する機能です。

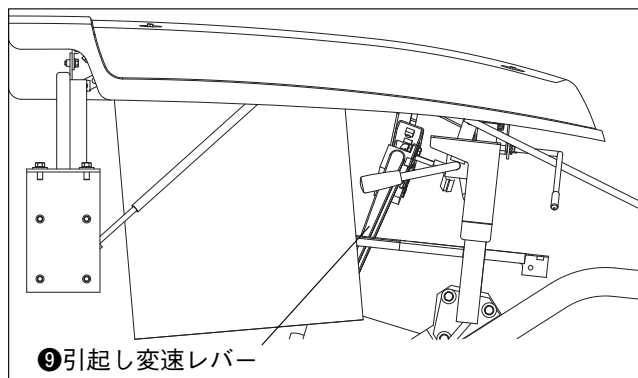
刈高さセット位置よりもさらに刈取部を下げたいときはトリガースイッチを握りながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。

詳しい操作については「刈高さポジションコントロール」を参考にしてください。

⑨ 引起し変速レバー

作物の倒伏状態、稈の強弱などにより引起し速度を変速します。

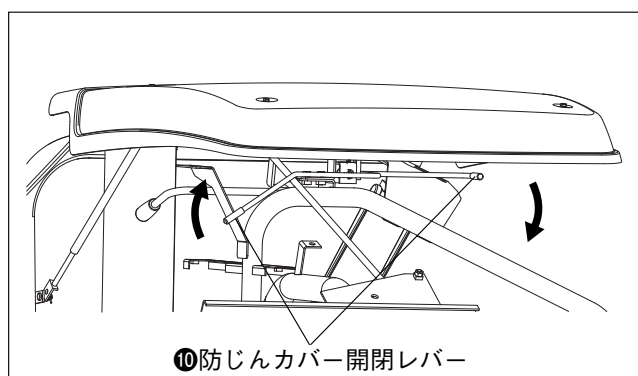
レバー操作はパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《切》か、または走行クラッチペダルを踏込んで行います。



⑩ 防じんカバー開閉レバー

[ディーラーオプション]

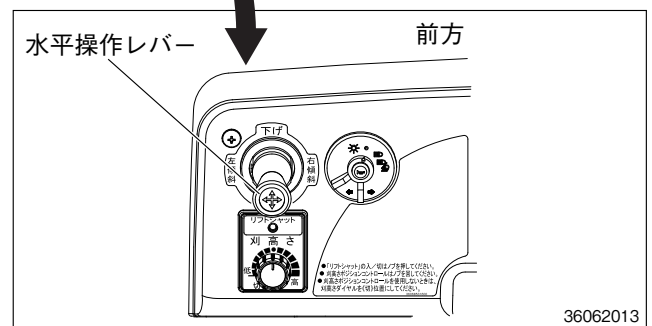
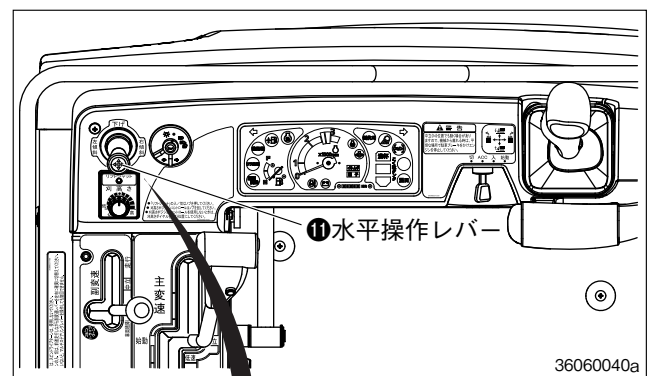
防じんカバーを上げるときに使用します。このレバーは運転席側と機体左側（下図）で操作できます。下げるときはカバー上部を持って押し下げます。



⑪ 水平操作レバー

機体の「上げ」「下げ」「右傾斜」「左傾斜」をします。

- ・レバーを《上げ》の方向に倒すと、機体が上がります。
- ・レバーを《下げ》の方向に倒すと、機体下がります。
- ・レバーを《右傾斜》の方向に倒すと、機体が右傾斜します。
- ・レバーを《左傾斜》の方向に倒すと、機体が左傾斜します。

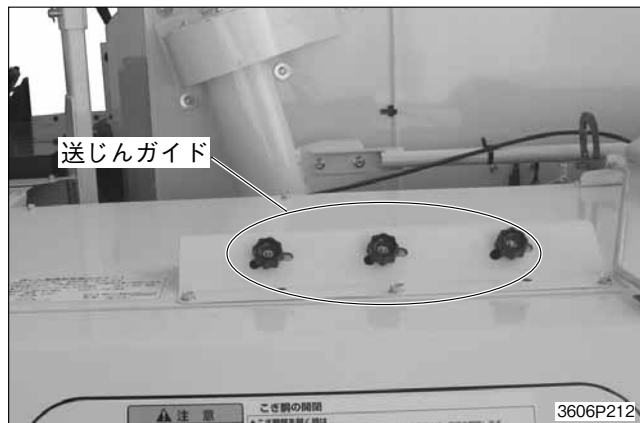


取扱いのポイント

- 刈取り作業時以外は、水平操作レバーで機体を一番下まで下げて使用してください。

⑫ 送じんガイド

- ・こぎ室内の発生クズ量に応じて送じんガイドの位置を自動で調整し、こぎ室内の負荷を軽減する機構です。



- ・送じん量の手動調節のしかたは73ページを参照してください。

⑬ カッタ排ワラ切替レバー [RET, RH仕様を除く]

カッタ作業または排ワラ作業の切替えをするレバーです。

- ・切替え操作は作物が搬送途中にないことを確認してから行います。



《カッタ》……ワラをカッタで切断します。

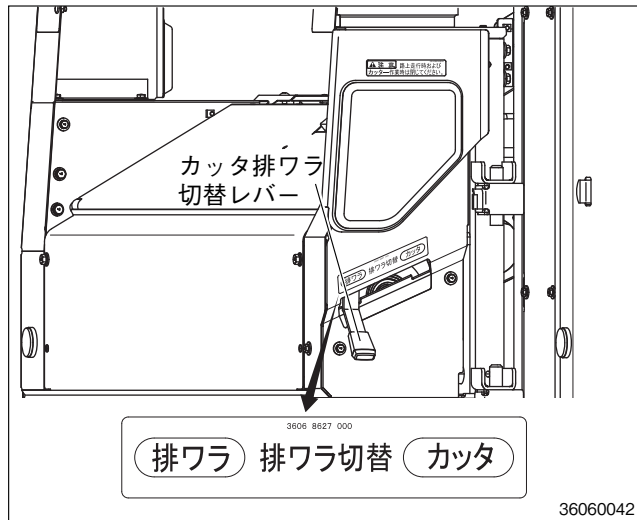
《排ワラ》……ドロツバ作業, ワラをそのまま排出する作業。

各部のはたらき

各部のはたらき

⑭ カッタ排ワラ切替レバー [RET, RH仕様]

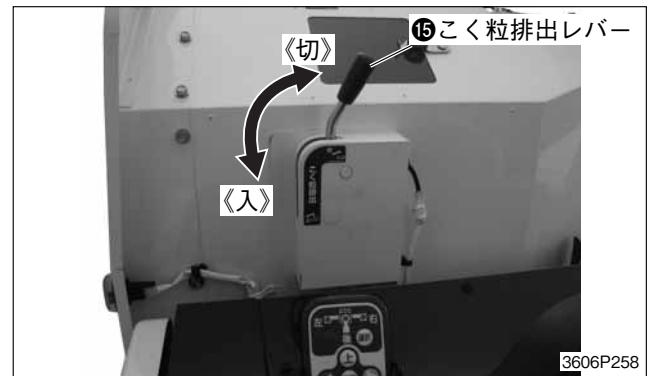
- ・切替え操作は作物が搬送途中にないことを確認してから行います。



《カッタ》……ワラをカッタで切断します。

《排ワラ》……ドロップ作業, ワラをそのまま排出する作業。

⑮ こく粒排出レバー [X仕様を除く]



グレンタンク内のこく粒を排出するレバーです。

取扱いのポイント

- こく粒を排出する場合は、エンジン回転を回転計の「作業の上限(黄色)」に合わせてください。回転が低いと詰まりの原因となります。
- 排出オーガを動かすときはフックから排出オーガ固定リングを外してください。
- 水平位置より下げた状態で排出オーガを旋回しないでください。
- エンジンを始動するとき、こく粒排出レバーが《入》位置にあると始動できません。

16 タンク固定・タンク回転

① タンク固定レバー・タンク回転レバー

[RET, RH仕様を除く]

警告 傷害事故防止のために

◆グレンタンク固定レバーを《解除》するときは、平坦な場所で各クラッチを切り、エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを確認してから行ないます。

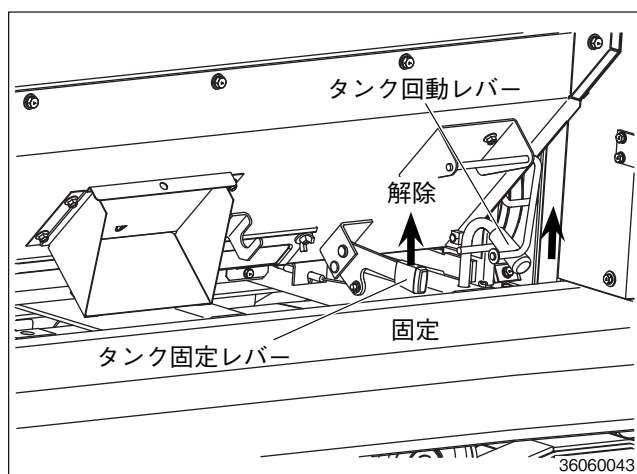
タンク内にこく粒が入った状態でグレンタンク固定レバーを《解除》するとグレンタンクが不意に回転し、事故となることがあります。また故障の原因となります。

◆エンジンを始動する前に、グレンタンクが固定レバーで固定されていることを確認します。グレンタンクが固定されていない状態でエンジンを始動するとグレンタンクが不意に回転し、事故となることがあります。また故障の原因となります。

◆グレンタンクを回転したら、ストoppaをかけて、作業を行なってください。

グレンタンクを定位置に固定するためのレバーです。

グレンタンクを回転(オープン)(117~118ページ参照)するときは、タンク回転レバーを持ち上げると同時にタンク固定レバーのロックを解除します。



タンクを収納しタンク回転レバーのピンがフレームの穴に入るとタンク固定レバーは固定状態になります。

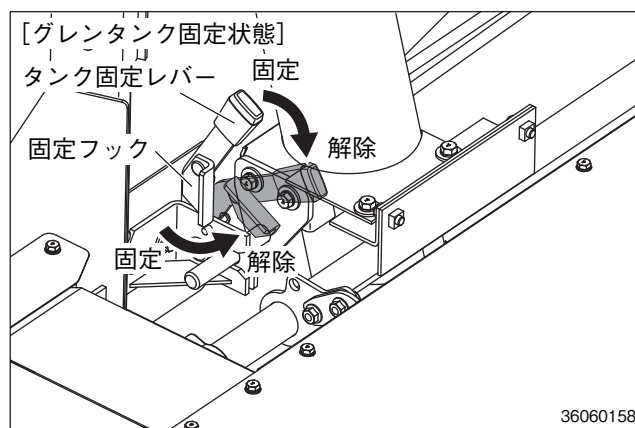
取扱いのポイント

- タンク固定レバーを先に外すとタンク回転レバーが外れにくくなりますので必ずタンク回転レバーを先に外してください。

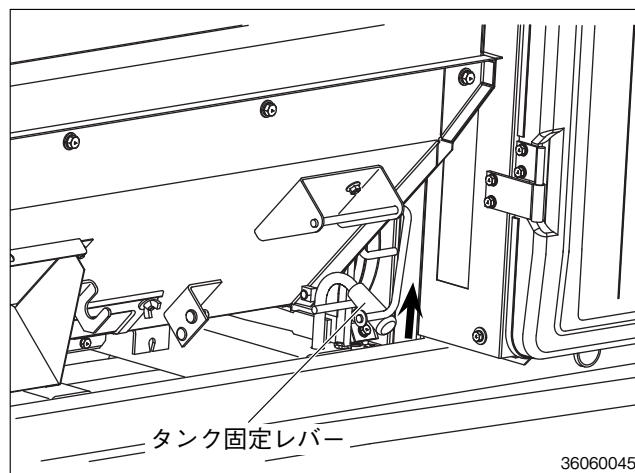
② タンク固定レバー・タンク回転レバー

[RET, RH仕様]

- (1) グレンタンクを回転(オープン)(117~118ページ参照)するときは、固定フックを解除し、タンク固定レバーのロックを解除します。



- (2) タンク回転レバーを持ち上げてロックを解除します。



グレンタンク回転以外のときは、タンク固定レバーを固定状態とし、固定フックを固定状態としておきます。

各部のはたらき

各部のはたらき

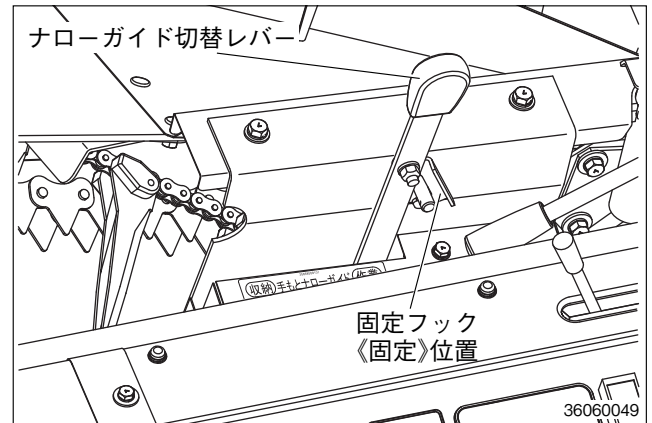
⑰ 排出オーガ固定リング

排出オーガを収納状態で固定するリングです。

排出オーガを操作する前に、排出オーガ固定リングをフックより外します。排出オーガ収納時は、固定リングをフックにかけておきます。



・作業時、レバーが戻る場合は固定フックで《固定》にしてください。

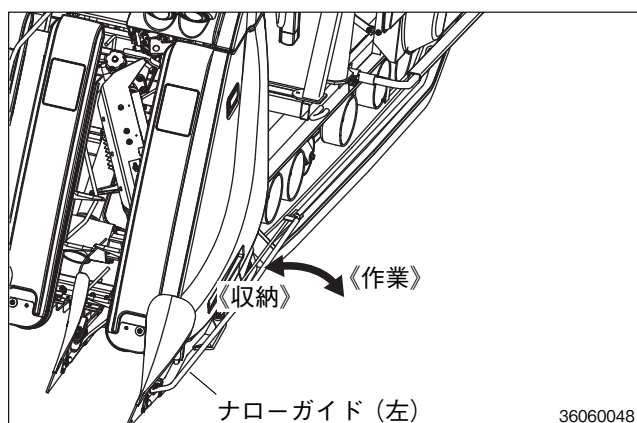
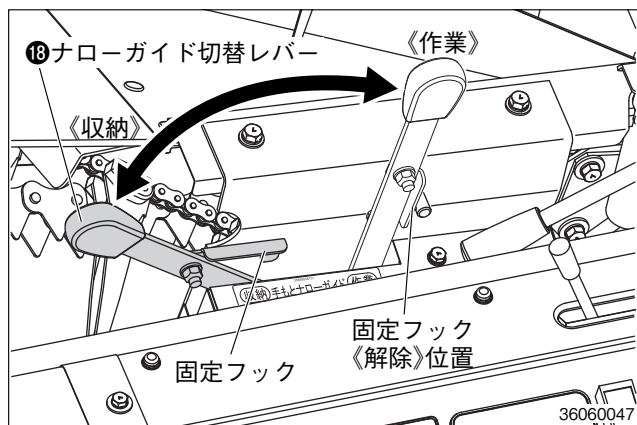


⑱ ナローガイド [RET, RH仕様を除く]

① ナローガイド切替レバー

ナローガイド (左) を運転席に座ったまま操作するレバーです。

- ・ナローガイド切替レバーを《作業》にすると、ナローガイド(左)が引出され作業状態になります。
- ・通常固定フックは《解除》の位置で作業します。
- ・通常走行時には《収納》位置にします。

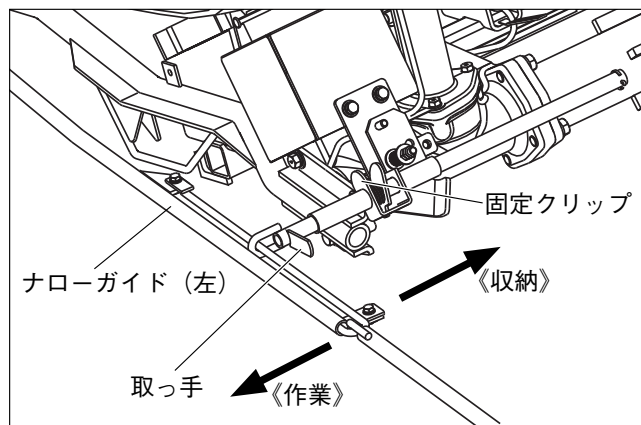


は各部のはたらきの

⑱ ナローガイド (左) [RET, RH仕様]

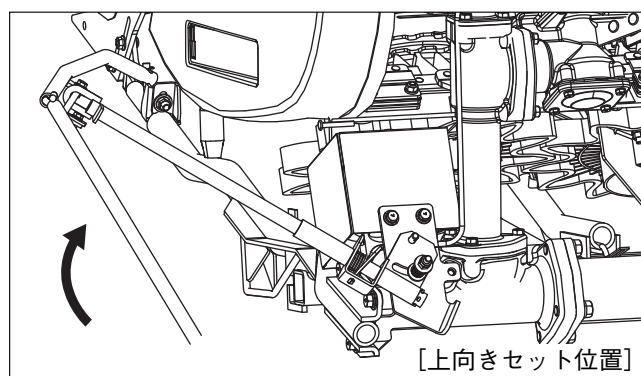
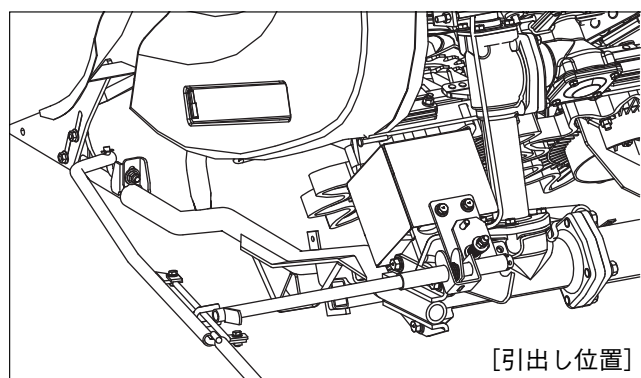
ナローガイド (左) の固定クリップを指で強くつまんで、ナローガイドの固定を外し、取っ手をもちナローガイドを引出し、作業状態にします。

通常走行時には収納します。



取扱いのポイント

- 長稈材などで未刈稈が倒れ込み、脱こく入口部の搬送に支障がある場合は、「上向きセット」にして作業を行います。
- ナローガイドを引出した状態で上に引き上げます。こうする事で、ナローガイドは上向きになったまま固定されています。(上向きセット)



⑳ シート [RET, RH仕様を除く]

① シートスライドレバー

運転者の体格に合わせて着座位置を前後にスライドさせます。

- (1) レバーを上方に回動します。この状態で固定が外れます。
- (2) シートを前後にスライドさせ、最適位置でレバーから手をはなします。
- (3) その位置で固定されます。



② シート上下調整レバー [570型仕様を除く]

運転者の体格に合わせて着座位置を上下させます。

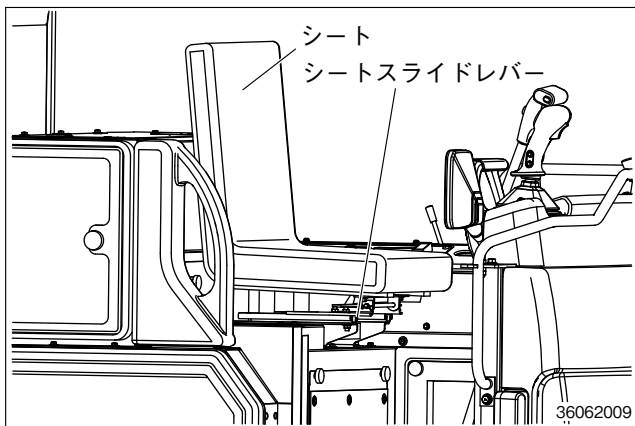
- (1) レバーを押しながら腰をうかせます。バネにより、シート位置が上がります。
- (2) レバーを押しながら腰をおろします。運転者の体重により、シート位置が下がります。



各部のはたらき

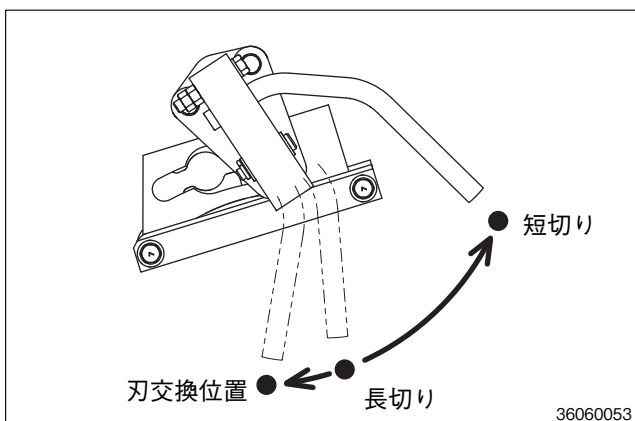
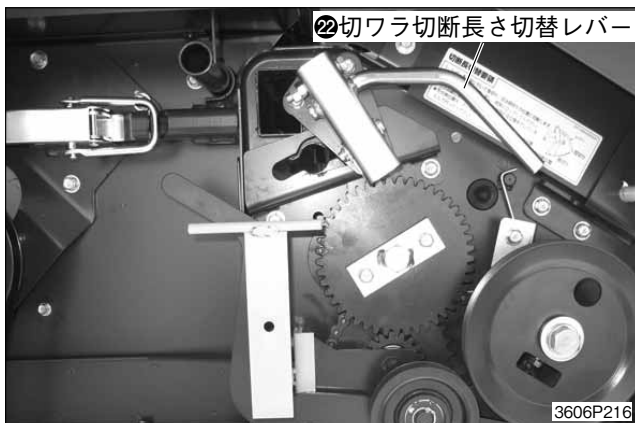
㉑ シート [RET, RH仕様]

- (1) レバーを上方に回動します。この状態で固定が外れます。
- (2) シートを前後にスライドさせ、最適位置でレバーから手をはなします。
- (3) その位置で固定されます。



㉒ 切ワラ切断長さ切替えレバー [RET, RH仕様を除く]

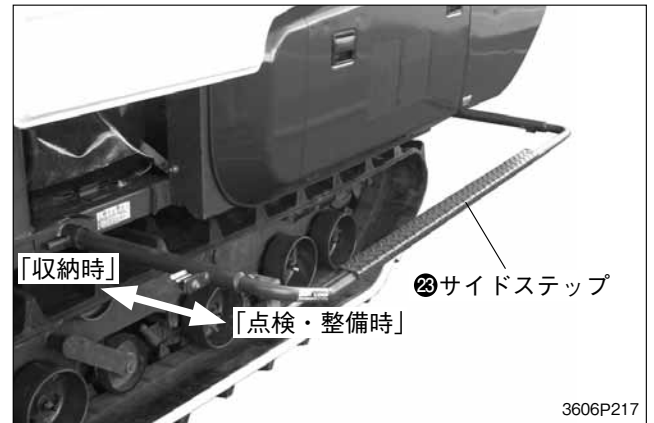
切断長さ切替レバーを手前に引いて位置を変えることにより「短切り」、「長切り」と「刃交換位置」に切替操作ができます。



㉓ サイドステップ

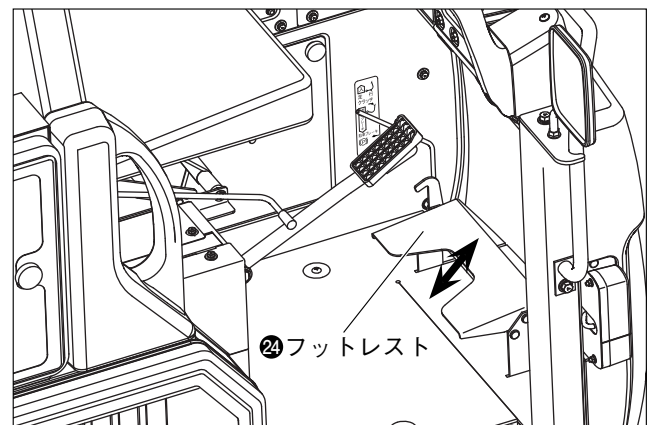
点検や整備のときだけサイドステップを引出して使用します。

作業時、路上走行時は収納します。



㉔ フットレスト [RET, RH仕様を除く]

必要に応じて切換えてください。



運転のしかた

1. 運転まえの点検

安全作業のために、毎日の運転前に「運転まえの点検表」を参考に点検してください。

危険 火傷や火災防止のために

- ◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
- ◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
- ◆燃料補給したときは燃料キャップを締め、こぼれた燃料はきれいに拭取ってください。
- ◆燃料タンクや燃料ホースの劣化や、傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し、傷や漏れがあれば交換してください。

警告 傷害事故防止のために

- ◆給油・注油・点検するときには機械を平坦な場所に置き、エンジンを停止し駐車ブレーキをかけてから行なってください。
- ◆ラジエータキャップの取外しは、エンジンが冷えてから行なってください。

注意 傷害事故防止のために

- ◆点検整備などで取外したカバー類は、すべて取付けてください。

「運転まえの点検表」

点検箇所	内 容	処 置	参照ページ
エンジンカバー および ラジエータフィン オイルクーラフィン クーラコンデンサ[X仕様]	・ラジエータフィン、オイルクーラフィン、コンデンサフィンの目詰まりはありませんか。	・やわらかいブラシなどで、掃除をする。 ・ラジエータフィン、オイルクーラフィン、クーラコンデンサフィンは、コンプレッサでエアを吹き付ける。	102~103
マフラやエンジン回り、 サイドカバー（上）（下）	・ワラクズが溜まっていませんか。	・掃除をする。	—
各部の損傷、汚れ、ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・ボルトのゆるみを締付ける。 ・損傷したものは交換してください。	—
油漏れ	・各給油箇所部に油漏れがありませんか。	・給油、排油、検油栓のゆるみを締付ける。 ・直らないときは、点検を受けてください。	89~97
燃料ホース	・損傷（割れ、破れ、継ぎ部のゆるみ）や燃料漏れがありませんか。	・ホースを交換してください。 ・継ぎ部をしっかりと締付ける。	145
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線を交換修理してください。 ・電気配線回りのワラクズなどを取除く。	111

運転のしかた

点検箇所	内 容	処 置	参照ページ
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを軽くたたか、コンプレッサで内側からエアを吹きつける。	103
エンジンオイル (エンジンクランクケース)	・オイルがレベルゲージの上・下限の間にありますか。	・エンジンオイルを適量補給する。	89~90
冷却水 (ラジエータ)	・補助タンクに適量ありますか。 (給水レベルの上・下限の間に) あること。	・清水を補助タンクに適量補給する。	91~92
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受けてください。	—
燃料 (燃料タンク)	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・ディーゼル軽油を補給する。	89
ホーン	・ホーン・警報入切ボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ, 配線の外れを調べ, 処置する。	108~110
方向指示器などの保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ, ヒューズ切れ, 配線の外れを調べ, 処置する。	108~110
バックブザー (ホーン)	・主変速レバーを「後進」位置にしたとき, バックブザーが鳴りますか。	・ヒューズ切れ, 配線の外れを調べ, 処置する。	108~110
インジケータランプ	・オイル, 充電, 予熱ランプは消灯しますか。(エンジン始動後)	・異常箇所を調べ, 処置する。 ・エンジンオイルを補給する。 ・バッテリーを充電する。	89~90 111~117
回転計	・正常に作動しますか。(エンジン始動で)	・点検を受けてください。	—
マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作したとき, 正常に旋回, 刈取部が上下しますか。	・副変速レバーのスピンドライブターン変速を確実に切替る。 ・異常箇所を調べ, 処置する。	— 19, 21
走行クラッチペダル (ブレーキ兼用)	・ゆっくり走行してペダル操作したとき, 正常に機械が停止しますか。	・走行クラッチペダルの調整をしてください。	150
チェン, ベルト, ワイヤ, クローラ	・たるみ, 損傷はありませんか。	・正常に調整するか交換をしてください。	149~168

2. エンジンの始動と停止

⚠ 警告 傷害事故防止のために

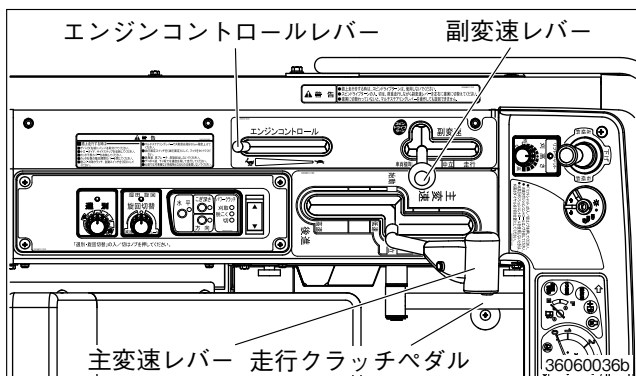
- ◆変速レバーが《中立》、パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが《切》位置であることを確認してください。
- 機械の周囲から人を遠ざけてください。
- ◆始動は座席に座って行なってください。
- ◆屋内での始動は、窓や戸を開け換気をしてください。
- ◆暖機運転は主変速レバー、副変速レバー《中立》にして、パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《切》で駐車ブレーキをかけて行なってください。
- 運転者はエンジンをかけた状態で機械の周囲から離れないでください。
- 外気温が「0℃以下」のときは暖機運転を10分以上行ってください。行わないと油圧装置が正常に作動しなくなり、方向変換ができないことがあります。
- ◆空運転するときは、こぎ胴部およびカッタ部を開かないでください。


⚠ 注意

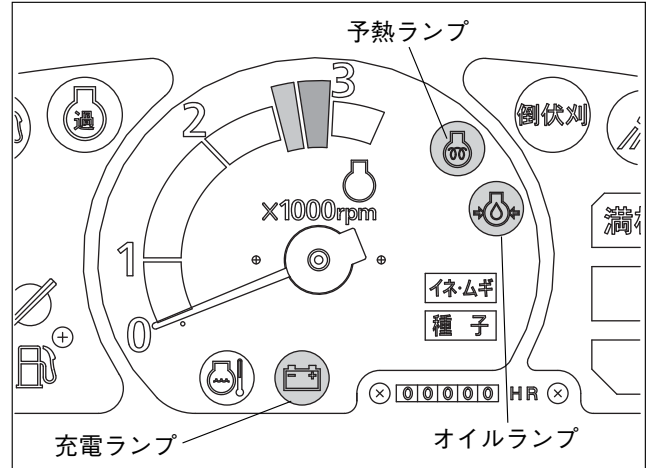
- ◆点検整備などで取外したカバー類は、すべて取付けてください。

1. エンジン始動のしかた

- ① 体格に合わせて着座位置を調節します。(27ページ参照)
- ② 主変速レバーを《中立始動》(前進側中立位置)、副変速レバーを《中立》にします。



- ③ エンジンコントロールレバーを《》(高速)位置にセットします。
- ④ スタータスイッチを《入》位置にし、「オイル」「充電」のランプが点灯することを確認します。




- ⑤ 走行クラッチペダルをいっぱい踏込み、スタータスイッチを《始動》位置に回し、エンジンを始動します。
- ⑥ 始動後、駐車ブレーキをかけ、エンジン回転を「2000回転」程度にセットし、暖機運転をします。

取扱いのポイント

- 主変速レバーを《中立始動》(前進側中立位置)にして、走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。
- エンジン始動後、「オイル」「充電」のランプが消灯することを確認してください。
- スタータスイッチは、5秒以上の連続使用はしないでください。
- セルモータは短時間に大きな電力を消費します。5秒以上の連続使用は、バッテリー故障の原因となりますので避けてください。

2. エンジン停止のしかた

- ① エンジンコントロールレバーを《》(低速)にします。
- ② パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にします。
- ③ スタータスイッチを《切》位置にすると、エンジンが停止します。

し運
か転
たの

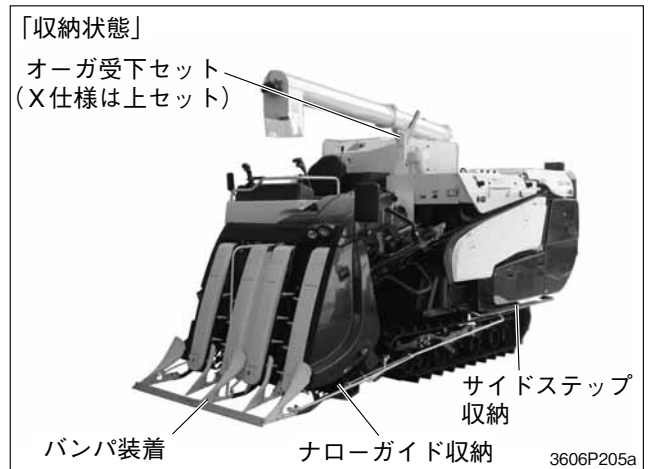
3. 走行・停車のしかた

1. 走行のしかた

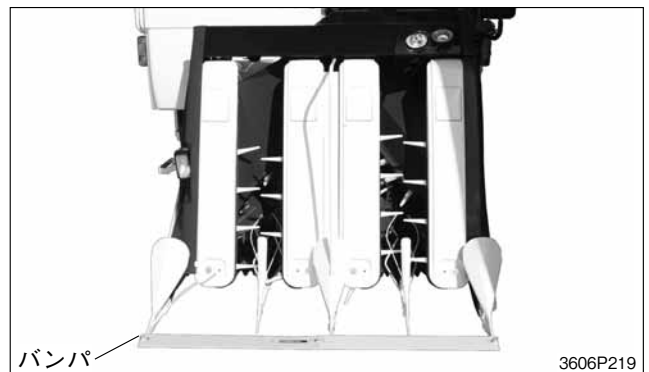
⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆公道走行は、交通法規を守って運転してください。
- ◆走行する前に機械を「収納状態」にしてください。
- グレンタンク内のこく粒はすべて排出します。
- バンパを取付けます。
- ナローガイドを収納します。
- 排出オーガ受を「下セット」排出オーガを「収納」位置にし [X仕様を除く]、固定リングをフックに掛け固定します。
- グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。
- 方向自動スイッチを《切》(ランプ消灯)にします。[ディーラーオプション]
- カッタ以外のアタッチメントを取外します。
- 防じんカバーを下げます。[ディーラーオプション：22ページ参照] [X仕様を除く]
- ◆路上走行、あぜ越え、自動車への積込み・積降ろし時には水平自動スイッチを《切》にし、水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。
- ◆路上走行するときは、作業灯は消灯してください。
- ◆運転者の他に子供など、人や物を機械にのせないでください。
- ◆ヘルメットをかぶってください。
- ◆発進、停止および旋回するときは周囲を確認し速度を落としてください。
- ◆狭い農道や傾斜地では、路肩に寄りすぎないようにして低速走行し、軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。
- ◆あぜ越え、路上走行などではジャストディレクタを使用しないでください。

① 走行するときは機械を「収納状態」にして「安全な速度」で走行します。

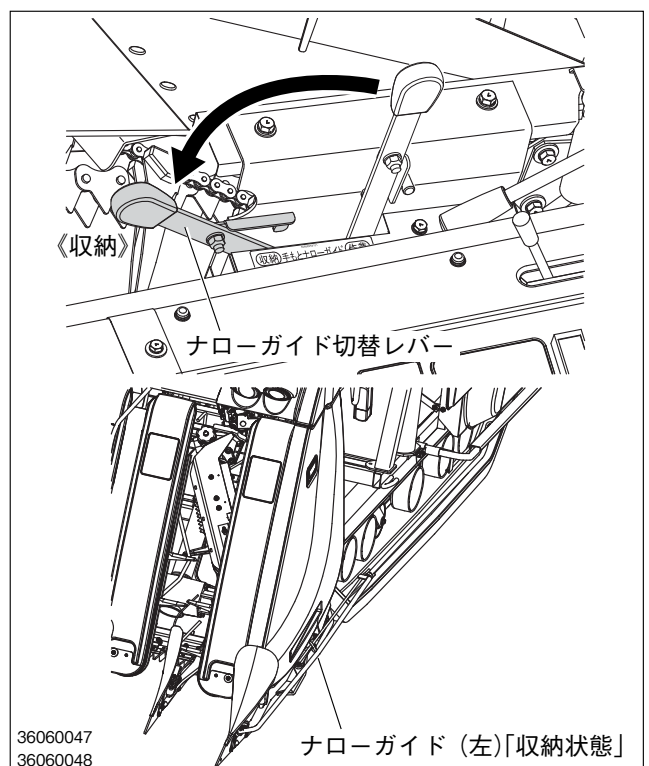


② デバイダ先端に「バンパ」を取付けます。

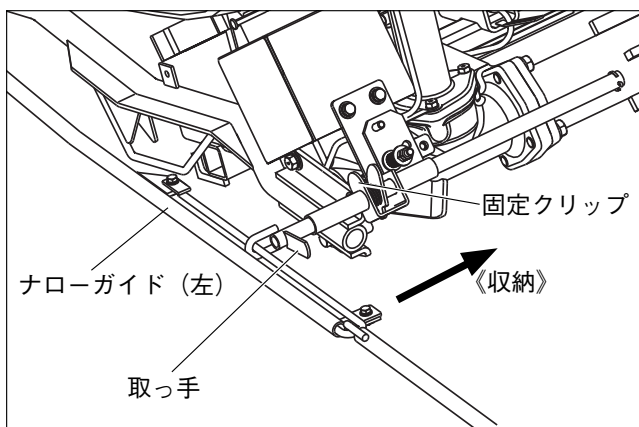


③ ナローガイド切替レバーを《収納》位置にします。

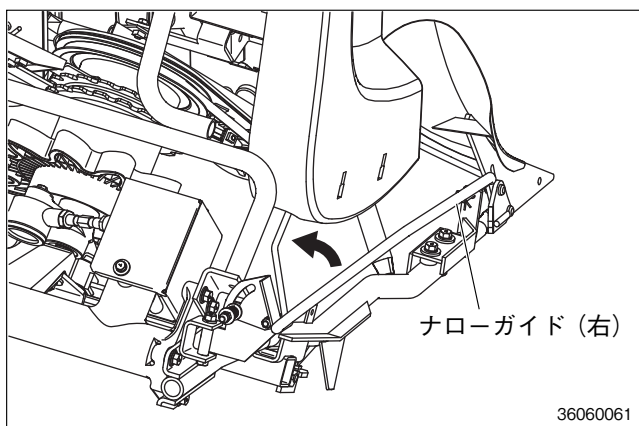
[RET, RH仕様を除く]



[RET, RH仕様]

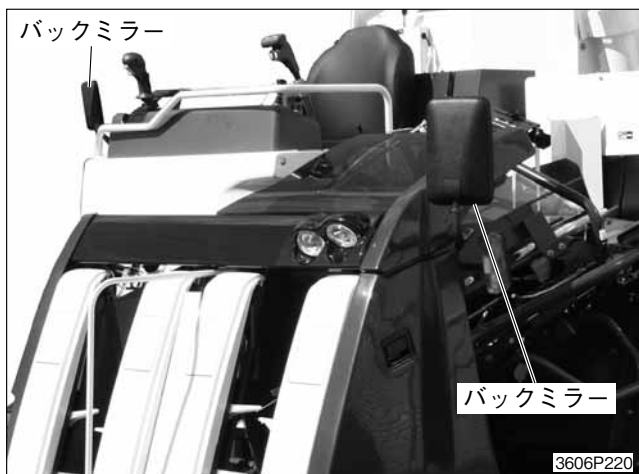


・ナローガイド(右)を内側に収納します。[4条型]

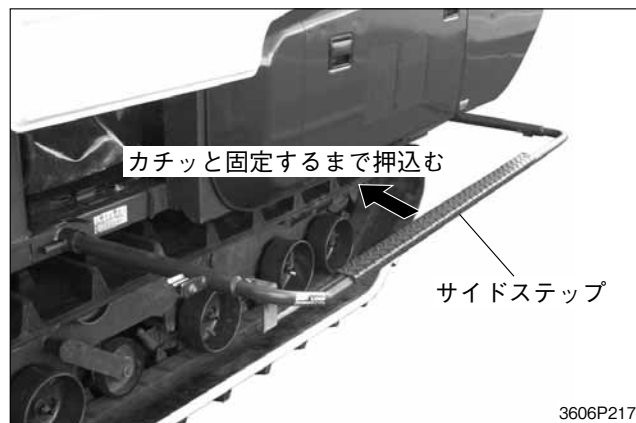


④ バックミラーの調整

バックミラーは上下、左右に角度調整ができますので運転席に座って見やすい位置に調節してください。

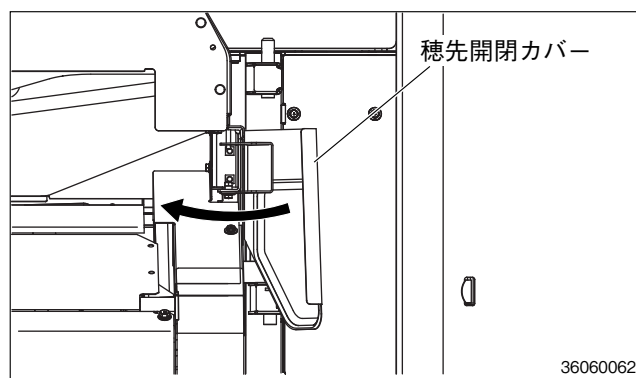


⑤ 「サイドステップ」を収納します。(点検、整備時のみ、サイドステップを引出して使用します。)



⑥ 公道を走行するときは、カッタ以外のアタッチメント（ノッタなど）を取外します。

・カッタ右側の穂先開閉カバーを閉じます。



⑦ グレンタンク内のこく粒をすべて排出します。

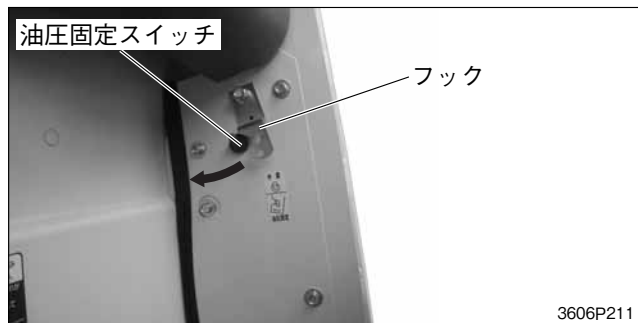
し運
か転
たの

運転のしかた

- ⑧ 排出オーガ受を「下セット」にして[X仕様を除く]、「排出オーガ固定リング」がかかっていることを確認します。



- ⑨ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にし、自動スイッチをすべて「切」にします。
- ⑩ エンジンを始動し、エンジン回転を「2000回転」以上にセットします。
- ⑪ マルチステアリングレバーで刈取部先端を「50cm」程度上げます。
- ⑫ 油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にして、フックをかけ刈取部を固定します。



- ⑬ 水平自動スイッチを「切」にして、水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。
- ⑭ 副変速レバーを走行する条件に合った位置にします。
- ⑮ 主変速レバーをゆっくり操作し、適正な走行速度にします。
- ⑯ 路上走行で方向を変えるときは、方向指示器を点灯し合図をします。

取扱いのポイント

- 副変速レバーを動かすときは、必ずクラッチペダルを踏んでクラッチを切った状態で行なってください。

- ⑰ 発進するときや作業開始の合図は、ホーンボタンを押して、ホーンで行います。
- ⑱ 路上走行時、作業灯は消灯します。

2. 停車のしかた

警告 火災や傷害事故防止のために

- ◆ 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、刈取部を下げ、各操作レバーを《中立》に入れてください。エンジン停止後、副変速レバーを《標準》に入れてください。機械から離れるときは、スタータスイッチ（始動キー）を抜取ってください。
- ◆ 機械を燃えやすいものの近くに、止めないでください。

- ① 主変速レバーを《中立》、副変速レバーを《中立》にします。
- ② 駐車ブレーキをかけます。
- ③ エンジンコントロールレバーを《低速》の位置に戻してしばらく空運転をし、エンジン温度を下げてから、副変速レバーを《標準》に入れて停止します。
- ④ 副変速レバーを《標準》に入れて、ブレーキロックレバーがかかっていることを確認します。

取扱いのポイント

- ブレーキをロック解除するときは、走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで離してください。

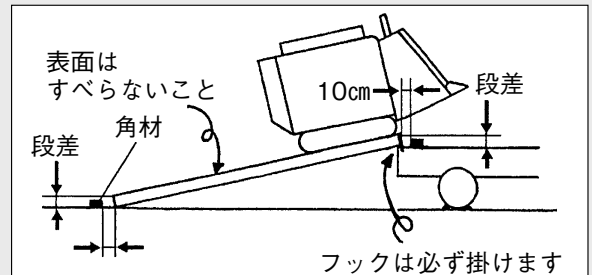
4. 自動車への積込み・積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは、周囲に障害物のない平坦で硬い場所を選び、運転者は誘導する補助者と協力して、次のことを守り慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆積載重量が、自動車の最大積載量を超えないで、かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。
- 自動車は平坦で硬い場所に停止し、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、変速を1速か後進（バック）に入れ、タイヤに車止めをしてください。
- ◆アユミは、機械の重量に耐える強度、幅、（クローラが外れない幅）長さ（荷台高さの4倍以上）のある、すべり止め、フック付きのものを使用します。
- アユミを機械のクローラ間隔に合わせ自動車の荷台に平行にはずれないようにつまめます。
- ◆機械は積込む前に、「収納状態」にしてください。
- グレンタンク内のこく粒はすべて排出します。
- バンパを取付けます。
- ナローガイドを収納します。
- 排出オーガ受を「下セット」にし[X仕様を除く]、排出オーガ固定リングをフックに掛け固定します。
- グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。
- 水平自動スイッチを《切》にし、水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。
- 方向自動スイッチを《切》（ランプ消灯）にします。[ディーラーオプション]
- 防じんカバーを下げます。[ディーラーオプション] [X仕様を除く]
- ◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行ってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。

- アユミの上での進路変更がないように、左右のクローラをアユミの中央に真直ぐにセットします。
- ◆アユミと路面および自動車の荷台との段差が6cm以上ある場合は段差の半分程度の高さの角材などを置いてください。



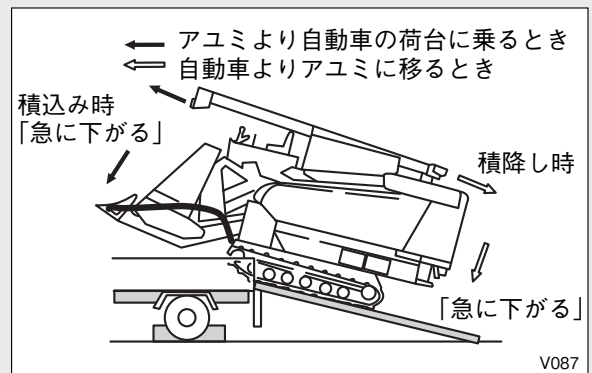
- ◆自動車への積込み・積降ろし中は、つぎの操作はしないでください。操作をすると、急に方向転換し転落する恐れがあります。

- ・主変速レバー
 - ・副変速レバー
 - ・マルチステアリングレバー
 - ・走行クラッチペダル
 - ・ブレーキロックレバー
 - ・ジャストディレクタ
- は、アユミの上では操作しないこと。

- ◆積込みは前進、積降ろしは後進で、主変速レバー《低速》位置、副変速レバー《標準》位置で行ってください。

- ◆[X仕様] 以外は機械に乗ったまま、積み込み・積降ろしをしないでください。

- ◆運転者は機械が自動車に乗る直前や降りる直後では、急に姿勢が変わることがありますので、機械が自動車に乗って（降りて）から近づいてください。

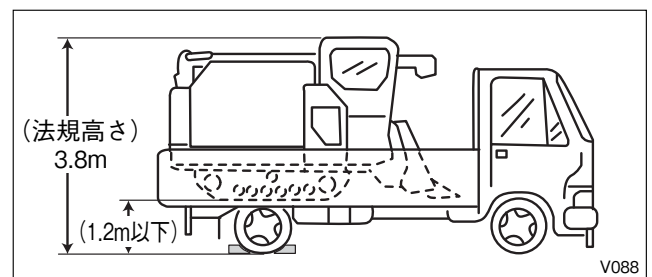


し運
か転
たの

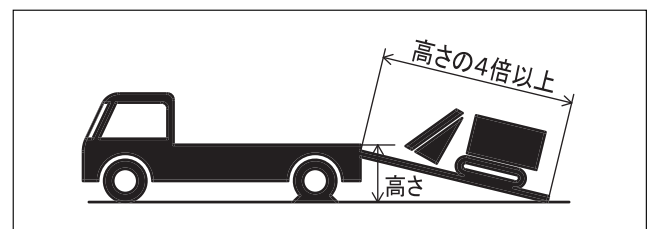
- ◆各カバーの固定が確実か確認してください。
- ◆防じんカバーが開いていると、風圧で防じんカバーが破損・脱落のおそれがありますので、閉じてロープなどで浮上りを防いでください。[ディーラーオプション]
- ◆積みが終わったらコンバインのフレームの4隅のフックにロープまたはワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1. 自動車・アユミについて

- ① 積載重量が、自動車の最大積載量を超えないで、かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。
 - ・トラックに積んだ場合、「車両制限令」により地上からの高さが3.8m以下に規制されています。3.8mを越える場合は許可が必要になりますので所轄の警察署で緩和申請を受けてください。
 - ・[X仕様]の場合は、荷台高さが1.2m以下の自動車を使用します。



- ② 自動車は駐車ブレーキをかけ、タイヤに「車止め」をします。
- ③ アユミは、機械の質量に耐える強度、幅（クローラが外れない幅）、長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め付き、フック付きのものを使用します。



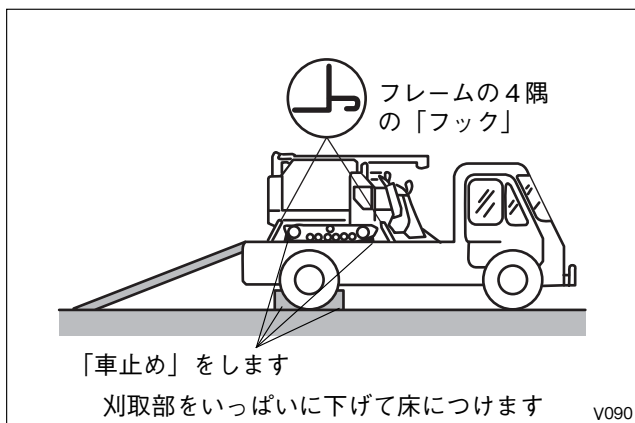
アユミの基準

長さ	自動車の荷台の高さの4倍以上
幅	60cm以上
数量	2枚
強度	1枚が2,000kg以上の重量に耐えるもの

- ④ アユミは、機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に「段差」のないようにつけ、「横ずれ」したり、「外れ」たりしないようにセットします。
- ⑤ 機械輸送時の自動車の運転で、急発進・急停止・急ハンドルなどの操作は行わないでください。荷くずれや自動車の転倒事故につながります。

2. 機械の積込み要領

- ① ナローガイドを収納します。
グレンタンク、排出オーガの固定を確認します。
- ② エンジンを始動して、エンジンコントロールレバーでエンジン回転を「2000回転」程度にします。
- ③ 刈取部をいっぱい上げます。
- ④ 積込みは、主変速レバー《前進》の低速、副変速レバー《標準・車両積降ろし》で行います。
- ⑤ 積降ろすときは、主変速レバー《後進》の低速、副変速《標準・車両積降ろし》で行います。
- ⑥ [X仕様] 以外の積込み・積降ろしは、機械からおりて行います。
- ⑦ 積込み・積降ろしの途中では、進路変更、走行クラッチ操作、変速操作はしない。
- ⑧ 補助者の立会誘導のもとに、周囲を確認して行います。
- ⑨ 自動車に積込みが終わったら、機械のクローラに「車止め」をし、駐車ブレーキをかけ、機械のフレームの4隅のフックにロープ、またはワイヤをかけて固定します。
- ⑩ 刈取部は完全に下げて床につけます。こぎ深さは、深こぎ側へいっぱい上げておきます。



- ⑪ [X仕様] を輸送するときはドアと窓を閉めて、ロックしておきます。

5. ほ場への出入り

警告 傷害事故防止のために

- ◆10cm以上のあぜ、溝、10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは、アユミを使用し「低速」であぜに「直角」に行なってください。
- 急な坂道の場合は、進行方向や速度を誤ると、転倒してケガをするおそれがあります。
- ◆ほ場への出入りをする前に、グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
- ◆水平自動スイッチを「切」にし、水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。
- ◆方向自動スイッチを「切」にしてください。
[ディーラーオプション]
- ◆あぜが崩れないことを確認してから、ゆっくり行なってください。

し運
か転
たの

1. ほ場への出入りのしかた



- ① 刈取部を上げ、エンジンコントロールレバーでエンジン回転を「2000回転」程度にセットし、副変速を《標準・車両積降ろし》、主変速を《低速》または《後進・低速》にしてあぜに直角に走行します。
- ② アユミを使用するときは、「自動車への積込み・積降ろし」の内容に従って行います。

作業のしかた

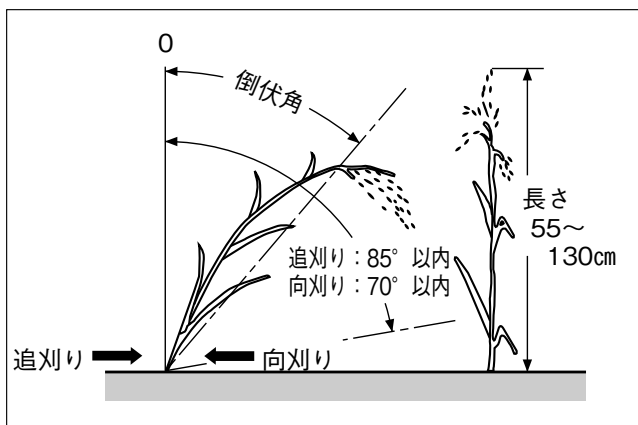
1. 作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと、脱こく精度が低下するおそれがあります。次の条件を整えて作業に入ります。

1. 作物の条件について

① 作物の長さとお倒れ

- ・長さ…55～130cmまで刈取りできます。
- ・倒れ（倒伏角）
 - …追刈り：85° 以内まで刈取りできます。
 - 向刈り：70° 以内まで刈取りできます。



② 作物の濡れ

- ・濡れた作物（雨あがり・朝露）の刈取りは、次のようなことがありますので、乾燥するのを待つて刈取ります。
- ・能率があがらない
- ・選別不良
- ・詰まりやすい
- ・乾燥処理時間の増加

③ 病虫害に侵された作物

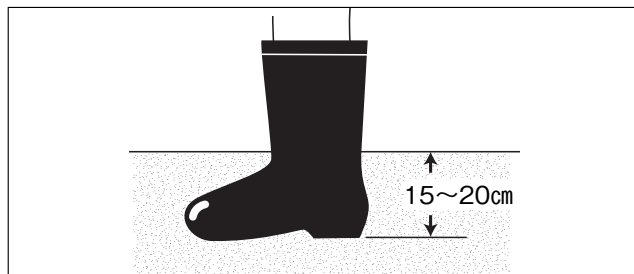
病虫害に侵された作物の刈取りは、次のようなことがありますので、刈取り作業の速度を遅くするか、またはできるだけその部分は「手刈り」をしておきます。

- ・こく程が折れやすい
- ・刈取り・搬送部の詰まり
- ・脱こく部の詰まり

2. ほ場の条件について

① 湿田ほ場のぬかるみ程度

沈下量が「15～20cm」までは作業ができます。

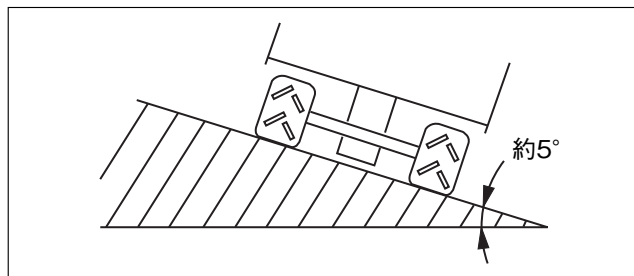


取扱いのポイント

- 一度通ったクローラ跡はなるべく通らないようにしてください。

② 機械の傾斜

機械の傾斜角度5° 以上では、刈取り作業はできません。



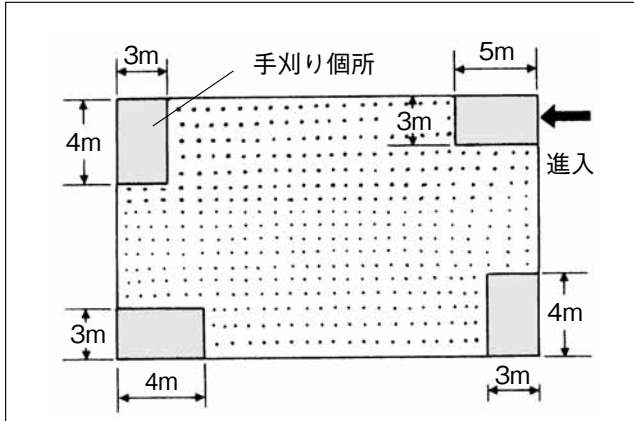
取扱いのポイント

- 適応範囲をこえての作業はできません。行わないでください。
- ほ場内に雑草が多いと、刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

3. ほ場の準備

手刈り

- ・機械をほ場に入れる前に、あらかじめ四隅を「旋回できる程度」手刈りします。



取扱いのポイント

- ほ場の周囲がコンクリートあぜ、または高あぜで、あぜぎわいっばいに植付けされているときは、作業に支障がないように手刈りしてください。
- カマ差しは、運転席左側下部にあります。



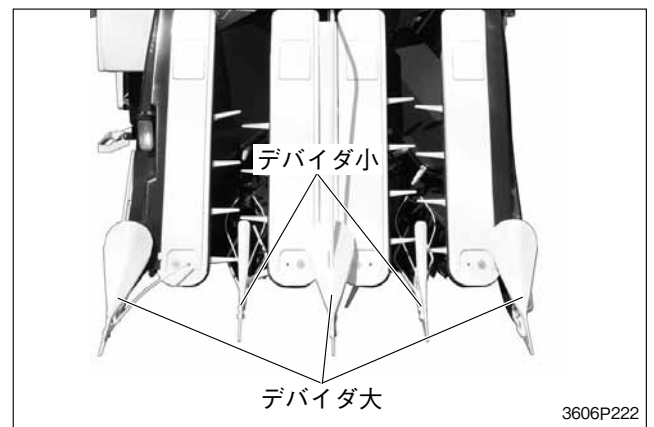
4. 機械の準備

① デバイダの上下調整

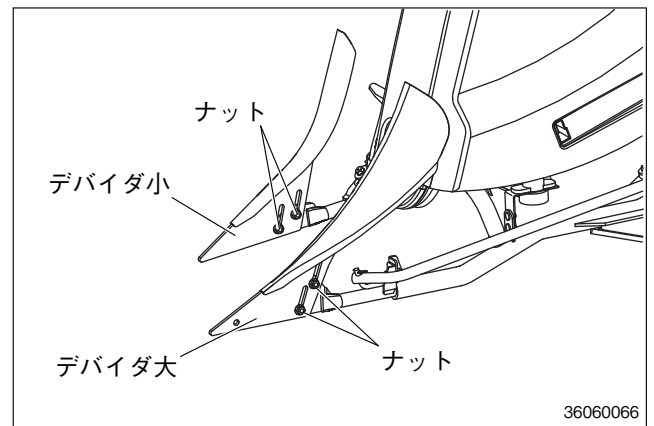
調整の前にバンパを取外します。

次のような場合は、デバイダを「下側」にセットします。

- ・刈取部を下げたときに、デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合。
- ・刈取部をいっばいに下げても、デバイダが地面より離れている場合。



デバイダ取付のナットをゆるめて、デバイダが適正な高さとなるように調整し、締付けて固定します。



取扱いのポイント

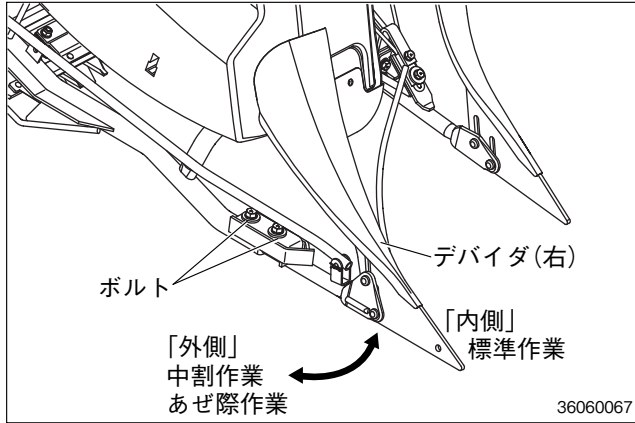
- デバイダは、すべて同じ高さになるようにセットしてください。

し作
か業
たの

作業のしかた

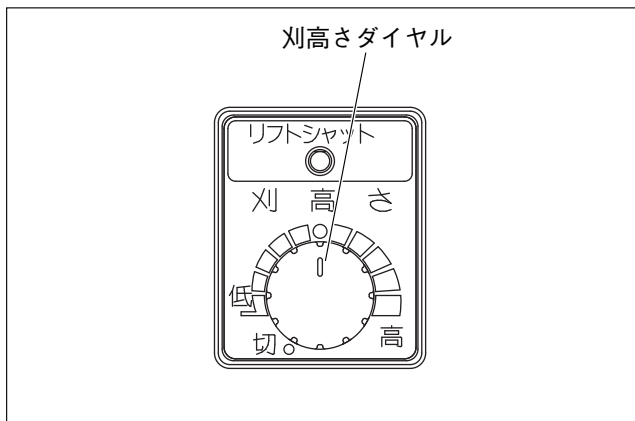
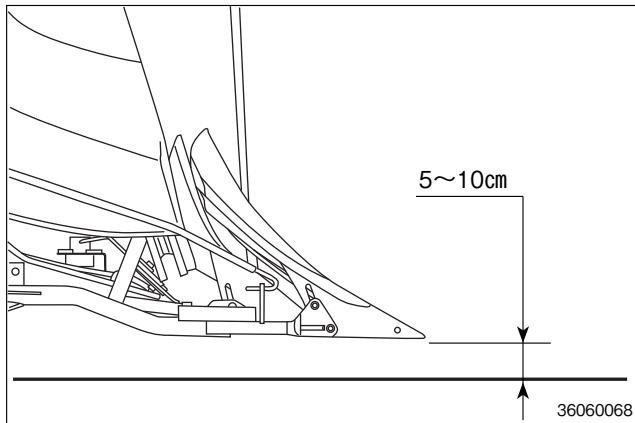
② デバイダ (右) の調整

- ・ デバイダ (右) は「内側」位置が標準です。
- ・ 中割作業やあぜ際作業をするときは、2本のボルトをゆるめて「外側」の位置にいっぱい広げ、締付けて固定します。



③ 刈取り高さの調整

刈取部を下げ、デバイス先端がほ場表面から「5～10cm」になるように刈高さダイヤルで調整します。



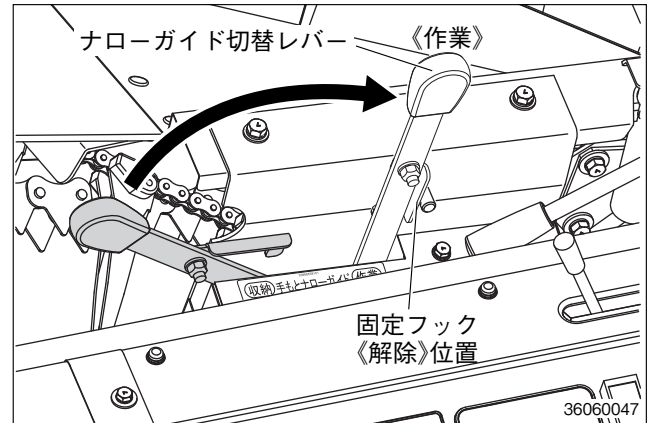
- ・ 倒伏および短い作物の場合は、デバイス先端を地面すれすれに調節します。

④ ナローガイドの調節

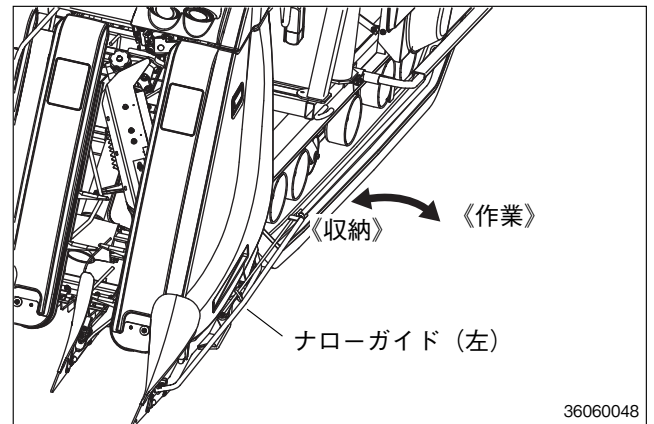
① ナローガイド (左) の調節

[RET, RH仕様を除く]

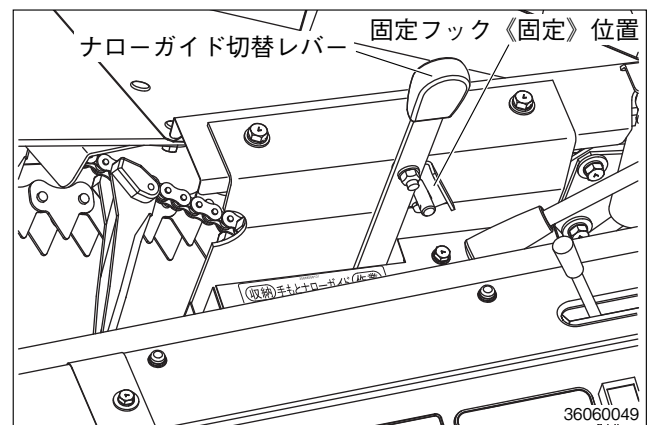
- ・ ナローガイド切替レバーを《作業》にすると、ナローガイド (左) が引出され、作業状態になります。
- ・ 通常固定フックは《解除》の位置で作業します。



- ・ 右まわり、あぜ際刈取など、障害物があるときは、収納してください。



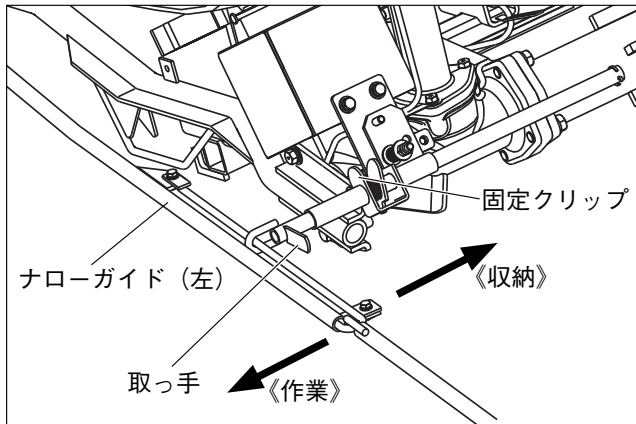
- ・ 作業時、レバーが戻る場合は固定フックで《固定》してください。



② ナローガイド（左）の調節 [RET, RH仕様]

ナローガイド（左）の固定クリップを指で強くつまんで、ナローガイドの固定を外し、取っ手を持ちナローガイドを引出し、作業状態にします。

通常走行時には収納します。



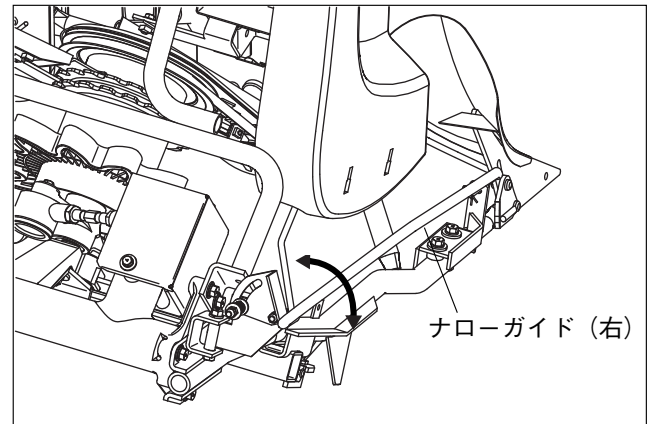
取扱いのポイント

- 長稈材などで未刈稈が倒れ込み、脱こく入口部の搬送に支障がある場合は、「上向きセット」にして作業を行います。
- ナローガイドを引出した状態で上に上げます。こうする事で、ナローガイドは上向きになったまま固定されています。（上向セット）

⑤ ナローガイド（右）の調整 [4条型]

通常作業をするときは、ナローガイドをいっばいに倒します。

あぜぎわ作業をするときは、ナローガイドを必要に応じた角度にします。



し作
か業
たの

作業のしかた

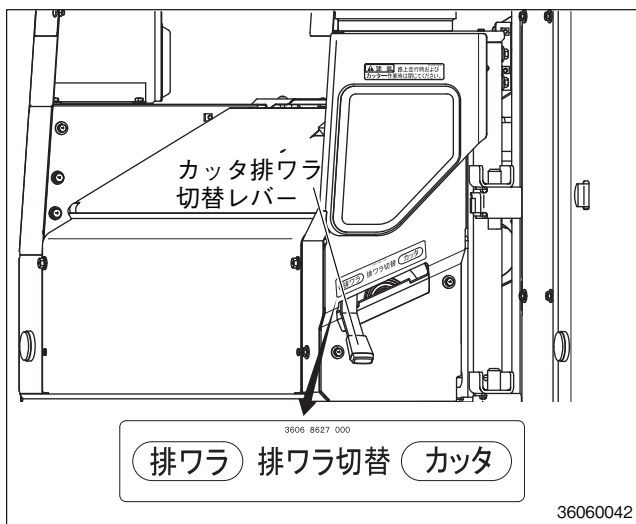
⑥ カッタ・排ワラ切替レバーの調節

- (1) 作業内容に合わせて、切替レバーで《カッタ》・《排ワラ》の切替えを行います。

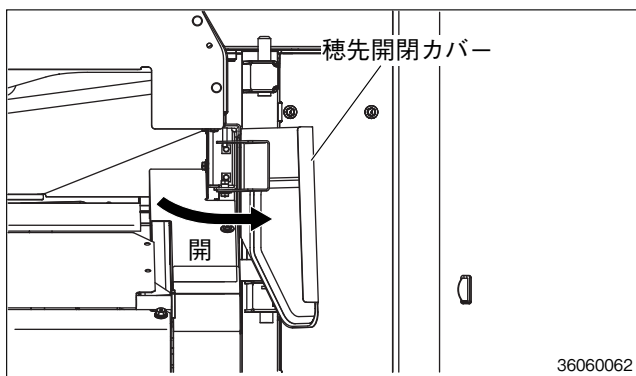
[RET, RH仕様を除く]



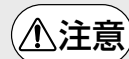
[RET, RH仕様]



- (2) 排ワラ作業の場合は、穂先開閉カバーを開きます。(63ページ参照)



⑦ 排出オーガ受のセット [X仕様を除く]



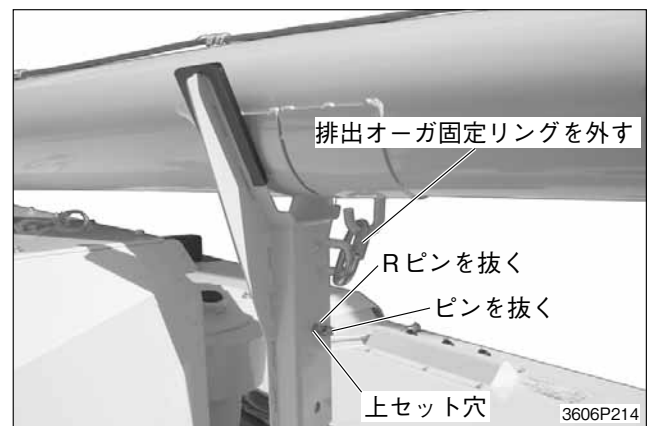
◆こく粒排出作業時以外は、排出オーガを排出オーガ固定リングで、固定してください。

◆路上走行時は、排出オーガ受を「下セット」にしてください。

工場出荷時に排出オーガ受は、「下セット」で出荷されています。

- (1) 排出オーガ固定リングを外し、排出オーガを《上げ》ます。
- (2) 排出オーガ受を止めているピンのRピンを抜き、ピンをブラケットから抜きます。

「出荷状態 (下セット)」

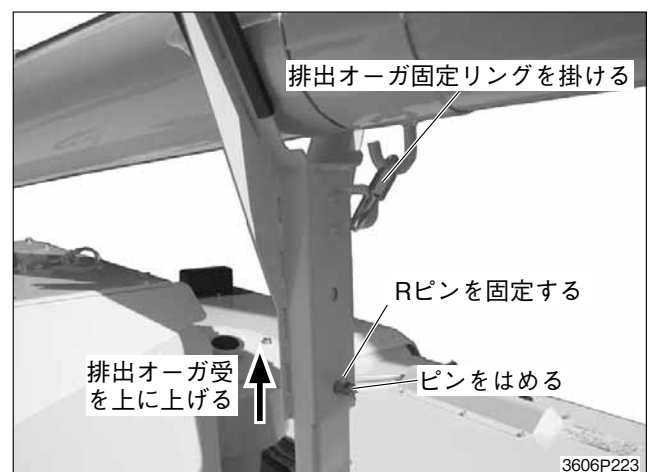


- (3) 排出オーガ受「上位置」のセット穴と、ブラケットの穴を合わせます。

- (4) ピンを差込んで、Rピンで止めます。

- (5) 排出オーガを《下げ》フックに排出オーガ固定リングを掛けます。

「上位置セット」



⑧ カッター下部カバーの調整

- ・カッター下部カバー（左）のチョウボルトをゆるめカバーを開閉します。



⑨ ワラ切断長さの調節 [RET, RH仕様を除く]

「カッタ」作業の場合は「切ワラ長さ」を切ワラ切断長さ切替レバーで「長切り」「短切り」に好みに応じて調節します。（62～63ページ参照）

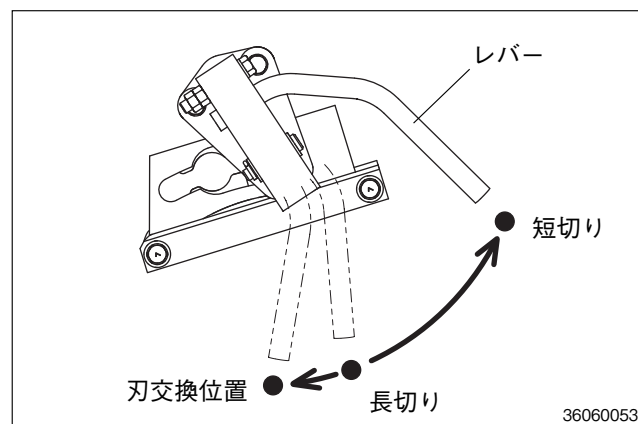
- ・カッタサイドカバーを外すと、レバーが見えます。



(1) レバーを手前に引いて「長切り」, または「短切り」の位置に回します。

(2) 回動後はレバーを押戻し, 確実にロックしてください。

刃交換位置では作業できません。



切替後はカッタサイドカバーを取付けます。

し
作
業
の
た
の

⑩ 旋回方式の選択 [RET, RH仕様を除く]

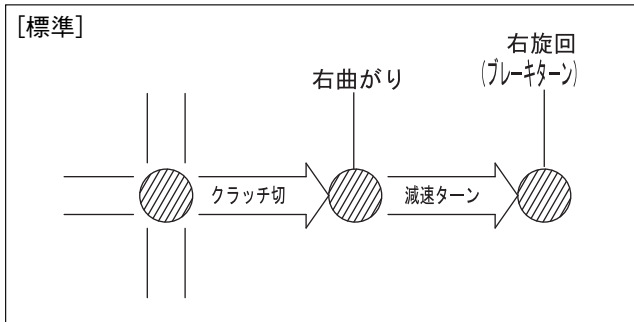
警告 傷害事故防止のために

◆スピンドライブターンは急旋回しますので路上走行するときは使用しないでください。

作業条件に応じて次の旋回方式が選択できます。

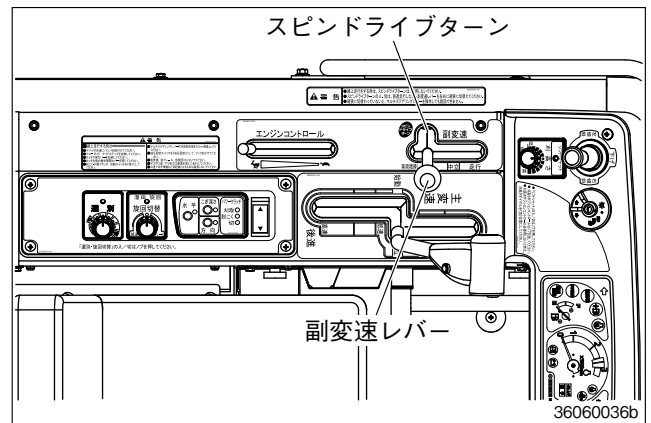
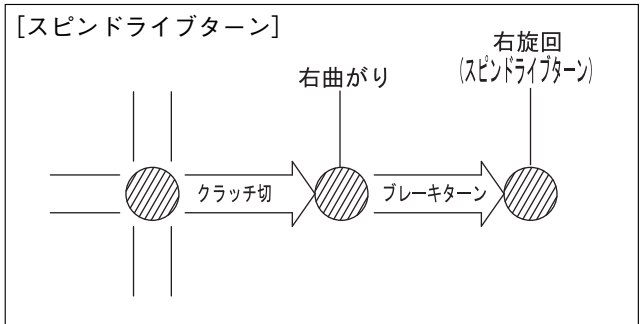
《減速ターン・ブレーキターン》

ステアリングレバーを倒すとサイドクラッチが切れ、さらに倒すと片側のクローラが減速し、減速ターンとなります。(ほ場の荒れを少なくして作業する場合に使用します。) さらに倒すと旋回側のドライブシャフトをブレーキで停止させて旋回します。(ブレーキターン)



《スピンドライブターン》

副変速レバーがスピンドライブターン位置のとき、ステアリングレバーをいっぱい倒すと左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。



2. 刈取り作業のしかた

麦刈り作業時の調整のしかたは64ページを参照してください。

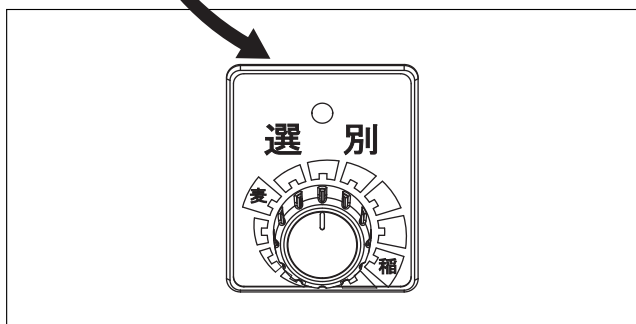
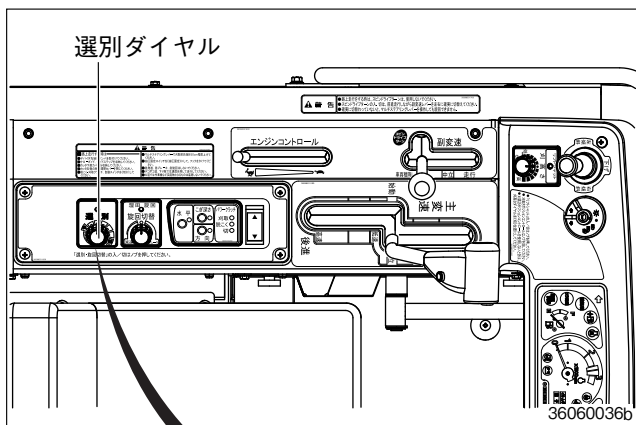
各自動装置の取扱いは **自動装置について** の項を参照します。

1. 刈取り操作の手順

警告 傷害事故防止のために

- ◆刈取り作業をするときは、周囲を確認し、機械に人を近づけないでください。
- ◆作業中に走行クラッチペダルを踏んで停止したときは、主変速レバーを《中立》に戻してください。発進するときは低速から順次に速度を上げてください。

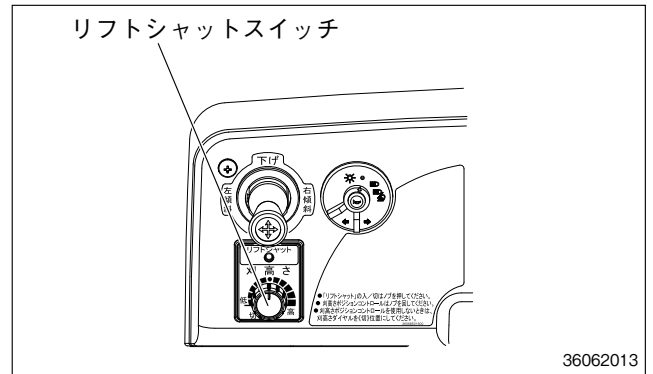
- ① エンジンを始動し、各自動スイッチが点灯していることを確認します。使用したい自動スイッチが消灯している場合は、スイッチを押して点灯させます。
- ② 選別ダイヤルを刈取る作物に合った位置にセットします。



・選別ダイヤルのセット方法は、「選別自動制御の取扱い」の項70～71ページを参照。

各自動装置の取扱いは65～74ページを参照します。

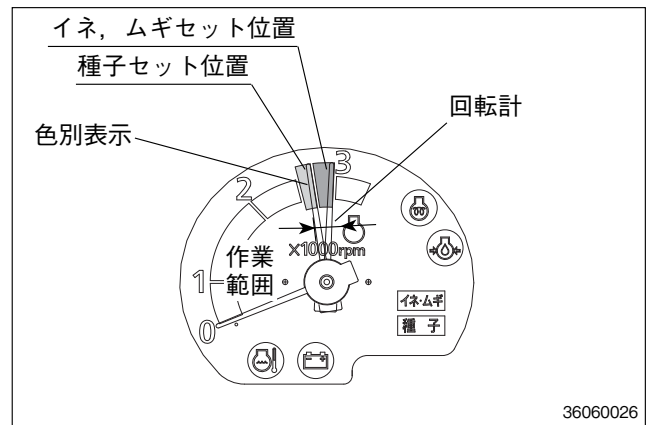
- ③ リフトシャットスイッチを作業に応じて《入》、または《切》にします。(取扱い方法は56ページ参照)



- ④ 刈取り条件に合わせ副変速レバーをセットします。(47ページ参照)

- ⑤ エンジン回転を調整します。

パワークラッチ (脱こく・刈取) スwitchを《刈取》位置に入れ、回転計の指針が「色別表示の上限」になるように、エンジンコントロールレバーで調整します。



取扱いのポイント

- 刈取り作業中は、「色別表示」の範囲内に常時指針があるように、主変速レバーとエンジンコントロールレバーで作業速度を調整してください。
 - 規定の回転より低いと、こぎ残しが多くなったり、脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。
- また、回転が高すぎると、こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。

し作
業
たの

作業のしかた

- パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《切》→《脱こく》としますと、脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速(手こぎ)回転となります。
- パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《刈取》にしますと、刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。走行停止状態では刈取搬送および脱こくフィードチェン搬送は停止します。

⑥ 最初は低速で発進し、刈取り条件に合わせ、主変速レバーで適正な速度を選びます。(作業速度の選びかた47ページ参照)

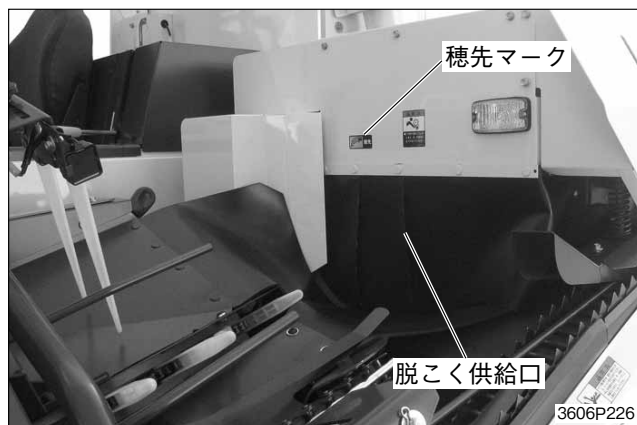
⑦ 方向修正は、マルチステアリングレバーまたはジャストディレクタを操作して行います。

[ディーラーオプション]

・方向自動制御を使用する場合は、「方向自動制御の取扱い」の項66～67ページを参照。

⑧ 適正こぎ深さの調整

作物が脱こく供給口に搬送され始めたら、作物の穂先が「穂先マーク」の位置になるように、こぎ深さ手動スイッチで調整します。



取扱いのポイント

- こぎ深さ自動制御は、「こぎ深さ自動制御の取扱い」の項65～66ページを参考にし、適正こぎ深さになるよう調整してください。

⑨ 作業中は、回転計の指針が、「色別表示の範囲内」に位置するように、主変速レバーで適正な速度に調整します。

刈取り作業中、エンジン回転が下がると、エンジン回転負荷ランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速レバーで走行速度を下げ、適正負荷レベルにして作業を行います。

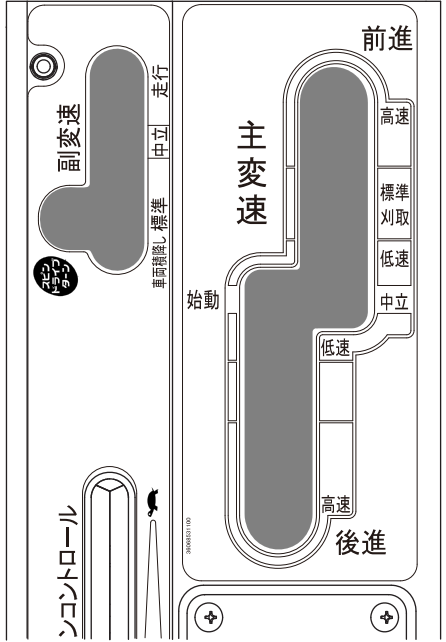
(18～19ページ参照)

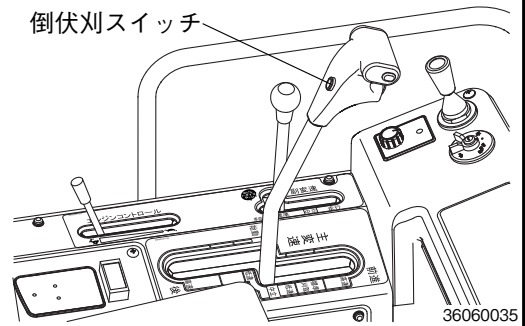
取扱いのポイント

- 規定の回転より低いと、こぎ残しが多くなったり、脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。また、回転が高すぎると、こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。
- エンジン回転負荷の警報ブザーは、警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を落としてエンジンの負荷を軽くすると、ブザーは鳴り止みます。


2. 作業速度の選びかた

- ・作物の状態など、作業内容に合わせて、副変速・主変速レバーの速度を選び、最適の状態で作業してください。


No.	使用条件 (作物の状態)	変速レバー位置				各レバー略図
		副変速	引起し変速	倒伏スイッチ	主変速	
①	1. 直立。 2. 半倒伏の場合。	標準	低速 標準	《切》	<p>「中立」位置から発進してください。</p> <p>「標準刈取」の範囲で刈取作業を行い、稈の搬送状態、およびエンジンの馬力の余裕に応じて順次速度を上げてください。</p>  <p>36060073</p>	
②	1. 倒伏追い刈りなどで穂先が極端に遅れている場合。または整然と搬送されない場合。	標準	標準	《切》 《入》		
③	1. 全倒伏の場合。 2. 周囲刈りで、低速作業をする場合。	標準	標準	《入》		
④	1. 脱粒しやすい品種を刈取る場合。 2. 倒伏向刈りなどで株抜けや、稈の浮き上がりが目立つ場合。 3. 根腐れや根付きが悪く、株抜けが発生する場合。	標準	低速	《切》		
⑤	1. 路上走行 2. 長距離の走行	走行	-	-		
⑥	1. 積込み, 積降ろし 2. あぜ越え	標準	-	-		<p>「中立」から低速, エンジン2000回転程度。</p>
⑦	1. 集中注油	中立	-	-		<p>「中立」から「標準刈取」</p>



36060035



35838521100



3606P227

し作
業
たの

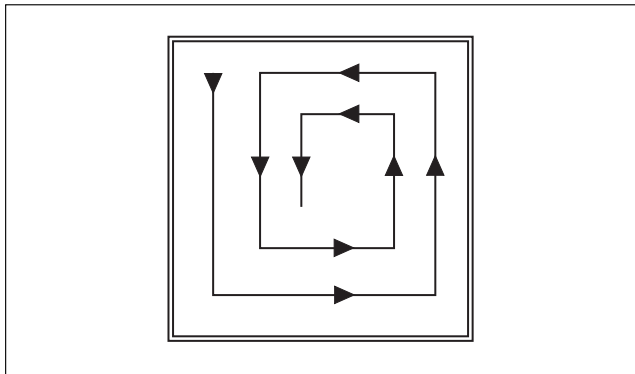
3. 刈取り手順

① 回り刈り（左回り）

・このコンバインでの刈取りは、「左回り刈り」が基本です。

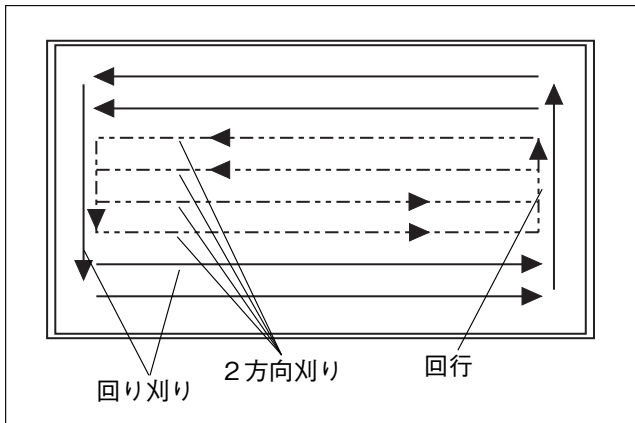
ほ場の形状・大きさにより、つぎのような刈取りをします。

(1) 正方形に近いほ場



(2) 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら、長い2方向のみ刈取ると能率的です。

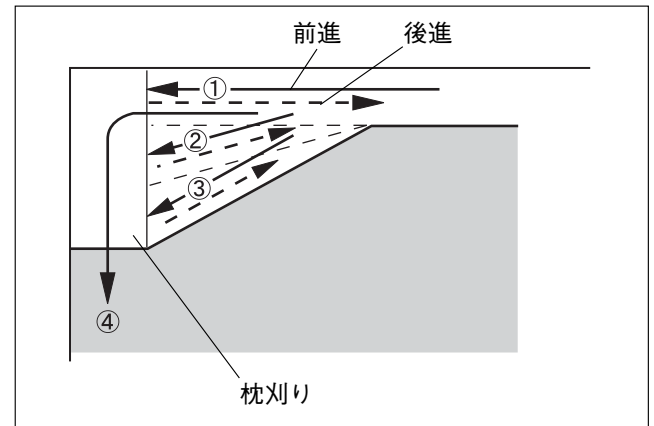


(3) あぜ際刈り

あぜの草などにより、デバイダが見つらい場合がありますので、右デバイダをあぜに当てたり、デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

(4) コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは、下図のようにします。

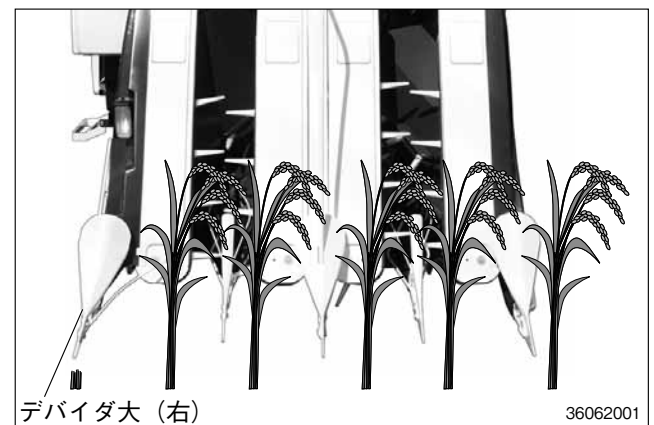


取扱いのポイント

- コーナー部の刈取り中に方向修正しないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ稈長が不揃いになりこぎ残しの原因になります。
- ②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。

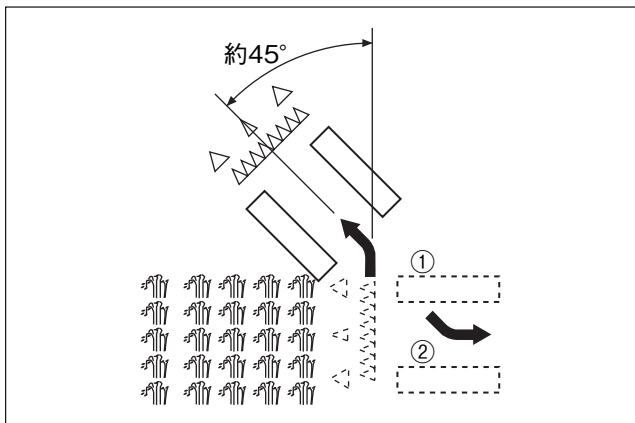
(5) 条合わせ刈り

・デバイダ大（右）を基準に「左回り」で刈残しのないように刈取りします。



(6) 旋回のしかた (左回り刈り)

- ・刈り終わったら、刈取部を40cm程度上げます。
 パワークラッチ (脱こく・刈取) スイッチを《切》にしないで、エンジン回転はそのまま、連続作業の状態です回旋します。(湿田では、大きく回旋します。)
- ・左に「約45°」向きを変えて停止します。
- ・後進しながら向きをかえ、次の刈取る方向に機械が真直ぐになるように「条合わせ」をします。

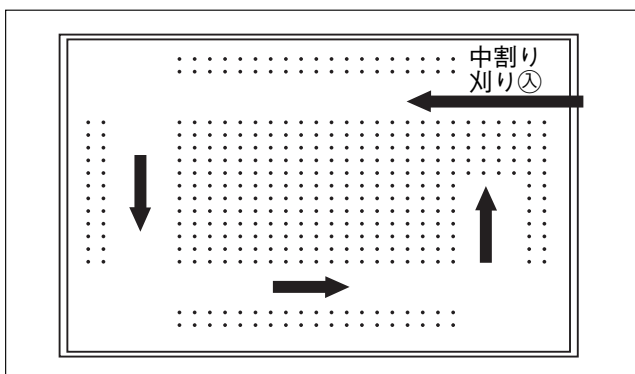


取扱いのポイント

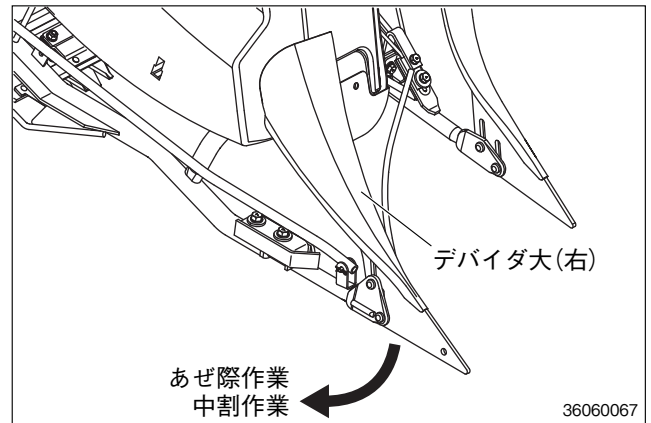
- 旋回するときには、エンジン回転を下げたり、パワークラッチ (脱こく・刈取) スイッチを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。

② 中割り刈り

- ・あぜなど刈りや、ほ場の状態により部分的に刈取りするとき、「中割り刈り」をします。
- ・中割り刈りは、《標準刈取》よりやや「低速」で行います。



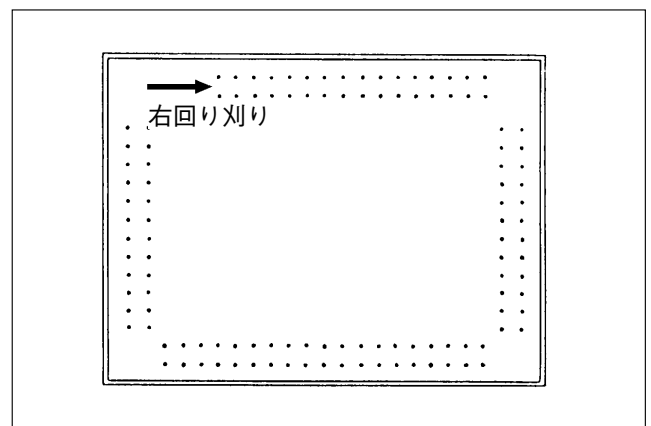
- (1) デバイダ大 (右) を、あぜ際作業、中割作業位置にセットします。



- (2) デバイダ大 (右) を、刈取りする株元の右側に合わせ、刈取ります。

③ 右回り刈り

- (1) 回りのあぜが高く、あぜ際まで植付けされているときは、あぜ際4条を残し「中割り・左回り」で刈取りをします。
- (2) 残した4条を最後に「右回り」で刈取ります。
- (3) あぜ際を「右回り刈り」するときは、「ナローガイド (左)」を収納し、「デバイダ (左)」をあぜに突込まないようにします。



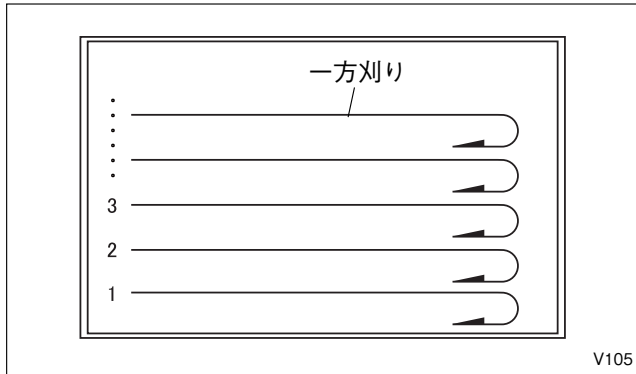
取扱いのポイント

- ほ場の状態によっては、最初にあぜ際を「右回り」で刈取り、次から正常な「左回り」で刈取りするのが良い場合もあります。

し作
か業
たの

④ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は、状態にあわせて「一方刈り」を行います。



(1) 刈取り方向

・倒伏した作物の刈取りは、下と右の図表を参考にして行います。

1. 倒伏、中倒伏の場合の副変速は《標準》で、倒伏刈スイッチは倒伏している場所でのみ《入》にして刈取作業を行ってください。

※中倒伏および倒伏共、主変速レバーは《標準刈取》の範囲で使用してください。搬送姿勢が安定した刈取作業ができます。

2. ②右倒伏刈りが困難なときは、「④左倒伏刈り・③追刈り」となるように「一方刈り」をします。

「方向自動を使用しないとき」

刈取り方向 \ 倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
	① 向い刈り	×	△	○
	② 右倒伏刈り	×	○	○
	③ 追刈り	△	○	○
	④ 左倒伏刈り	△	○	○

○刈取り可能
 ×刈取り不可能
 △走行速度を落として刈取り可能

「方向自動で刈取りするとき」

刈取り方向 \ 倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
	① 向い刈り	×	×	○
	② 右倒伏刈り	×	○	○
	③ 追刈り	×	○	○
	④ 左倒伏刈り	×	○	○

○刈取り可能
 ×刈取り不可能（倒伏刈取りできません）

(2) スーパーデバイダ（別売り）

スーパーデバイダは稲の倒伏方向が一定でないとき（右倒伏・向い倒伏刈りとなるとき）、倒伏材の引起し性能をさらにアップさせます。

取扱いのポイント

- 倒伏した作物を刈取るときは、引起し爪が最も下がった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。
- デバイダは全て同じ高さになるようにセットしないと刈残しの原因となります。
- デバイダ先端が土に突込まないようにしてください。土に突っ込むと株の引抜きが発生し、詰まりの原因となります。
- 倒伏した作物の、中割り刈りは避けてください。
- クローラで穂先を踏まないようにしてください。脱こく部の詰まりなどの原因になることがあります。
- 倒伏した作物を刈取る際、刈取部の速度を通常より速くしたいときは、倒伏刈スイッチを押し、ランプ点灯状態で作業をしてください。

4. こく粒の排出操作方法

⚠ 警告 傷害事故防止のために

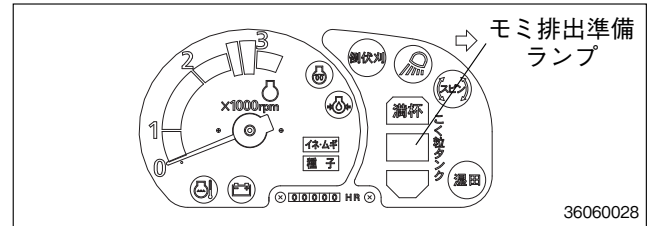
- ◆路上走行、あぜ越え、自動車への積込み・積降ろしをするときは、グレンタンク内のこく粒を排出してください。
- ◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。
- ◆こく粒の排出作業をするときは、駐車ブレーキをかけて行なってください。
- ◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は、排出範囲でこく粒排出スイッチ[X仕様]または、こく粒排出レバー[X仕様以外]を「切」にしエンジンを停止してください。
- ◆旋回範囲近くに障害物がある場合は、排出オーガ自動旋回スイッチを使用しないで、手動操作で排出オーガを操作してください。
- ◆水平自動スイッチを「切」にして、水平操作レバーで機体を一番下まで下げてから、排出作業をしてください。
- ◆排出オーガが収納位置にない場合、スタータスイッチを「入」にしてこく粒排出スイッチ[X仕様]を《入》にするとエンジンが回転していなくてもエンジンカバー部の防塵ファン(570型仕様を除く)が回転します。こく粒排出スイッチを操作するときはエンジンカバーを開けないでください。
- ◆作業終了後は、オーガ操作リモコンをリモコンホルダへ戻してください。

⚠ 注意

- ◆排出オーガの操作は運転席から、後方を見て周囲の安全を確認してから行ってください。
- ◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。
- ◆こく粒排出後の移動は、排出オーガを収納し、固定リングで固定してから行ってください。
- ◆排出オーガ排出口のビニールカバーは、人や物に接触したときに、相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは、直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。

① モミ排出準備ランプ

- ・モミ排出準備ランプが点灯すると、方向指示器全てが点滅し補助者にモミ排出準備を知らせます。



② グレンタンクのモミ警報

- ・グレンタンクにこく粒が充满すると、こく粒タンクランプ《満杯》の「点灯」と警報ブザーの「断続音」で知らせます。刈取り作業を中止し、こく粒の排出を行います。
- ・警報ブザーは、警報切ボタンを押すと止まります。

取扱いのポイント

- 警報ブザーが鳴ったあと、そのまま作業を続けると、警報ブザーの連続音が鳴り、自動的にエンジンが停止します。

③ モミ排出残量お知らせ機能

- ・こく粒排出中にグレンタンク内のこく粒の量が少なくなるとブザーでお知らせする機能です。排出終了のタイミングの目安とすることができます。

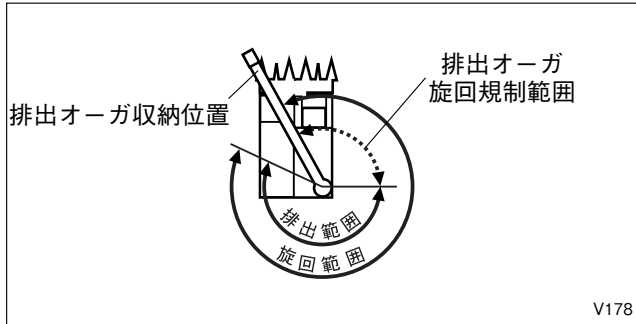
取扱いのポイント

- グレンタンク内のこく粒量が最初から少ない状態でこく粒排出を行った場合は、お知らせ機能は働きません。

作業のしかた

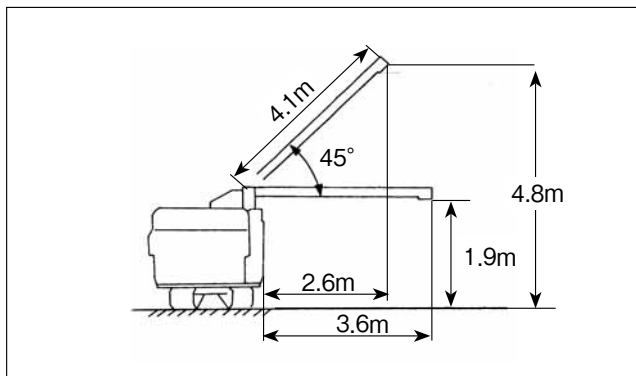
④ こく粒排出範囲（排出オーガ回転範囲）

こく粒排出位置まで移動し、平坦な場所を選び、主変速レバーを《中立》にし、駐車ブレーキをかけて機械を停止します。



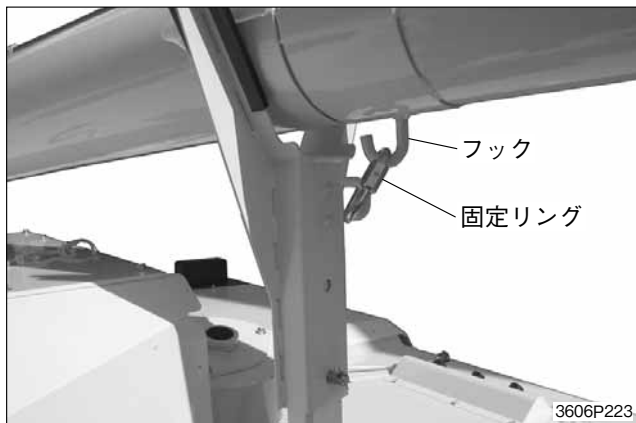
V178

「排出オーガ高さ」と距離



⑤ こく粒排出操作手順

① 排出オーガ固定用リングをフック部より外す。



3606P223

② こく粒排出オーガの先端部を排出位置にセットする。

位置セットする場合、「手動」と「自動」の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき



3606P215

「上げ」
(上限まで上げます。)

↓

「右旋回」

↓

「下げ」

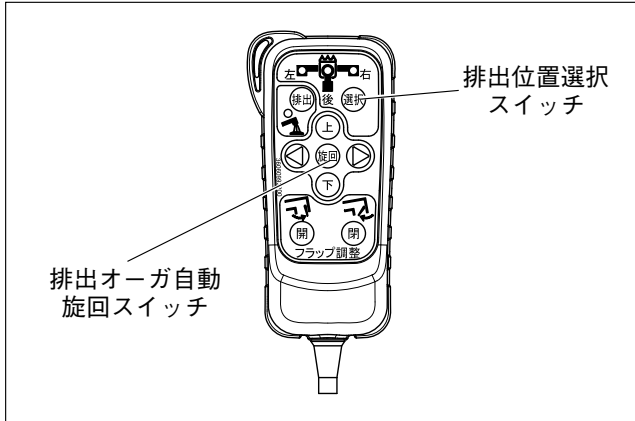
右旋回（緑色）スイッチを押す

下げスイッチを押す

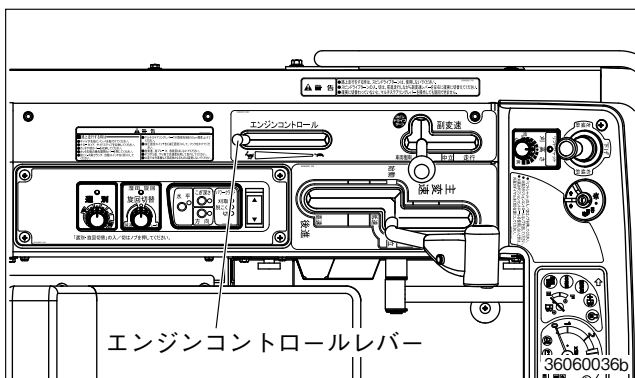
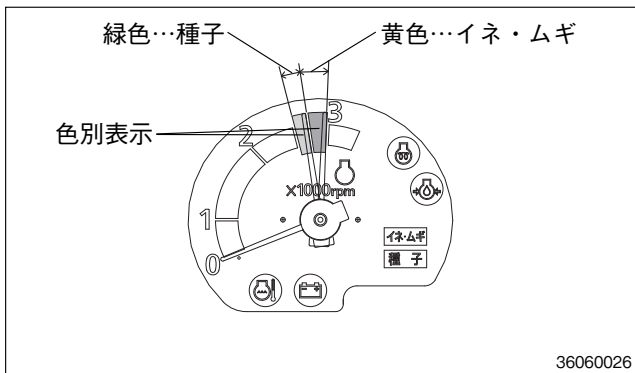
自動操作のとき [排出時]

- ・ 排出位置選択スイッチにて排出位置を設定する。
- ・ 排出オーガ自動回転スイッチを「押」す。
 ……………自動回転開始

→ 設定した位置で停止 → 手動で高さを合わせる

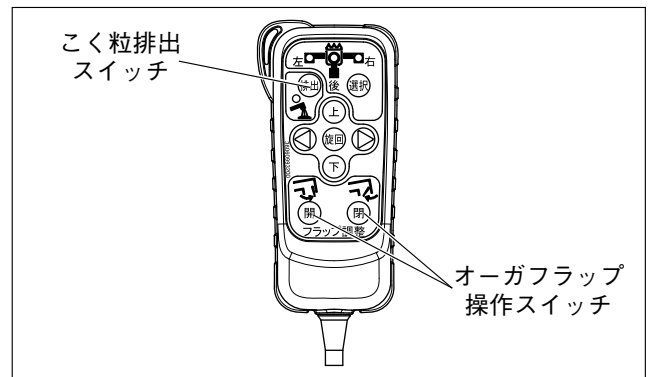


- ③ こく粒を排出する場合は、エンジン回転を回転計の「色別表示」に合わせて行ってください。



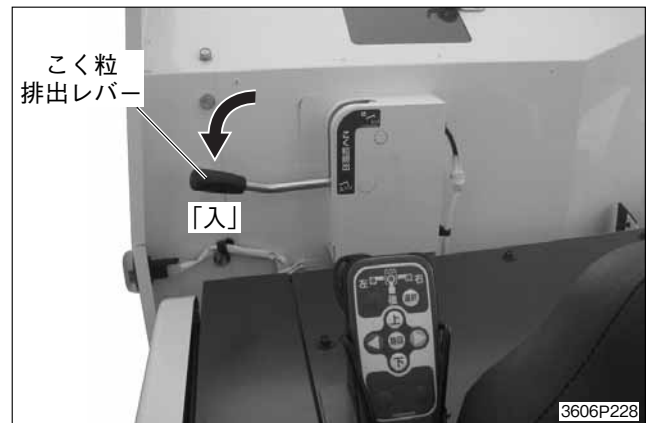
[X仕様]

- ④-1 こく粒排出スイッチを「入」にする。
 ……………こく粒排出開始
- ④-2 オーガフラップ操作スイッチ
 フラップを「開」「閉」操作し、こく粒排出位置を微調整・均一排出できます。



[X仕様を除く]

- ④-3 こく粒排出レバーを「入」にする。
 ……………こく粒排出開始

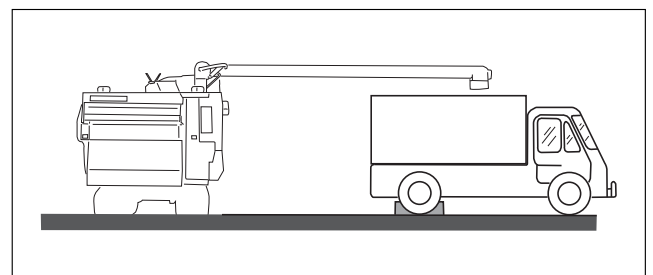


[X仕様]

- ⑤-1 こく粒排出スイッチを「切」にする。
 ……………こく粒排出終了

[X仕様以外]

- ⑤-2 こく粒排出レバーを「切」にする。
 ……………こく粒排出終了



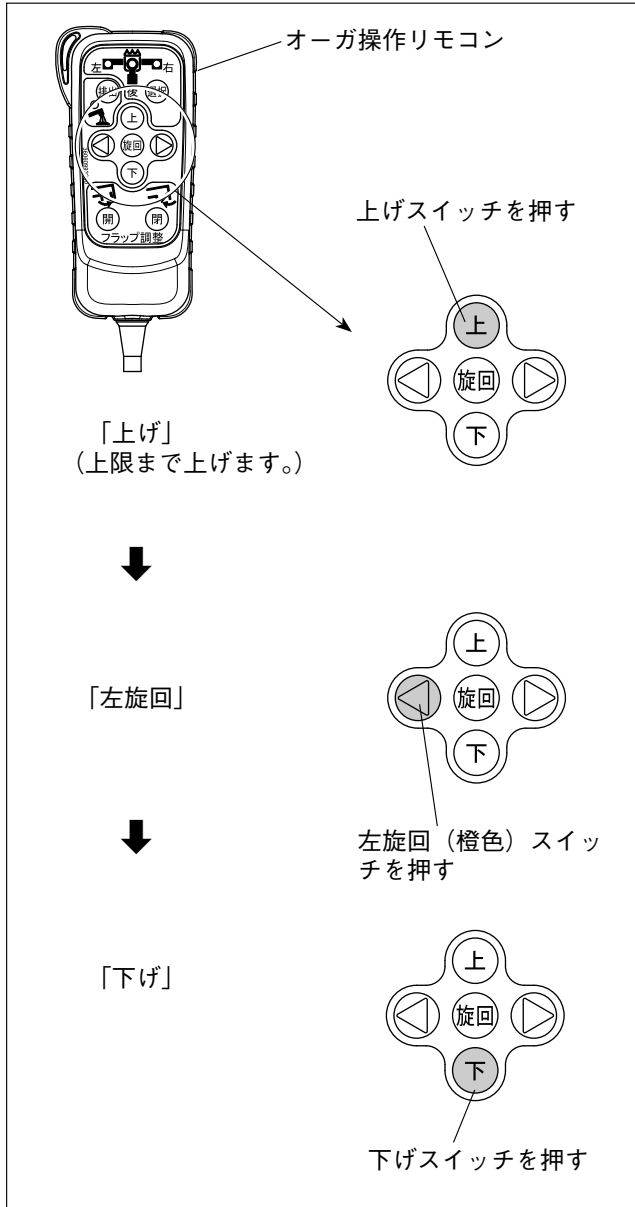
し作
か業
たの

作業のしかた

⑥ こく粒排出オーガを収納する。

収納する場合、「手動」「自動」の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき



自動操作のとき [収納時]

・排出オーガ自動旋回スイッチを「押す」す。

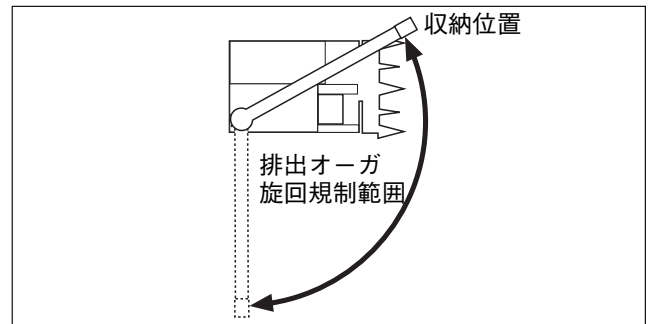
……………自動収納開始

→ 収納位置で停止 → 自動収納終了

⑦ 排出オーガ固定用リングをフック部にかける。

取扱いのポイント

- こく粒の排出は、排出オーガの先端部をこく粒で塞がないようにして、排出位置を変えながら行なってください。
- 排出位置の変更は、機械を止めた状態で、排出オーガを少しずつ回転させて行なってください。
- 機械が傾いた状態では、オーガの旋回が遅くなったり、旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）します。また、自動収納時、排出オーガ受けに納まらない場所がありますので旋回操作は平坦な場所で操作してください。
- 排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。
- 排出オーガ旋回規制範囲内では、排出オーガを最上げ状態にしなければ旋回できません。また、この範囲内では、排出オーガの下降はできません。



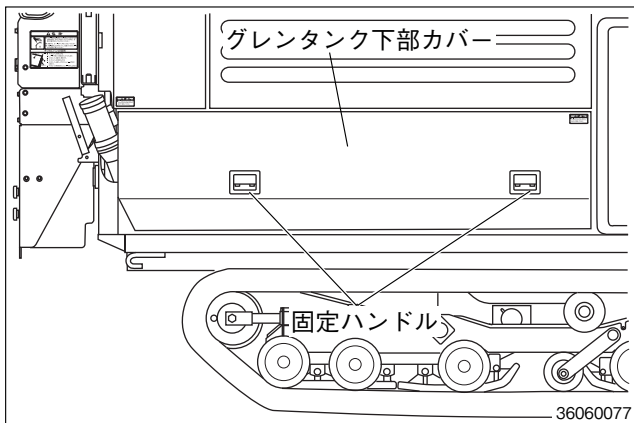
5. グレンタンク補助樋口の取扱い

故障などにより、グレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すと、その内側にあります。

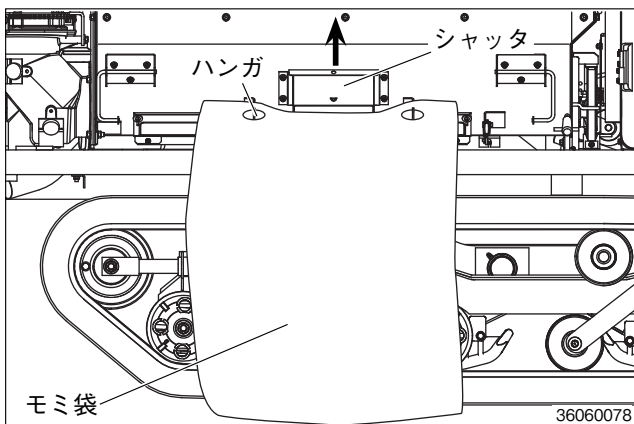
⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆補助樋口からこく粒を取出すときは、エンジンを停止してください。
- ◆作業が終わったら、取外したカバー類を全て取付けてください。

- ① グレンタンク下部カバーの固定ハンドルを引いて、カバーを外します。



- ② ハンガにモミ袋をかけます。
- ③ シャッタを引上げ、タンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



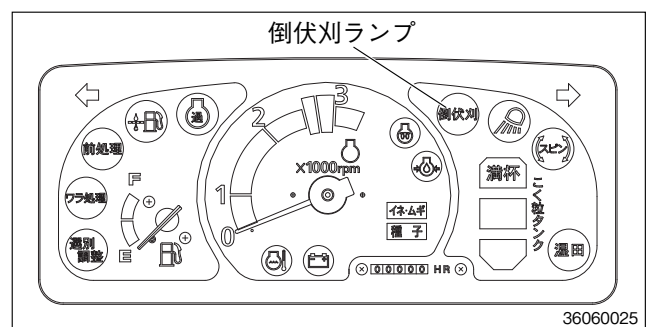
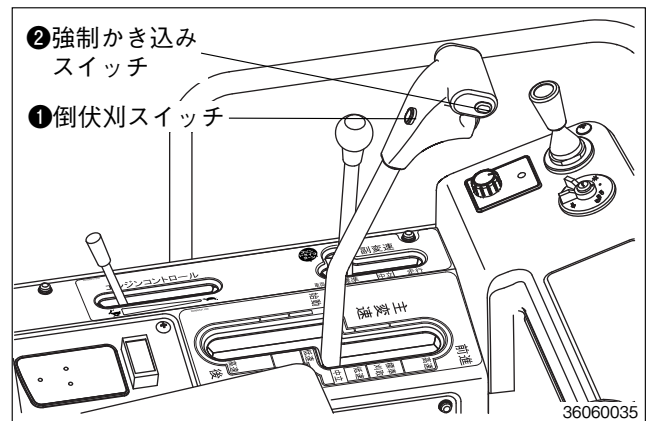
- ④ こく粒の取出しが終了したら、シャッタを閉め、グレンタンク下部カバーを取付けます。

6. ツインハーモニー

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆詰まりなどの異常が発生したときに、詰まったワラズなどを取除く場合や、搬送部の点検をする場合には、刈取搬送、脱こくフィードチェンが突然回転するおそれがあります。
パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にしてから平坦な場所でエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
- ◆強制かき込みスイッチの操作は、周囲の安全を確かめてから行なってください。

- ・刈取速度に応じて、刈取搬送、脱こくフィードチェンの搬送速度を同調制御します。
- ・手こぎ作業時および、強制かき込み作動中は刈取搬送、脱こくフィードチェンは一定速で回転します。



し作
か業
たの

① 倒伏刈スイッチ

「入」……押すと倒伏刈ランプが点灯し、刈取搬送、脱こくフィードチェンの搬送速度が通常より速くなります。

② 強制かき込みスイッチ

走行停止状態または後進時に押している間、刈取搬送、脱こくフィードチェンが作動します。

取扱いのポイント

- パワークラッチ (脱こく・刈取) スイッチを《切》→《脱こく》にすると、脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速 (手こぎ) 回転となります。
- パワークラッチ (脱こく・刈取) スイッチを《脱こく》→《刈取》にすると、刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。走行停止状態では刈取搬送および脱こくフィードチェン搬送は停止します。
- 刈取走行中は強制かき込みスイッチを操作しないでください。搬送部の詰まりなどの原因になることがあります。

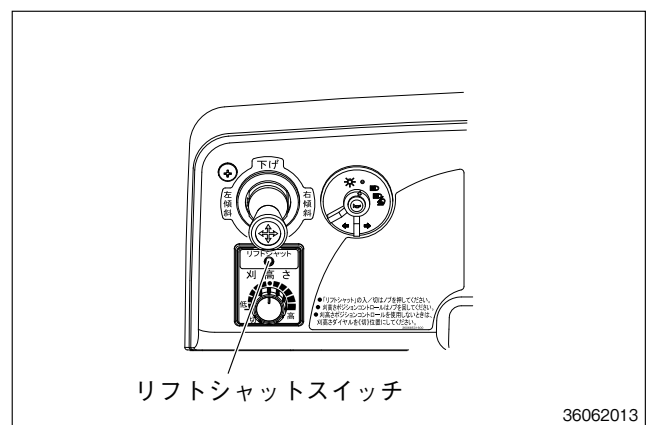
7. リフトシャットの取扱い

警告 傷害事故防止のために

- ◆ リフトシャットスイッチを《入》にしてパワークラッチ (脱こく・刈取) スイッチが入っていると、刈取部を下げたときに、刈取部、脱こくフィードチェンが回転します。刈取部、脱こく部に近づかないでください。
- ◆ リフトシャットが作動し、刈取部、脱こくフィードチェンが停止していても、強制かき込みスイッチを押せば、刈取部、脱こくフィードチェンが回転します。強制かき込みスイッチを押すときは、周囲に人がいない事を確認してください。

リフトシャットとは、リフトシャットスイッチを《入》にして刈取部を上げると、脱こく・刈取クラッチが入った状態で自動的に刈取り搬送、脱こくフィードチェンが停止する機構です。刈取部を下げると自動的に回り始めます。

- ・リフトシャットスイッチを《切》にすると、リフトシャットは機能せず、刈取部の上下位置に関係なく、刈取部・脱こく部は回転します。



次の場合は、リフトシャット《切》位置で使用します。

- ・手刈りのしてないほ場の回り刈り作業
- ・あぜ越え直後からの刈取り作業
- ・あぜ際などを高刈りする場合
- ・湿田などで刈取部を上げた状態で作業する場合

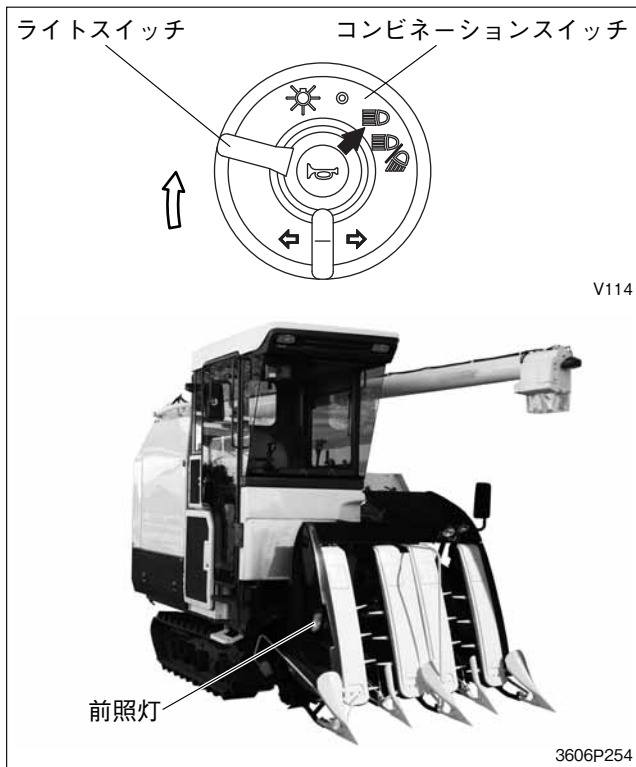
8. 夜間作業

⚠ 警告 傷害事故防止のために

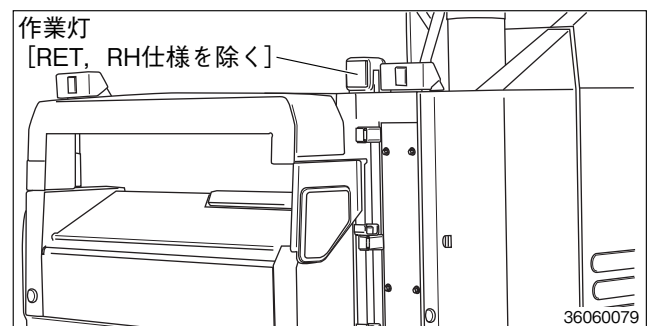
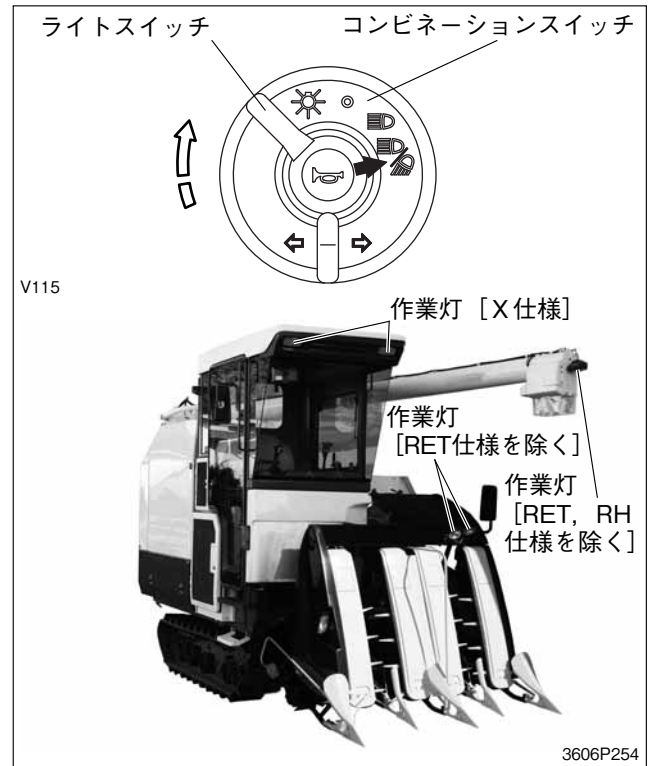
- ◆夜間作業をするときは、前照灯、作業灯を点灯してください。
- ◆作業灯電源を他の電源に使用しないでください。
- ◆路上走行するときは、作業灯を消灯してください。

コンビネーションスイッチのライトスイッチと各作業灯スイッチの操作で、前照灯と作業灯を点灯または消灯します。

① ライトスイッチを1段回すと前照灯が点灯します。



② ライトスイッチを2段回すと、前照灯および全ての作業灯が点灯します。



し作
か業
たの

9. エンジン自動停止の取扱い

⚠ 警告 傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生しエンジンが自動停止した場合は、スタータスイッチを《切》位置にしてから、詰まりを取除いてください。

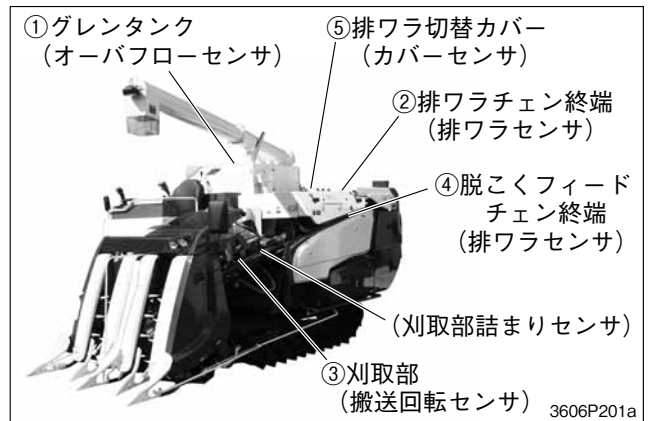
◆脱こくフィードチェンの詰まりの掃除・点検作業は、こぎ胴部を持ち上げ、「カチッ」という音を確認して（こぎ胴部は自動ロックされます）、ゆっくり手を離してから行なってください。

◆排ワラチェン詰まりやカッタ詰まりの掃除・点検作業は、こぎ胴部やカッタをオープンしてストッパをかけてから行なってください。（118～119, 123ページ参照）

◆詰まりを取除いて、回転確認を行う前に、全てのカバーを取付け、こぎ胴部を閉めて、機械の周囲に人がいないことを確認してから、低速で回転確認を行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まりなど）が発生したときは、機械の破損や変形を未然に防ぐため、次の箇所のセンサが作動して、警報ブザーが鳴り、ワラ処理ランプ、前処理ランプ、またはこく粒タンクランプが点灯あるいは、倒伏ランプが点滅してエンジンが自動停止します。

No.	センサ設置部	停止条件	センサ名
①	グレンタンク [RET, RH仕様を除く]	オーバーフロー	オーバーフローセンサ
②	排ワラチェン 終端	詰まり	排ワラセンサ (排ワラチェン)
③	刈取部	詰まり	搬送回転センサ 刈取部詰まりセンサ
④	脱こくフィー ドチェン終端	詰まり	排ワラセンサ (脱こくフィードチェン)
⑤	排ワラ切替 カバー	オープン	カバーセンサ



- ① エンジンが停止したら、スタータスイッチを《切》位置にして、詰まりやオーバーフローを取除きます。
- ② 詰まりを取除き、副変速レバーを《中立》にし、エンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《>>》(低速)にし、パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《刈取》位置にして、主変速レバーを《低速》に操作し、搬送部が正常に作動することを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

- こぎ胴部を閉じるときは、脱こくフィードチェン、排ワラチェン部のワラを取除いてから行なってください。
- 停止時のパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチの位置により再始動時にスタータスイッチ《入》で2～3秒の準備時間がかかることがあります。ブザー音でお知らせしますが、異常ではありません。

10. 手こぎ作業

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆手こぎ作業は、機械を停止し駐車ブレーキをかけて行なってください。
- ◆手こぎ作業は、手や衣服を脱こく供給口に入れたり、脱こくフィードチェーンに触れたりしないでください。
- ◆手こぎ作業をするときは、手袋を使用しないでください。
- ◆機械を走行しながらの手こぎ作業は、しないでください。機械の走行を停止して行なってください。
- ◆手こぎ作業をするときは、機械をワラズスの近くに止めないでください。(火災予防)
- ◆手こぎ作業は、パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《脱こく》にし、刈取部の作動停止を確認してから行なってください。
- ◆パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチは、周囲の人に合図してから操作してください。
- ◆カッタの切ワラが溜まったら作業を中断し、機械を移動するか、パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《切》にし、エンジンを停止してから、切ワラを取除いてください。

- ① 主変速レバーを《中立》および副変速レバーを《中立》にし、走行を停止します。
- ② パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《切》にします。
- ③ 水平自動スイッチを「切」にし、水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。
- ④ 刈取部をいっばいに「下げ」ます。
- ⑤ 防じんカバーを上方に開きます。[ディーラーオプション]

- ⑥ パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《脱こく》にして、エンジン回転を回転計の「色別表示の上限」(刈取る作物の回転数上限)にセットします。
- ⑦ 作物の穂先を穂先マーク位置に合わせ、手こぎ作業をします。



- ⑧ 手こぎ作業が終わったら、パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《切》にして、防じんカバーを元の位置に戻し、こぎ深さ搬送体をこぎ深さ手動スイッチで適正位置に調整します。

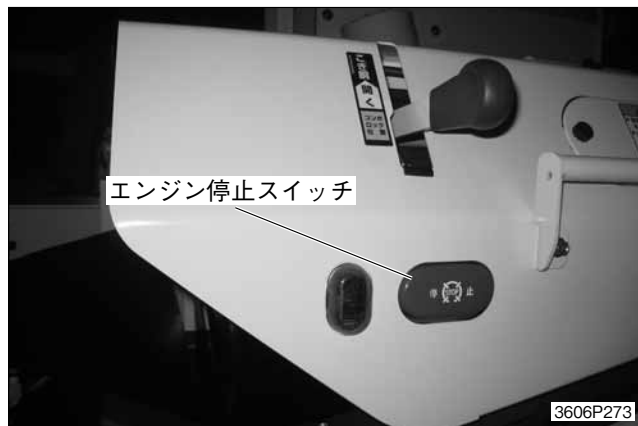
取扱いのポイント

- バラこぎで平均に供給します。結束した作物は供給しないでください。
- パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《脱こく》にしますと、脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェーン搬送が一定速(手こぎ)回転となります。
- パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《刈取》にしますと、刈取搬送と脱こくフィードチェーン搬送が車速に同調した回転速度となりますが走行停止状態では刈取および脱こくフィードチェーン搬送は回転しません。手こぎ作業では、パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《脱こく》で使用してください。

し作
か業
たの

11. エンジン停止スイッチの取扱い

このスイッチを押すと、エンジンが停止します。手こぎ作業中などに万一トラブルが発生したときは、このエンジン停止スイッチを押して、エンジンを停止します。



取扱いのポイント


- エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは、スタータスイッチを《切》にしてください。そのまま放置するとバッテリーが放電します。
- エンジン停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。

12. 刈取り作業終了後の取扱い

⚠警告 火災防止のために

- ◆ 機械をワラクズの溜まった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。
- ◆ シートカバーをかけるときは、エンジンが冷えてから行なってください。
- ◆ エンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリー周囲のワラクズなどを掃除してください。



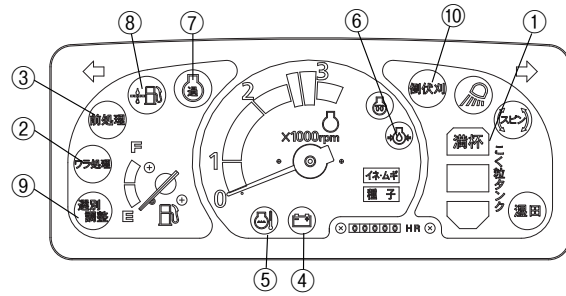
- ① 平坦な場所で主変速レバーを《中立》の位置にします。
- ② パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にします。
- ③ 駐車ブレーキをかけます。
- ④ エンジンコントロールレバーを《》(低速)の位置に戻してしばらく空運転をし、エンジン温度を下げてから、副変速レバーを《標準》に入れて停止します。
- ⑤ 作業後の手入れ
 - ・ 機械をきれいに洗車し、各回転部・摺動部に注油をします。

取扱いのポイント

- パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチは、脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで、《脱こく》にし、空運転してから《切》にします。
- 水洗いするときは、エンジン回り、電気配線部、マイコン装着部、運転パネル部および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。

13. 警報装置について

つぎの箇所に異常が発生した場合は、警報点灯、警報ブザー、エンジン停止などで警告します。
異常箇所を確認して、つぎの処置を行います。



No.	名称	現象	警告の方法			解除方法	点検と処置	参照ページ
			警報ランプ	ブザー	エンジン			
①	モミ処理	満杯	点灯	断続音の断続	-	警報切ボタン「押す」またはパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《切》	こく粒が満杯になっていますので、こく粒を排出します。	51~54
		モミオーバーフロー	点滅	断続音の連続	停止	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《切》		
②	ワラ処理	脱こくフィードチェン詰まり	点灯	連続	停止	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《切》	脱こくフィードチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	10 118~121 124
		排ワラ詰まり					排ワラチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	
		排ワラカバーオープン	排ワラ切替カバーを閉め、作業状態（カットまたはドロップ）とします。					
		ノッタひも切れ	点滅				-	ひもが切れているか、ひもがなくなっていますので点検します。
③	前処理	こぎ深さ搬送終端部の詰まり	点灯	連続	停止	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《切》	こぎ深さ搬送部にワラが詰まっていますので取除きます。	10
		刈取搬送部の詰まり		断続	-	スタータスイッチ《切》	刈取搬送部の詰まりを取除きます。	
		こぎ深さ位置の異常	-	-	スタータスイッチ《切》	こぎ深さセンサにワラが溜まっている場合はワラを取除き、適正こぎ深さとなるよう調整します。	66	
④	充電	充電不足	点灯	-	-	スタータスイッチ《切》	・スタータスイッチ《入》で点灯し、エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯はバッテリーへ充電されていませんので、エンジンを止め、ファンベルトなどを点検します。	111~117
⑤	水温	オーバーヒート	点灯	連続「低速運転」中は断続	-	水温が下がるまでエンジン「低速運転」	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し、エンジンを低速運転し、温度を下げます。 ・エンジンを停止し、ラジエータ吸気部、ファンベルトの張り、冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	7 91~92 102~103 160
⑥	オイル	エンジンオイル量不足	点灯	-	-	スタータスイッチ《切》	・スタータスイッチ《入》で点灯し、エンジン始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は、エンジンオイル量を点検して補給します。	7 89~90
⑦	エンジン回転負荷モニタ	エンジン回転が下がる	点滅	断続	-	走行速度を下げる	・作業速度を下げてエンジンの過負荷をなくします。 ・送じんガイドの調整がよいか確認します。 ・ワラ切りカマが損耗していないか確認します。	9 18 45~46 146~147
⑧	燃料フィルタ [570型仕様を除く]	燃料フィルタ内に水が溜まる	点灯	連続	-	スタータスイッチ《切》	ドレンコックを開き、中に溜まった水を抜きます。	104~105
⑨	選別調整	選別部の過負荷	点滅	-	-	-	作業速度を下げるか、選別ダイヤルを「開」側に回します。	10 70~71
⑩	倒伏刈	刈取部詰まり	点滅	断続	停止	-	刈取搬送部の詰まりを取除きます。	9
		搬送HST異常					異常を取除きます。	

その他ランプあるいは自動スイッチランプが点滅するときには「お買いあげ先」で点検を受けてください。

し
作
業
の
し
か
た
の

3. ワラ処理部の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

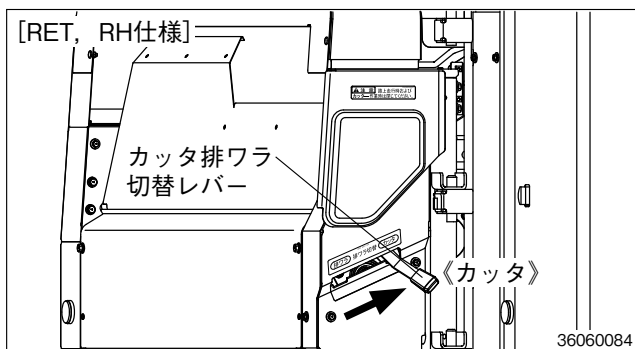
- ◆回転部にワラなどの巻付きが発生し、または異物が混入したときは、エンジンを停止して各部の回転が止まってから、カッタをオープンし、ストッパをかけて、ワラなどを取除いてください。
- ◆巻付きなどを取除くときは、カマなどを使用し、手ではカッタ刃に触れないでください。

取扱いのポイント

- カッタ・排ワラ切替レバー操作は、搬送経路のワラを完全に排出してから行います。
- 脱こく作業中の切替え操作は、しないでください。詰まりの原因となります。
- こぎ胴部を開いた状態でカッタ排ワラ切替レバーの切替えは行わないでください。

1. カッタ作業

- ① カッタ排ワラ切替レバーを《カッタ》位置にします。



- ② カッタサイドカバーを取外し、カッタの切ワラ切断長さをセットします。[RET, RH仕様を除く]

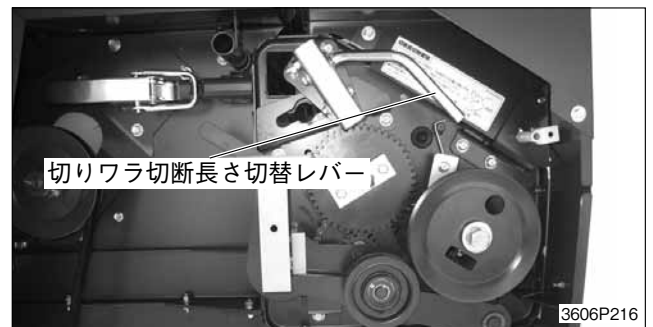
- ・出荷時は切ワラ切断長さのセット位置は《短切り》位置にしております。
- ・《長切り》位置に切替える場合は、切ワラ切断長さ切替レバーを《長切り》位置にセットします。
- ・切断長さ切替レバーはロックレバーを手前に引いた後、回動します。

《短切り》……切断長さ約60(40)mm

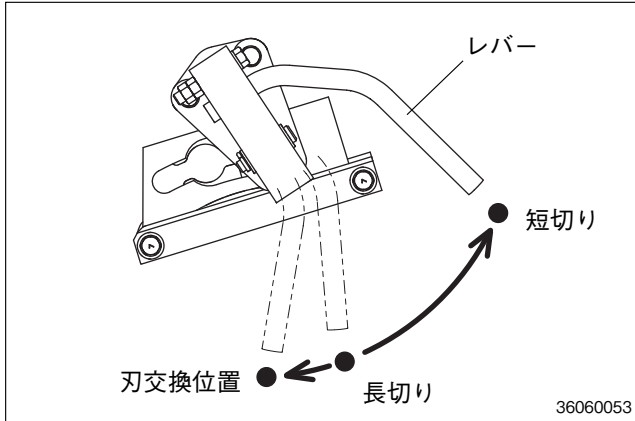
《長切り》……切断長さ約180(160)mm

(()) 寸法は [スーパーマルチカッタ仕様] の切断長さを示します。

切替後はカッタサイドカバーを取付けます。



- (1) レバーを手前に引いて「長切り」、または「短切り」の位置に回転します。
 - (2) 回転後はレバーを押戻し、確実にロックしてください。
- 刃交換位置では作業できません。



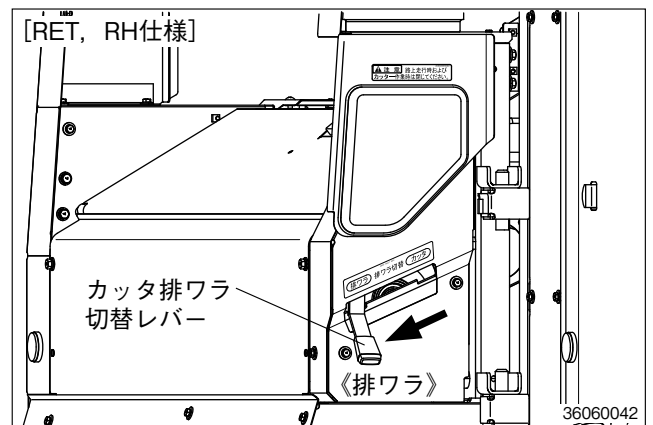
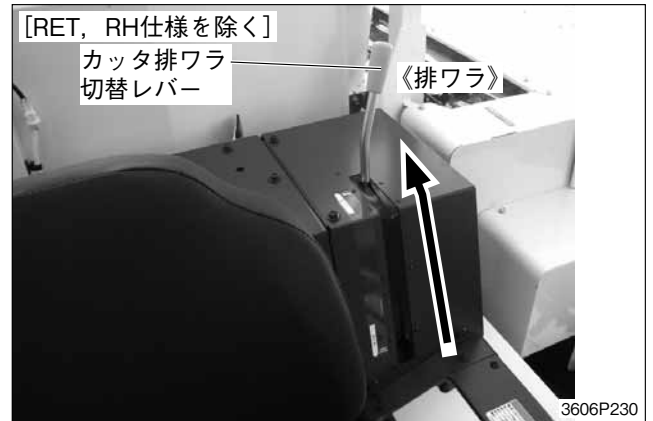
取扱いのポイント

- 刃の切れ味が低下すると、巻付きが発生しやすくなりますので、刃の交換を行なってください。
- 倒伏した作物の刈取り作業を行う場合、ワラがカッタの回転軸に巻付くことがあります。巻付いたまま長時間作業しますと、巻付き防止パイプが変形するおそれがありますので、50a作業ごとにエンジンを停止してカッタ内を点検し、巻付いている場合は巻付きを除去してください。
- カッタの点検、掃除はカッターをオープンし、ストッパをかけてから行います。(オープンのしかたは、123ページ参照)

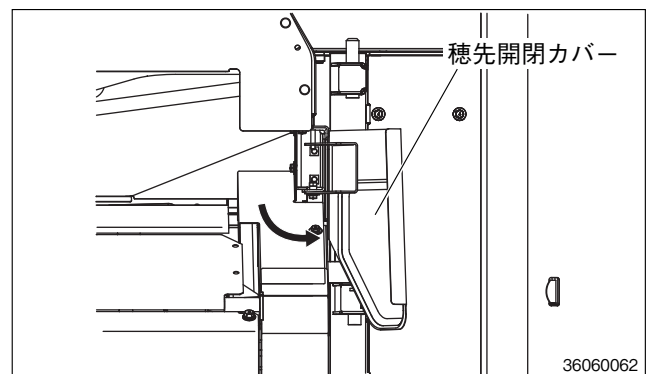
2. 排ワラ作業

排ワラ作業には、①脱こくされたワラをそのまま排出する作業、②ドロップ作業、③ノッタ作業があります。

- ① カッタ排ワラ切替レバーを《排ワラ》位置で使用します。



- ② 穂先開閉カバーを開きます。



取扱いのポイント

- ノッタおよびドロップは別売りです。取扱いについては、それぞれの「取扱説明書」をお読みください。

し
作
業
の
た
の

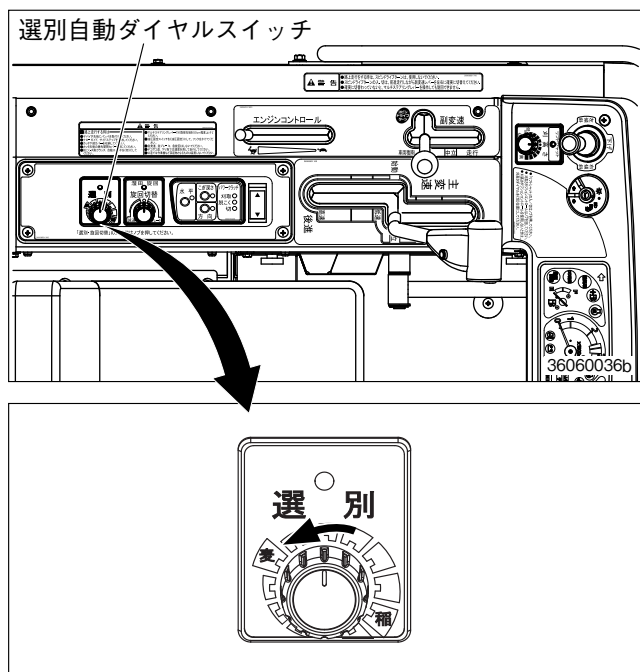
4. 麦刈り作業時の調整のしかた

工場から出荷のときは、「稲作業セット」にしています。

麦刈り作業をするときは、次の個所を「麦作業セット」に切替え調整します。

1. 選別ダイヤルの調節

麦刈り作業をするときは、ダイヤルを《麦》位置にセットします。なお作業条件により、次のように使いわけてください。



・選別ダイヤルのセット方法は、「選別自動制御の取扱い」の項70～71ページを参照。

取扱いのポイント

- 選別ダイヤルの操作は、脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで脱こく部を空運転し、ワラクズなどが排出された後に行なってください。
- 脱こく内部にワラクズなどが溜まっていると、選別自動が作動しない場合があります。
- 選別自動スイッチ「切」(ランプ消灯) 状態で作業するときも、選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。

- 選別自動スイッチ「入」(ランプ点灯) 状態で作業すると、刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。
- 選別自動スイッチ「切」(ランプ消灯) 状態でも作業に支障はありませんが、良好な選別状態を得られない場合があります。
- スタータスイッチを《入》にして、ランプが点灯しないときは、作業を中止しエンジンを停止して、ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。

2. こぎ胴回転数のセット

こぎ胴回転は、回転計で作業範囲確認しながら主変速レバーとエンジンコントロールレバーで調整します。(8～9, 18ページ参照)

3. 引起し変速のセット

引起し変速は低速にします。

5. 刈刃の高さ調節のしかた

- ・出荷のときは、「下セット」になっています。うね栽培の麦刈りの場合および刈刃が土をかむことが多い刈取り時は、刈刃のカラーを入れ替えて「上セット」にします。
- ・セット方法は、148～149ページを参照します。

自動装置について

1. こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は、刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して、適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に、手動スイッチで手動操作すると、手動が優先となります。

1. 運転装置

こぎ深さ調整は、「自動制御」と「手動」の二通りの操作が可能です。

- ・自動制御中は、手動スイッチによる調整の必要はありません。

ただし、倒伏角45°以上の倒伏材、および雑草の多い材料で極端に作物の長さが変動するときは、自動制御を解除して、こぎ深さ調整をこぎ深さ手動スイッチで行います。

① こぎ深さ自動スイッチ

スタートスイッチを《入》位置にすると、ランプが点灯し、こぎ深さ自動が作動状態になります。

- ・「切」…………ランプが点灯しているときに、こぎ深さ自動スイッチを押すと、ランプが消灯し、こぎ深さ自動は作動しません。

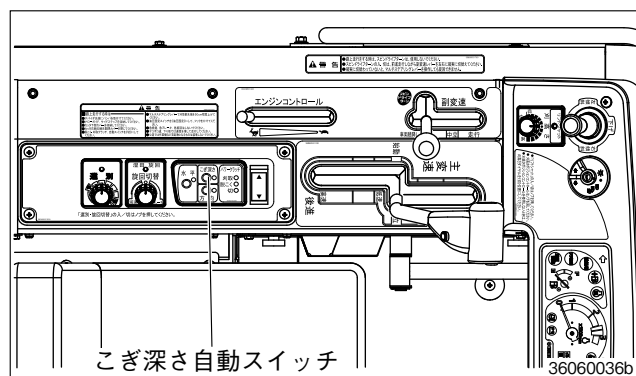


こぎ深さ
ランプ消灯

- ・「入」…………再度、こぎ深さ自動スイッチを押すと、ランプが点灯し、こぎ深さ自動が作動状態となります。

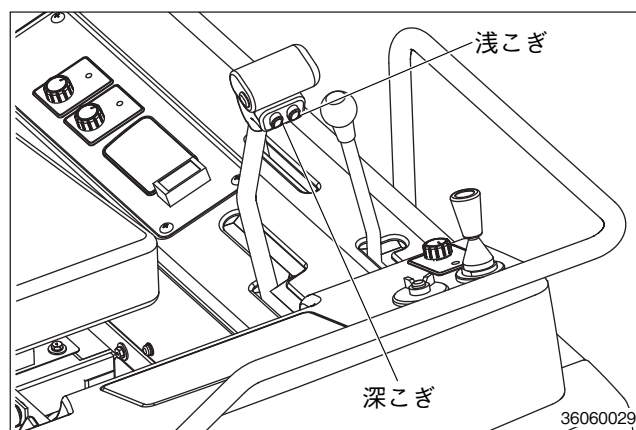


こぎ深さ
ランプ点灯



② こぎ深さ手動スイッチ

脱こく供給口の「穂先マーク」位置に作物の穂先がくるように、こぎ深さ手動スイッチで調整します。



《深こぎ》…………《深こぎ》側を押すと、作物の穂先が深い位置に移動します。

《浅こぎ》…………《浅こぎ》側を押すと、作物の穂先が浅い位置に移動します。

取扱いのポイント

- 自動制御が故障のときは、こぎ深さ手動スイッチによって、手動で操作してください。

自動装置について

③ ヒューズ

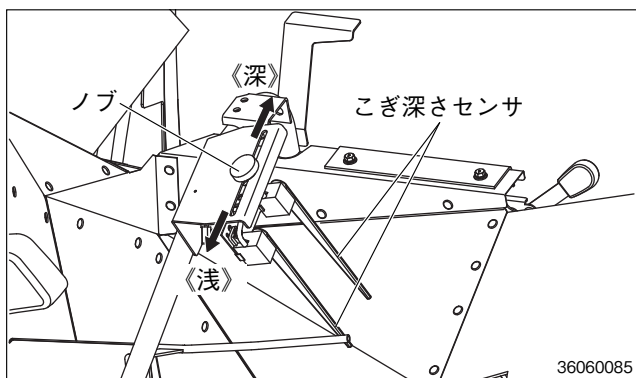
取扱い方は、108～110ページを参照します。

取扱いのポイント

- こぎ深さ自動ランプが点灯してもこぎ深さ自動が作動しないときは、エンジンを停止して、ヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。

2. こぎ深さセンサの調整

こぎ深さセンサは、工場からの出荷のとき、「標準」(合わせマークの中央)の位置に調整してあります。



- ・ 次のようなときは、ノブをゆるめセット位置を調整します。

こぎ深さを「深く」したいときは、センサケースを《深》方向へ移動します。

こぎ深さを「浅く」したいときは、《浅》方向へ移動します。

- ・ 調整後は、ノブを確実に締めます。

3. こぎ深さ自動制御が使えない条件

- ・ 次の状態では、こぎ深さ自動スイッチを「切」(ランプ消灯)にし、手動スイッチでこぎ深さを調整します。

- 倒伏角45°以上の倒伏作物
- 腐れ状態の作物
- 雑草が多いとき
- 作物の長さが極端に変動するとき

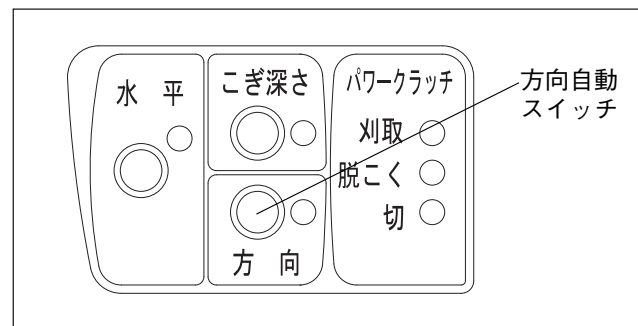
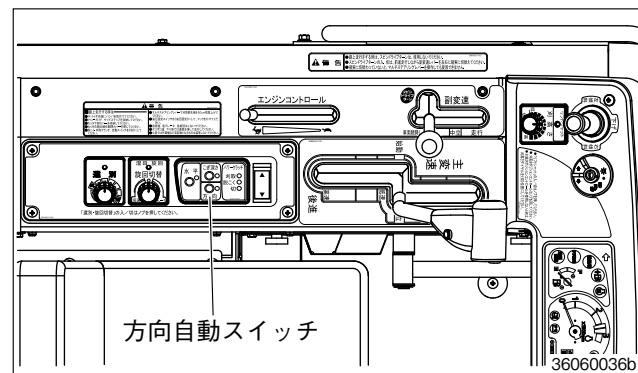
2. 方向自動制御[ディーラーオプション]

方向自動は、刈取部に取り付けた方向センサで条の曲がりを感じ、条列に沿って自動操行します。また、マルチステアリングレバーを操作すると、一旦、方向自動制御は「解除」され、手動操作優先となります。

⚠ 警告

- ◆ 路上走行、あぜ越え、自動車への積込み・積降ろしするときは方向自動スイッチを「切」にしてください。

1. 運転装置



方向自動スイッチ

- ・ 「入」………押すとランプが点灯し、方向自動ランプ点灯
スイッチが「入」の状態であることを表示します。



- ・ 「切」………「入」の状態から、再び押すとランプが消え、方向自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

- 方向自動スイッチ内ランプが点灯しても、方向自動が作動しないときは、エンジンを停止して、ヒューズの点検、配線の接続部の外れがないか点検してください。

2. 自動での作業のしかた

- ① スイッチの操作・条合わせのしかた
- ② 方向自動スイッチを「入」(ランプ点灯)にします。
- ③ 機械が条列に真直ぐになるようにマルチステアリングレバーの操作で条合わせをします。

	方向自動スイッチ	条合わせのしかた
条刈り	スイッチのランプを「点灯」にする	<p>刈株</p> <p>左デバイダを条間に合わせる</p>

① 刈取り作業中の手動操作

方向自動制御中でも、マルチステアリングレバー、ジャストディレクタを手動操作すると、「手動優先」で進路を変えることができます。

② 旋回時の操作

旋回するときは、マルチステアリングレバーで手動操作します。

このときに、方向自動スイッチを「切」にする必要はありません。

取扱いのポイント

- 条合わせは、機械が条列に真直ぐになるようにしてください。斜めになったときは、条外れすることがあります。

3. 方向自動制御の使えない条件

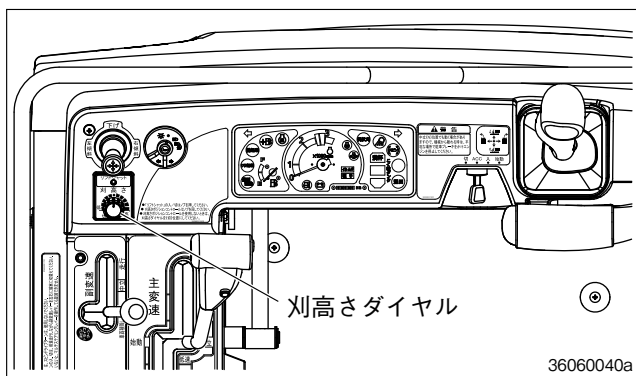
次の条件では、方向自動スイッチを「切」にして、マルチステアリングレバーで手動操作します。

- ・ 横刈り
- ・ 中割り
- ・ 斜め刈り
- ・ あぜ際刈り
- ・ 雑草が多いとき
- ・ バラまきほ場
- ・ 湿田
- ・ 条間および株間が極度に乱れているとき
- ・ 稈量が少ないとき
- ・ 欠株が多いとき
- ・ 植付条間が25cm未満の場合
- ・ 植付条間が33cm以上
- ・ 植付株間20cm以上の場合
- ・ 倒伏材は、「④倒伏作物の刈取り」項(50ページ)を参照

3. 刈高さポジションコントロール

刈高さダイヤルにより、シートに座ったまま手元操作で、刈取部の下限高さを設定することができます。

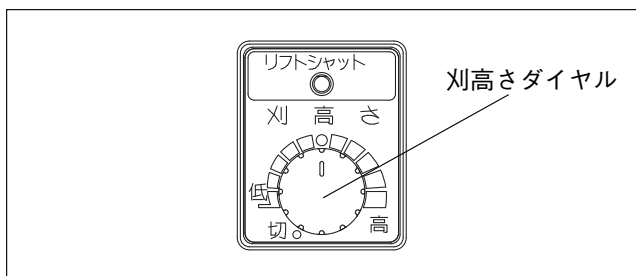
1. 運転装置



① 刈高さダイヤル

刈高さダイヤルを《切》位置以外にすると刈高さポジションの設定ができます。

刈高さの調節は、刈高さダイヤルの操作によって、お望みの「刈高さポジション」を設定することができます。



・刈高さダイヤルは通常、《●》位置で使用します。

② ヒューズ

取扱いは、108～110ページを参照します。

取扱いのポイント

- 刈高さポジションコントロールを使用しないときは、ダイヤルを《切》位置で使用します。
- ほ場の凹凸が多い場合には、マルチステアリングレバーで手動操作してください。
- 刈高さダイヤルをどの位置にセットしても、刈高さポジションが設定できないときは、エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。

2. 自動での作業のしかた

刈高さダイヤル《切》位置の状態とパーククラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《切》位置状態ではこの機能は働きません。

① 乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件に合わせて、低く刈取るときは《低》の方向に、高く刈取るときは《高》の方向にダイヤルをセットします。

- (1) 刈高さダイヤルを標準《●》位置にセットします。
- (2) パーククラッチ(脱こく・刈取)スイッチ《刈取》でマルチステアリングレバーを《下げ》に操作して刈取部を下げます。刈取部が停止した位置が刈高さポジションの設定位置です。

② 刈高さが高すぎる場合

- (1) 刈高さダイヤルを少し《低》側へ回します。
- (2) 刈取部が下がり、停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

③ 刈高さが高すぎる場合

- (1) 刈高さダイヤルを少し《高》側へ回します。
- (2) 刈取部が上がり、停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

取扱いのポイント

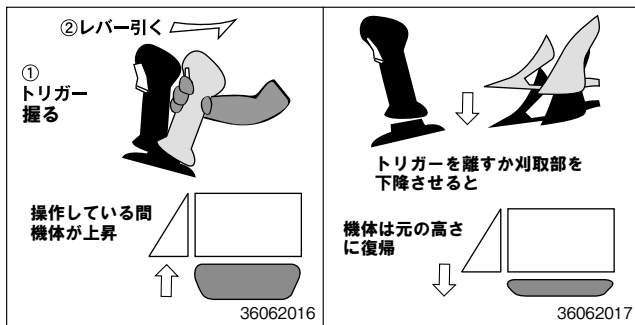
- 刈高さポジションコントロール中に、マルチステアリングレバーを瞬間的にでも《上げ》操作すると、ポジションコントロールが解除されます。再度ポジションコントロール状態にしたいときは、マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。
- 刈高さダイヤルを《切》位置以外に設定しているときは、マルチステアリングレバーを《下げ》操作しても、刈高さセット位置より低くすることはできません。

④ トリガースイッチの使用

① 半自動後進上昇機能

湿田刈取などのとき車高上昇操作を容易にする機能です。

水平自動が作動している状態で機体後進時、トリガースイッチを握りながらマルチステアリングレバーを上げ操作し続けます。まず刈取部がいっぱいまで上昇した後、機体が上がります。（自動制御は一時停止）トリガースイッチを離すか、刈取部を下げると、元の車高に復帰してから自動制御が再び作動します。

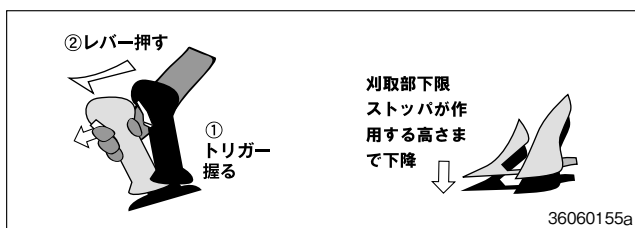


② 刈高さ解除機能

刈高さセット位置よりもさらに刈取部を下げる時はトリガースイッチを握りながらマルチステアリングレバーを下げる操作をします。

ただし、刈取部の下限ストoppaが作用する高さ以下には上がりません。

トリガースイッチの操作をやめると約1秒後に元の刈高さポジションコントロール位置に戻ります。



取扱いのポイント

- トリガースイッチ操作中に元の刈高さポジションコントロール位置より高くした場合には元の高さに戻りません。
- 再度ポジションコントロール状態にしたいときには、マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。

3. 手動での作業のしかた

刈高さダイヤルを《切》位置にすると、刈高さポジションコントロールは作動しません。

マルチステアリングレバー操作によって、刈取部の高さを任意の位置に合わせるすることができます。

4. 水平自動制御

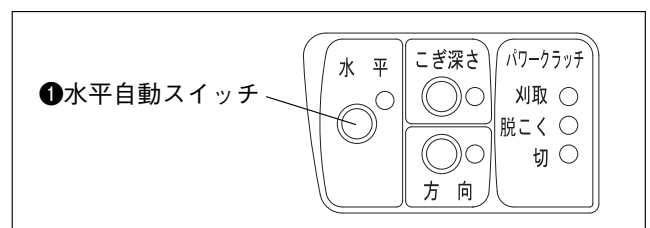
(ジャストマチック)

- ・ 水平自動は湿田などで機体が傾斜した場合、自動的に機体を水平に修正します。「水平操作レバー」で機体全体を持上げることもできます。
- ・ あぜぎわや溝のある麦刈作業時および傾斜地での作業では、ほ場条件に合わせ、水平操作レバーで機体角度を調整し傾斜させながら作業ができます。

警告 傷害事故防止のために

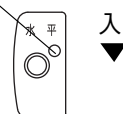
◆路上走行、あぜ越え、自動車への積込み・積降ろし、こく粒の排出時は、水平自動スイッチを「切」にし、水平操作レバーで機体を一番下まで下げて行なってください。

1. 運転装置

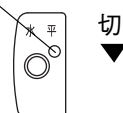


① 水平自動スイッチ

・ 「入」 ……押すとランプが点灯し、水平自動ランプ点灯
スイッチが「入」の状態であることを表示します。



・ 「切」 ……「入」の状態から再び押すとランプ消灯
ランプ消灯
が消え、水平自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

- 水平自動スイッチランプが点灯しても、水平自動が作動しないときは、エンジンを停止してヒューズの点検、配線の接続部の外れがないか点検してください。

② ヒューズ

取扱い方は、108～110ページを参照します。

③ 水平操作レバー

取扱い方は、22ページを参照します。

2. 自動での作業のしかた

① 刈取り作業

- (1) パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチ《刈取》位置で水平自動制御が作動します。

- (2) 傾斜角を変えるときは、水平操作レバー「右傾斜」「左傾斜」を操作し、設定します。

傾斜角を保持するように自動制御(傾斜角制御)します。

水平操作レバーで機体傾斜角を変えたときは、水平自動ランプは点滅します。

- (3) 傾斜角制御状態から水平制御状態に戻すには水平自動スイッチを入れ直す(入→切→入)か水平手動操作(上下)操作を行うと戻ります。

(傾斜角制御のときは「ピッ」、水平制御のときには「ピッ、ピッ」とブザー音がし、切替ったことがわかります)

- (4) パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチ《切》位置にしたとき、機体が左右どちらか低い方に合わせて、地面に平行になります。

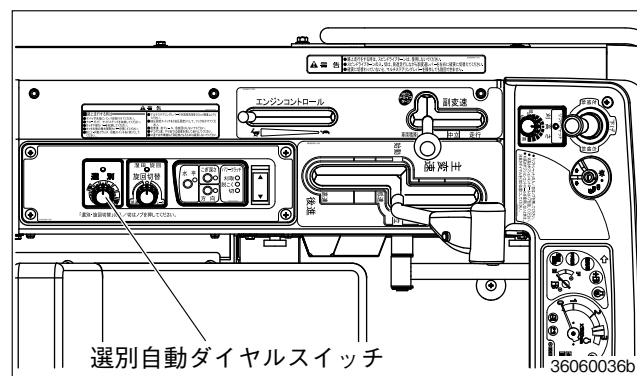
取扱いのポイント

- 水平自動スイッチが「入」でも水平操作レバーを操作すると、「手動優先」で機体高さ、機体傾斜角を変えることができます。
- 機体旋回中は水平自動制御は作動しません。

5. 選別自動制御

選別自動は、脱こくしたこく粒の量に応じて自動的に揺動板を調整し、刈取り条件に合ったきめ細かい選別となるように自動的に調整します。

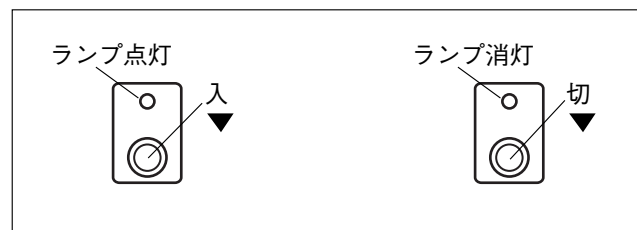
1. 運転装置



① 選別自動ダイヤルスイッチ

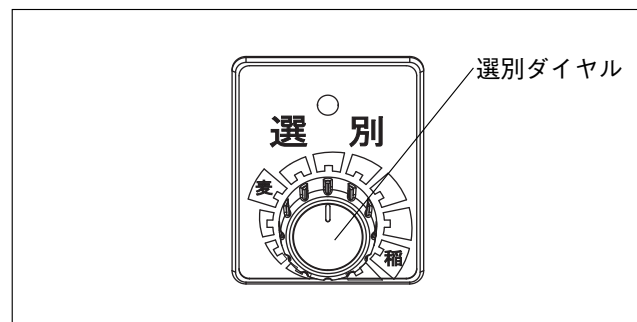
スタータスイッチを《入》位置にするとランプが点灯し、選別自動が作動状態になります。

- ・ 選別自動スイッチ内ランプが点灯時に選別自動スイッチを押すと、ランプが消灯し、選別自動は作動しません。
- ・ 再度、選別自動スイッチを押すと、スイッチ内ランプが点灯し、選別自動が作動状態となります。



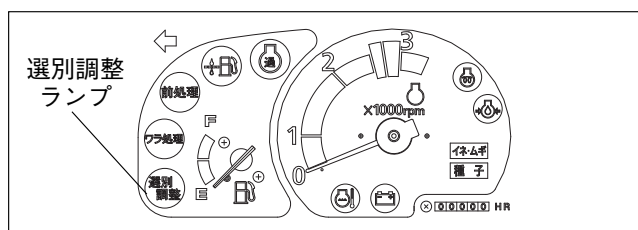
② 選別ダイヤル

刈取る作物に合わせて、選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。



	作業内容	選別ダイヤル
稲刈り作業	通常の刈取り作業	《稲》
	《稲》で選別が悪いとき	《稲》より《左》側にダイヤルを回します。
	高収量材料または、脱こく負荷が大きいとき	《稲》より《右》側に回します。
麦刈り作業	通常の刈取り作業	《麦》
	《麦》で選別が悪いとき	《麦》より《左》側にダイヤルを回します。
	高収量材料または、脱こく負荷が大きいとき	《麦》より《右》側に回します。

③ 選別調整ランプ



選別部に処理能力以上のこく粒などがあるときに点滅します。作業速度を下げるか、選別ダイヤルを「開」側に回します。

取扱いのポイント

- 処理後もランプが点滅するときは、「お買いあげ先」で点検を受けてください。

④ ヒューズ

取扱い方は、108～110ページを参照します。

取扱いのポイント

- 選別ダイヤルの操作は、脱こく内部のワラクスなどがきれいに排出されるまで、脱こく部を空運転し、ワラクスなどが排出された後に行なってください。
- 脱こく内部にワラクスなどが溜まっていると、選別自動がセットできない場合があります。
- 選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると、刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。

- 選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも、選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。
- 選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが、良好な選別状態を得られない場合があります。
- スタータスイッチを《入》にして、ランプが点灯しないときは、作業を中止しエンジンを停止して、ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。

6. 排出オーガ自動制御

- ・ 排出オーガ自動は、自動スイッチの操作により、排出オーガが自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで動き、排出位置から収納位置まで動きます。

⚠ 警告 傷害事故防止のために

- ◆ 路上走行、あぜ越え、自動車への積込み・積降ろしをするときは、グレンタンク内のこく粒を排出してください。
- ◆ 傾斜地でのこく粒の排出作業は、行わないでください。
- ◆ こく粒の排出作業をするときは、駐車ブレーキをかけて行なってください。
- ◆ 排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は、こく粒排出スイッチ [X仕様]、こく粒排出レバー [X仕様以外] を「切」にして、エンジンを停止してください。
- ◆ 旋回範囲近くに障害物がある場合は、自動スイッチを使用しないで、排出オーガ操作スイッチで排出オーガを操作してください。
- ◆ 排出オーガ自動旋回中に緊急停止する場合は、排出オーガ自動旋回スイッチ、排出オーガ操作スイッチの何れかを操作して止めてください。
- ◆ [X仕様]は、キャビンの窓から頭や手を出して排出オーガの操作をしないでください。

自動装置について

◆走行中に排出オーガを操作しないでください。こく粒排出後の移動は、排出オーガを収納し、固定リングで排出オーガを固定してから行なってください。

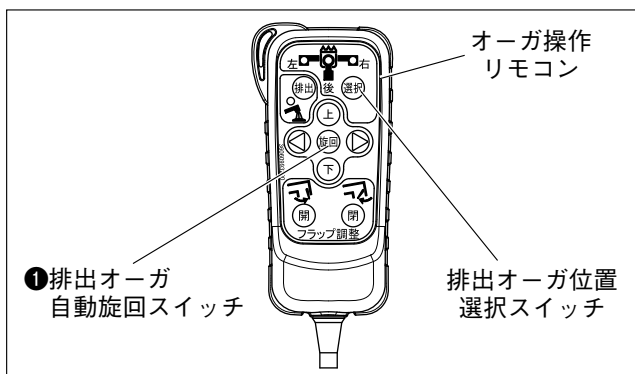
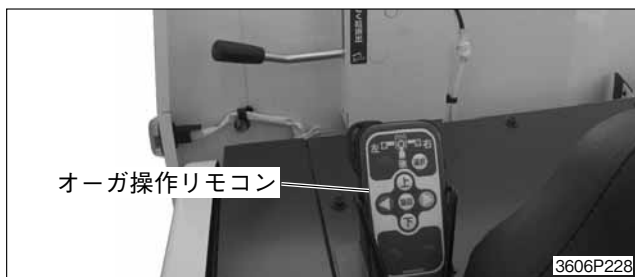
◆水平自動スイッチを「切」にして、水平操作レバーで機体を一番下まで下げてから、排出作業をしてください。

⚠注意

◆排出オーガの運転操作は運転席から、周囲の安全をよく確認してから行なってください。

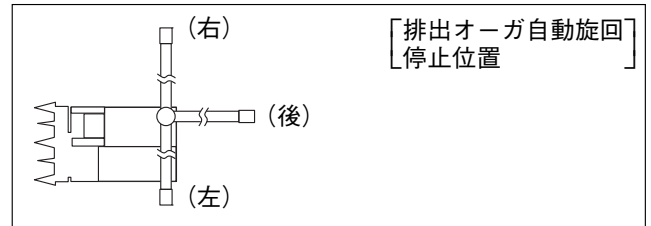
◆排出オーガの作動範囲に、頭や手を近づけないでください。

1. 運転装置



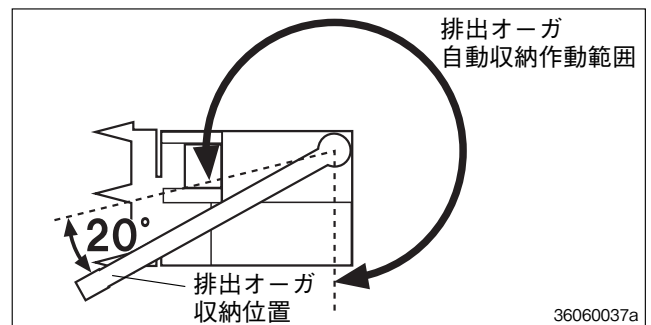
① 排出オーガ自動旋回スイッチ

- ・排出オーガ収納位置で、自動旋回スイッチを押すと、排出オーガが排出位置選択スイッチで設定した排出位置まで、自動旋回します。
- ・排出オーガ収納位置以外で、自動スイッチを押すと、排出オーガ収納位置へ戻ります。
- ・排出オーガ自動旋回中、または自動収納途中で旋回停止を行う場合は、再度、自動スイッチを押すと停止します。



取扱いのポイント

- 自動収納は、排出オーガが下図の範囲にあるときだけ作動します。



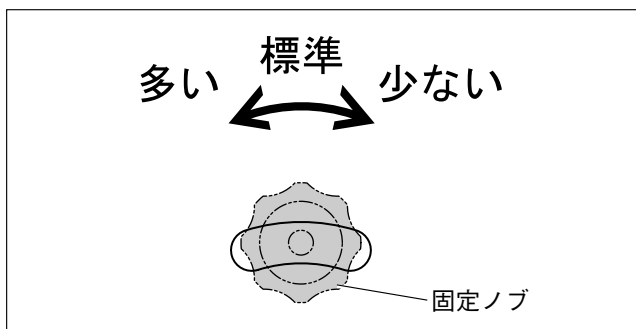
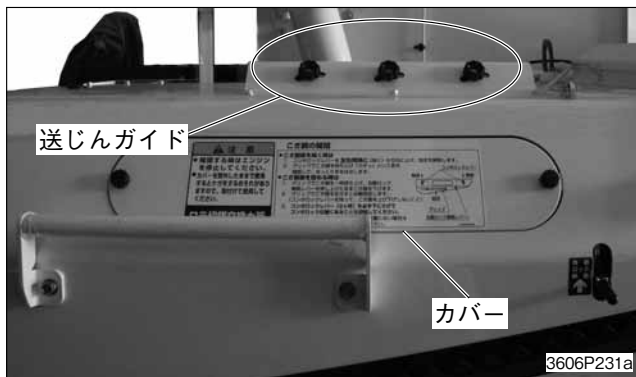
- 自動旋回は、排出オーガが収納位置にあるときにだけ作動します。排出オーガ自動旋回スイッチの操作は、排出オーガの固定リングを外してから行なってください。
- スイッチを「入」にして、動作しないときは、エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。
- 自動が故障のときは、排出オーガ操作スイッチによって、手動で操作してください。

② ヒューズ

取扱い方は、108～110ページを参照します。

7. 送じん量自動調節

- ・送じん量は《標準》位置で出荷しています。
送じん量調節は、こぎ室内の発生クズ量に応じて送じんガイドの位置を自動で調整し、こぎ室内の負荷を軽減する機構です。



取扱いのポイント

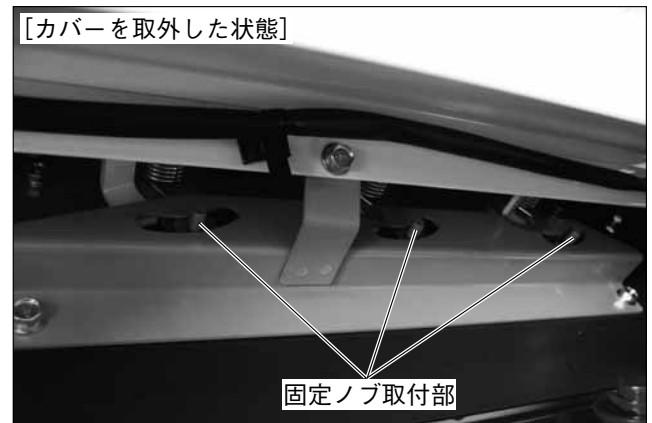
- ほ場の条件に合わせて自動初期位置を変えることができます。
- モミに枝梗の付着が多いときや、こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合は送じん量を調節することができます。

作業状態	送じん量調節位置
こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合	《多 い》
通常の刈取りの場合	《標 準》 出荷位置
枝梗の付着が多い場合	《少 ない》

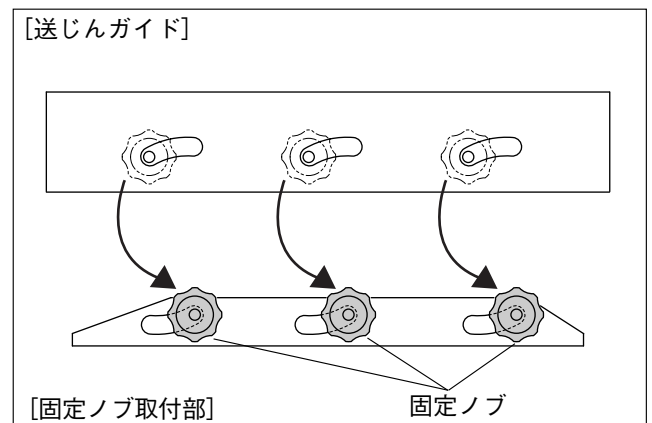
手動調節のしかた（送じんガイドの固定）

- ・作業状態に応じて送じん量調節位置の固定ができます。

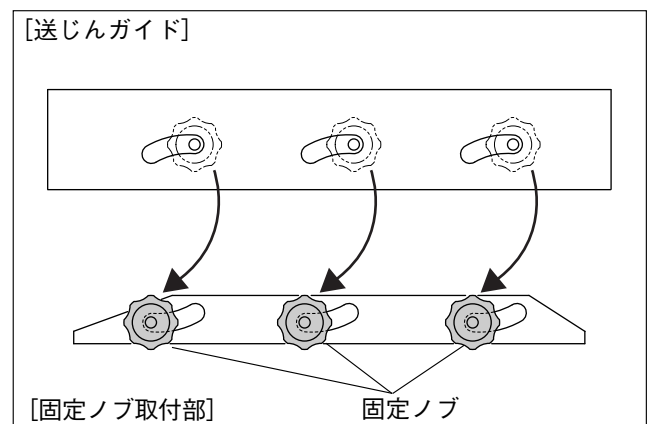
固定ノブ位置を入替えて取付けます。固定ノブで作業状態に応じた位置に固定します。固定ノブ取付部は、カバーを取外したところにあります。



送じん量調節位置《多い》のときの固定位置



送じん量調節位置《少ない》のときの固定位置



自動装置

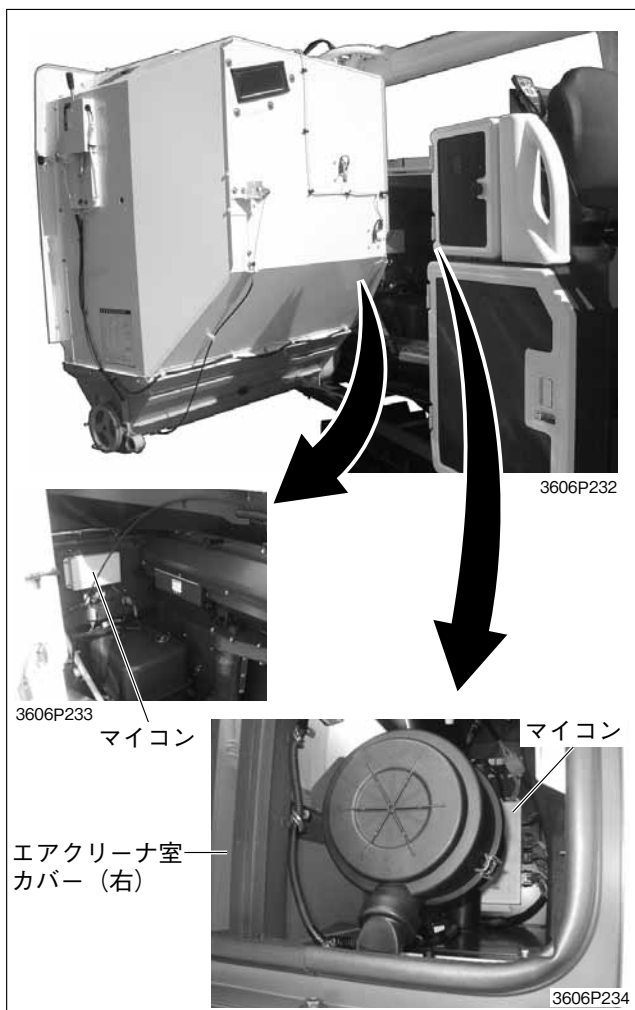
8. マイコン (マイクロコンピュータ)

高性能マイクロコンピュータが2個搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ、オペレータの作業が軽減されます。

① マイコンによる制御機能

- ・エンジン停止制御
- ・マルチステアリングレバー
- ・方向自動制御 [ディーラーオプション]
- ・水平自動制御
- ・リフトシャットシステム
- ・刈高さポジションコントロール
- ・こぎ深さ自動制御
- ・選別自動制御
- ・ツインハーモニーシステム
- ・排出オーガ自動旋回 (旋回 + 収納)
- ・ホーン・モミ警報・その他各種警報

マイコンユニットの設置場所



② ヒューズ

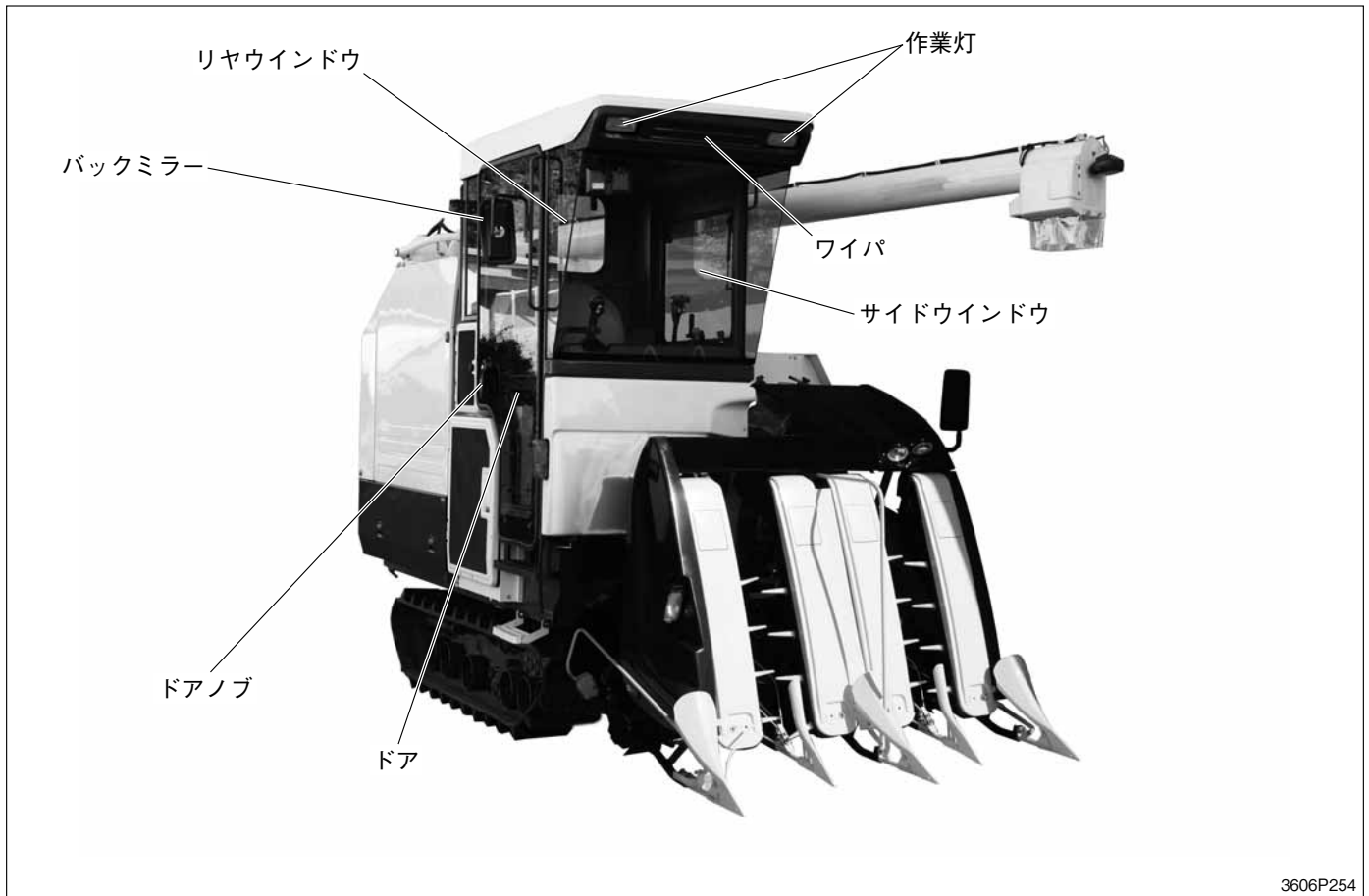
「マイコン」の10Aヒューズが溶断しているときは、マイコンによる各制御機能が停止状態となります。(108~110ページ参照)

取扱いのポイント

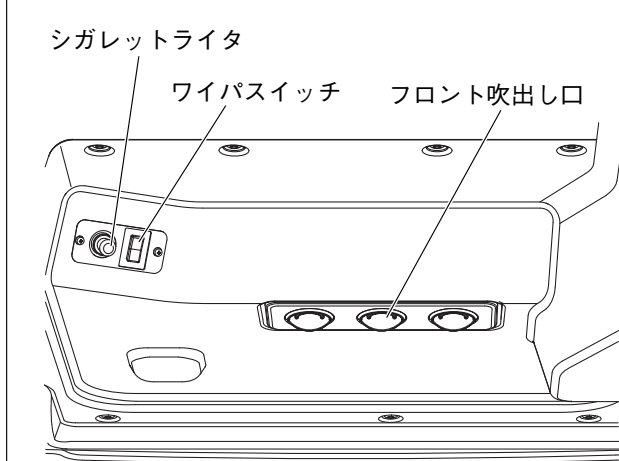
- マイコンユニットは、洗車時に水やスチームがかからないようにしてください。
- ヒューズを交換しても再発するとき、また制御不能のときは、「お買いあげ先」に相談してください。

キャビンについて [X仕様]

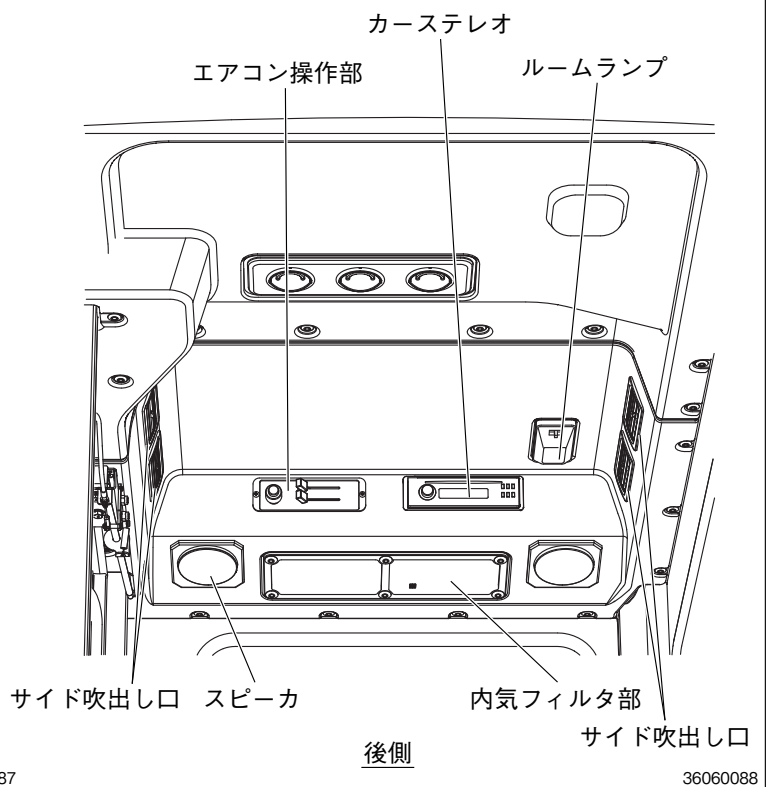
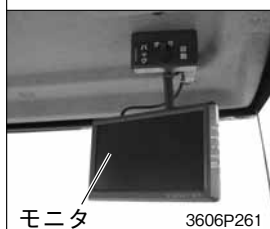
1. 各部の名称



[キャビン内部]

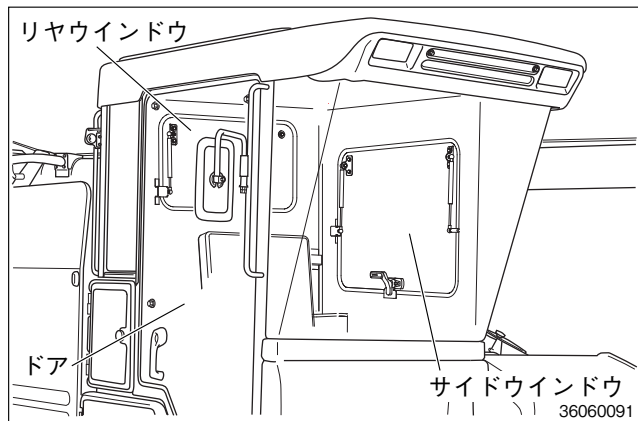


前側



2. 各部の取扱い

1. ドア・ウィンドウの開閉のしかた



① ドア

ドアはスライドドアになっております。オープン時の不意のスライドを防止するために、オープン側にもロック機構が設けてあります。以下の取扱いをお読みになってご使用ください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆半ドアの状態では運転すると、急にドアが開いて事故になることがあります。

◆走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

⚠注意

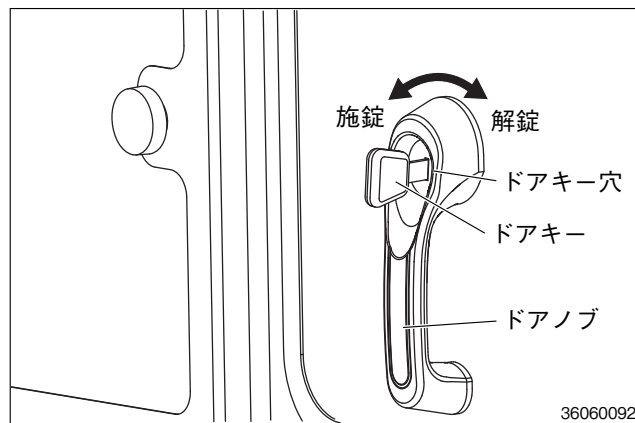
◆ドアの開閉時は、周囲に人を近づけないでください。手を挟んだり、ドアにあたってケガをするおそれがあります。

取扱いのポイント

●ドアを開いたままで路上走行や作業をしないでください。怠ると、ドアの破損などを引き起こすおそれがあります。

(1) ドアの施錠・解錠

ドアキーを差込み、左方向に回すと施錠・右方向に回すと解錠になります。



(2) 車外から開閉のしかた

ドアハンドルのボタンを押すと、ロックが外れます。

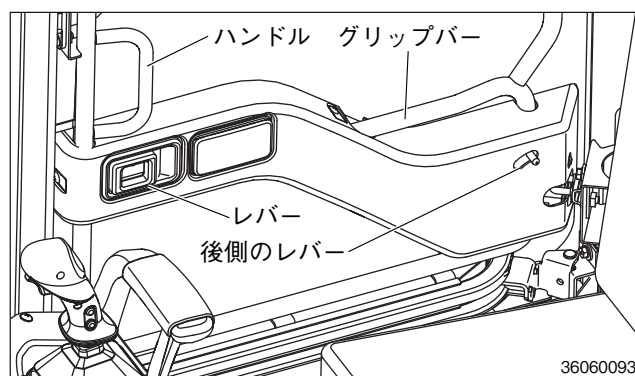
ハンドルを握ったままドアが開くまたは閉まる方向へスライドさせてください。

- ・開けるときはドアを機体後側へいっぱいスライドさせてください。自動的にオープンロックがかかります。
- ・閉めるときは機体前側へスライドさせ、ハンドルを握ったまま押し込んでください。

(3) 車内から開閉のしかた

内側のドアレバーを引くとロックが外れます。ハンドルを握ってドアが開くまたは閉まる方向へスライドさせてください。ドア後側のレバーでもロックを外すことができます。

- ・開けるときはハンドルを握ってドアを機体後側へいっぱいスライドさせてください。自動的にオープンロックがかかります。
- ・閉めるときはハンドルを握って機体前側へスライドさせてください。閉まりが悪いときは、グリップバーを握って機体内側へしっかり引いてください。



取扱いのポイント

- スライド途中のドアはローラがレールに乗っているだけの不安定な状態にあります。スライドドアはいっばいに開けるかいっばいに閉めるかの状態で使用してください。
- グレンタンクの開閉はスライドドアを閉めた状態で行ってください。ガラスが破損するおそれがあります。
- スライドドアの開閉は、グレンタンクが閉まった状態か、または、いっばいに開いた状態で行ってください。

② サイドウインドウ、リヤウインドウ
ウインドウは跳ね上げ式です。

⚠ 警告 傷害事故防止のために

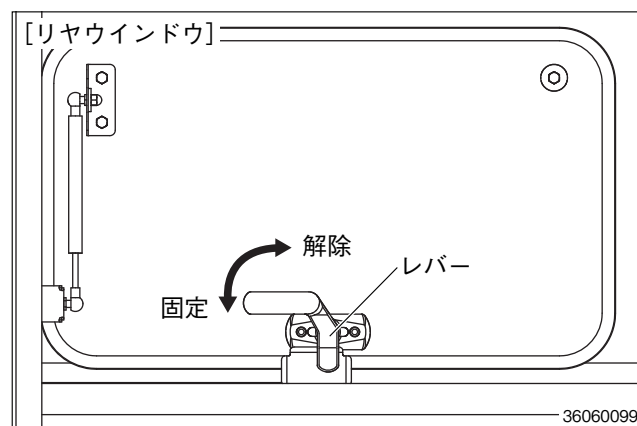
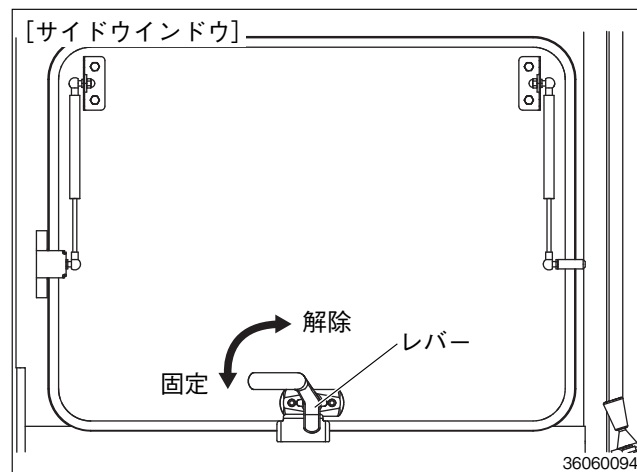
- ◆ サイドウインドウを開閉するときは、刈取部が下がっていることを確認してください。怠るとウインドウの破損、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ◆ 無理に開こうとするとウインドウの破損、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ◆ ウインドウを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。怠ると傷害事故を引き起こすおそれがあります。

・開けかた

- (1) レバーを右に回します。
- (2) レバーを握ったまま押出して、サイドウインドウ、リヤウインドウを開けます。

・閉じかた

- (1) レバーを手前に引きサイドウインドウ、リヤウインドウを閉じます。
- (2) レバー手前に引きながら左に回し、確実に固定します。



にキャビンで

取扱いのポイント

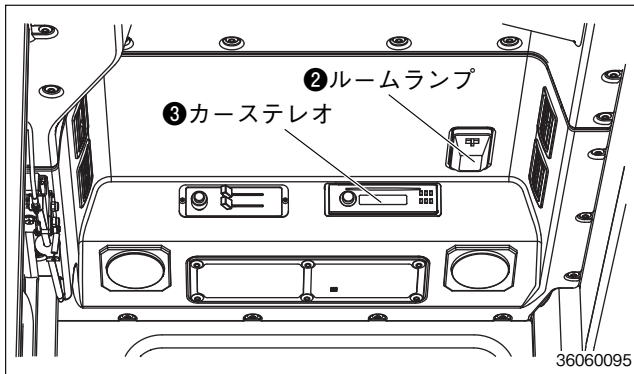
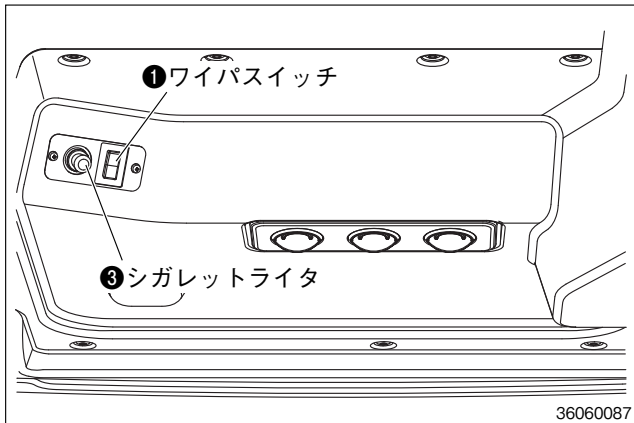
- レバーをロック位置のままウインドウを閉めると、レバーなどの破損のおそれがあります。
- サイドウインドウを開いたままで路上走行や作業をしないでください。怠るとサイドウインドウの破損などを引き起こすおそれがあります。

③ バックミラー

バックミラーは上下、左右に角度調整できますので運転席に座って見やすい位置に調節してください。

狭い所へコンバインを格納する場合には、バックミラーが接触しないように前方へ倒すことができます。

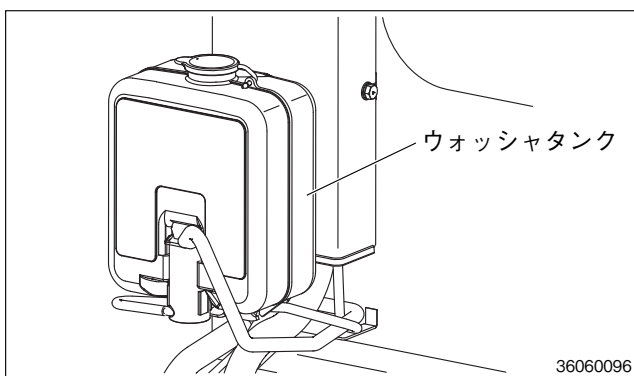
2. スイッチ類の取扱い



① ワイパスイッチ

スタータスイッチを《入》にして、ワイパスイッチ上側を押してワイパスイッチを「入」にするとワイパが作動し、さらに押すとウォッシュ液が噴出します。

ウォッシュタンクはキャビンの後側にあります。ウォッシュ液がなくなったら市販のウォッシュ液を補充してください。

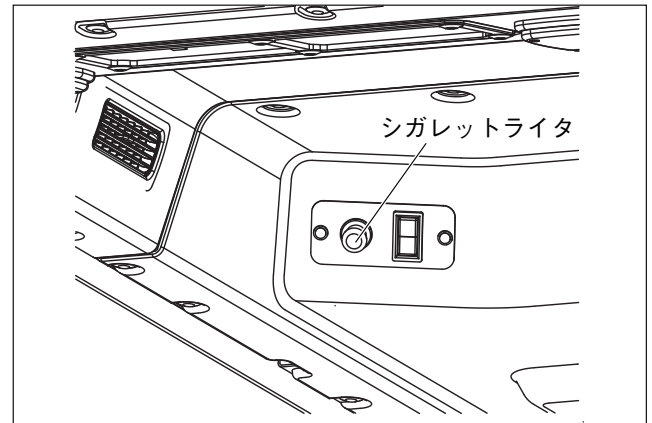


② ルームランプ

ルームランプのカバーがスイッチになっています。ルームランプを《ON》側に動かすとルームランプが点灯します。

③ シガレットライター

エンジン《ACC》または《入》状態でノブを押し込むと下側金属部が熱くなり、ノブが元の位置に戻ります。その後、引抜いて使用します。

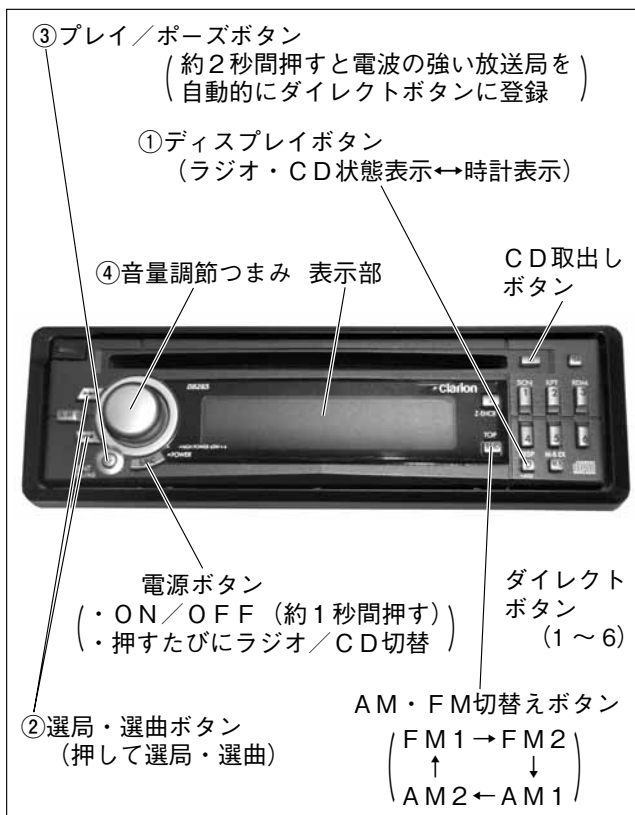


④ カーステレオ

別添のカーステレオ用の取扱説明書を参照してください。

時刻合わせ

1. スタータスイッチを《ACC》または《入》にする。
 2. ①ボタンを約1秒間押す(「SCRN SVR」の表示になる)
 3. ②ボタンを押して表示部が「CLOCK 〈E〉」になるようにする。
 4. ③ボタンを押すと設定モードになる。(設定直前の時刻を表示)
 5. ②ボタンを押して「時」または「分」を選ぶ。
(点滅部が調整できるところ)
 6. ④つまみで時刻(数字)を合わせる。
 7. ③ボタンを押して設定完了。
 8. ①ボタンを押して(設定)時刻表示。
- ※バッテリーを外すと時刻もリセットされます。



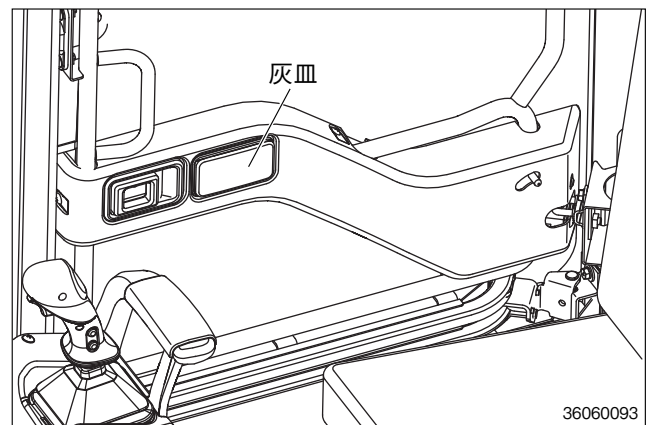
3. 室内装備の取扱い

① 灰皿

警告 傷害事故防止のために

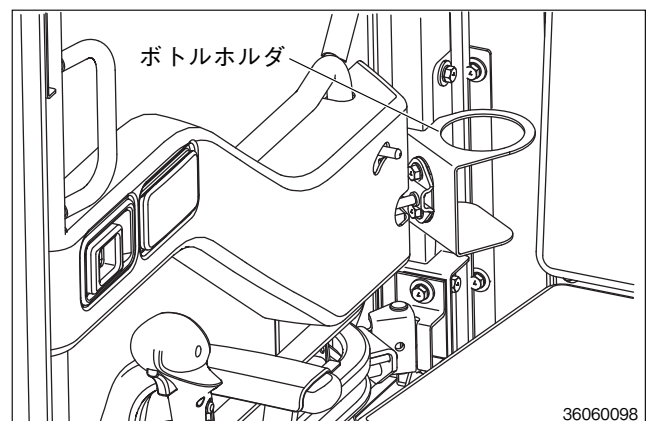
- ◆タバコ、マッチの火は、完全に消してから灰皿に入れてください。
使用後、開けたままにしておくとの吸いながら火が燃え移ることがありますので蓋を閉めておいてください。
- ◆灰皿には、吸いがらをためすぎたり、紙クズなどの燃えやすいものを入れないでください。火災の原因となります。

ドア内側に取付けてあります。
使用するときはフタを開けて使用します。



② ボトルホルダ

右側のドアフレーム後側にあります。
穴部にキャップのあるボトルなどを入れて使用します。



4. エアコン

⚠警告 傷害事故防止のために

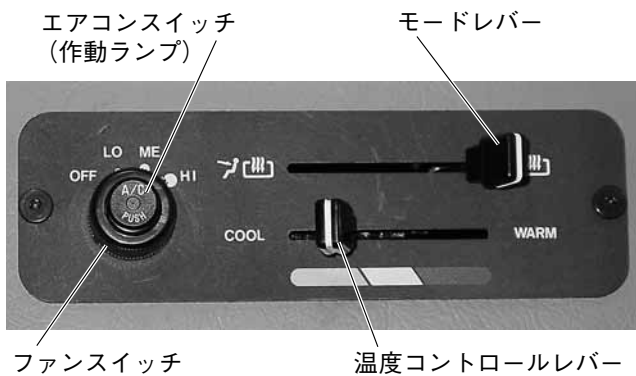
◆万一、エアコンが故障した場合はスイッチをOFFにして点検を受けてください。エアコンの回路内には高圧ガスが充填されていますので、配管部分やコンプレッサ部分をゆるめると、ガスが噴出して危険です。冷媒（ガス）の補充、その他の作業には特殊な工具と計器類が必要です。必ず整備の整った指定サービス工場で行ってください。

◆ウォータホースおよびヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

◆次のような異常を認めたとき、修理を怠るとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

- *ウォータホースの傷付き、ひびわれ、ふくらみ。
- *ウォータホースジョイント部の水漏れ。
- *ウォータホースの保護チューブおよび縁ゴムの外れ、破損。
- *本体取付ボルトのゆるみ、ブラケットの破損。

① 操作部



(1) エアコンスイッチ

このスイッチを押してエアコンを「入」・「切」します。エアコン作動時は、中央のランプが点灯します。



(2) モードレバー



この位置のときフロントベンチレータ・サイドベンチレータ全ての吹出口より風が吹きだします。



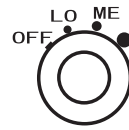
この位置のときフロントベンチレータの吹出口より風が吹きだします。

(3) 温度コントロールレバー

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風、左に寄せると冷風が出ます。

(4) ファンスイッチ

風量を調節します。



- 《OFF》: ファンが作動しません。
- 《LO》: 微風。
- 《ME》: 中間風。
- 《HI》: 強風。

② 冷房・除湿暖房

- (1) モードレバーを にします。
- (2) エアコンスイッチを押し「入」にします。
- (3) ファンスイッチ（LO・ME・HI）を作動させます。
- (4) 温度コントロールレバーをCOOLまたは中間位置に調整し、快適な温度にします。

③ 暖房

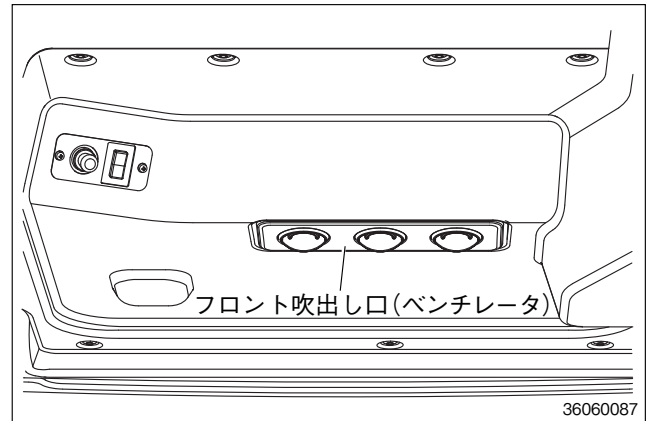
- (1) モードレバーを 又は にします。
- (2) ファンスイッチ（LO・ME・HI）と温度コントロールレバーを調整し、快適な温度にします。

取扱いのポイント

- ウィンドウガラスが曇ると視界を妨げますので、やわらかい布で水気を拭き取ってください。
- 湿度が高く窓ガラスが曇りやすいときは、温度コントロールレバーを中間位置にし、エアコンスイッチを押して「入」位置にして、除湿を行なってください。
- エアコンは、温度を下げるばかりでなく、湿度も同時に下げることができます。冷やしすぎると健康上良くありませんので少し涼しいと感じる温度（外気温度との差5～6℃）に調節してください。冷風は身体の1箇所に集中して当てるのはさけてください。また、冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。
- 長時間作業されるとき、またはタバコを吸われているときは、ときどき、室内の換気をしてください。
- 冷房し始めたとき、一時的に吹出し口から霧が吹出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生したもので異常ではありません。
- 連続10分以上本機を前傾して冷房を使用すると、冷氣吹出し口より水滴が飛散することがあります。このような運転はさけてください。
- エンジンの冷却水の水温が低いときに高温側にしても温風は出ません。
- 外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
また、有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
- エアコンスイッチ、送風量調節スイッチは、「切」の位置にしてから格納します。
- エアコンは、シーズンオフでも1ヶ月に1回、10～15分間運転してください。

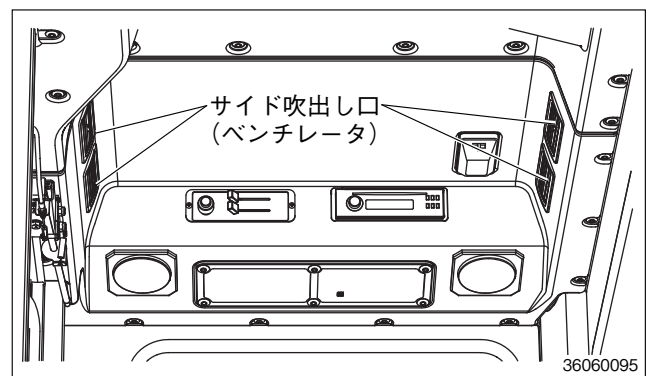
- エンジンは低回転にした状態で温度調整レバーは「冷」の位置、送風量調節スイッチは「弱」の位置で、エアコンスイッチを「入」にします。運転することにより冷媒ガスの漏れを防ぎ、エアコンを常時最良の状態に保つことができます。

④ フロント吹出し口（ベンチレータ）



- (1) 風の方向は、吹出し口により自由に調整できます。
- (2) サイド吹出し口（ベンチレータ）からの風量を増したいときは、[閉] にしてください。

⑤ サイドベンチレータ



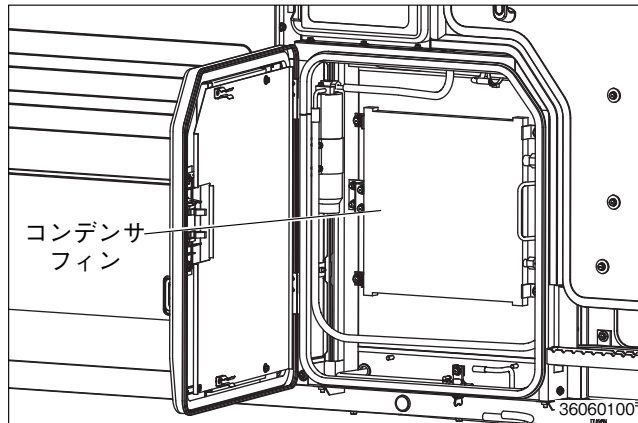
- (1) 調整つまみで任意の方向に向けてください。

⑥ コンデンサフィンの掃除

- (1) エンジンカバーを開きます。

キャビンについて [X仕様]

- (2) コンデンサフィンの表面にほこりやごみ、異物が付着して汚れているとクーラの冷えが悪くなります。(掃除については102~103ページを参照します。)



5. モニタの取扱い

⚠ 警告 傷害事故防止のために

- ◆後進するときは、モニタ（液晶パネル画像）確認以外にも、必ずバックミラーや目視で後方確認作業を行ってください。CCDカメラの死角になっている人や障害物に接触して重大な災害が発生するおそれがあります。
- ◆CCDカメラからモニタに写し出される広角の画像に慣れるまでは、ゆっくりと慎重に運転してください。速度を上げて後進すると判断を誤り、人や障害物に接触して重大な災害が発生するおそれがあります。
- ◆機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

⚠ 注意

- ◆他の目的で使用したり、他の機械などで使用しないでください。感電やケガをするおそれがあります。

① カメラの取付位置



(1) バックモニタカメラ

機体後方に装着したCCDカメラで、作業中でも運転席から機体後方を確認できます。座ったままで確認ができ、旋回時や格納時に便利です。暗い納屋でもカラーで明るく映ります。



(2) オーガ先端カメラ

オーガ先端に装着したCCDカメラで刈取り作業中は左前方が確認できます。

排出時は、コンテナの位置や排出状況を確認しながら作業ができ、一人作業のときも大切なモミを確実にコンテナに収納できます。

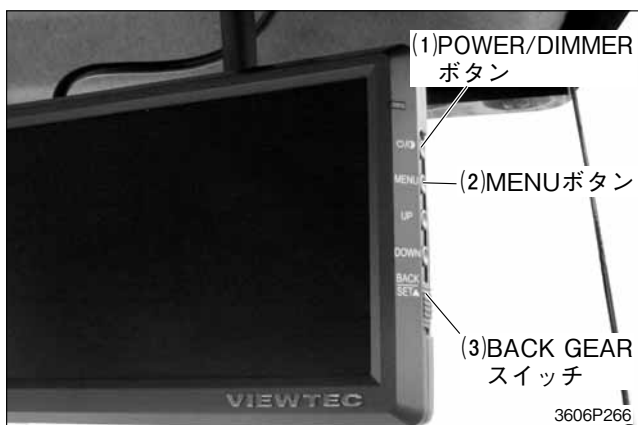
② モニタの使用方法

モニタは機体後進時、機体後方周辺の安全確認を行うための補助装置です。

下記作業などを行う場合の確認作業に活用してください。

- ・移動走行時、収穫作業時、納屋格納時などの後方確認作業。
- ・ほ場の出入り、枕地での切返し、あぜ際などでの機体位置の確認作業。

・排ワラ処理の切替え確認や排ワラ処理状態の確認作業。



(2) MENUボタン

別紙のモニター取扱説明書を参照してください。

(3) BACK GEARスイッチ

このスイッチは「OFF」でご使用ください。



(1) POWER/DIMMERボタン

POWER/DIMMERボタンを2秒間押しつづけると、モニターの電源が入/切します。

(4) カメラ切替えスイッチ

バックモニターカメラとオーガ先端カメラおよびそれらの自動切替えを選択できます。

モニタスイッチ	パワークラッチ	主変速レバー	オーガ位置	モニタ画像	
				バックカメラ	オーガカメラ
バック	—	—	—	○	
オーガ	—	—	—		○
自動	《脱こく》 or 《刈取》	—	収納位置	○	
			排出可能範囲		○
	《切り》	前進	—		○
			収納位置	最後のカメラ維持※1	
		中立	排出可能範囲		○
			収納位置	○	
後進	排出可能範囲		○		

※1 エンジン始動直後は、モニタは「バックカメラ」の表示をします

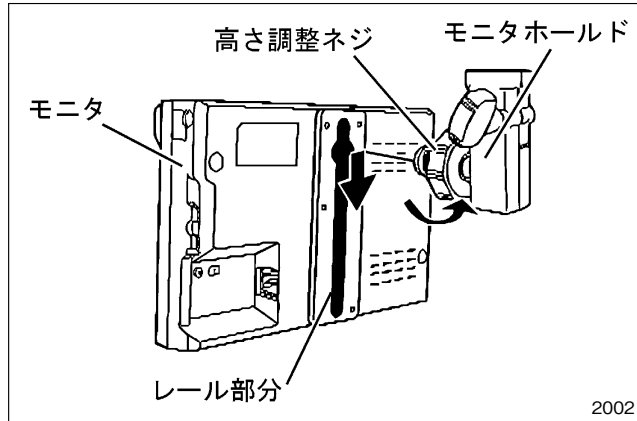
にキャビンで

キャビンについて [X仕様]

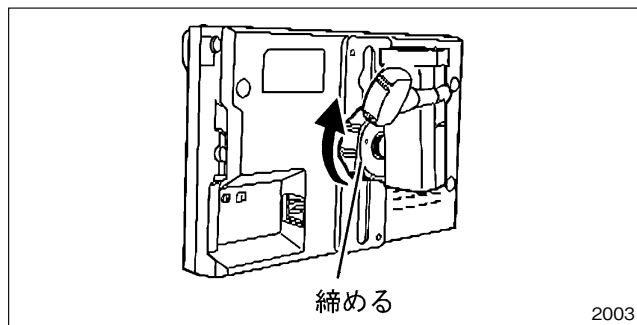
③ モニタの取付方法

(1) モニタホルドをモニタに取付ける。

- 1) モニタホルドの高さ調整ネジをゆるめ、モニタ背面のレール部分に、モニタホルドをスライドさせて取付けます。

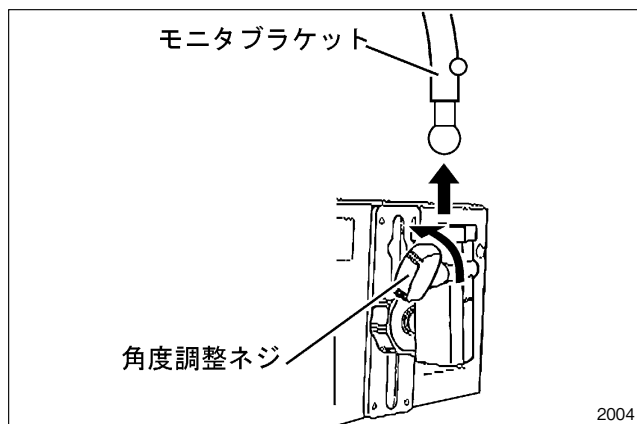


- 2) 高さ調整ネジを締めて固定します。



(3) モニタホルドをモニタブラケットに取付ける。

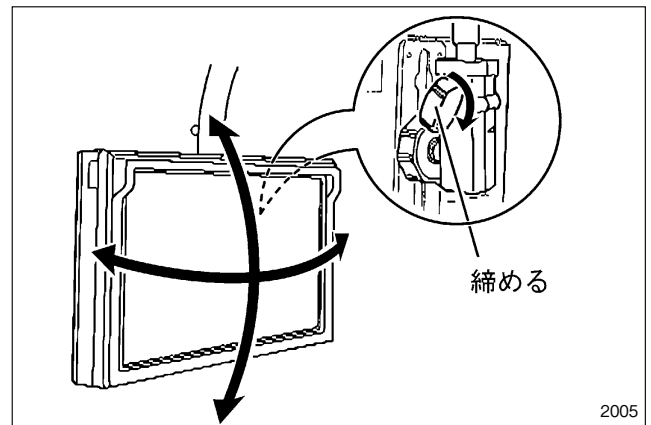
- 1) モニタホルドの角度調整ネジをゆるめて、モニタブラケットをはめ込みます。



- 2) モニタの角度を調整します。

・必要であれば、高さ調整ネジで、モニタの高さも調整してください。

- 3) 角度調整ネジを締めて固定します。



6. 格納のしかた

- ① クーラ・ワイパ・室内灯・作業灯などの電装品のスイッチは、「OFF」または「切」位置にしてから格納します。
- ② コンプレッサ各部のオイルが切れないようにするため、1カ月に1度ぐらい低速回転で15～20分間運転します。クーラダイヤル、ファンダイヤルを低めに設定してコンプレッサを運転します。

手入れのしかた

警告 傷害事故防止のために

- ◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に機械を置いて、駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
- ◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。

注意

- ◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

- 機械または部品などを破棄するときは、「お買いあげ先」にご相談ください。
- 使用済み廃棄物の処分について
廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。廃棄物を処理するときは
◆機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
◆地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
◆廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、「お買い上げ先」、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

1. 定期点検整備

・正常な機能を発揮し、いつでも安全な状態であるように「定期点検整備表」に従って、定期的に点検し、必要により掃除・調整・整備を行います。

◆使用者が行なってはいけない修理

下記部位に異常があるときは、「お買いあげ先」に必ず連絡して修理を依頼してください。

- 結束部の結節部完備（ノッタ部） [ディーラーオプション] ● エンジン本体
- トランスミッション ● ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統（HST含む） ● 電気部品と電気系統 ●刈取部の動力伝達系統 ● 燃料系統

取扱いのポイント

- 分解・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また、メーカー保証の対象外となりますのでご注意ください。

「定期点検整備表」（点検・補給・掃除・調整・グリスアップ○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）																格納時	備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	250	350 (300)	450 (400)	500 (550)	600 (650)	700 (750)	800 (850)	900 (950)	1000 (1050)				
エンジン部	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			89～90	
	エンジンオイルフィルタ	交換			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			☆90	
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○														●		☆91～92	
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○	○				●			●		●		●		●			103	
	燃料フィルタ[463型,563型仕様]	点検・交換	○								●		●		●		●			☆104	
	燃料フィルタ・セジメンタ[570型仕様]	点検・掃除	○		○						●				●		●			☆105～106	
	燃料フィルタポット部	点検・掃除（水抜き）	○	○							●				●		●			104	
	ファンベルト（オルタネータ）	点検・調整・交換	○		○				●				●				●			☆160	
	ファンベルト（ラジエータ）	点検・調整・交換	○		○				●				●				●			☆160	
	ファンベルトクラッチ部ワイヤ	点検・調整・交換	○		○				●				●				●			☆160	
	コンプレッサベルト（X仕様）	点検・調整・交換	○		○				●				●				●			☆153	
	燃料ホース	点検・交換	○																●（2年ごと）	燃料漏れ点検	☆145
ターラコンデンサ（X仕様）	点検・掃除	○	○															○		102～103	
ウインドウォッシュ液（X仕様）	点検・調整・抜取り	○	○																	99	
断熱材（エキゾーストパイプ部,マフラー部,テールパイプ部）	点検・交換	○	○																●（300時間または3年ごとで早い方）	☆171	

手入れのしかた

手入れのしかた

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）													格納時	備考	参照ページ				
			作業前	25	50	100	150	250	350	450 (400)	500 (550)	600 (650)	700 (750)	800 (850)	900 (950)				1000 (1050)			
電装関係	バッテリー液	点検	○															インジケータの色確認	111~113			
	電気配線（配線・接続部のゆるみ、損傷）	点検・修理	○	○														損傷の場合交換	☆111			
	計器、スイッチ類	点検・修理	○	○															☆6~17			
	エアフローセンサ	点検・掃除	○				○			○ (300)		○			○ (750)					106~107		
走行・運転操作部	油圧作動油（オイルタンク）	点検・補給・交換	○																☆93~94			
	油圧ホース	点検・交換	○																油もれ点検	☆145		
	油圧オイルフィルタ	交換				●														☆93~94		
	HSTオイルフィルタ	交換				●														☆93~94		
	ソレノイドバルブのフィルタ	点検・掃除				●	○			○					○ (550)	○ (750)				☆106		
	ブレーキシュー	点検・交換																		●（400時間または2年ごとで早い方）	☆-	
	駐車ブレーキ	点検・調整	○																		☆150	
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○																		☆92	
	走行ベルト	点検・調整・交換	○	○	○	●															☆153	
	走行クラッチペダル	点検・調整	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆150	
	クローラ	点検・調整	○	○																	168	
	水平制御リフトアーム軸受部	グリスアップ	○																		☆98	
	ローラ・アイドラ・転輪	点検・グリスアップ	○	○																	（グリスアップは5ha作業毎、および格納時に行いません。湿田作業をした場合は1日作業後に行います）	98
	エアコンガス	点検	○																		-	
走行HSTトラニオン軸部	グリスアップ	○																		98		
刈取部	引起こしチェン、爪	点検・調整・交換	○	○	○																☆145,187~188	
	かき込みベルト	点検・調整・交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆154	
	株元搬送チェン（右）	点検・調整・交換	○	○	○																☆161, 162	
	株元搬送チェン（中）[5条型]	点検・調整・交換	○	○	○																☆161	
	株元搬送チェン（左）	点検・調整・交換	○	○	○																☆161, 162	
	こぎ深さ搬送チェン	点検・調整・交換	○	○	○																☆165	
	かき込み搬送チェン(左)、爪	点検・調整・交換	○	○	○																☆163	
	かき込み搬送チェン(中)、爪[5条型]	点検・調整・交換	○	○	○																☆163	
	穂先搬送チェン、爪	点検・調整・交換	○	○	○																☆163	
	刈刃	点検・調整・交換	○	○	○																☆148~149	
	集中注油タンク	点検・補給	○	○																	97	
	刈取ベルト	点検・調整・交換	○	○	○																☆151	
	脱こ	脱こくギヤケースオイル	点検・補給	○																		☆95
		こぎ胴ギヤケースオイル	点検・補給	○																		☆95
搬送HSTギヤケースオイル		点検・補給	○																		☆96	
吸引ファンギヤケースオイル		点検・補給	○																		☆96	
搬送HSTオイルフィルタ		点検・交換	○																		☆93~94	
搬送HST駆動ベルト		点検・調整・交換	○	○	○																☆186	
脱こく入力ベルト		点検・調整・交換	○	○	○																☆155	
こぎ胴伝動ベルト		点検・調整・交換	○	○	○																☆155	
こぎ胴ベルト		点検・調整・交換	○	○	○																☆156	
脱こくフィードチェン		点検・調整・交換	○	○	○																☆165	
1番ラセン駆動ベルト		点検・調整・交換	○	○	○																☆157	
選別ベルト		点検・調整・交換	○	○	○																☆156	
排ワラ駆動ベルト		点検・調整・交換	○	○	○																☆157	
排ワラチェン		点検・調整・交換	○	○	○																☆166	
穂先排ワラチェン、爪	点検・調整・交換	○	○	○																☆166		
脱こく	揚こくラセンタッチ部	点検・掃除	○																		121	
	こぎ歯	点検・増締め・交換	○	○																	☆147	
	ワラ切カマ	点検・交換																			☆146~147	
	脱こく受網	点検・掃除・交換	○																		☆119~121	
	脱こく底板・こぎ室揺動選別部	点検・掃除	○																		121~122,124~129	
	2番ラセンタッチ部	点検・掃除	○																		121	
	穂先排ワラストッパゴム	点検・交換	○	○																	☆-	
	グレンタンク部	オーガ回動支点部	点検・補給	○																		98
		グレン入力ギヤケース	点検・補給	○																		☆97
		グレンタンク	点検・掃除	○																		129~130
		横ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○	○																☆159
		グレン入力ベルト	点検・調整・交換	○	○	○																☆158
		縦ラセン筒上・下	点検・掃除	○																		129~130
	カッター部	カッター排ワラ切替レバー	点検・調整	○	○																	☆152
カッター刃		点検・交換	○																		☆136~144	
カキコミ軸駆動チェン		点検・調整・交換	○	○	○																☆167	
カッターベルト		点検・調整・交換	○	○	○																☆158	

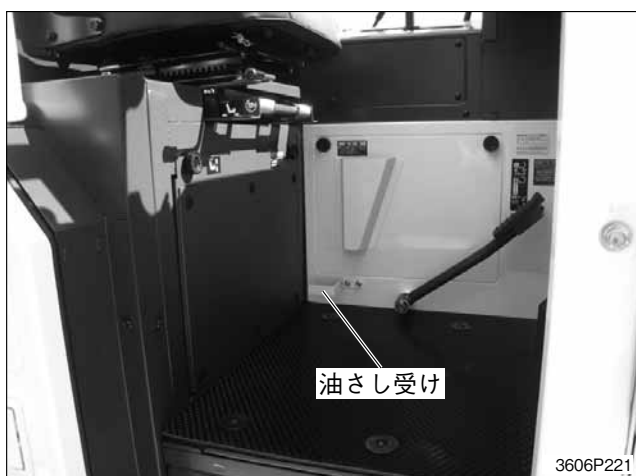
参照ページに☆印のある整備項目の交換・修理については「お買いあげ先」で行なってください。

2. 給油・注油・給水のしかた

- ・オイルの点検・交換は、「運転まえの点検表」(29～30ページ) および「定期点検整備表」(85～86ページ) に従って行います。
- ・オイルの点検・交換は、機械を平坦な場所に駐車して行います。

取扱いのポイント

- 各給油箇所には、指定オイルを規定量給油してください。
- 廃油など汚れたオイルを注油すると、故障の原因となりますので使用しないでください。
- 次表の容量は工場出荷時の数値です。
交換時は残油量がありますので、レベルゲージまたは検油栓により容量を確認してください。
ただし検油栓のない箇所は全量交換してください。
- 使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。
- コンバイン運転席に油さし受けがついていますので、いつでも注油できるように、オイルを入れた油差しを常備してください。
- 交換したオイルを廃却するときは、「お買いあげ先」または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。



⚠危険 火傷や火災防止のために

- ◆燃料補給時は、火気を近づけないでください。
- ◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは、給油・注油しないでください。
- ◆損傷や劣化した燃料ホースは、交換してください。燃料漏れがあると、火災の原因となります。
- ◆こぼれた燃料は、きれいに拭取ってください。

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆給油・注油・点検するときは、機械を平坦な場所に置き、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。
- ◆回転部・摺動部から異音が発生するときは、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから注油してください。
- ◆エンジンカバーを開いて点検などを行なった後は、エンジンカバーを閉じてください。

⚠注意

- ◆使用オイルの詳細は、「潤滑油について」を参照してください。
- ◆刈刃、チェーンなどに注油する際は、指定の潤滑油を使用してください。

手入れのしかた

「給油・注油・給水表」

No.	箇所	種類	種類		容量 (L)	備考
			API サービス分類	SAE 粘度番号		
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	-	-	463型,563型: 60	JIS 2号 (-7.5℃まで)
					570型:80	JIS 3号 (-20℃まで)
②	エンジンクランクケース	ディーゼル エンジンオイル	CF級 (または CF-4,CH-4級)	10W-30	463型,563型: 8.5	
			CF級 (またはCI4級)	10W-30	570型:11.2	
③	ラジエータ (補助タンク1.0L含む)	冷却水(不凍液 40~45%含む)	-	-	463型,563型X仕様を除く 11.3	北海道は,不凍液割合45~50%
					463型,563型X仕様 12.8	
					570型X仕様を除く 8.9	
					570型X仕様 10.4	
④	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	RET, RH仕様 18.7	
					RET,RH仕様を除く 18.0	
⑤	油圧オイルタンク	油圧作動油	GL-4以上	10W-30	28.5	
⑥	脱こくギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	463型,563型: 0.55	
					570型:0.4	
⑦	こぎ胴ギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.65	
⑧	吸引ファンギヤケース	ギヤオイル	GL-4以上	10W-30	0.07	
⑨	搬送HSTギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	1.4	
⑩	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.5	
⑪	集中注油タンク	エンジンオイル	-	-	4.3	
⑫	水平リンク	グリース	-	-	-	
⑬	ウォッシュータンク	ウォッシュ液	-	-	1.0	ウォッシュ液0.35L, 水0.65L [X仕様]
⑭	エアコンガス	R-134a	-	-	900g	[X仕様]

指定オイル

- ・ディーゼルエンジンオイル…… **純正油** ディーゼルエンジン用オイルAPI・CF級以上(またはCF-4,CH-4級)
SAE・10W-30
- ・油圧作動油…………… **純正油** または, 使用オイル表 (193ページ) の指定オイル
- ・ギヤオイル…………… **純正油** または, 使用オイル表 (193ページ) の指定オイル

取扱いのポイント

- 燃料タンク・集中注油タンク以外は, 工場出荷時の容量です。
交換時は, 残油量がありますので, レベルゲージまたは検油栓により, 容量を確認してください。
ただし, レベルゲージまたは検油栓のない箇所は, 全量交換してください。排油栓のない箇所は補充してください。
- 使用オイルの詳細は, 潤滑油についての項 (193ページ) を参照してください。

1. 燃料の補給



- ・給油口のキャップを外して、補給します。
- ・燃料……ディーゼル軽油
 - JIS 2号 (−7.5℃まで)
 - JIS 3号 (−20℃まで)
- ・タンク容量……463型, 563型 : 60 L
570型 : 80 L

取扱いのポイント

- 給油口近くに備付けてある収納式スタンドを手前に引いて、その上に燃料の入った缶、ポリタンクを置いて給油します。[RET, RH仕様を除く]



- 燃料の中に、水やゴミなどが混入しますと、エンジンに重大な故障が発生したり、燃料ポンプが作動しなくなることがあります。燃料タンク給油口のフィルタを通して、給油してください。
- 運転途中での燃料切れ、燃料フィルタの掃除や交換時は、燃料のエア抜きを行なってください。(105ページ参照)
- 燃料は、雨水などがかからない場所に保管してください。

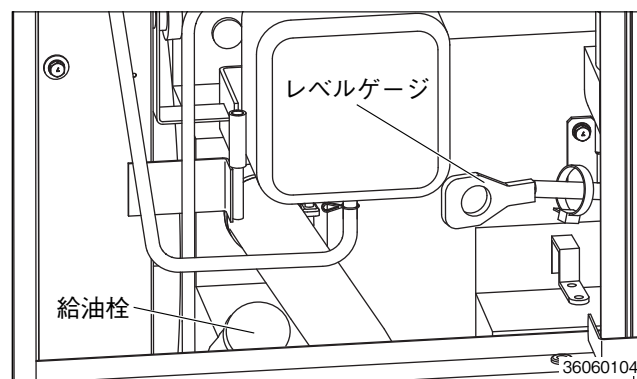
2. エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換

オイルフィルタの交換は、「お買いあげ先」に依頼してください。

① エンジンオイルの点検

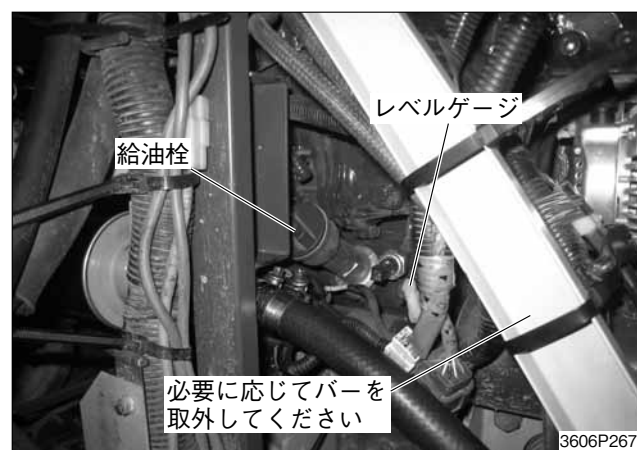
[463型, 563型仕様] の場合

- (1) 足元カバーのノブ (2個) を外して、足元カバーを外します。
- (2) レベルゲージを抜いて、先端をきれいに拭取ります。もう一度いっぱいに入ってから拔出し、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、オイルを給油口より規定レベル位置まで入れます。さらに、油漏れのないことも確認します。
- (3) 作業後に足元カバーを閉じてください。

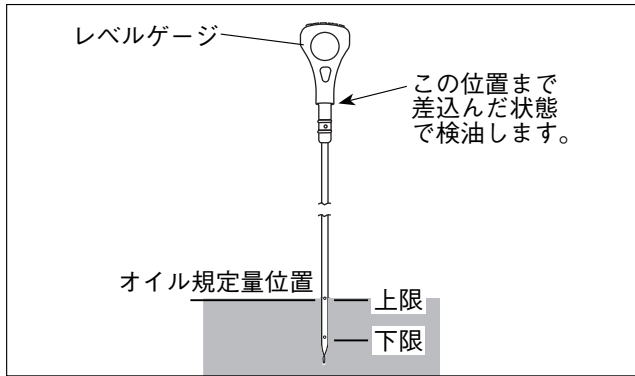


[570型仕様] の場合

- (1) グレンタンクを回動します。(117~118ページ参照)
- (2) エンジンカバー (後) を外します。
- (3) ①項(2)を参照してください。
- (4) 作業後、エンジンカバー (後) を取付け、グレンタンクを閉じます。(117~118ページ参照)



手入れのしかた

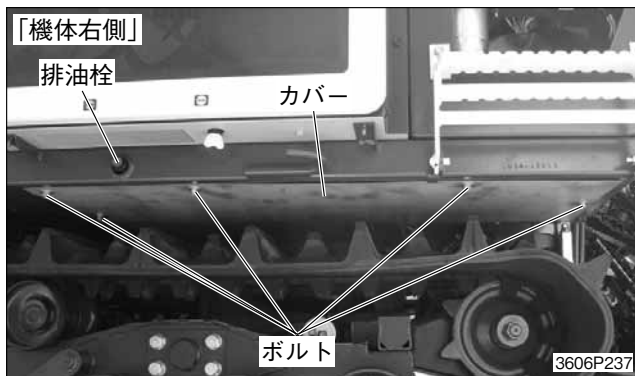


取扱いのポイント

- オイルの量は、エンジンが冷えているときに確認してください。
- 給油口からワラクズなどが入らないよう、事前に周囲を掃除してください。
- 排油栓、給油栓、レベルゲージは確実にセットされていることを確認してください。

② エンジンオイルの交換

- (1) エンジンの排油栓をゆるめます。
- (2) カバー取付ボルトを外しカバーを取外します。



- (3) 排油栓取付ボルトを外し、排油パイプを取外します。



- (4) 排油栓を取外し、オイルを抜きます。



取扱いのポイント

- オイルを抜くときは、オイルがこぼれないようになるべく開口部の大きなオイル受けを使用してください。
- 低温時はオイルが抜けにくい場合がありますので、あらかじめエンジンを暖機運転してから行ってください。

- (5) オイルを抜き終わったら排油栓を締め、取外しと逆の手順で組付けます。新しい「純正エンジンオイル」をレベルゲージの刻み線（上限）まで給油します。

・ディーゼルエンジン用オイル

[463型, 563型仕様]

API・CF級または(CF-4,CH-4), SAE・10W-30

[570型仕様]

API・CF級または(CI-4), SAE・10W-30

・オイル量

[463型, 563型仕様] ……8.5 L

[570型仕様] ……………11.2 L

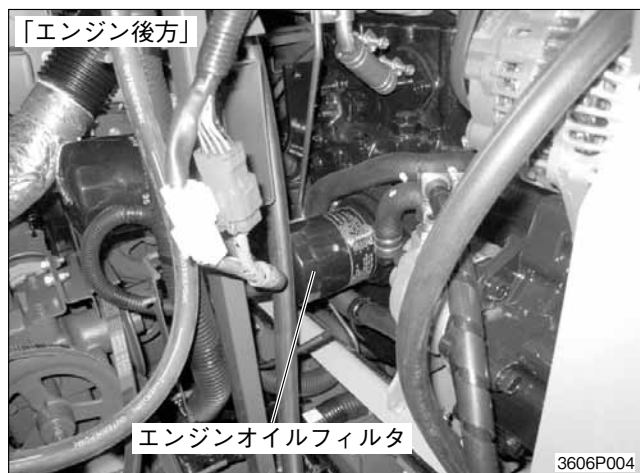
- (6) 交換後、エンジンを始動して、オイルランプが消えるまで低回転で運転します。(7ページ参照)

③ エンジンオイルフィルタの交換

オイルフィルタの交換は、「お買いあげ先」に依頼してください。

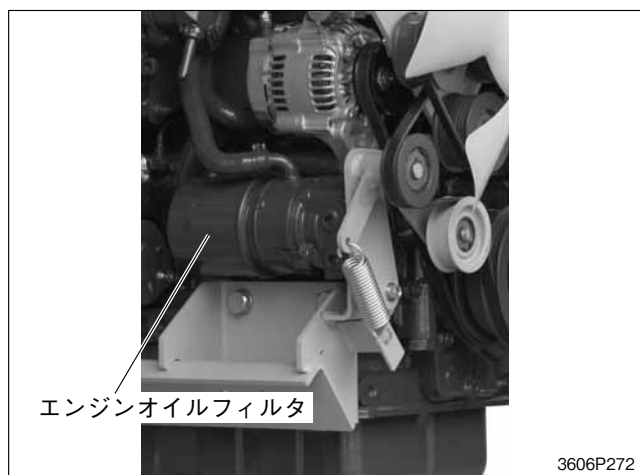
[463型, 563型仕様]

グレンタンクを回動し、エンジンカバー(後)を外した位置にあります。



[570型仕様]

グレンタンクを回動し、エンジンカバー(後)を外した位置にあります。



- (1) オイルフィルタは、「カートリッジタイプ」を使用しています。
- (2) オイルフィルタを交換したときは、オイル量が多く入るので、レベルゲージでオイル量を確認し、不足のときは、規定レベル上限までオイルを補給します。

3. ラジエータ冷却水の点検・交換

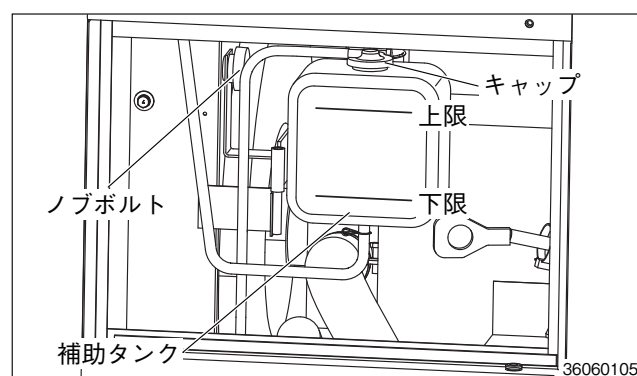
⚠警告 火傷防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後は、ラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「火傷」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの取扱いを誤ると、エンジンの寿命に大きく影響を与えます。ラジエータの点検は、カバーを開けて行います。

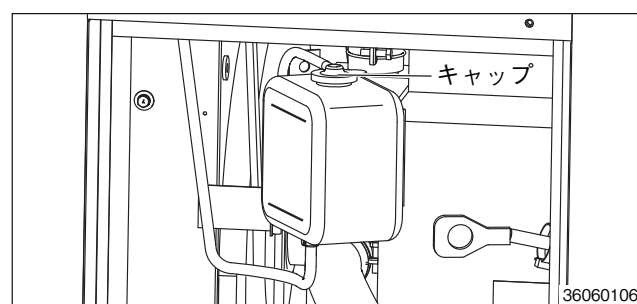
① 始業前の点検

- ・エンジンが冷えているとき、補助タンク内の冷却水が「給水レベルの上限と下限の間」にあるように補助タンクに冷却水を補給します。



② 補助タンクの水を切らしたとき

- (1) ラジエータキャップを外して、冷却水を口元まで注水し、キャップを閉めます。
- (2) ノブボルトをゆるめて、補助タンクを手前に回動させます。
 - ・補助タンクの「上限」位置まで給水します。
 - ・冷却水……清水(水道水)
 - ・給水後補助タンクを元の位置に戻しノブボルトを締付けて、足元カバーを取付けます。



手入れの
しかたの

手入れのしかた

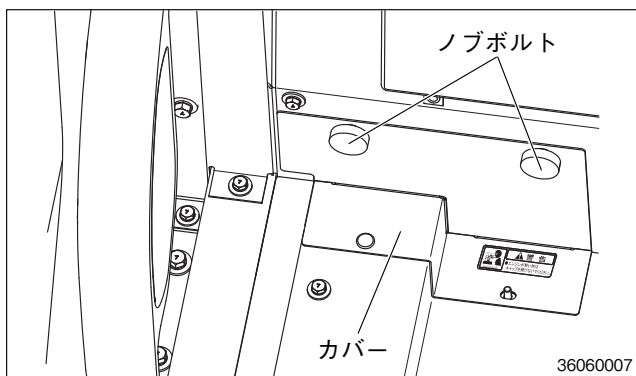
取扱いのポイント

- シーズン前には、ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。
- 補助タンク内の冷却水を始業前に点検し、不足しているときは補給してください。
- 補助タンクには「上限」以上入れないでください。運転中冷却水が溢れ出ます。

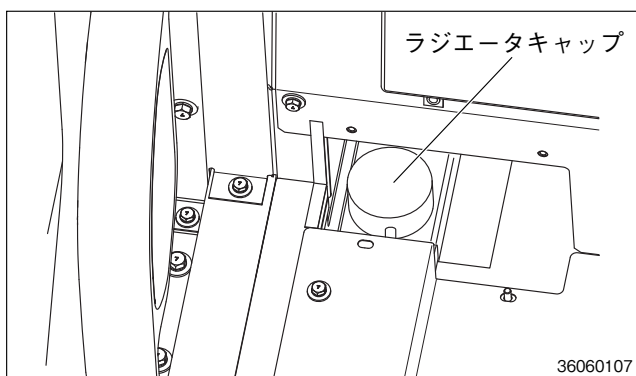
③ ラジエータ冷却水の交換

[463型, 563型仕様]

- (1) 座席右側後部のノブボルト（2個）を外してカバーを取外します。
カバーの下にラジエータキャップがあります。



- (2) ラジエータキャップを外し、次にラジエータ下部の排水栓から排水します。



[570型仕様]

- (1) エアクリーナー室カバー（右）を開けるとラジエータキャップがあります。
- (2) ラジエータキャップを外し、次にラジエータ下部の排水栓から排水します。



(3) ラジエータ内の水が、きれいになるまで水の
入替えを繰り返し、内部を洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

(4) 排水が終わったら排水栓を閉めます。

ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を給
水したのち、ラジエータキャップを閉めカバー
を取付けます。

(5) 不凍液の選定

工場出荷のときは、不凍液「ロングライフク
ーラント」(PT) が注入され「外気温度-25℃」
の凍結を防止する濃度になっていますが、1年
以上経過すると効力が低下しますので、冷却水
を抜き「不凍液濃度基準」を参考に入替えます。

「不凍液濃度基準」

外気温度 ℃	-5	-10	-15	-20	-25	-30
不凍液濃度 %	20~ 25	25~ 30	30~ 35	35~ 40	40~ 45	45~ 50

不凍液は「ロングライフクーラント」(PT) を
使用しますので、交換は「お買いあげ先」に依頼
してください。

・冷却水量 (補助タンク1.0L含む)

[463型, 563型] X仕様を除く…11.3L

X仕様……………12.8L

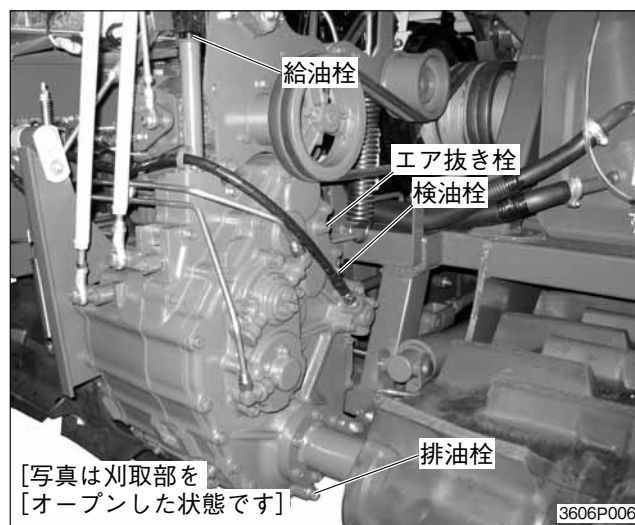
[570型] X仕様を除く… 8.9L

X仕様……………10.4L

取扱いのポイント

- 冷却水を交換したときは、エンジンを始動し冷
却水を循環させて、再度水量をチェックしてく
ださい。
- 不凍液を入替え直後に長期保管されるときは、
冷却水の循環が確認できるまでエンジンを「低
速で空運転」してください。

4. トランスミッションケースのオイル点検・交換



① 点検

- ・刈取部をオープンします。(130~135ページ参
照)・ミッションケース横の検油栓を外して、
オイルが出てくれば適正量です。
- ・不足しているときは、給油口より補給します。

② 交換

- ・オイル交換は、「お買いあげ先」に依頼してくだ
さい。
- ・ミッションケース下部の排油栓を外し、抜取り
ます。
- ・給油するときは、検油栓まで給油します。
- ・ギヤオイル…API・GL-5以上, SAE・90
- ・オイル量

RET, RH仕様を除く…18.0L

RET, RH仕様……………18.7L

取扱いのポイント

- 点検, 交換後に排油栓, 給油栓, 検油栓が確実
に取付けてあるか確認してください。

手
入
れ
の
し
か
た

5. 油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HST(走行, 搬送)オイルフィルタの交換

警告 傷害事故防止のために

◆油圧作動油を抜くときは、刈取部・機体を下げ、排出オーガを収納状態にして行います。下げ（収納）状態にしないと機体が傾いたり、刈取部が下がったりして人身事故の原因になることがあります。

この機械は、多くの油圧装置を採用しており、油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となります。

・油圧作動油を交換する際に、油圧オイルフィルタとHSTオイルフィルタの交換を同時に行います。

① 油圧作動油量の点検

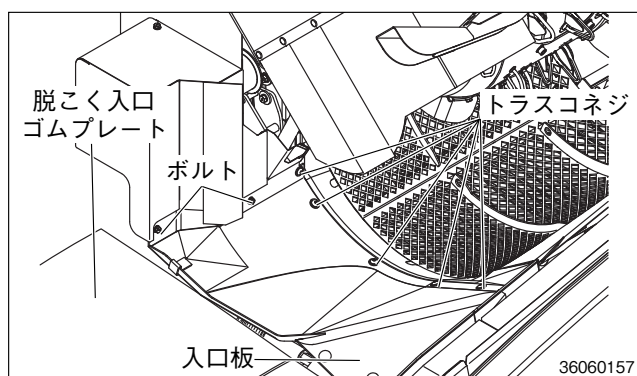
- ・脱こく供給口の下方の油圧オイルタンクの検油栓を外して、オイルが出てくれば適正量です。
- ・不足しているときは、給油口より補給します。

② 油圧作動油の交換

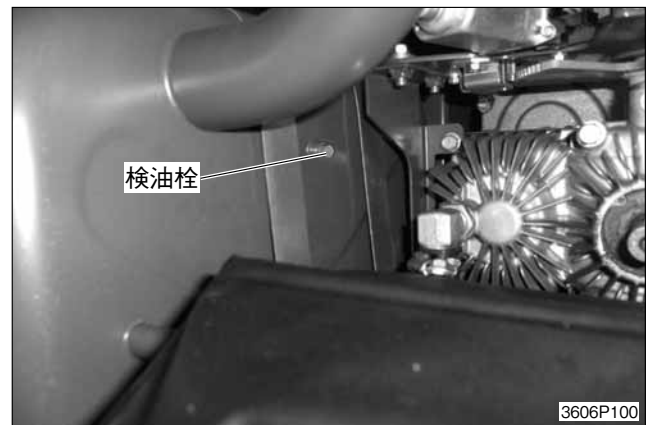
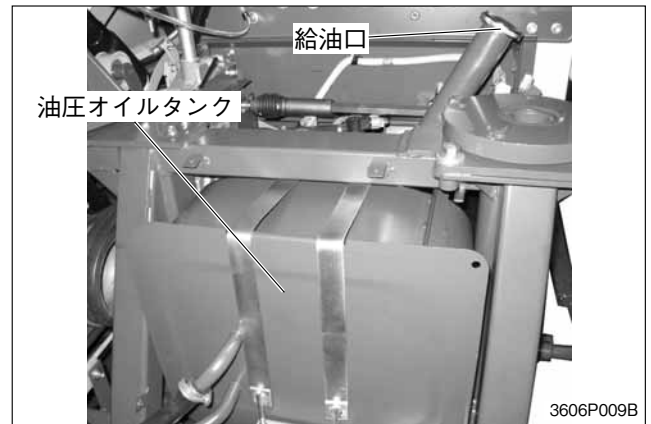
- ・油圧作動油、フィルタ交換は、「お買いあげ先」に依頼してください。
- ・油圧作動油の交換と同時に、油圧オイルフィルタ、HSTオイルフィルタの交換を行います。
- ・油圧作動油… **純正油** または、使用オイル表（193ページ）の指定オイル
- ・オイル量……28.5 L

（10分程度運転後のオイル補充分を含む）

- (1) コンポアップをし、刈取部の脱こく入口ゴムプレートを穂先ガイドで固定（はさんだ状態）にし、入口板を外します。



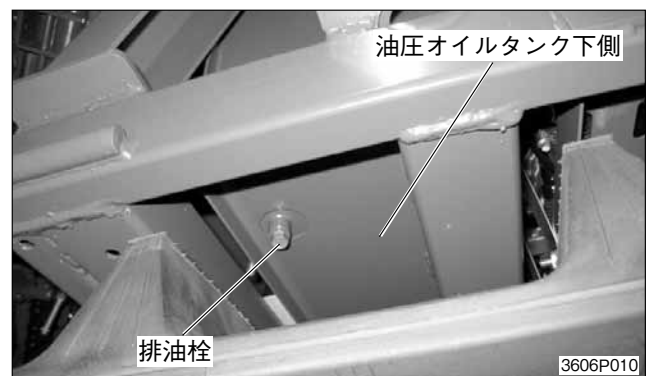
- (2) 検油栓を外して給油口より給油し、検油口よりオイルが出てくれば検油栓、給油口のキャップを締めます。



- (3) 作業を終了しましたら、カバー類を元の位置に取付けます。

③ 油圧作動油の抜取り要領

- (1) エンジンを始動し、刈取部・機体を下げ、排出オーガを収納状態にしてエンジンを停止します。
- (2) 給油口のキャップを外し、オイルタンク下側の排油栓を外して、油圧作動油を抜きます。
- (3) オイルを抜き終わったら、排油栓を締めます。



④ 油圧オイルフィルタの取外し要領

- (1) 油圧作動油のオイルフィルタは、「カートリッジタイプ」を使用していますので、交換は「お買いあげ先」に依頼してください。
- (2) 油圧オイルフィルタは、グレンタンクを回動（オープン）しエンジンと脱こくの間にあります。



- (3) 作業後グレンタンクを閉じ、グレンタンク下部カバーを取付けます。

⑤ HSTオイルフィルタの取外し要領（走行用）

- (1) HSTオイルフィルタは、「カートリッジタイプ」を使用していますので、交換は「お買いあげ先」に依頼してください。
- (2) HSTオイルフィルタは、トランスミッションの右側に装備してあります。



⑥ 油圧オイルフィルタ、HSTオイルフィルタの取付け要領

- (1) フィルタ取付面をきれいに掃除をして、フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり、滑りを良くして取付けます。
- (2) 締付けは手で行い、取付面にパッキンが当たってから2/3～3/4回転締付けます。

取扱いのポイント

- フィルタ取付面からオイルの漏れ、にじみがないか点検してください。
- 給油口とフィルタ周りの周辺をあらかじめ掃除をして、ゴミなどが入らないようにしてください。

⑦ 油圧作動油の給油要領

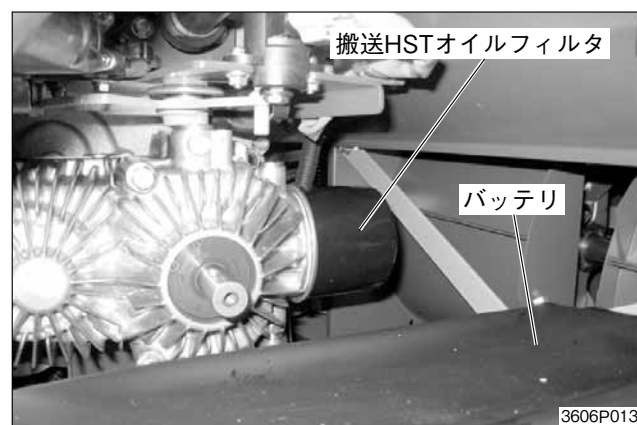
- (1) オイルタンクの給油口より、タンク中央の検油栓からオイルが出るまで給油します。
- (2) エンジンを始動し、アイドリング回転で10分間程度運転します。

エンジンを停止して、オイル量を点検し、検油栓から出るまで補給します。

さらに、油漏れのないことも調べます。

⑧ 搬送HSTオイルフィルタの取外し要領

- (1) 搬送HSTオイルフィルタは、「カートリッジタイプ」を使用していますので、交換は「お買いあげ先」に依頼してください。
- (2) 搬送HSTオイルフィルタは、バッテリーの奥に装備してあります。



手入れのしかた

6. 脱こくギヤケースのオイル点検・交換

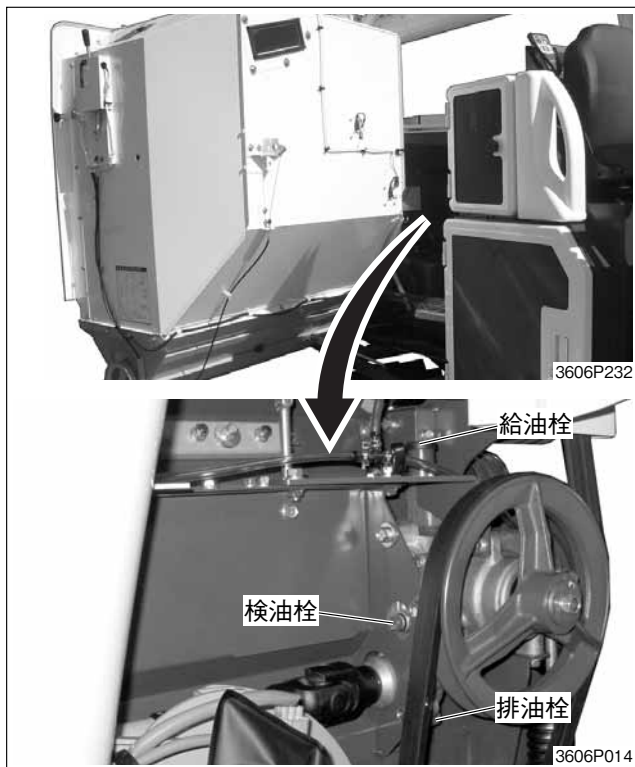
① 点検

- (1) グレンタンクを回動します。(117～118ページ参照)
- (2) 脱こくギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。
- (3) 不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。

② 交換

オイル交換は「お買いあげ先」に依頼してください。

- (1) 排油栓を外してオイルを抜き、排油栓を締めます。
- (2) 給油栓と検油栓を外し、給油口より給油します。検油口からオイルが出てきたら、検油栓を締め、給油栓を取付けます。



- ・ギヤオイル…API・GL-5以上,
SAE・90

- ・オイル量……463型, 563型 : 0.55 L
570型 : 0.4 L

- (3) 作業後グレンタンクを閉じます。(117～118ページ参照)

7. こぎ胴ギヤケース

① 点検

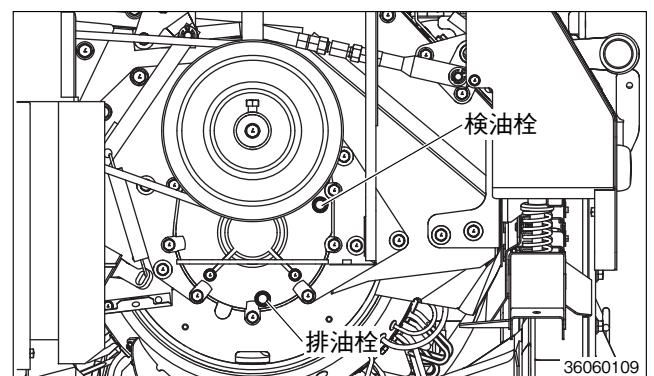
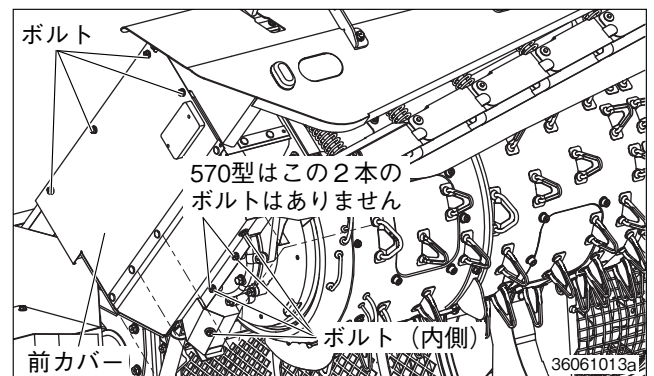
- ・ギヤケースの検油栓を外してオイルが出る程度が適量です。
- ・不足しているときは給油栓を外して給油口より補給します。



② 交換

オイル交換は「お買いあげ先」に依頼してください。

- (1) こぎ胴部の前カバーを外します。



- ・ギヤケース下部の排油栓を外し、オイルを抜き取り、給油口より給油します。

- ・ギヤオイル…API・GL-5以上,
SAE・90

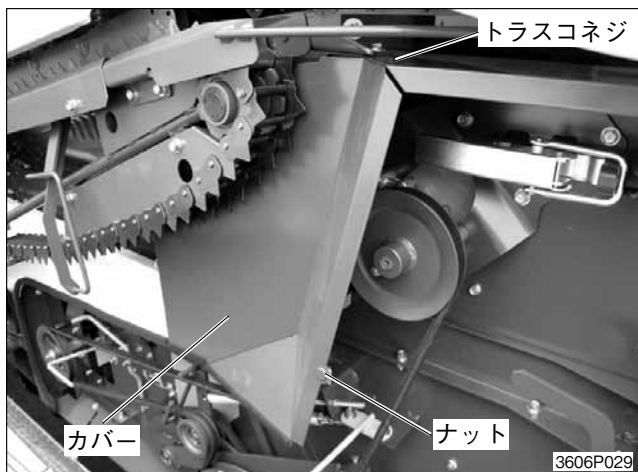
- ・オイル量……0.65 L

- (2) 作業後カバーを元の位置に取付けます。

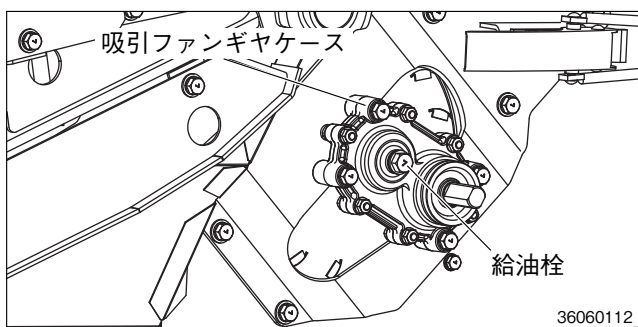
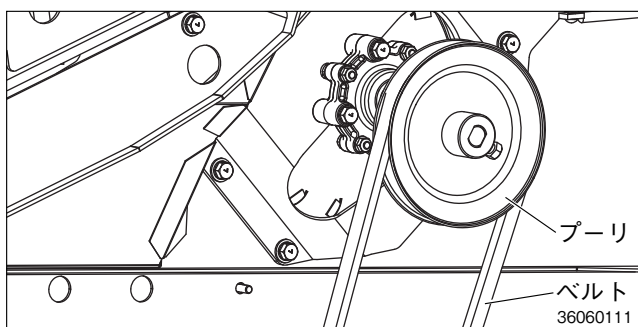
8. 吸引ファンギヤケース

オイル交換は「お買いあげ先」に依頼してください。

- (1) 脱こくサイドカバー（上）（下），カットサイドカバーを取外します。
- (2) カバーのトラスコネジとナットを外します。



- (3) ベルトを外し，プーリを取外します。



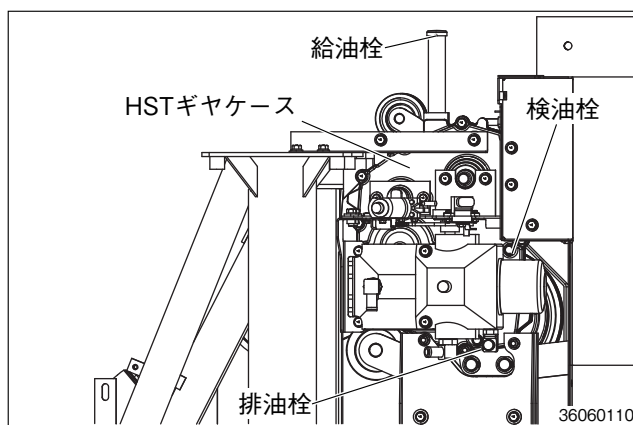
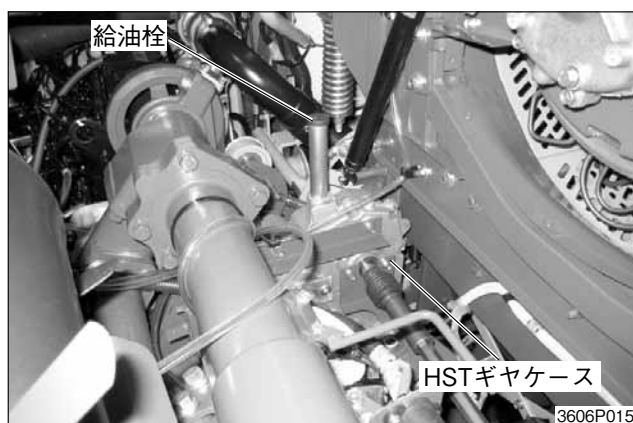
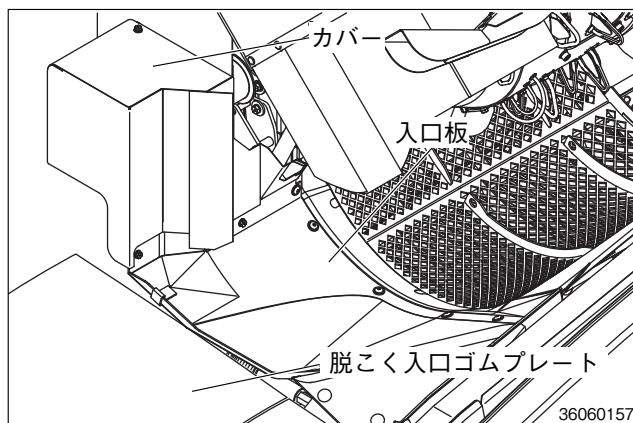
- ・ギヤオイル…API・GL-4以上，
SAE・10W-30
- ・オイル量……0.07L

- (4) 作業後プーリを取付け，ベルトを掛けて，カバーのトラスコネジ，ナットを締付けます。
- (5) 脱こくサイドカバー（上）（下），カットサイドカバーを取付けます。

9. 搬送HSTギヤケース

オイル交換は「お買いあげ先」に依頼してください。

- (1) 脱こく入口のゴムプレートをめくり，コンボアップをして入口板とカバーを外します。



- ・ギヤオイル…API・GL-5以上，
SAE・90
- ・オイル量……1.4L

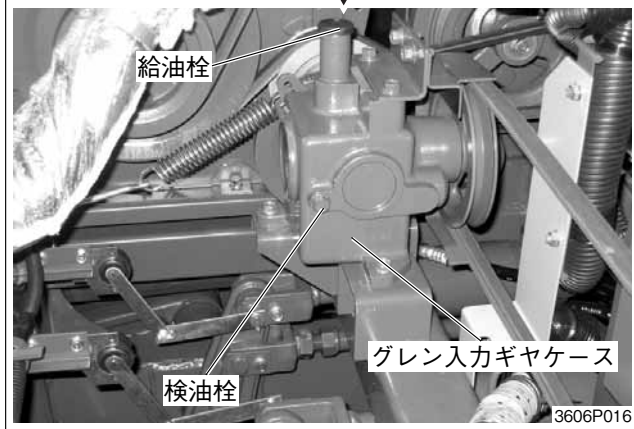
- (2) 作業後カバー類を元の位置に取付けます。

手入れの
しかたの

10. グレン入力ギヤケースのオイル点検・補給

① 点検・補給

- (1) グレンタンクを回動します。(117～118ページ参照)
- (2) グレン入力ギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。
- (3) 不足しているときは給油栓を外して給油口より補給します。



- ・ギヤオイル…API・GL-5以上,
SAE・90

- ・オイル量……0.5 L

- (4) 作業後グレンタンクを閉じます。(117～118ページ参照)

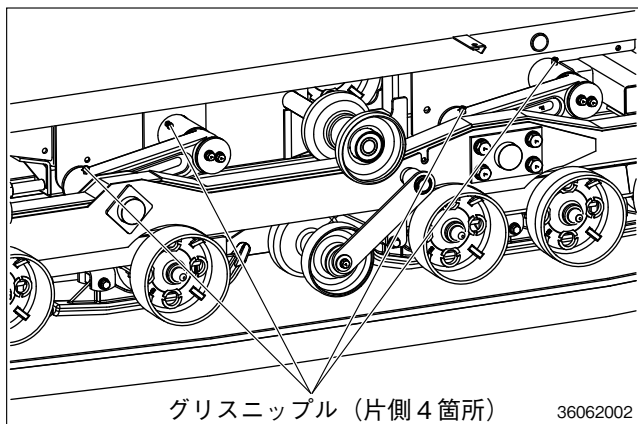
11. 集中注油タンク



- ・刈取部サイドカバー (右) を外し、タンクに給油します。給油後は刈取部サイドカバー(右)を取付けます。
- ・エンジンオイル
- ・オイル量……4.3 L

12. 給脂箇所

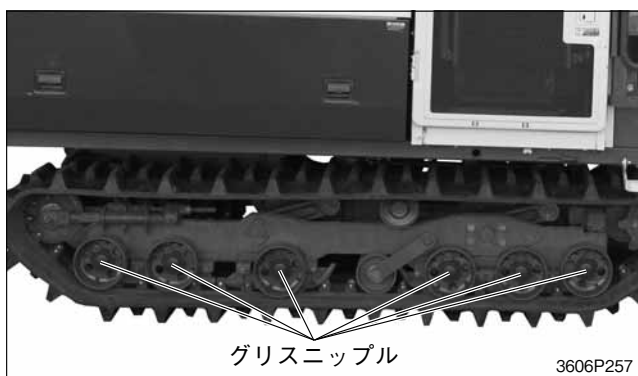
① 水平リンク



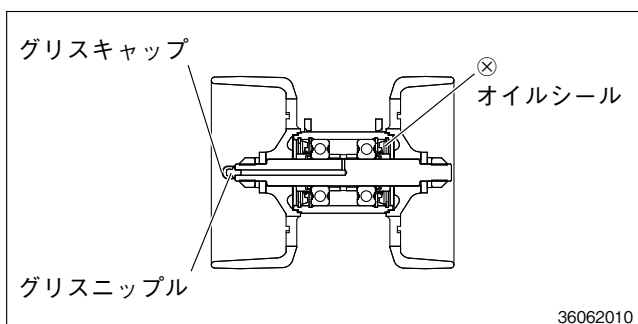
左右8箇所グリスガンで給脂します。

- ・リチウムグリス
- ・左右……8箇所

② ローラ



- ・左右12箇所グリスガンで給脂します。
- ・グリスアップ箇所のグリスキャップを外し、グリスニップルからリチウムグリスをポンプでオイルシール部 (⊗部) よりわき出るまで封入してください。
- ・グリスアップが終わりましたらグリスキャップを取付けてください。



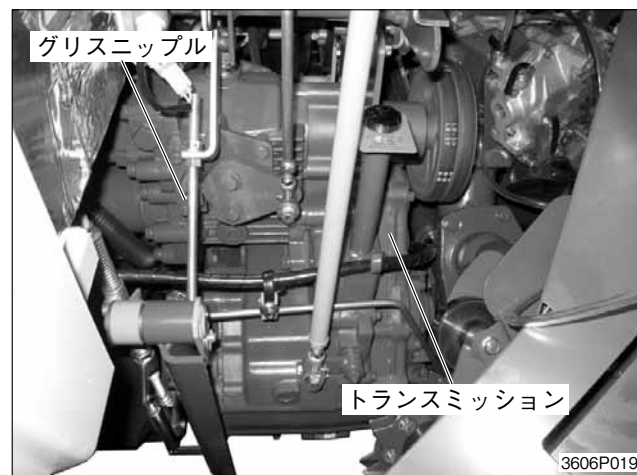
③ オーガ旋回部への給脂

- (1) グレントank後部カバーをオープンし、ストップパで固定します。
- (2) 鉄パイプにグリスニップルがついています。(表裏2箇所) グリスガンで給脂してください。
- (3) 給脂後グレントank後部カバーを閉じます。



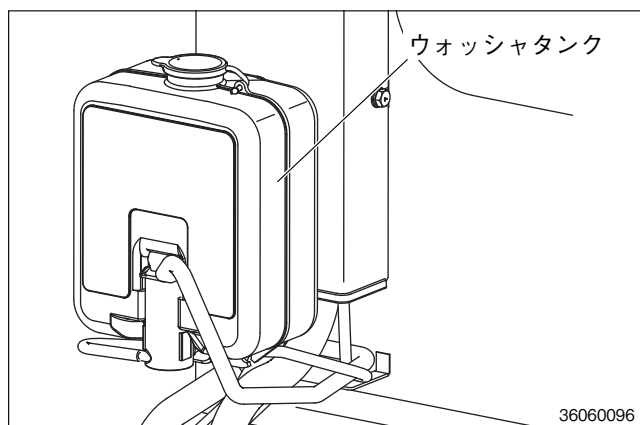
④ 走行HSTトラニオン軸部への給脂

- (1) 刈取部と運転席部の間から走行HSTトラニオン軸部についているグリスニップルにグリスガンで給脂してください。



手入れの
しかたの

13. ウォッシュタンク [X仕様]



① 点検

キャビン後側にあるウォッシュタンクのウォッシュ液量を点検します。

② 給水

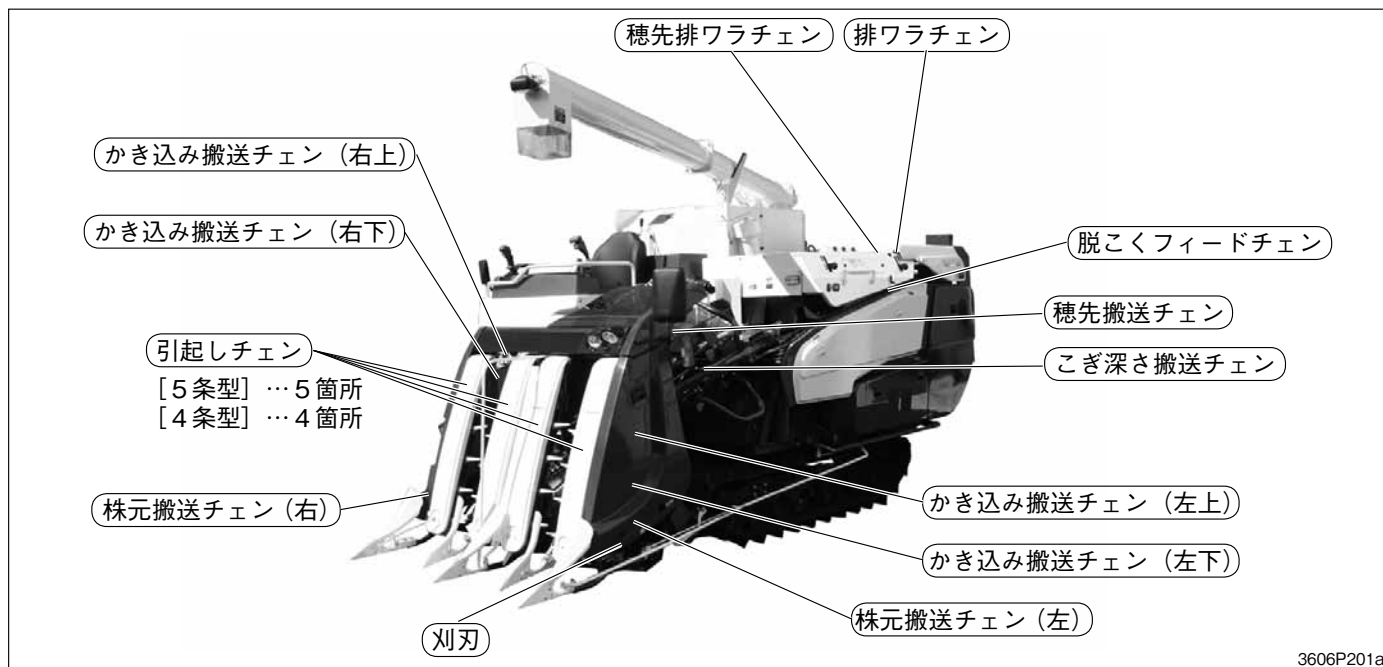
- (1) 給水口よりウォッシュ液を給水します。
- (2) 給水口よりあふれないようにします。

取扱いのポイント

- タンクの満量は1.0Lです。
- ウォッシュ液の濃度は水0.65Lに対してウォッシュ液0.35Lです。

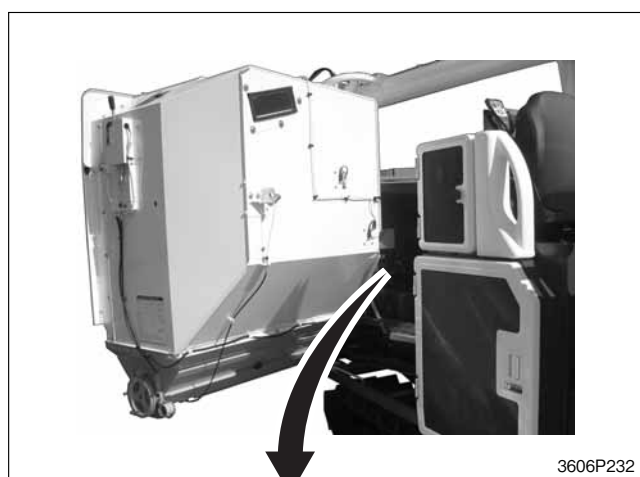
14. 各部の注油

各部の注油は、始業前および刈取面積に応じ適宜行います。刈取部関係の注油（○箇所）は集中注油装置で注油ができます。



3606P201a

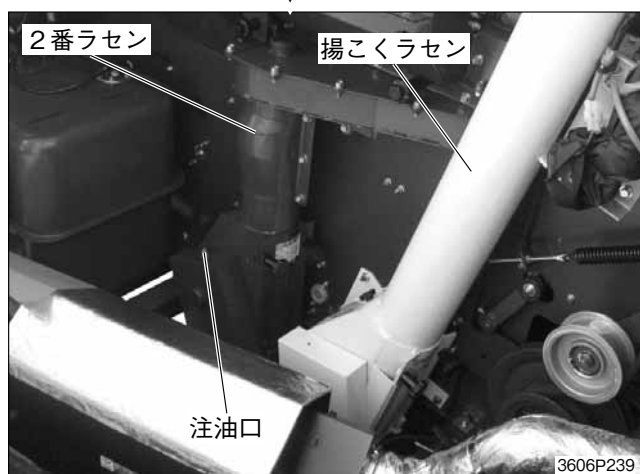
そのほかの注油は「油差し」で注油します。



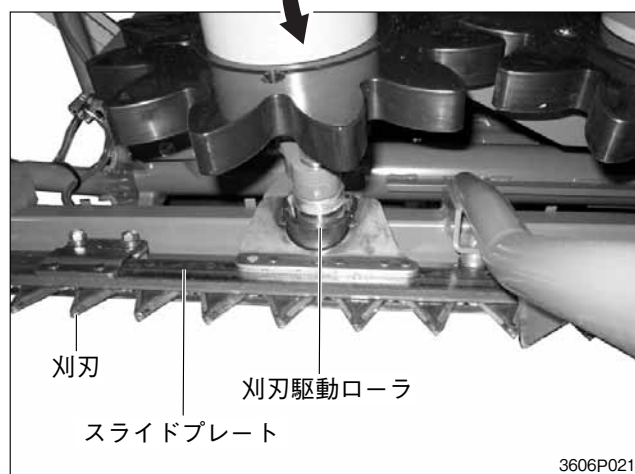
3606P232



3606P254



3606P239



3606P021

手入れの
しかたの

15. 集中注油装置の使い方

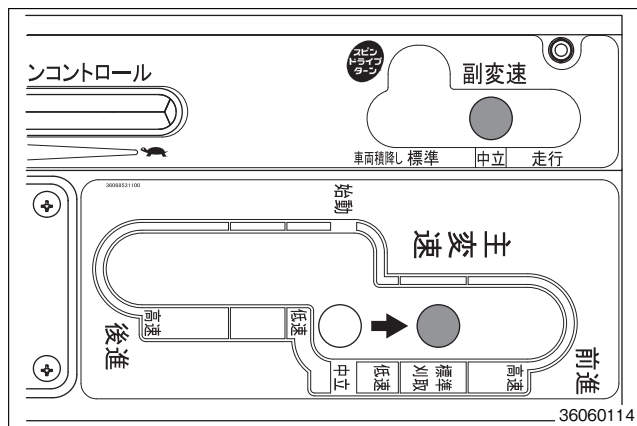
警告 傷害事故防止のために

◆平坦な場所に機械を置いてください。傾斜地では機械が動き出し、傷害事故の原因となります。

・クローラに車止めをかけてください。

◆刈取部、脱こく部を作動しますので、機械の周囲に人を近づけないでください。

- ① エンジンを始動させます。
- ② 機体、刈取部をいっぱい下げます。
- ③ 副変速レバーを《中立》にします。
- ④ エンジン回転を低回転にします。
- ⑤ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《刈取》にします。
- ⑥ 主変速レバーを《標準刈取》位置にして、刈取部を回転させます。

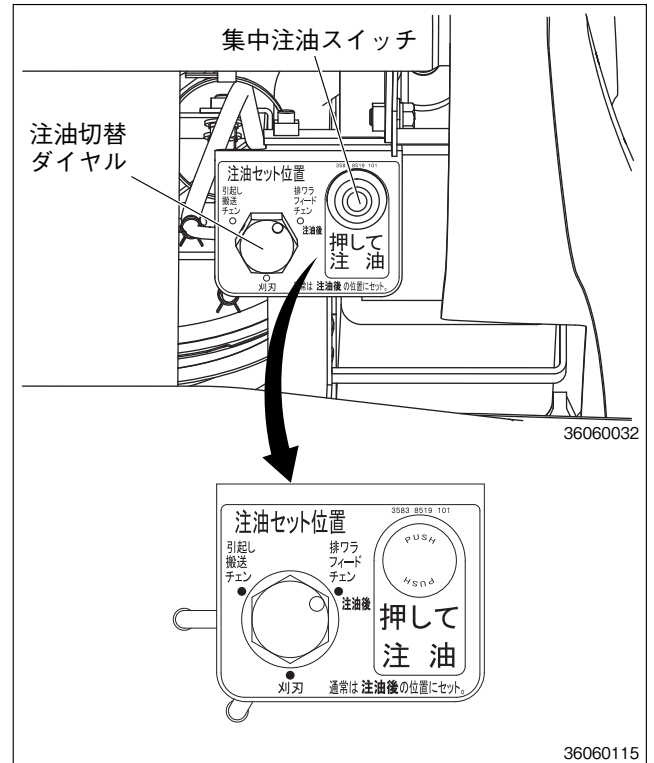


⑦ 集中注油スイッチを押している間、自動的に注油されます。また、注油切替ダイヤルにより以下の注油箇所の切替えができます。

- ・引起し、搬送チェン（株元搬送左・中・右、かき込み搬送左・中、こぎ深さ搬送、穂先搬送）
- ・刈刃
- ・排ワラフィードチェン・注油後（フィードチェン、排ワラチェン、注油後）

取扱いのポイント

- 刈取部に注油する場合には、刈刃部をいっぱい上げるとスライドプレート部に注油できます。



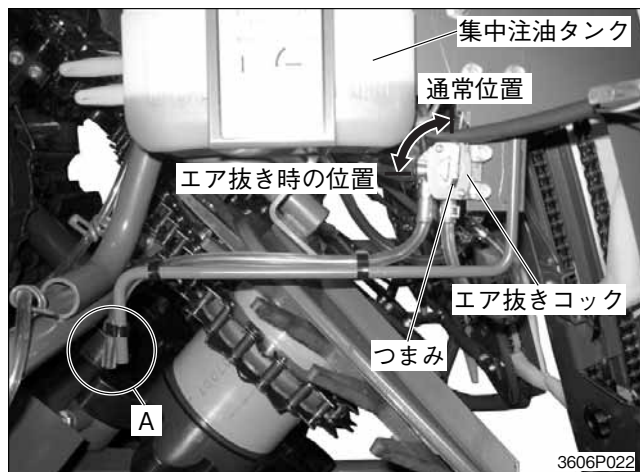
- ⑧ 注油作業終了時には、オイル漏れ防止のため注油切替ダイヤルを《注油後》位置にしてください。

取扱いのポイント

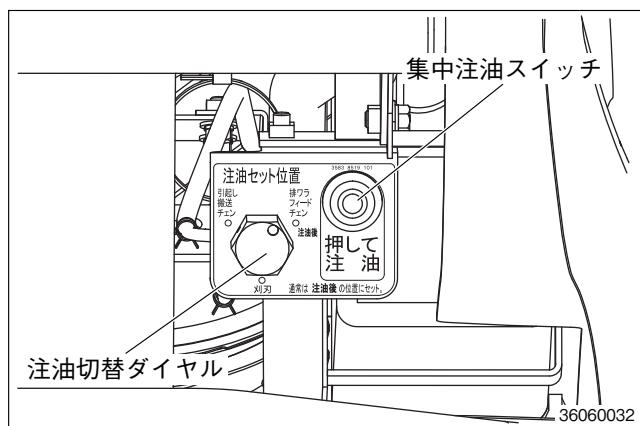
- 注油切替ダイヤルを切替中に、集中注油スイッチを操作すると、故障の原因となりますので、スイッチを押さないでください。
- 注油中にオイルが流れ落ちることがありますので、注油場所を選んで行き、こぼれたオイルは、拭取ってください。
- 注油ホースの継ぎ部からオイル漏れがないか、点検確認してください。
- 注油切替ダイヤルは、注油位置マークの指示位置に確実に切替えてください。
- 《こぎ深さ・注油》ヒューズ（20 A）が切れると、注油はされません。（108～110ページ参照）
- 湿田作業で刈刃の上に溜まった土を掃除するときに、ノズル・ノズル取付プレート・注油ホースを鎌などで損傷しないようにしてください。
- ノズルが詰まると、注油の妨げとなりますので、針などで詰まりを除去してください。このとき、刈取部を上げて作業する場合は、油圧を固定し、刈取部を固定脚に乗せてから行なってください。また、エンジンは停止してください。

集中注油タンクにオイルがなくなりオイルを給油する場合に次の手順でエア抜きを行なってください。

- ❶ 刈取部サイドカバー（右）を外します。
- ❷ エンジンを始動させます。
- ❸ エア抜きコックのつまみを左へ回し、エア抜き時の位置にします。



- ❹ 集中注油スイッチを押してA部よりオイルが出たことを確認します。



- ❺ エア抜きコックのつまみを右へ回し、通常位置に戻します。
- ❻ エンジンを切り、刈取部サイドカバー（右）を取付けます。

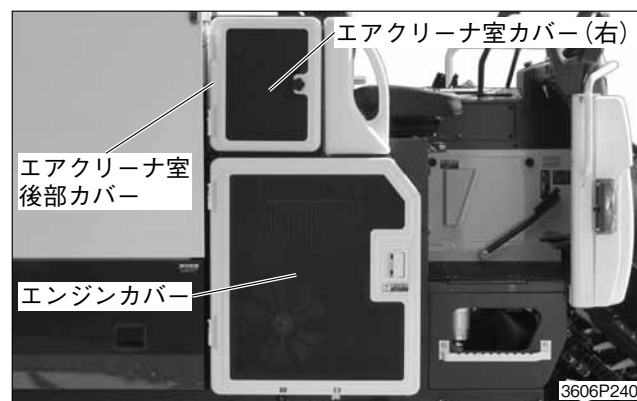
3. 各部の点検と掃除のしかた

1. ラジエータ吸気部の掃除

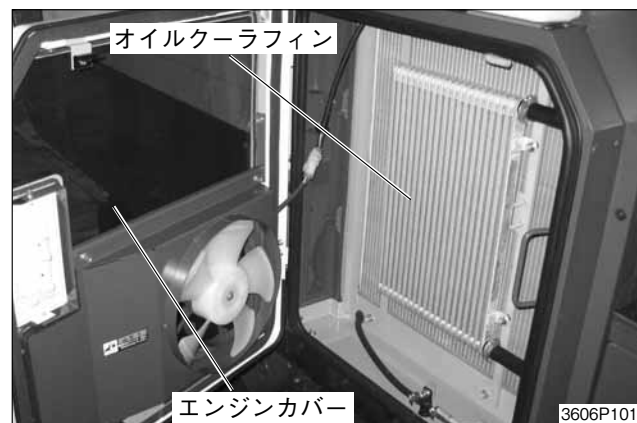
⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆エンジン周辺を掃除するときは、スタータスイッチを《切》にしてエンジンを停止させ、エンジンが冷えたことを確認してから行います。
- ◆スチーム洗車はしないでください。冷媒の圧力が上昇して破裂のおそれがあります。

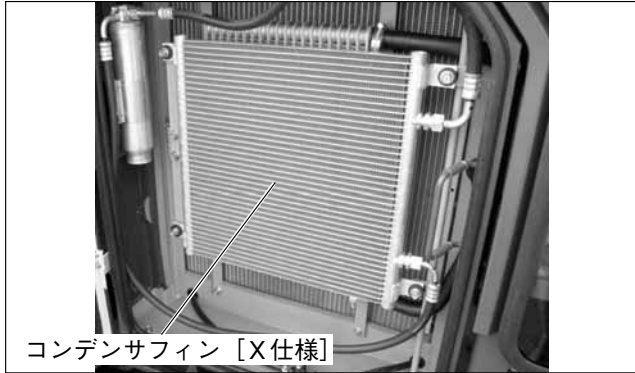
エンジンカバーおよび金網、エアクリーナ室カバー、ラジエータフィン、オイルクーラフィンにゴミなどが目詰まりすると、冷却風の通りが悪くなり、エンジンが「オーバーヒート」する原因となります。



- ❶ エンジンカバーおよびエアクリーナ室カバー（右）の表面のゴミを取除きます。
- ❷ グレンタンクを回動し、エアクリーナ室後部カバー表面のゴミを取除きグレンタンクを閉じます。
- ❸ エンジンカバーを開き、ゴミを取除きます。



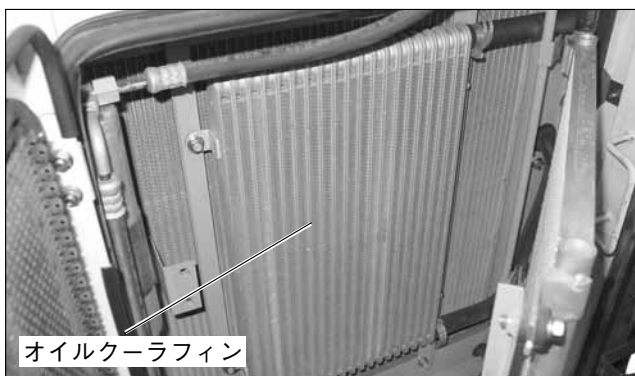
手入れの
しかたの



④ ラジエータフィン部, オイルクーラフィン部, コンデンサフィン部 [X仕様] に「ゴミ詰まり」を生じたときは, 次の方法で取除きます。

各々の取付ボルト (2ヶ) を外してオープンします。

電気掃除機 (小口径のノズル) でゴミを吸い取るか, コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押当てないでください。強く押当てると, フィンが変形するおそれがあります。



⑤ ボルトを取付けエンジンカバーを閉じます。

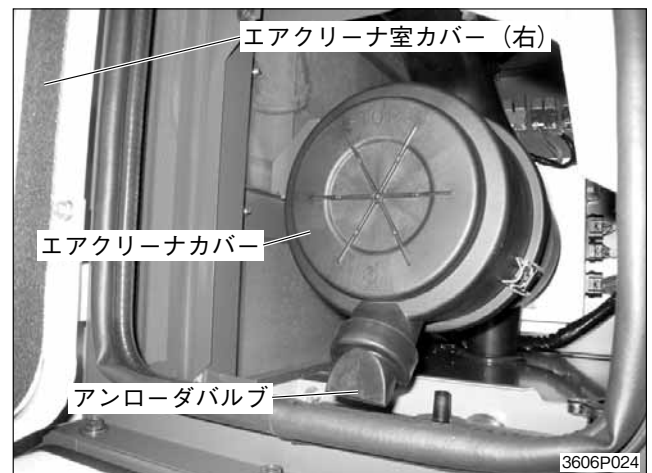
取扱いのポイント

● エンジンカバーを開けたときは, ラジエータの冷却水を確認してください。(91~92ページ参照)

2. エアクリーナの掃除

・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると, エンジンの内部損耗や出力低下を招きます。

- ① エアクリーナ室カバー (右) を開けます。
- ② エアクリーナカバーのフック (3箇所) を外し, エレメントを取出します。
- ③ エレメントは軽く叩くか, コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。



- ④ 取付けは, アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付けます。
- ⑤ エアクリーナ室カバー (右) を閉じます。

取扱いのポイント

● コンプレッサでエアを吹きつける場合は, 空気圧「588kPa (6kgf/cm²) 以下」で行なってください。

3. 燃料フィルタの掃除・交換 [463型, 563型仕様]

⚠危険 火災防止のために

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料がもれている場合は、火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタは、燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。

① 燃料フィルタランプが点灯したときは、フットプレートをめくり燃料フィルタのドレンコックをゆるめて、手動ポンプを「5回～10回」上下操作し、中に溜まった水を抜きます。



・ドレンコックをしめた後、フットプレートを元にもどし燃料回路のエア抜きをします。(105ページ参照)

② 燃料フィルタは「カートリッジタイプ」を使用していますので「定期点検整備表」(85～86ページ参照)に従って交換します。

「燃料フィルタの交換手順」



- (1) 燃料コックを《閉》位置にします。
- (2) 燃料フィルタのフィルタポットをゆるめ、フィルタポット、フィルタを外して交換します。
- (3) 組付けは取外しと逆の手順で行います。
- (4) 燃料コックを《開》位置にします。
- (5) 燃料回路のエア抜きを行います。



手入れの
しかたの

4. 燃料回路のエア抜きのしかた [463型, 563型仕様]

運転途中での燃料切れや、燃料フィルタの掃除や交換時は、次の手順でエア抜きを行います。

❶ 燃料タンク給油口のフィルタをとおして、燃料（ディーゼル軽油）を給油します。

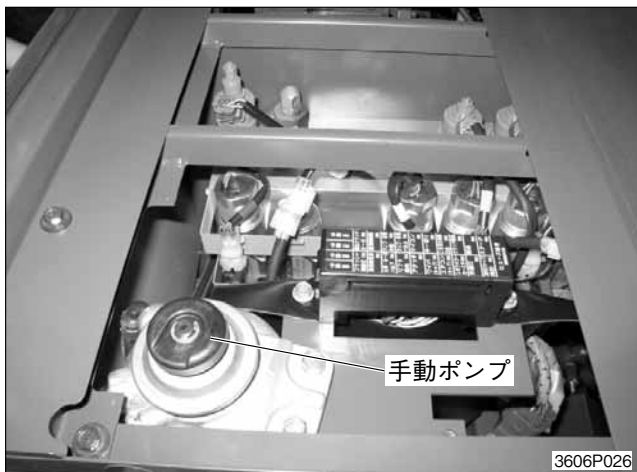
- ・燃料は……JIS2号（-7.5℃まで）
JIS3号（-20℃まで）

❷ 燃料コックが《開》位置であることを確認します。



❸ スタータスイッチを《入》位置にし、「約2分」程度待ちます。

❹ スタータスイッチを《入》位置のまま、燃料フィルタの手動ポンプを、「40回程度」上下操作を行います。



❺ スタータスイッチを《始動》に回し、エンジンを始動します。

- ・10秒程度セルモータを回してもエンジンが始動しない場合は、もう一度❹項からの操作を行います。

取扱いのポイント

- 燃料の中に、ゴミなどが混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり、燃料ポンプが作動しなくなることがありますので、給油口のフィルタを通して給油してください。

5. 燃料フィルタ・セジメンタの掃除・交換・エア抜き [570型仕様]

⚠危険 火災防止のために

- ◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料が漏れている場合、火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタ・セジメンタは、燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。



燃料フィルタは「カートリッジタイプ」を使用していますので「定期点検整備表」（85～86ページ参照）に従って、「お買いあげ先」にて交換します。

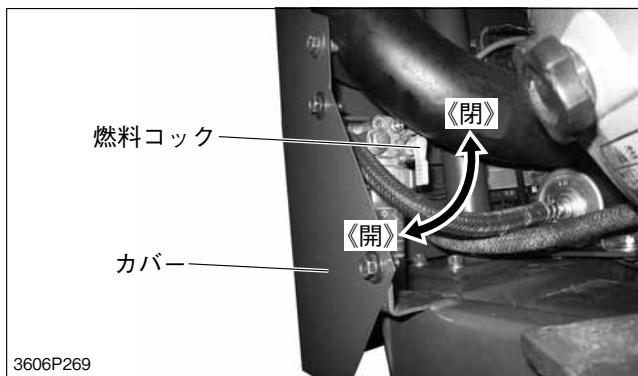
❶ 「燃料フィルタの交換と掃除」

(1) 交換

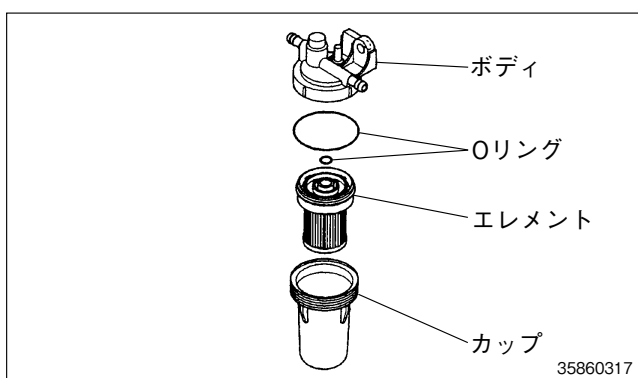
50時間ごとに掃除し、200時間ごとにエレメントを交換します。

(2) 掃除

- 1) タンク下部カバーを取外します。
- 2) カバーを取外します。
- 3) 燃料コックを《閉》位置にします。



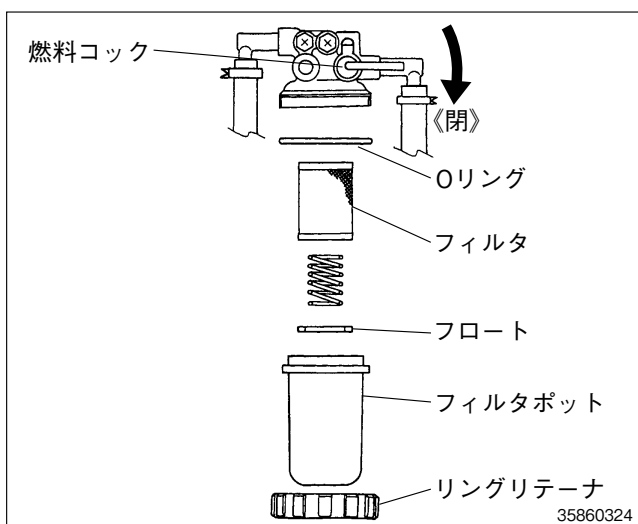
- 4) カップを取外し、きれいな軽油で洗浄します。



- 5) エレメントを取外し、きれいな軽油で洗浄または交換します。
 6) 組付けは、Oリングに注意しながらエレメントとカップを取付け、締め付けます。
 7) 燃料コックを《開》位置にします。
 8) タンク下部カバーを取付けます。

② 「燃料セジメンタの掃除」

- 1) タンク下部カバーを取外します。
 2) 燃料コックを《閉》位置にします。
 3) リングリテーナをゆるめ、フィルタポットとともにフィルタを取外します。



- 4) 取外したフィルタを、コンプレッサで圧縮空気を吹きつけてゴミを掃き出します。
 5) フィルタポット内のゴミやよごれをきれいに掃除します。
 6) 組付けは取外しと逆の手順で行います。
 7) 燃料コックを《開》位置にします。
 8) タンク下部カバーを取付けます。

③ エア抜きの方法

燃料コックを《開》位置にし、スタータスイッチを《入》位置にして、約2～3分そのままにして置くと自動でエア抜きができます。

取扱いのポイント

- 燃料の中に、水やゴミなどが混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり、燃料ポンプが作動しなくなることがありますので、給油口のフィルタを通して給油してください。
- フィルタのゴミを掃除するときはコンプレッサの空気圧を686kPa (7kgf/cm²) 以下にしてください。

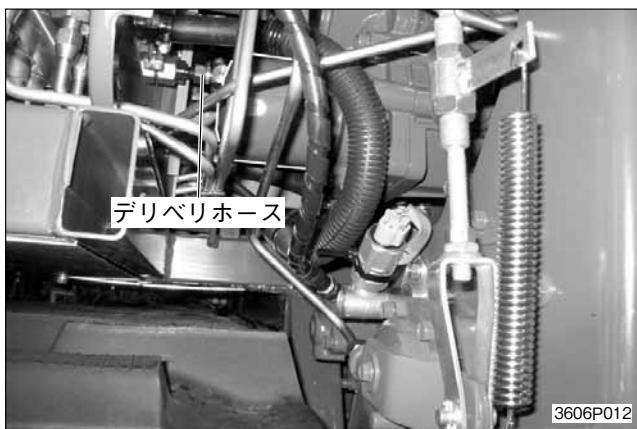
6. ソレノイドバルブのフィルタの点検と掃除

油圧作動油の劣化や、汚れによる作動不良などを防止するため、ソレノイドバルブユニット内部にフィルタが設けてあります。

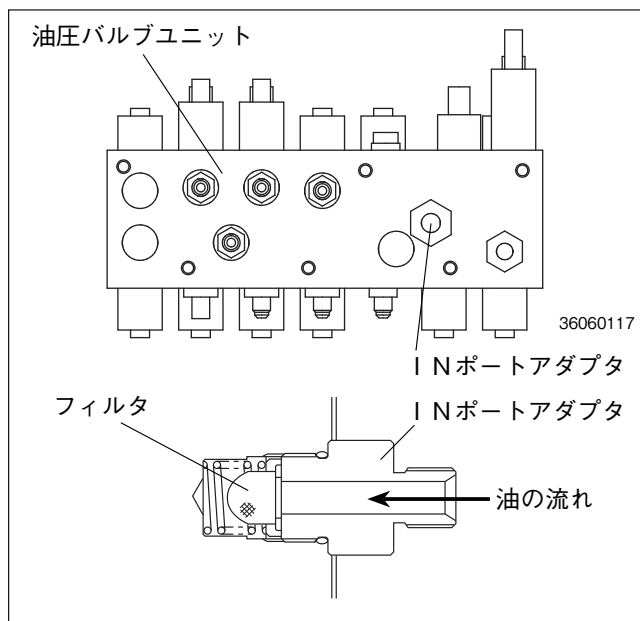
・掃除は、85～86ページの「定期点検整備表」に従って、「お買いあげ先」に依頼してください。

① フィルタの清掃

(1) 刈取部をオープンします。(130～135ページ参照)



(2) デリバリホースを外してから I Nポートアダプタ（六角対辺30）を外し、フィルタを取外します。



(3) フィルタの外側よりエアを吹付けて、きれいに掃除します。
 (4) 清掃したフィルタを、方向を間違えないように組み込みます。

(5) I Nポートアダプタを取付けます。

(6) 刈取部を閉じます。(130～135ページ参照)

② 組付け後の操作確認

(1) エンジンを始動し、マルチステアリングレバーにて刈取部を3～4回上下させて、カバーの取付部およびホースの継ぎ部の油漏れがないか確認します。

(2) エンジンを停止して、オイルタンクのオイル量を点検し、不足していれば検油枠まで補給します。

7. エアフローセンサの点検と掃除

エアフローセンサ内部へのワラズなどの進入を防止するため、センサユニット内部にフィルタが設けてあります。

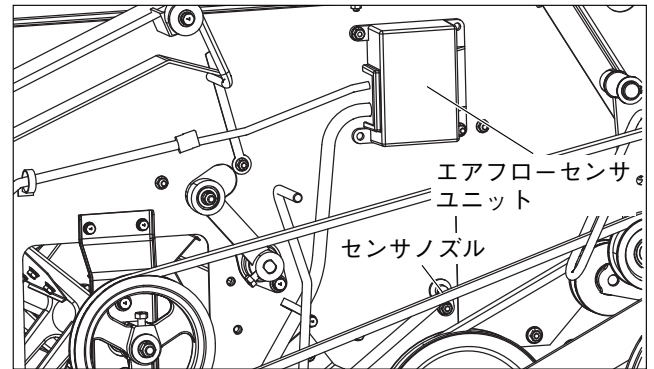
・掃除は85～86ページの「定期点検整備表」に従って行います。

① エアフローセンサの清掃

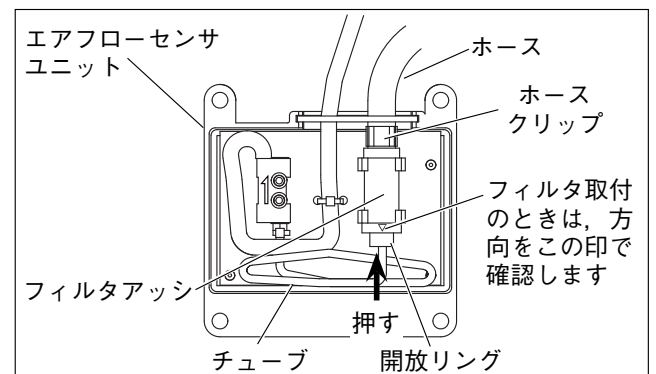
センサを破損しないために手順にそって作業してください。

(1) 脱こくサイドカバー（上）、（下）を取外します。

(2) エアフローセンサユニットを取外します。

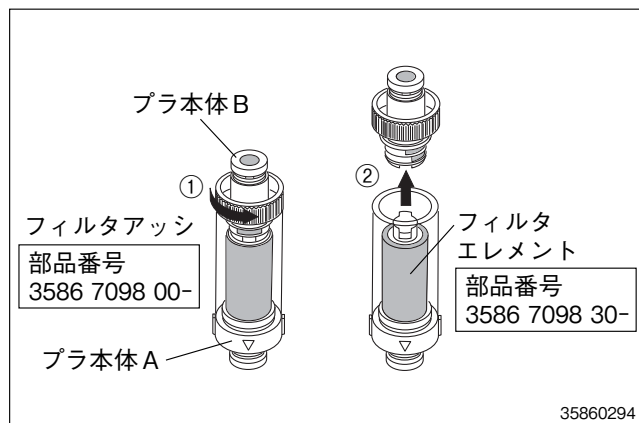


(3) フィルタアッシの開放リング部を押してチューブを外します。ホースクリップをプライヤなどでゆるめてホースをフィルタアッシから外し、フィルタアッシをユニットから取外します。



(4) フィルタアッシからフィルタエレメントを取外します。

- ① プラ本体Bを反時計方向へ45度回転させます。
- ② プラ本体Bを引抜きます。

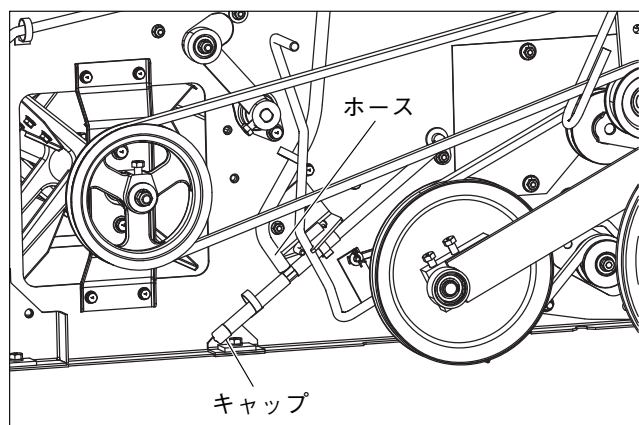


取扱いのポイント

- プラ本体Bを回転させるときは絶対に45度以上回転させないでください。本体を破損させるおそれがあります。

(5) フィルタ内部とフィルタエレメントをエアなどできれいに掃除してください。

(6) キャップを外しエアなどでホース内部のワラクズなどのゴミを取り除きます。掃除後はキャップを必ず装着してください。

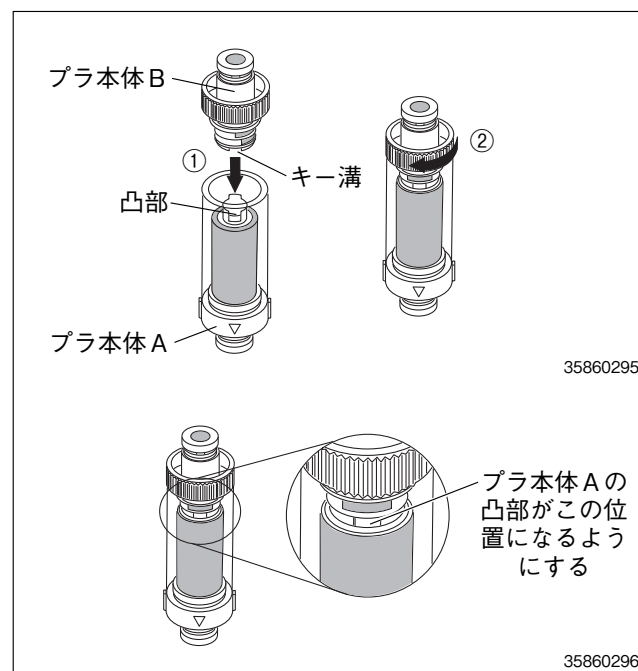


取扱いのポイント

- ホースにエアフローセンサユニットを接続したままでエアなどを使用するとセンサの故障の原因となります。必ずエアフローセンサユニットからホースを外してエアなどで掃除してください。

(7) 清掃したフィルタエレメントを、フィルタ内部に組み込みます。

- ① プラ本体Aの凸部をプラ本体Bのキー溝に合わせ突き当たるまで押込みます。
- ② プラ本体Bを時計方向に45度回転させロックしてください。



取扱いのポイント

- プラ本体Bを回転させるときは絶対に45度以上回転させないでください。本体を破損させるおそれがあります。
- ロック時にはプラ本体Aの凸部が確実にプラ本体Bの穴の中心にくるようにしてください。

(8) フィルタアッシに刻印された△印を確認し、向きに注意してフィルタアッシをエアフローセンサに組み込み、チューブとホースを取付けます。

(9) エアフローセンサユニットを本機に取付け、脱こくサイドカバー（上）、（下）を取付けます。

手入れの
しかたの

8. 電装関係

⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと、同じ容量のヒューズを使用してください。針金、銀紙などを使用すると、配線の過熱焼損の原因になります。

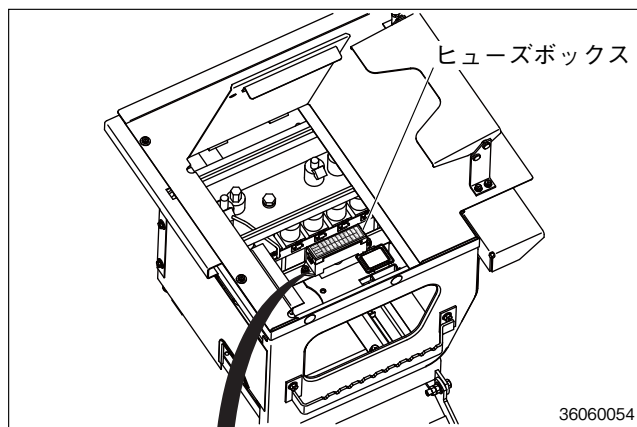
配線の回路に異常を生じたとき、事故を未然に防止するために、ヒューズが設けてあります。

運転中、電気系統の異常を確認したときは、ヒューズの状態をチェックします。

① ブレード（板）ヒューズ

(1) ヒューズボックス内の各種ヒューズ

運転席のステップをめくるとヒューズボックスがあります。



予備 10A	フラッシュ	10A	ワイバ	10A
予備 15A	排出クラッチ	15A	(キャブ) キー切り	10A
予備 20A	オーガ	20A	エアコン	20A
予備 30A	非常時電源	30A	シグライター	20A
	選択制御	15A	カーズ	20A
	ランプ	15A	作業灯	30A
	リフト	15A	室内灯	10A
	探向	15A	キャブ	10A
	マイコン	30A	計	10A
	マイコン	30A	ヒューズ抜き	

3606534100

(2) 防塵制御用ヒューズ

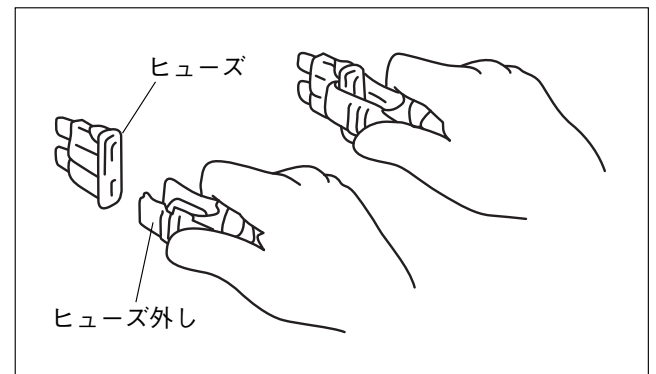


・ブレード（板）ヒューズの交換

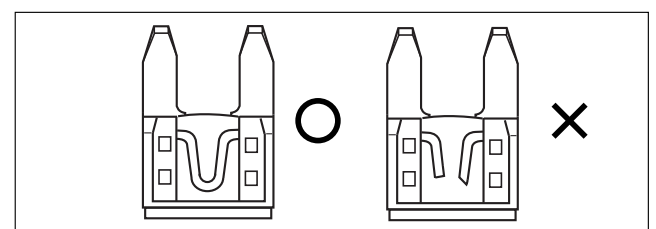
ヒューズボックス内の各種ヒューズおよび防塵制御用ヒューズは、ブレードヒューズを使用しています。

各ヒューズの該当する装置が作動しないときは、次のように処置してください。

- ① スタータスイッチを《切》位置にします。
- ② ヒューズボックスのフタを開き、ヒューズ外しを使って、ヒューズを引抜きます。（ヒューズ外しはヒューズボックスの中に入っています）



- ③ ヒューズが切れていれば、スペアのヒューズと交換してください。



- (3) ヒューズボックス内のヒューズの点検・交換が終わったら、足元プレートを元どおり閉めておきます。

② 大電流用ヒューズ交換

・大電流用ヒューズが切れたときは、「お買いあげ先」で点検を受けてください。

座席シートの下の足元カバーと左側のカバーを外すと大電流用ヒューズがあります。ヒューズ点検後はカバーを元どおり取付けてください。

(1) グレンオーガ旋回モータ用ヒューズ (40A)

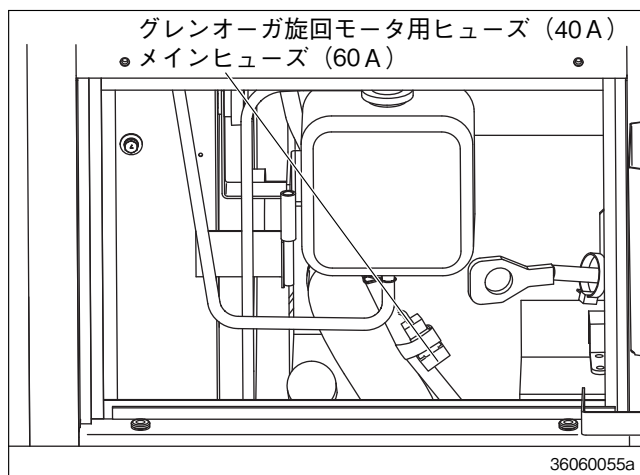
警告 火傷防止のために

◆作業直後はエンジン部が高温になっています。各ヒューズの点検はエンジンが冷えてから行ってください。

オーガ旋回モータ用保護ヒューズです。

(2) メインヒューズ (60A)

エンジンルーム内の電気配線に直接取付けてあります。全ての電気装置の安全装置となっていて、メインヒューズが切れると全ての電気装置が作動しなくなります。

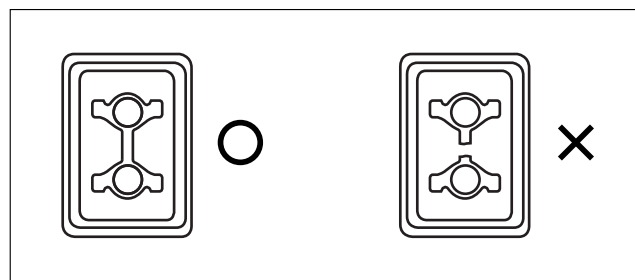


・メインヒューズの交換

警告 火災防止のために

◆取付けてあるメインヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金、銀紙などをメインヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

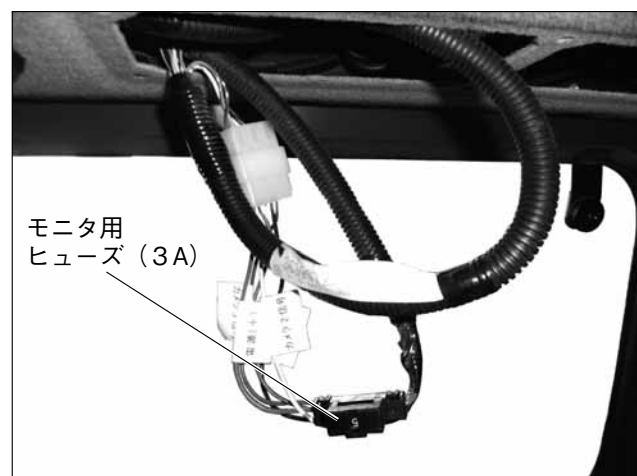
- ① バッテリー (-) 端子を外します。
- ② メインヒューズが下図右側 (×印) のようであればヒューズ切れです。指定のメインヒューズと交換します。



③ モニタ用ヒューズ (3A) [X仕様]

・キャビン内、上部後方のエアコンフィルタを外すとモニタ用ヒューズがあります。このヒューズが切れるとバックモニタが使用できなくなります。

ヒューズが切れている場合は指定のヒューズに交換してください。



手入れのしかた

手入れのしかた

③ ヒューズの機能

・ヒューズが溶断した場合、下記の機能が作動不能となります。

×：作動不能

No	影響の出る機能 ヒューズの種類 [A]	影響の出る機能																																							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35					
No	オプション設定																OP										OP		OP	OP	OP	OP	OP	OP			OP				
1	アタッチ	30																																							
2	水平・オーガバルブ	10																		×				×																	
3	キー切り	10	×																																						
4	ワイパ [X仕様]	15																																							
5	エアコン [X仕様]	20																																							
6	リフト・操向	15																																							
7	作業灯	30																																							
8	スタータ	10	×																																						
9	シグライター・カーステ [X仕様]	20																																							
10	室内灯・時計 [X仕様]	10																																							
11	排出クラッチ・オーガ	20																																							
12	こぎ深さ制御・注油ポンプ	20																																							
13	フラッシュ・制動灯	15																																							
14	選別制御	20																																							
15	クラッチ駆動	30																																							
16	搬送	20																																							
17	ランプ・計器 (パネル)	15																																							
18	ランプ・計器 (本機)	15																																							
19	マイコン	10																																							
20	非常時電源	10																																							
21	メイン	60	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
22	オーガモータ	40																																							
23	ファンベルトクラッチ	20																																							
24	防塵電動ファン	30																																							
25	モニタ	3																																							

(OP……オプション)

取扱いのポイント

●取換えしてもヒューズが切れるときは、「お買いあげ先」で点検を受けてください。

9. 電気配線の点検と掃除

⚠警告 火傷や火災防止のために

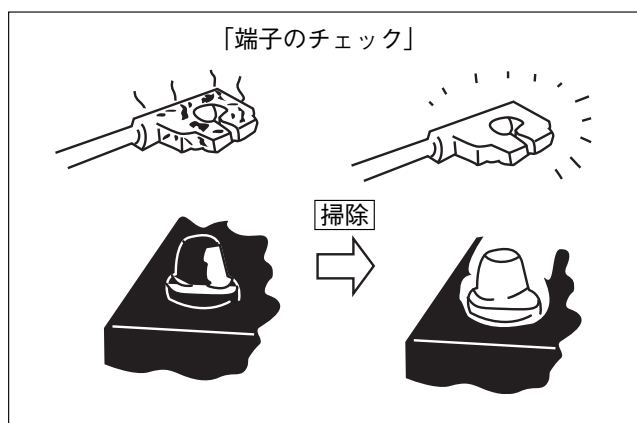
- ◆電気配線の点検時には、スタータスイッチを《切》位置にし、バッテリーコードのアース側⊖端子を外してください。
- ◆電気配線およびバッテリー⊕コードが損傷していると、ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので、交換してください。
- ◆エンジン、バッテリー、電気配線回りのワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

① 電気配線の点検

配線の端子部の「ゆるみ」や「接続不良」または配線が「損傷」していると、電気部品の性能を損なうだけでなく、「ショート(短絡)」することがあります。傷んだ配線は交換、修理します。

② 電気配線の掃除

- (1) エンジン、バッテリー、電気配線部に溜まっている「ワラやゴミ」などは、「火災」の原因になりますので取除きます。
- (2) バッテリー端子にバッテリー液がかかると、端子が「腐蝕」することがあります。バッテリー端子が腐蝕すると、「接触抵抗」が大きくなり、電流が流れにくくなりますので、「定期的」に汚れや腐蝕を、サンドペーパーやブラシで取除きます。腐蝕防止のために、グリースを塗ります。



10. バッテリーの点検と充電

この機械は出荷時に補水不要バッテリーが装備されています。

バッテリーの残存量の確認は113ページの③を参照してください。

指定バッテリー…… [463型,563型] 80D26R
…………… [570型] 95D31R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

共通 (補水不要なバッテリー, 補水が必要なバッテリー)

- ◆ブースタケーブルを使用するときは、接続前にエンジンを停止してください。
- ◆ブースタケーブルは、100A以上の仕様のもので使用してください。容量の小さいケーブルを使用すると、ケーブルが焼損し、火災の原因となることがあります。
- ◆バッテリーを「着脱」したり充電器で「充電」するときは、エンジンを停止し、始動キーを抜取ってください。
- ◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆接すると、電装品が焼損します。また、「スパーク(短絡)」による電気火花で負傷をすることがあります。
- ◆⊕端子が機械に接触しないようにしてください。
- ◆⊖端子を取付けたままで充電すると、発電器や電気配線を焼損することがあります。
- ◆バッテリーを化学繊維製布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発のおそれがあります。
- ◆バッテリー液が皮膚に付着したり目に入ったときは、直ちに水洗いをし、医師の手当を受けてください。
- ◆衣服についたときは、水洗いし、弱アルカリ性石けんで、硫酸分を洗い流してください。

手入れのしかた

補水不要なバッテリー

◆密封タイプなので、急速充電や開封は厳禁です。

補水が必要なバッテリー

◆バッテリーは、充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し、「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」に近づけたり、「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

◆「水素ガス」が滞留しないよう、風通しのよい場所で充電をしてください。失明や火傷をすることがあります。

◆バッテリー液（電解液）は、希硫酸で劇毒物ですので、こぼさないようにしてください。

◆バッテリーを充電するときは、液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリーの液量が、側面に表示されている「下限」（LOWER LEVEL）以下になった状態で使用したり充電すると、バッテリーの破裂（爆発）の原因となることがあります。

◆充電のとき、「バッテリー液」が飛散することがありますので、眼鏡などで目を守り、衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

警告 火傷や火災防止のために

共通（補水不要なバッテリー、補水が必要なバッテリー）

◆バッテリーを取外すときはバッテリー⊖コードを先にバッテリーの⊖端子（アース側）から外し、次にバッテリー⊕コードを⊕端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリー⊕コードを先にバッテリー⊕端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。

① バッテリー取付金具の点検

バッテリーの取付けがゆるいと、バッテリーが上下左右に動き、振動で電解槽やフタなどが摩耗したり、亀裂を起こすことがあります。

取付金具で、しっかり固定します。

取付金具などが腐蝕していれば取替えます。

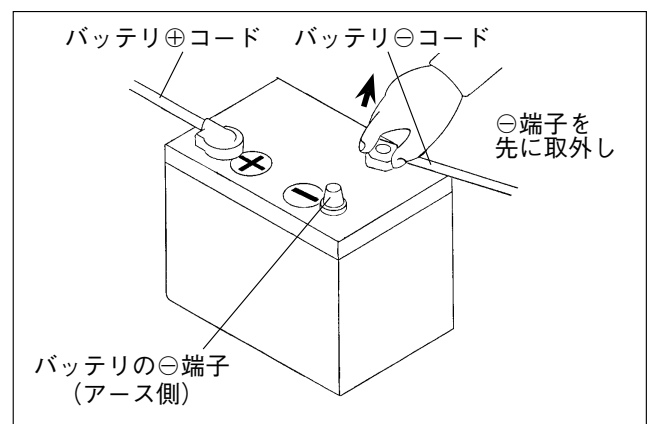
バッテリーは車体左側、脱こく部の前側に保護カバーで覆われていますのでクランプを外しカバーを取外します。



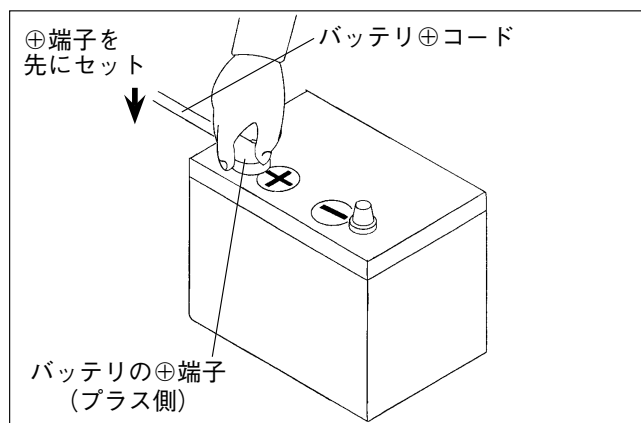
② バッテリー着脱時の注意

(1) バッテリーを「着脱」したり充電器で「充電」するときは、エンジンを停止し、スタータスイッチから「キー」を抜取ります。

(2) バッテリーコードを端子から取外すときは「⊖端子（アース側）」を先に外します。



- (3) バッテリーコードを端子にセットするときは「**⊕端子（プラス側）**」を先に取付けます。



- (4) バッテリー上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

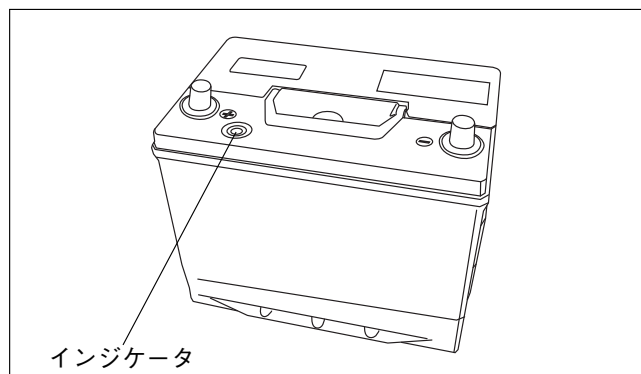
③ バッテリーの状態点検と、異常時の処理

- (1) バッテリーは上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し、処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

取扱いのポイント

- インジケータは真上から確認してください。



- (2) バッテリーが破損して液もれが発生しているときは、交換してください。

取扱いのポイント

- 液もれが発生すると車体が腐蝕する原因となります。

④ 補充電・交換

⚠危険 傷害事故防止のために

- ◆バッテリーは、以下の順序で取換えてください。順序を誤ると、ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
 - ・取外し… (－)端子側(アース側)から外す。
 - ・取付け… (+)端子側を最初に接続する。
- ◆バッテリーを転倒させたり、衝撃を与えたりしないでください。電解液(希硫酸)のもれにより、失明や火傷をするおそれがあります。
- ◆バッテリーを機体に取り付けた状態での充電は避けてください。バッテリーの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
- ◆バッテリーを投げたり、落としたり、斜めにしたり、衝撃を与えたりしないでください。バッテリーに入っている電解液(希硫酸)により、失明や火傷の原因となることがあります。

⚠警告

- ◆バッテリーの取付け方向を間違えないでください。(+)と(－)が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となるおそれがあります。

取扱いのポイント

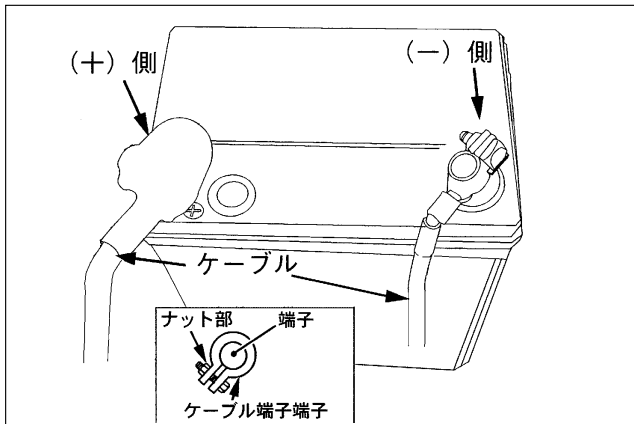
- バッテリーが完全に放電し、スタータスイッチを《入》にしても充電・オイルランプが点灯しない状態になった場合は、バッテリーを交換してください。他のバッテリーでブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると高電圧が発生し、電装品を破損することがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行ってください。また、補充電を行っても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリーの寿命ですので交換を行ってください。

- ・スタータモータの回転が、いつもより弱い。
- ・アクセルの加減で、ヘッドランプの明るさが変わる。
- ・ホーンの音が、いつもより低い。

手入れのしかた

1. バッテリーを機体から取外します。
 - (1) ナットをゆるめてフックを外します。
 - (2) ケーブル端子のナットをゆるめて、端子からケーブル端子を取外します。取外すときは、必ず (-) 側から取外してください。



2. 補充電を行うときは、平坦な風通しの良い場所を選んで行います。また、充電は、バッテリーの (+) を充電器の (+) 側に、バッテリーの (-) を充電器の (-) 側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で（急速充電は厳禁です）行ってください。
3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

- バッテリーを交換するとき、バッテリーは下記指定のバッテリーを使用してください。電圧や容量が違くと故障の原因となります。
バッテリー形式：[463型,563型] 80D26R
[570型] 95D31R
- バッテリーはエンジン始動用ですから、ほかの用途には使用しないでください。
- バッテリーはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリーの場合

(補水が不要なバッテリーの説明と異なる部分の説明です。)

5 点検・補水

⚠危険 傷害事故防止のために

- ◆ バッテリーには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリーの2種類があります。補水が必要なバッテリーについては、以下のことを守ってください。
- ◆ バッテリーは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。
- ◆ バッテリー液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によって火傷することがあります。
- ◆ 充電のとき、「バッテリー液」が飛散することがあるので、保護眼鏡などで目を守り、ゴム手袋を着用ください。
- ◆ バッテリー液が皮膚に付着したり目に入ったときは、直ちに水洗いをし、医師の手当を受けてください。
- ◆ 衣服についたときは水洗いし、弱アルカリ性石けんで、硫酸分を洗い流してください。

バッテリーの状態を点検し、異常があれば処置します。

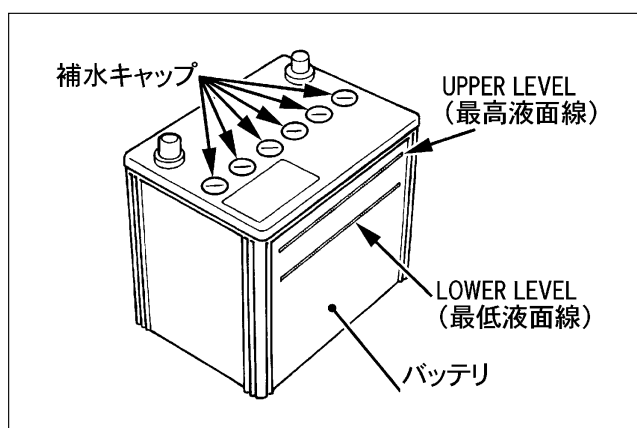
1. 残存容量の確認（補水が必要なバッテリー）
 - (1) バッテリー液の「比重」を測定する方法と、「バッテリーテスタ」で測定する方法があります。
 - (2) 残存容量が低下していれば、ただちに補充電をします。

(3) バッテリー液の比重が「1.220 (20℃)」以下であれば補充電をします。

比重 (20℃)	放電電気量 (%)	残存容量 (%)
1.280	0	100
1.240	25	75
1.200	50	50
1.160	75	25
1.120	100	0

(4) バッテリーテストで測定するときは、バッテリーテストの取扱説明書に従って測定と補充電を行ってください。

2. バッテリー液の量を点検し、「UPPER LEVEL」(最高液面線)と「LOWER LEVEL」(最低液面線)の間の液量があるか確認し、不足しているときは補水します。



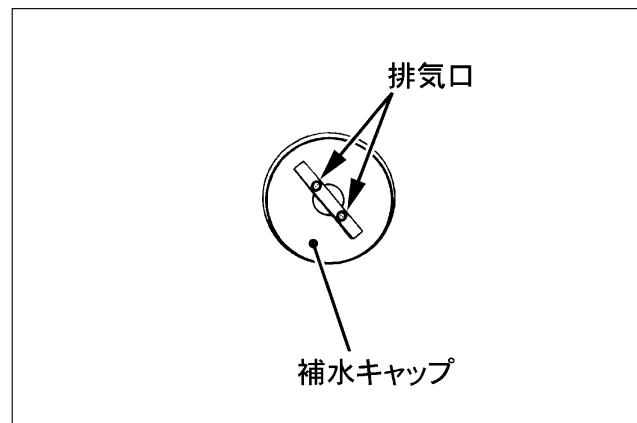
取扱いのポイント

- バッテリー液が不足している極板が空気中に露出すると、バッテリー寿命は著しく短くなります。
- バッテリー液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
- バッテリーに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

3. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

取扱いのポイント

- 排気口をふさぎますと、バッテリー内部で発生するガスよりバッテリーの内圧が上がり、破損する原因となります。



6 補充電

⚠危険 傷害事故防止のために

◆ 補充電中は補水キャップを全て取外しますので火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1. 補充電を行うときは、平坦で風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行います。

また、充電は、バッテリーの (+) を充電器の (+) 側に、バッテリーの (-) を充電器の (-) 側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行ってください。

取扱いのポイント

- 急速充電を行ったときは、作業後必ず補充電を行ってください。
2. 補充電が終わったら補水キャップを全て取付けてください。

手入れのしかた

手入れのしかた

⑦ ブースターケーブルによるエンジン始動

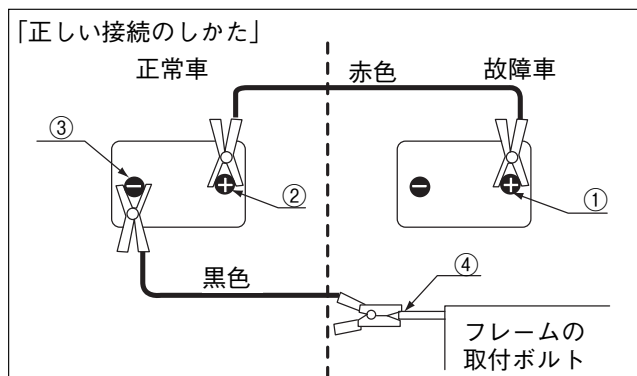
バッテリーが放電し、エンジンが始動できないとき、他車(12V仕様車)の良好なバッテリーを電源として始動する場合、ブースターケーブルを使用します。

このときは、次の手順を守って行います。



「ブースターケーブルの接続のしかた」

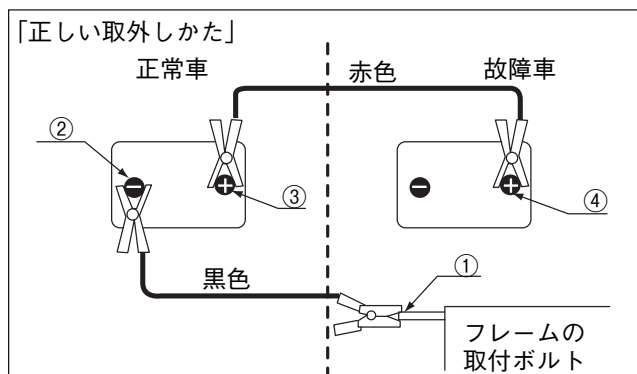
(1) 正常車のエンジンを停止して、①～④の順序でブースターケーブルを確実に接続します。



接続順序④は、ブースターケーブル(黒色)のクリップを機械のフレームの取付ボルトに接続します。
(2) 放電バッテリー搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときには、正常車のエンジンをスタートしてから、放電バッテリー搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースターケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースターケーブルの取外しは、接続の場合と逆の順序で行います。



⑧ バッテリー単体での充電

共通(補水不要なバッテリー, 補水が必要なバッテリー)

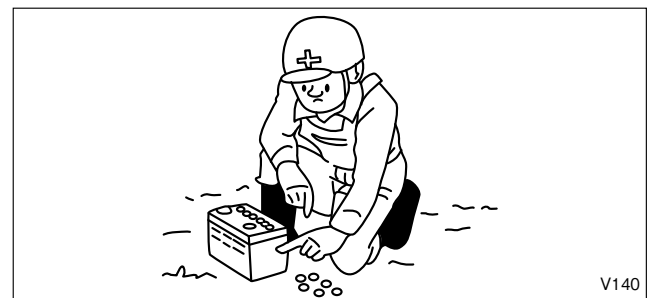
- (1) 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し、スタータスイッチ(始動キー)を抜取ります。
- (2) 機体からバッテリーを取外します。
- (3) 「水素ガス」が滞留しないよう、風通しのよい場所で充電をします。
- (4) 「火気」を近づけたり「スパーク(短絡)」による電気火花が発生しないようにします。
- (5) 充電器のクリップを着脱するときは、充電器のスイッチを「切」にし、⊕端子(赤色)・⊖端子(黒色)を正しく取付けます。

補水不要なバッテリー

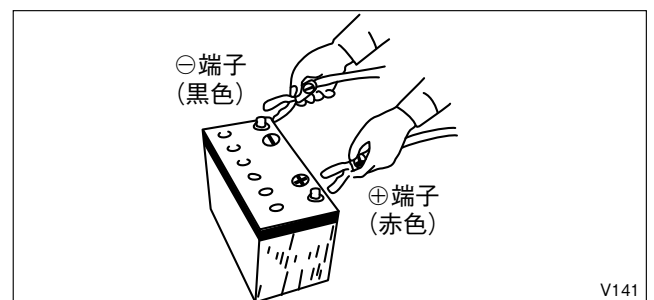
- (1) 急速充電厳禁。

補水が必要なバッテリー

- (1) 充電前に「液口栓」をすべて取外します。



- (2) 急速充電はできるだけ避け、普通充電をし、液温が「45°C」を超えないようにします。



取扱いのポイント

- 各端子は、「ゆるみ」がないように締付けてください。
- 取付けのとき、バッテリー端子部は布で油などを拭き取っておきます。取付け後バッテリー端子部には、腐蝕防止のためグリースを塗布してください。
- バッテリー⊕端子のゴムブーツを、取付けておきます。
- 厳寒時は、機械を格納するときに、バッテリーを取外して暖かい所に保管してください。

- 亀裂や変形のあるバッテリーは、新品と取替えてください。汚れていれば、清水で洗浄してください。洗浄後は、水分を拭き取ってください。

11. グレンタンクの回動のしかた

警告 傷害事故防止のために

- ◆グレンタンクを回動するときは、平坦な場所で行い、各クラッチを切り、エンジンを停止して、各部の回転が止まってから行なってください。
- ◆ [X仕様] はスライドドアを閉じてからグレンタンクを回動してください。
- ◆グレンタンクを回動したら、ストoppaをかけて、作業を行なってください。

注意

- ◆取外したカバーは作業後取付けてください。

取扱いのポイント

- グレンタンク内にこく粒が入っていないことを、確認してから行います。
タンク内にこく粒が入った状態で回動させると、故障の原因となります。

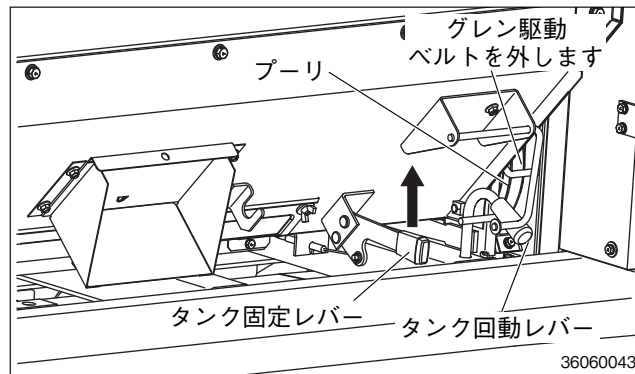
エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときは、グレンタンクを回動して、ストoppaをかけて行います。

[RET, RH仕様を除く] 仕様の場合

- 1 タンク下部カバーを取外します。
- 2 タンク後部のカバーを開きます。

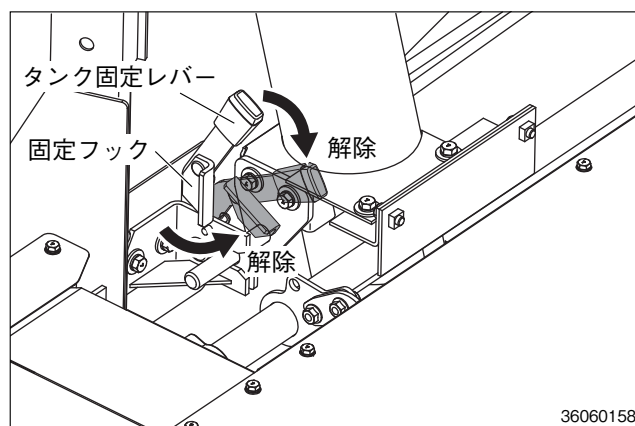


- 3 グレン駆動ベルトを、プーリより外します。
- 4 タンク回動レバーとタンク固定レバーを持ち上げながら、手前に引きタンクを回動します。
[RET, RH仕様を除く]

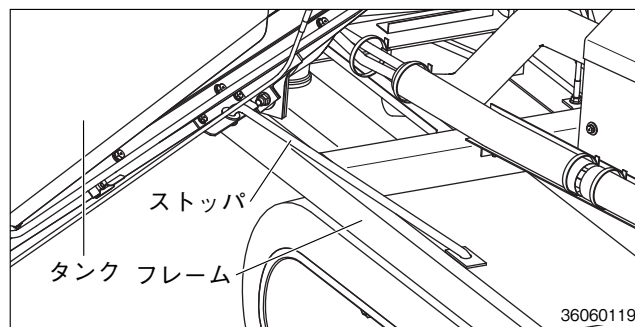


[RET, RH仕様] の場合

固定フックを解除し、タンク固定レバーを解除します。



- 5 タンクのストoppaをフレームにかけます。



手入れの
しかたの

手入れのしかた

- ⑥ 収納は逆の手順で行います。
- ⑦ タンクを収納する途中で、タンク回転レバーのピンがフレームに当たり、回転しなくなります。この場合は、タンク回転レバーを持ち上げながら、タンク回転レバーのピンがフレームの穴に入るまで、タンクを押し込みます。

取扱いのポイント

- 収納後は、ベルトの掛け方が間違っていないか、再度確認してください。(186ページ参照)
- タンク回転は、タンク回転レバー、タンク固定レバーの順で解除して操作をしてください。
- タンクの回転は、タンク回転レバーを持って行なってください。

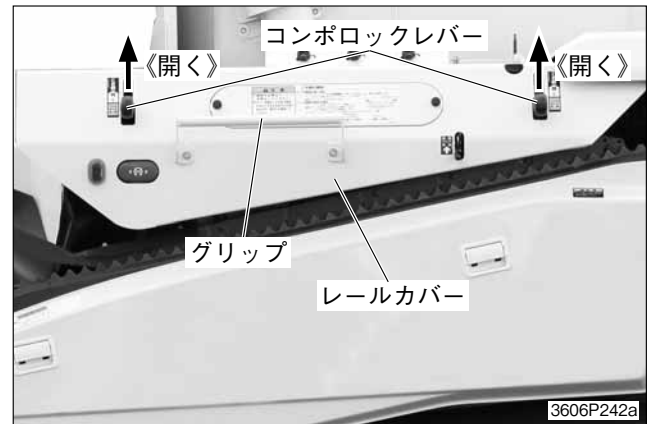
12. こぎ胴部の開閉のしかた

⚠ 警告 傷害事故防止のために

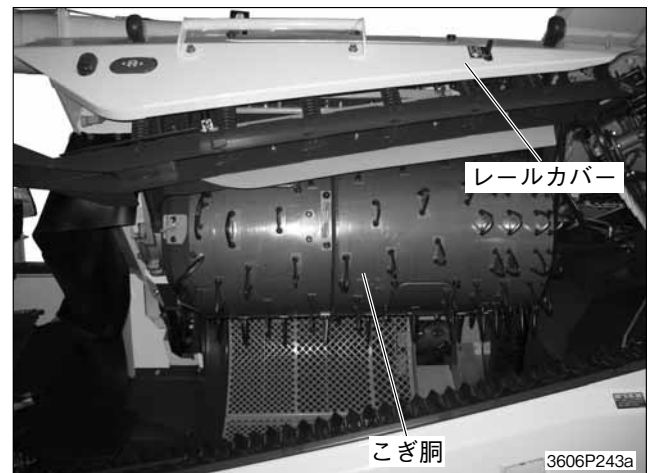
- ◆ こぎ胴部を開くときは、エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
- ◆ こぎ胴部を開くときは、グリップでこぎ胴を持ち上げ、「カチッ」という自動ロックの作動音を確認してからゆっくりと手を離してください。
- ◆ 《自動ロック解除レバー》を操作するときは、アームまたはシリンダカバー端部を支えて行なってください。このとき、回転範囲内には、手や体を入れないでください。
- ◆ サイドステップは2人以上乗らないでください。また足元がすべらないために、ぬれたり、泥のついた靴では乗らないでください。

- ① サイドステップを引出し、乗った状態でこぎ胴の開閉を行うと容易に行えます。
- ② こぎ胴部を開くときは
 - (1) 2本のコンポロックレバーを左右同時に《開く》の方向に上げ、固定を解除します。

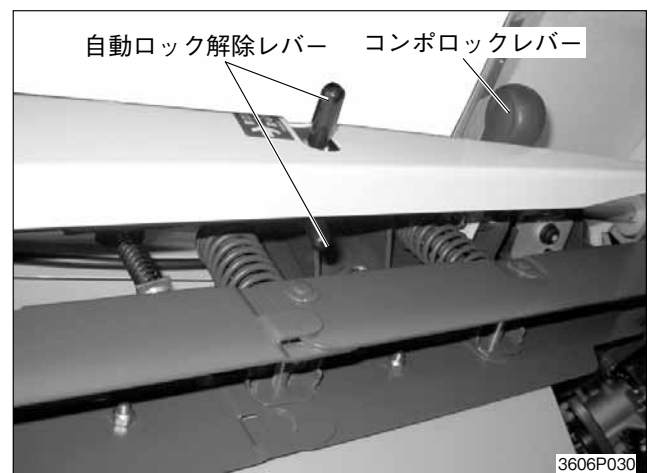
- (2) レールカバーの端部を持ってこぎ胴を持ち上げ『カチッ』という音を確認して、ゆっくり手をはなします。



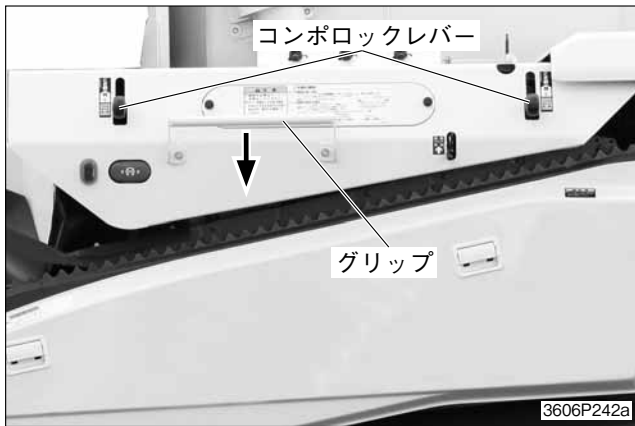
[こぎ胴部開 (コンポアップ) 状態]



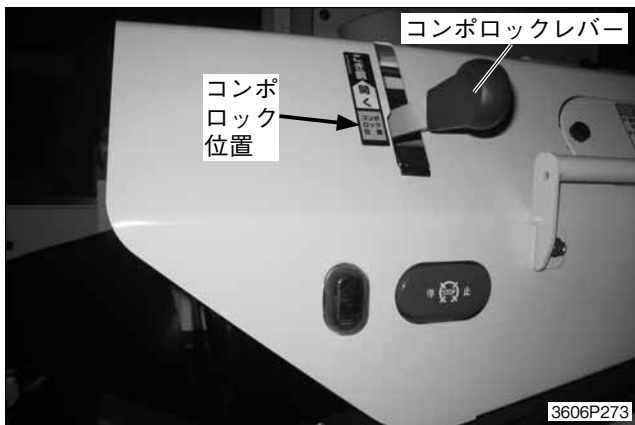
- ③ こぎ胴部を閉めるときは
 - (1) レールカバーの端部を持ってこぎ胴を一杯持ち上げ、自動ロック解除レバーを(ロックが解除される位置)押上げたままこぎ胴を下げます。



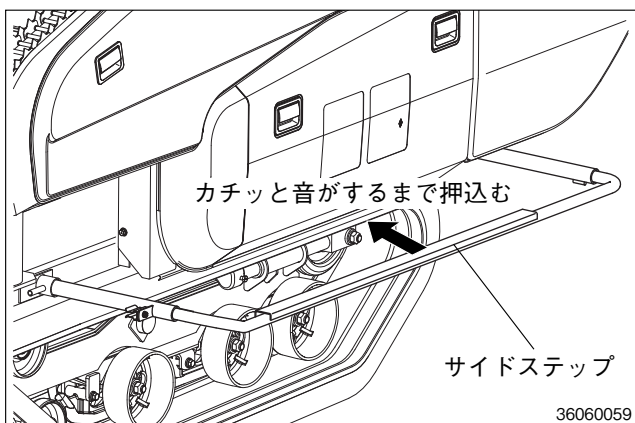
- (2) グリップでこぎ胴をおろすと自動固定します。
(コンポロックレバーを持って、こぎ胴を上げ下げしないでください。)



- (3) コンポロックレバーがコンポロック位置にあることを確認します。
最後まで下がっていない場合は、コンポロック位置までコンポロックレバー（2箇所）を下げます。
- (4) コンポロックレバーがコンポロック位置にない場合は開く・閉める動作を繰り返して、コンポロック位置にレバーを下げるようにします。



- ④ サイドステップを使用した場合は収納します。



13. 脱こく内部の掃除

警告 傷害事故防止のために

- ◆脱こく部の各部を掃除するときは、エンジンを停止して、各部の回転が止まってから行なってください。
- ◆2人以上で作業する場合、特に回転部を動かすときは、互いに声をかけあい、安全を確認してから行なってください。
- ◆こぎ胴部は、自動ロック位置まで確実に持上げてください。
- ◆マフラカバーに触れないでください。

注意

- ◆取外したカバー類は、作業後取付けてください。

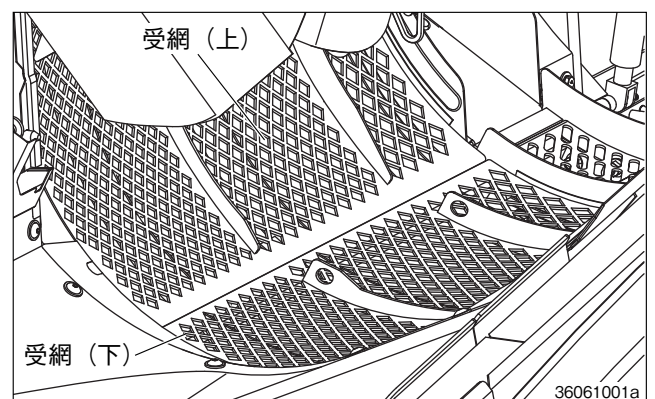
品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため、また長期格納の際の脱こく内部のワラズや残粒を取除くために、各掃除口を開けてきれいに掃除します。

取扱いのポイント

- 脱こく内部などの掃除にはブロアを使用すると容易にできます。

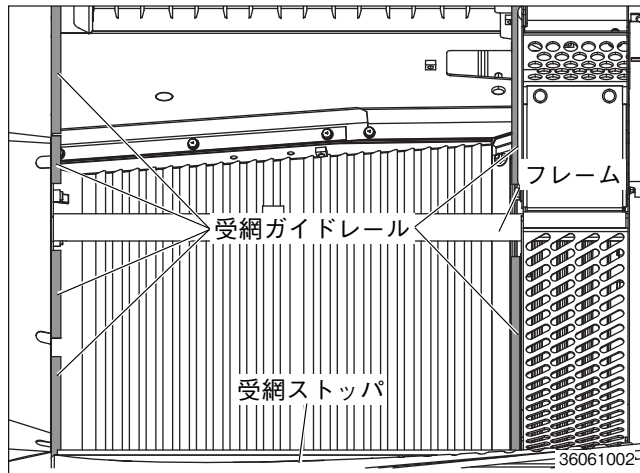
① 「脱こく受網（上）・（下）の着脱」

- (1) こぎ胴部をいっぱい持ち上げると受網を固定しているロック装置は自動的に解除されます。
- (2) 受網（上）を外します。
- (3) 受網（下）を外します。

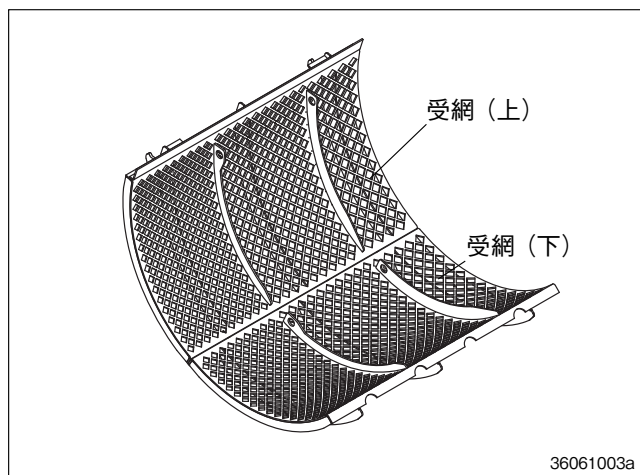


手入りのしかた

- (4) 受網（上）・（下）を取付けるときは受網ガイドレール（5箇所）、受網ストップのクズを取除きます。



- (5) 脱こく受網の取付けは逆の手順で取付けます。



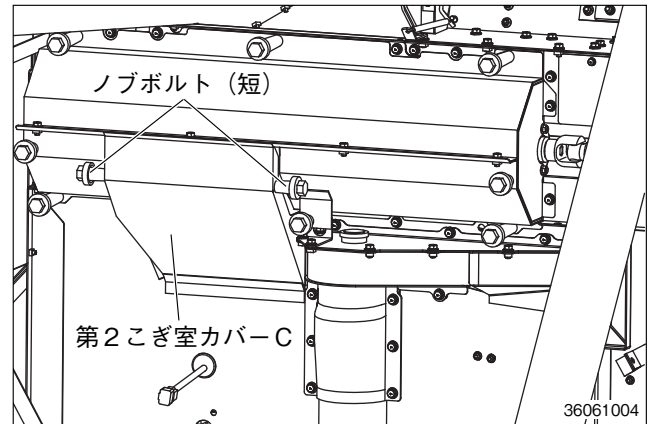
- (6) こぎ胴を閉めると受網は自動的にロックされますが、受網が完全に入っていないときはロックできませんので受網が完全に入っていることを確認します。

取扱いのポイント

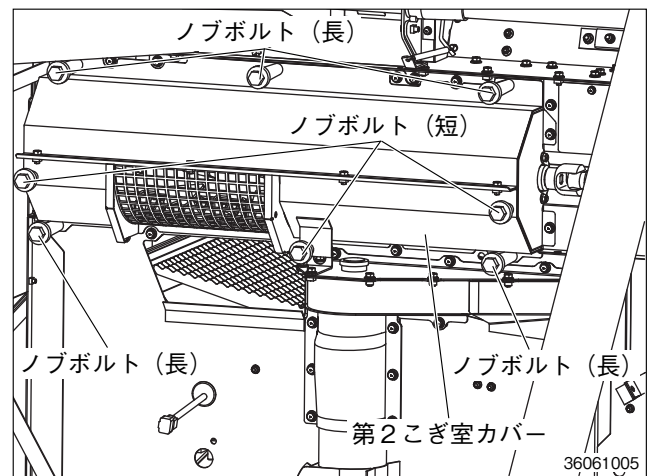
- 長期格納前には、受網（上）、（下）は取外して掃除をしてください。
- 受網ストップおよび受網ガイドレール（6箇所）、フレームにこく粒やクズが溜まったまま受網をセットするとこぎ歯に当たる場合がありますので掃除してください。

② 第2こぎ室の掃除

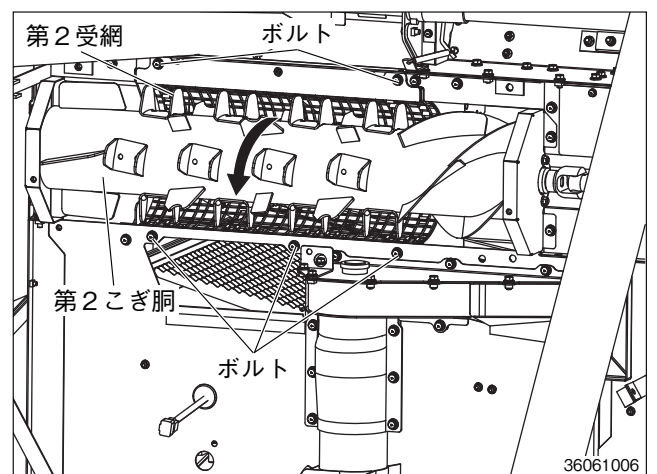
- (1) グレンタンクを回動し、ストップを掛けます。（117～118ページ参照）
- (2) 第2こぎ室カバーCのノブボルト（短2個）を外し、第2こぎ室カバーCを外します。

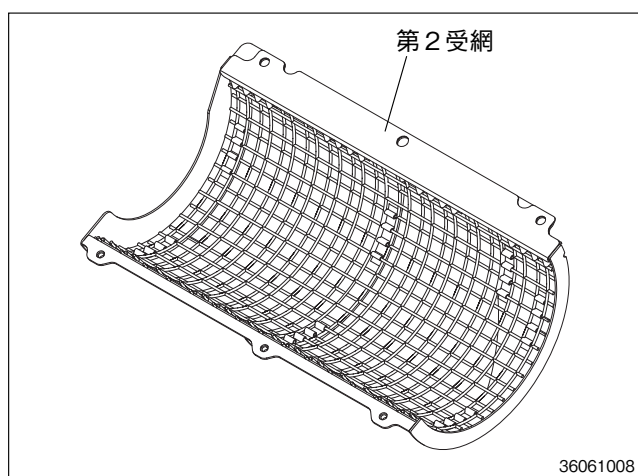
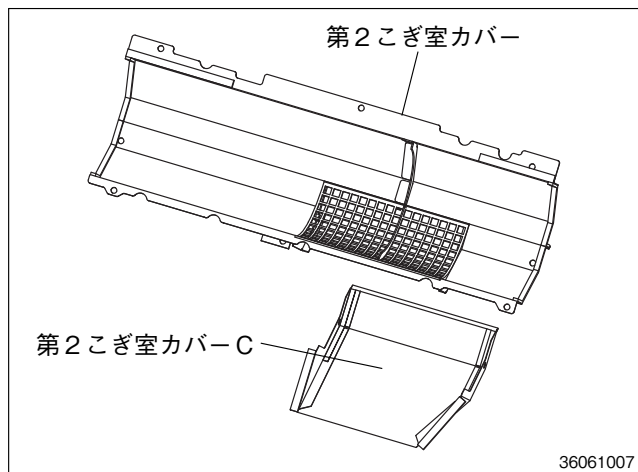


- (3) 第2こぎ室カバーのノブボルト（長5個，短3個）を外し、カバーを取外し、内部に残ったクズを掃除します。



- (4) 第2受網は、ボルト5本を取外し受網の上側から第2こぎ胴を回すようにして、取外します。





(5) 第2受網, こぎ室カバーの取付けは, 逆の手順で取付けます。

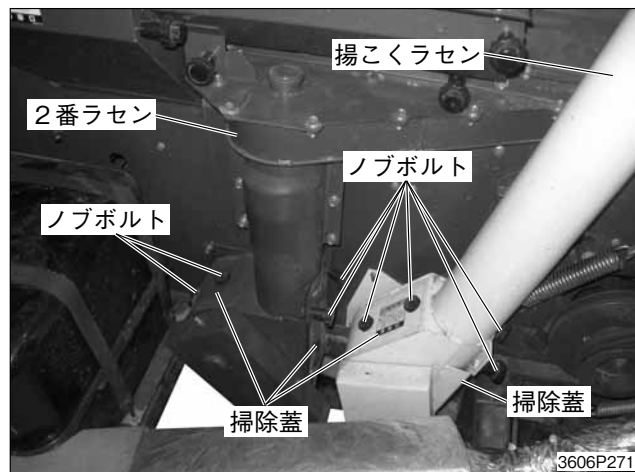
(6) グレンタンクを閉じます。(117~118ページ参照)

取扱いのポイント

- 長期格納前には, 第2受網を取外して掃除をしてください。

③ 揚こくラセン部の掃除

- (1) グレンタンクを回動し, ストップを掛けて行います。(117~118ページ参照)
- (2) ノブボルトを外し, 掃除フタを取外し, 内部にたまっているこく粒を掃除し, 掃除フタをノブボルトで取付けます。



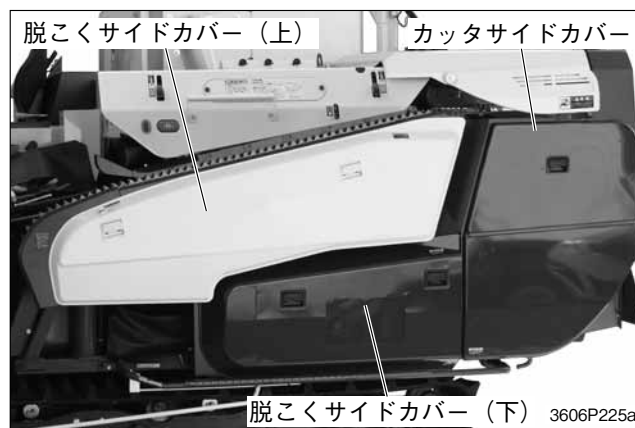
④ 2番ラセン部の掃除

掃除は4箇所からできます。

掃除フタを取外し, 内部に溜まっているこく粒を掃除し, 掃除フタをノブボルトで取付けます。グレンタンクを閉じます。(117~118ページ参照)

⑤ 1番ラセン底板, 2番ラセン底板の掃除

- (1) 脱こくサイドカバー (上), (下), カッタサイドカバーを取外します。

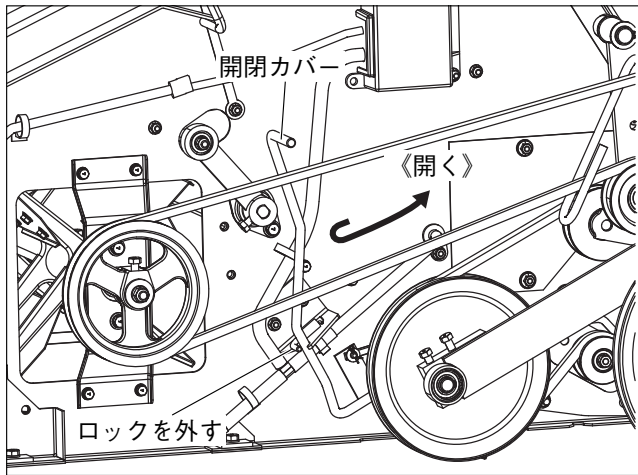


- (2) 開閉レバーのストッパを外し, レバーを《開く》方向に操作すると底板が開き, 機械の後方下側から掃除ができます。

- ・ストッパは開閉レバーを右手で支えてから外します。

手入れのしかた

- (3) 脱こくサイドカバー(上),(下),カッタサイドカバーを取付けます。

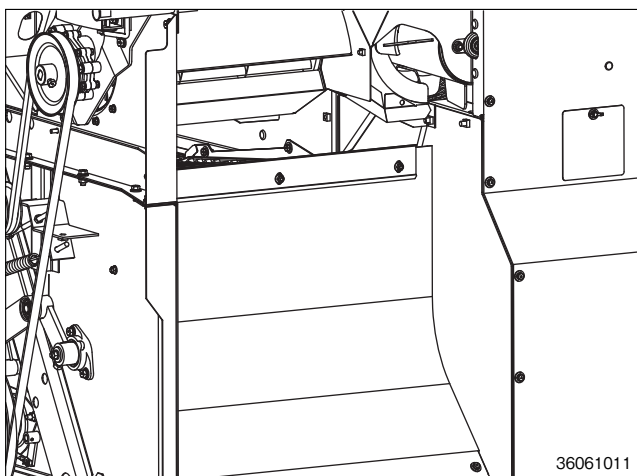


取扱いのポイント

- 掃除後は、底板の合せ面が確実に閉じていることを確認してください。開いていると、こく粒が漏れます。

⑥ 排じん室の掃除

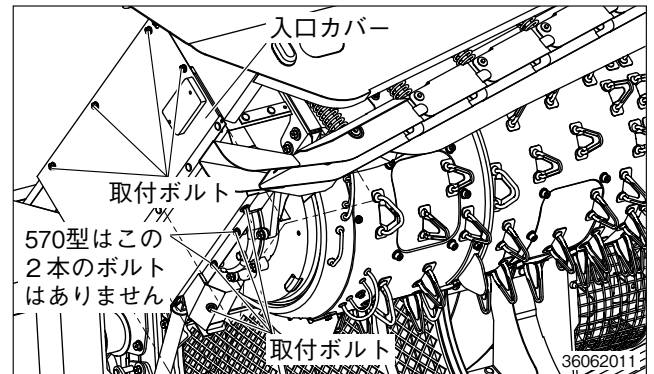
- (1) 脱こくサイドカバー(上),(下),カッタサイドカバーを取外します。
- (2) カッタを開きストッパをかけ、スナップピンで固定します。(123ページ参照)
- (3) カバーをめくり排じん室のワラズなどを掃除します。



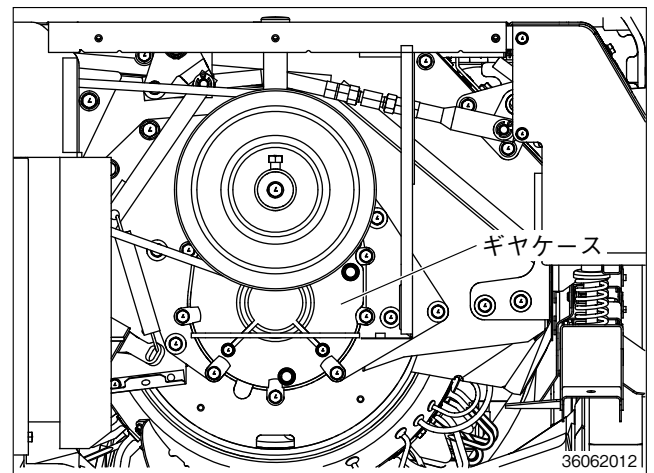
- (4) 作業後ファンカバー, カッタを閉じ脱こくサイドカバー(上),(下),カッタサイドカバーを取付けます。

⑦ こぎ胴ギヤケース部の掃除

- (1) コンポアップをして、取付ボルトを外し入口カバーを取外します。(118~119ページ参照)

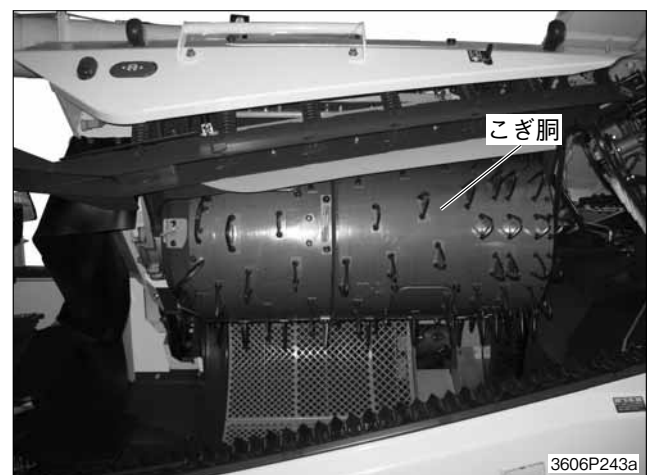


- (2) カバー内の掃除とギヤケース下部の掃除を行いカバー類を取付けコンポアップを閉じます。



⑧ 脱こくこぎ室の掃除

- こぎ胴をオープンします。(118~119ページ参照)
- こぎ室を掃除し、こぎ胴を閉じます。

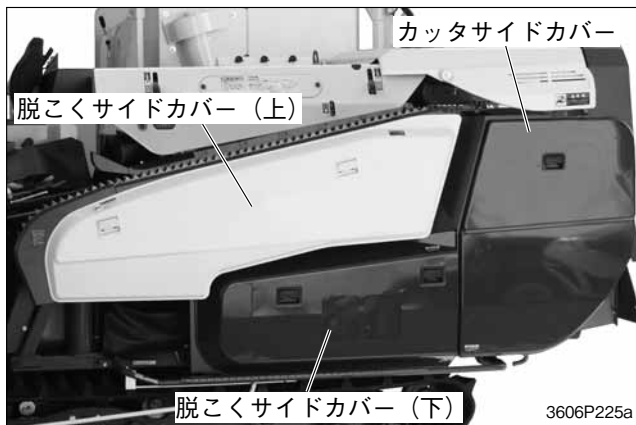


14. カッタのオープンのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

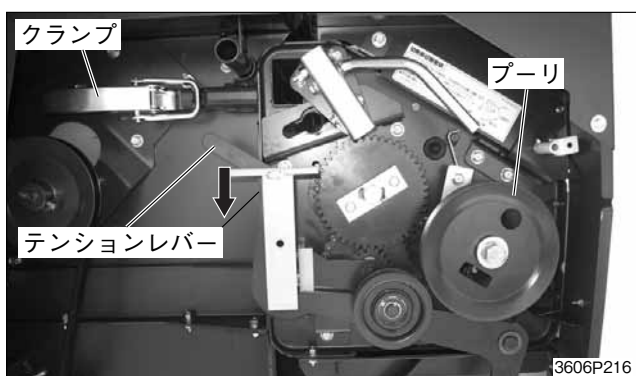
- ◆カッタをオープンするときは、機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行ってください。
- ◆カッタをオープンして点検作業などをするときは、ストッパをかけてスナップピンで固定してください。
ストッパをロック状態にしないと、カッタが回転して傷害事故を起こすことがあります。
- ◆カッタをオープンしたときはカッタ刃に触れないようにしてください。

① 脱こくサイドカバー（上）・（下）およびカッタサイドカバーを取外し、カッタ下部カバー（右）を収納状態にします。



② テンションレバーを下方に押下げてカッタベルトをゆるめ、カッタベルトをプーリより取外します。

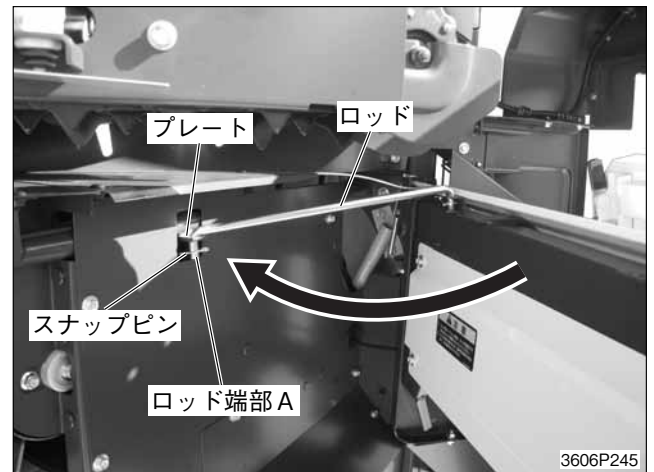
③ クランプを解除します。



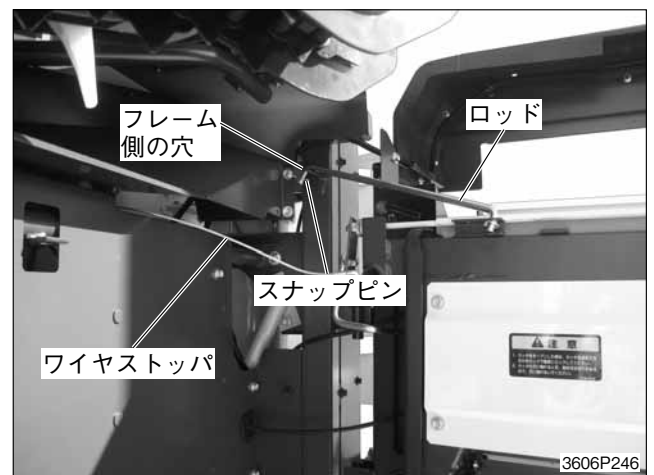
④ カッタを少し上方へ持ち上げながら、後方へオープンします。

⑤ カッタのロッド端Aについているスナップピンを抜き、ロッドを上方へ持ち上げ、矢印の方向へ回転させます。

⑥ ロッドをプレートの穴に入れ、スナップピンを差込み固定（ロック）状態にします。



⑦ さらにカッタを開きたいときは、ワイヤストッパのスナップピンを外し、カッタを開き、ロッドをフレーム側の穴にかけてスナップピンで固定します。



取扱いのポイント

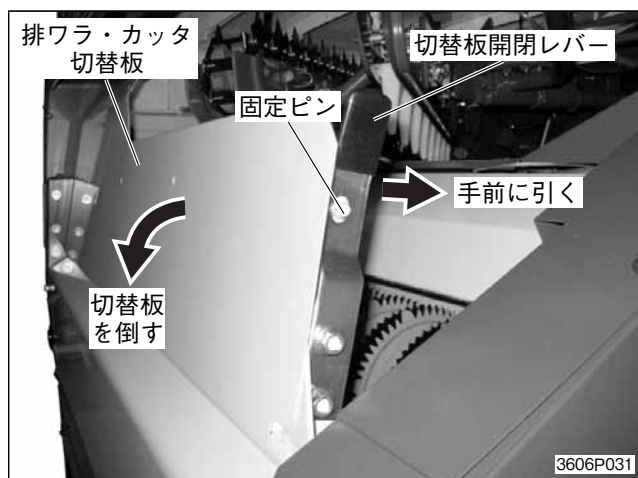
- ワイヤストッパのスナップピン部にワッシャが2枚ありますので落とさないように注意してください。また、組付時に忘れずに取付けてください。
- ⑧ カッタを閉じるときは、逆の手順で行います。

15. 切替板の開閉のしかた [RET, RH仕様を除く]

⚠危険 傷害事故防止のために

◆切替板開閉レバーを操作するときは必ずエンジンを停止してください。

切替板開閉レバーを手前に引いて固定ピンから外し、切替板を倒すことができます。カッタ刃部、排ワラチェーン終端部を後面から確認できます。



取扱いのポイント

- 切替板が開いていると、排ワラランプが点灯しています。エンジン始動はできますが、パワークラッチ (脱こく・刈取) スイッチを《脱こく》《入》にするとエンジンが停止しますので必ず切替板は作業後に閉じてください。

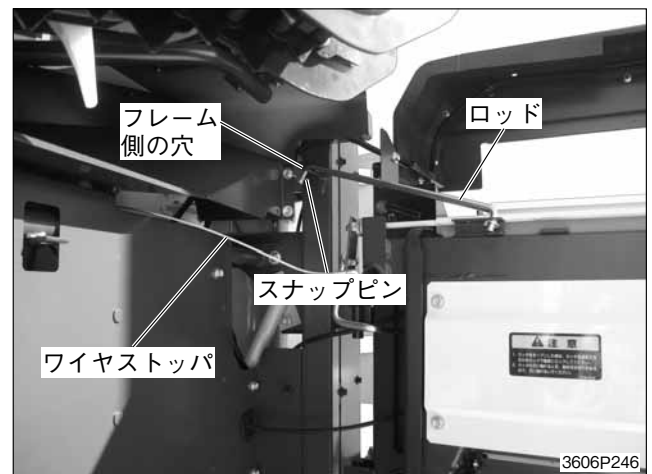
16. 揺動流板の掃除

⚠注意 傷害事故防止のために

◆揺動流板の脱着作業は、2人作業で合図を掛け合って行ってください。

① 揺動流板の取外しかた

- (1) 脱こくサイドカバー (上, 下)・カッタサイドカバーを外します。
- (2) カッタ下部カバー (右) を収納状態にします。
- (3) カッタを開きワイヤストッパのスナップピンを外します。
- (4) カッタをさらに開き、ロッドをフレーム側の穴にかけてスナップピンで固定します。



取扱いのポイント

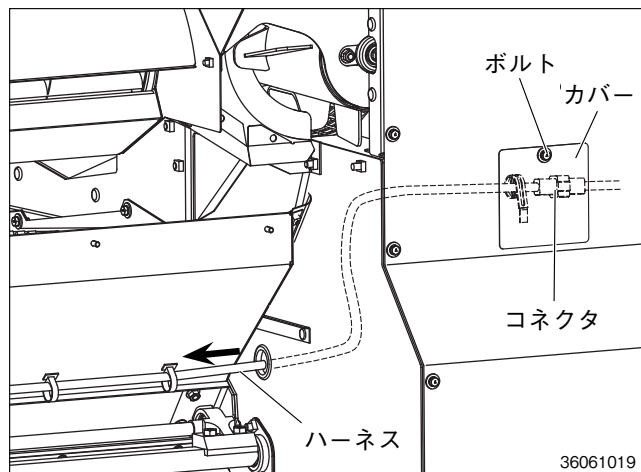
- ワイヤストッパのスナップピン部にワッシャが2枚ありますので落とさないように注意してください。また、組付時に忘れずに取付けてください。

(5) 揺動流板を取外します。

① 揺動流板前側を持ち上げられるように、受網(上), (下)を外しておきます。(118~119ページ参照)

② ボルトを外してカバーを取外します。

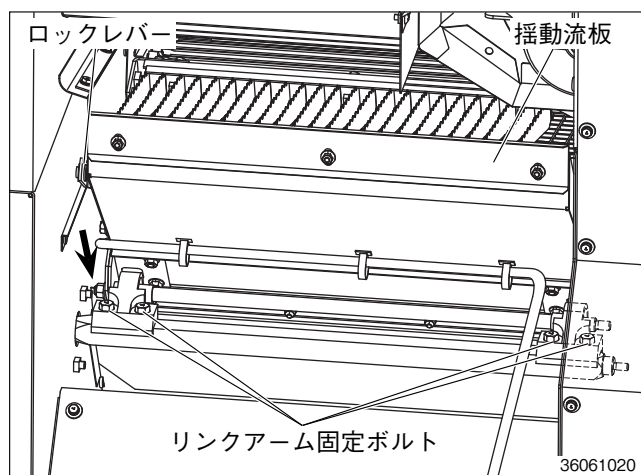
③ 裏側に固定してあるコネクタをカバーから外し穴より引出しコネクタを外します。



④ ハーネスを揺動流板まで引出します。

⑤ 揺動流板後部のリンクアーム固定ボルト左右2本を外します。

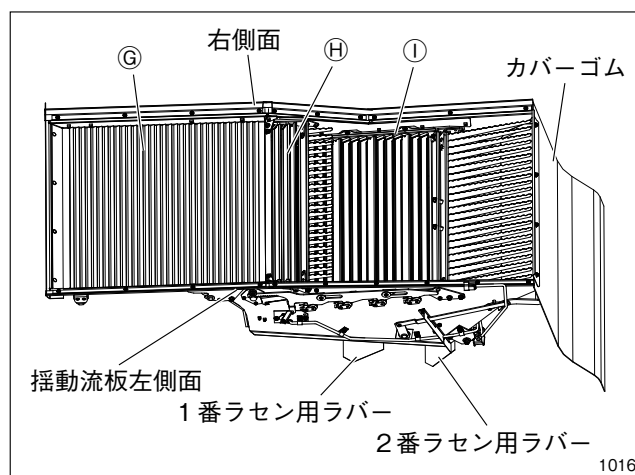
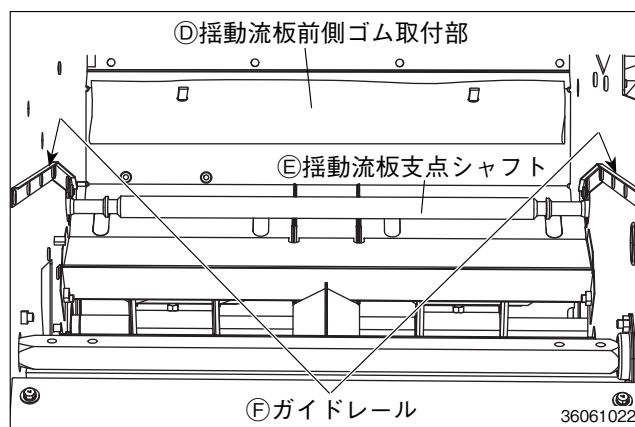
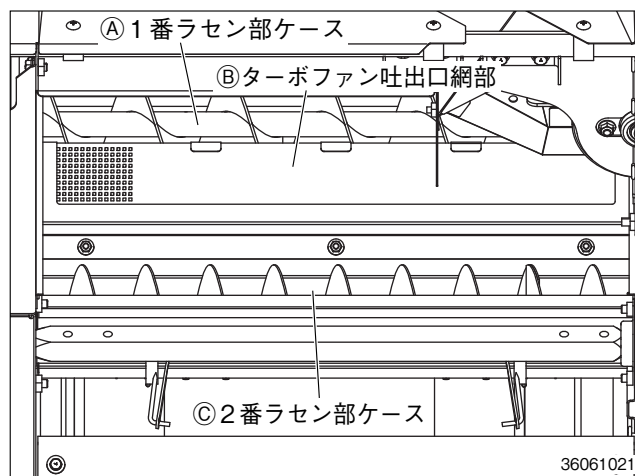
⑥ 揺動流板後方左側のロックレバーを矢印の方向に回転させます。



⑦ 揺動流板の前後を2人で少し持ち上げた状態で後方へゆっくり拔出します。

② 揺動流板の掃除のしかた

揺動流板を外した後の脱こく内部(A)~(F)と揺動流板上面および左右側面を掃除します。



手入れのしかた

取扱いのポイント

● 揺動流板のG~I部は、撥水塗装が施されています。こまめに掃除することで撥水効果を持続することができます。鋭利なものなどで掃除すると撥水塗装が剥離します。毛先のやわらかいブラシなどで掃除します。

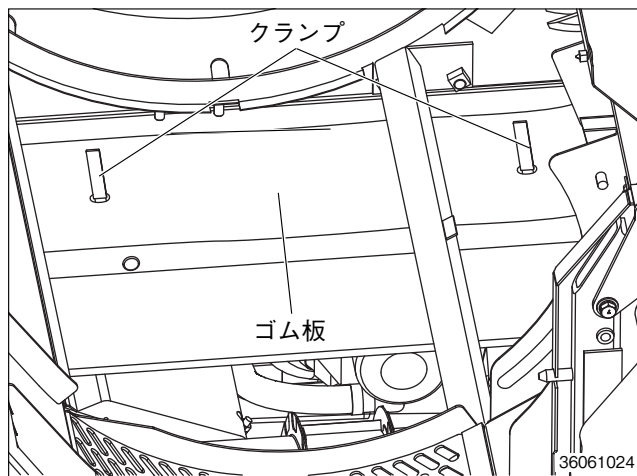
手入れのしかた

- 使用条件により部分的に撥水塗装が剥離する場合がありますが、極端な機能低下とはなりませんので継続してご使用ください。

なお撥水塗装が全体的に剥離した場合が交換の目安となります。

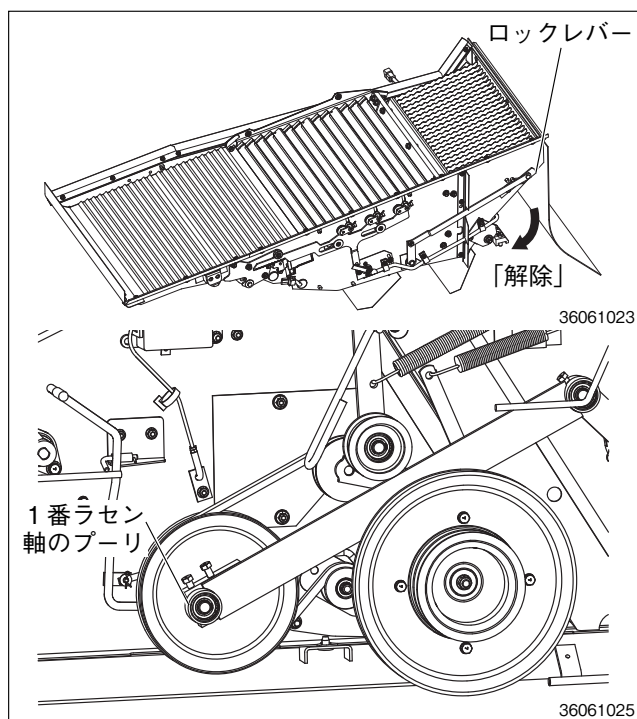
③ 揺動流板の取付かた

- (1) 揺動流板先端のゴム板を持ち上げてゴム板の穴にクランプを通して固定します。(揺動流板のかみ込みを防ぐため)

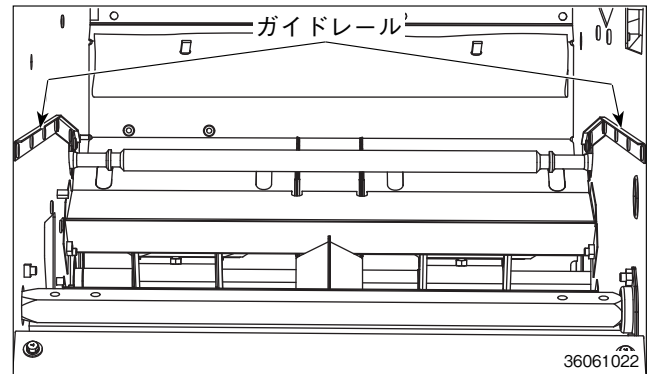


- (2) 揺動流板を組付けます。

- ① 揺動流板後方左側のロックレバーを「解除」位置にし、リンクアーム固定ボルト取付部が真上に向くように1番ラセン軸のプーリを回します。

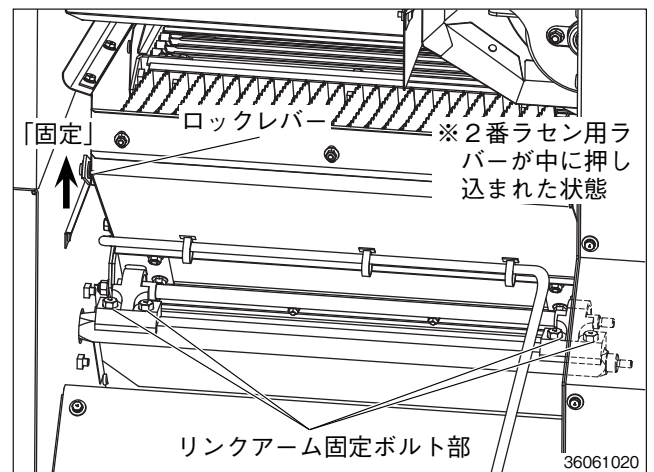


- ② 脱こく内部側面の左右のガイドレールに揺動流板先端のローラをのせ、少しずつ押し込んでいきます。(2人作業)



取扱いのポイント

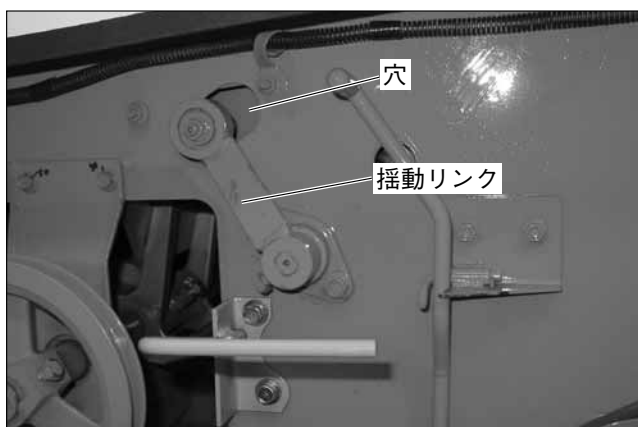
- 揺動流板はロックレバーを「解除」方向に押さえながら押し込んでください。(ロックレバーは揺動流板側面のストッパに当たるまで押付けてください)
- 揺動流板を押し込むときに2番ラセン用ラバーも確実に押し込まれているか、確認してください。はさみ込むと、揺動流板をセットできません。
- ③ リンクアーム固定部をシャフトにはめ込み、ボルトをゆるく締付けます。
- ④ ロックレバーを「固定」位置にします。



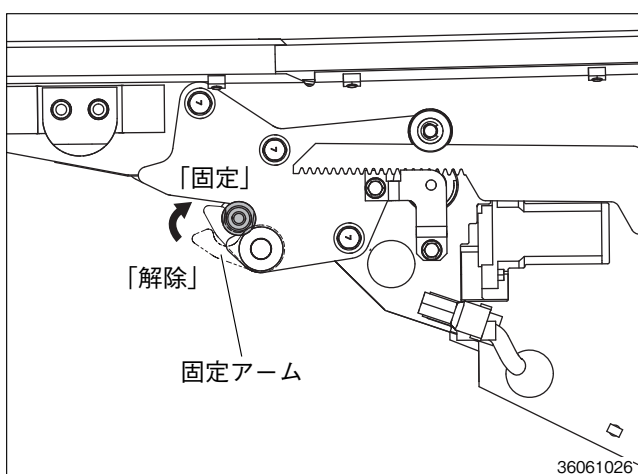
取扱いのポイント

- 揺動流板が確実に入っていないときは、ロックレバーを「固定」位置にしても、レバーにあそびがあり、ロックできません。この状態のときは再度セットし直してください。(①から)

- ⑤ 揺動リンクの穴から固定アームがシャフトにかかっていることを確認してください。
(揺動流板のロック部が見えます)



- ⑥ 固定アームがピンにかかっていること(固定状態)を確認します。

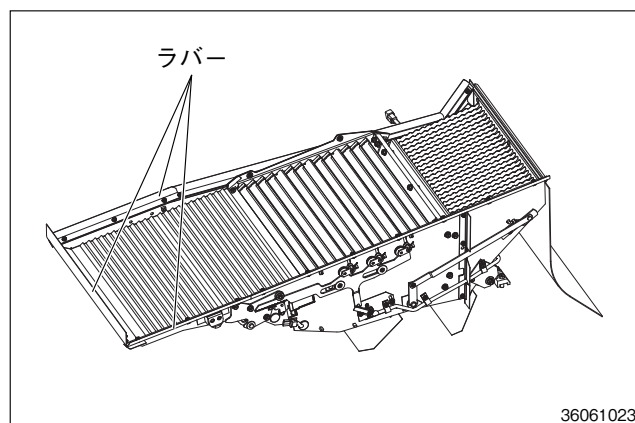


- ⑦ 右側面についても同様に固定アームがピンにかかっていることを確認してください。(グレンタンクをオープンし、確認します)

取扱いのポイント

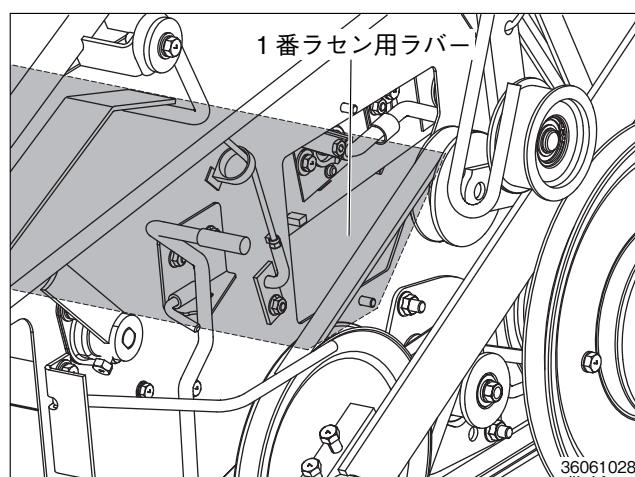
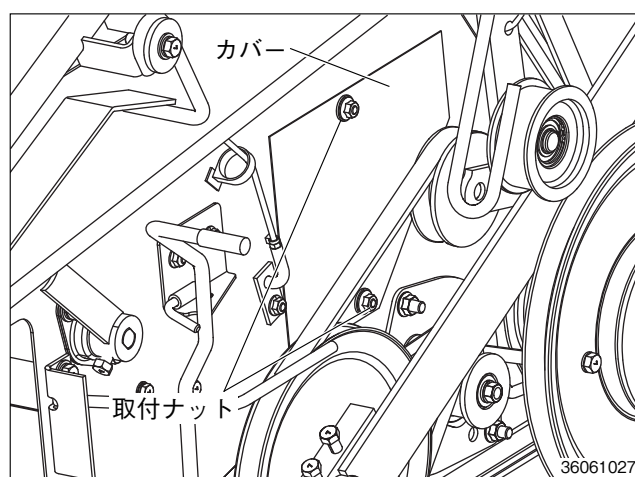
- 固定アームがピンから外れている場合または確実に固定されていない場合は再度セットし直してください。(①から)
- 揺動流板が正常にセットされていないと機械の破損の原因となります。揺動流板は確実に奥まで押込んでロックレバーを確実に「固定」してください。

- ⑧ 揺動流板側面と前側ラバーがかみこんで折曲がっていないことを確認してください。



- ⑨ 揺動流板下部の1番ラセン用ラバーが折曲がっていないことを確認します。

1. 取付けナットを外し、カバーを外してください。

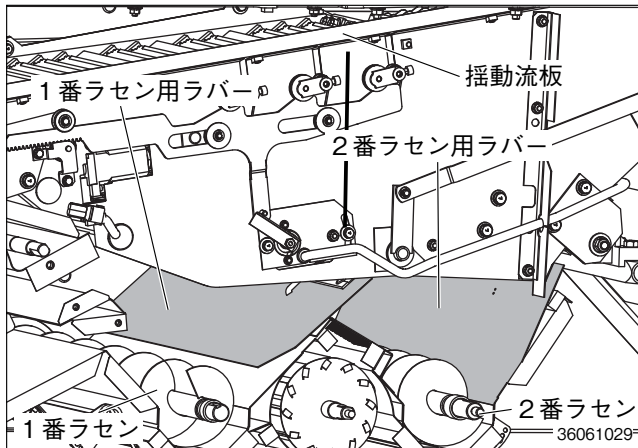


2. 1番ラセン用ラバーが1番ラセンの斜面部分に収まっているか確認してください。
正しくセットされていない場合はセットし直してください。

手入れのしかた

3. 揺動流板後部から見て、2番ラセン用ラバーが、2番ラセンの斜面部分に収まっているか確認してください。

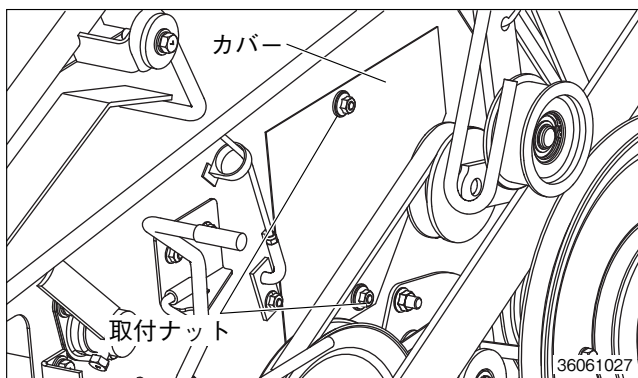
正しくセットされていない場合はセットし直してください。



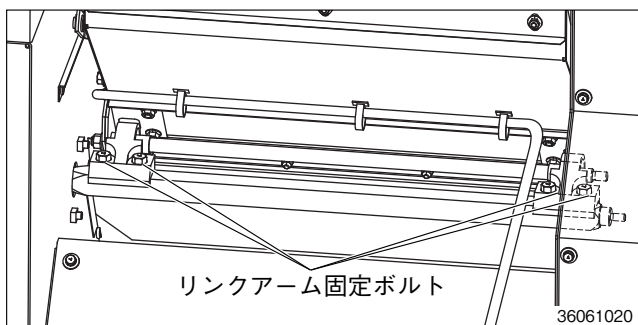
取扱いのポイント

- ラバーは正常にセットされていないとこく粒もれの原因となります。

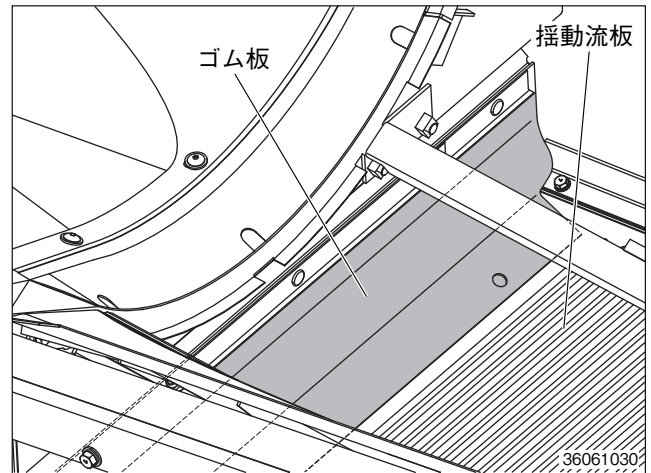
4. ラバーが正常にセットされていることが確認できたらカバーを取付ナット2本で取付けてください。



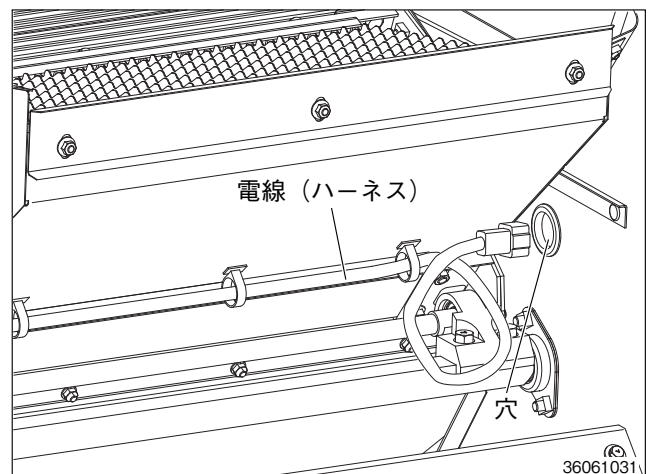
- ⑩ 揺動流板後部のリンクアーム固定ボルト左右各2個を取付け確実に締付けてください。



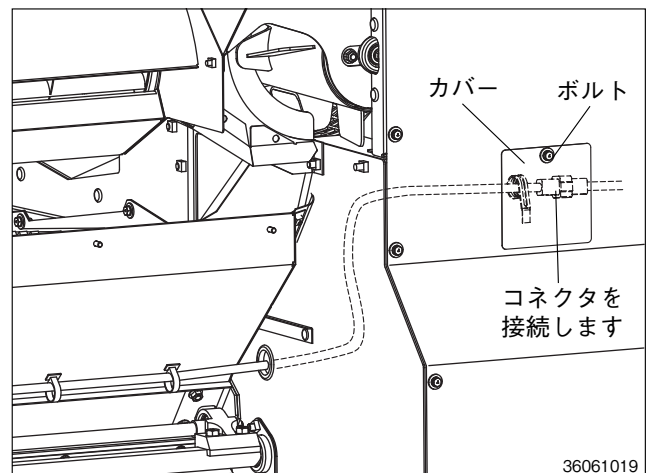
- ⑪ (2)で固定したゴム板をクランプから外し、揺動流板の上にたらししてください。



- ⑫ 電線（ハーネス）をゴムの付いた穴に通してグレンタンク側に出してください。

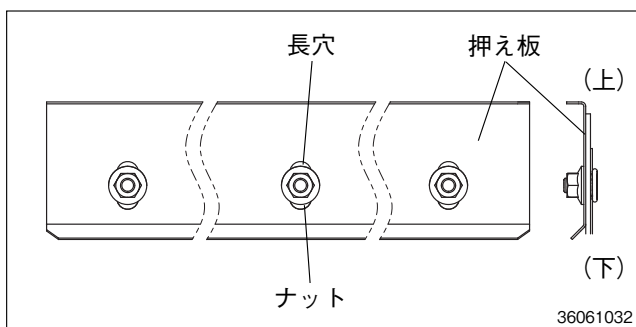


- ⑬ コネクタを接続し、カバーにコネクタを固定してください。その後、カバーを取付ボルトで固定してください。



取扱いのポイント

- 押え板は長穴中央で組付けます。



- ⑭ カッタを収納してください。(閉じます)
このときワイヤストップを組付けます。



取扱いのポイント

- ワイヤストップを組付けるときは取外しの逆の手順で行なってください。
- ⑮ 受網（上・下）を取付けてください。
- ⑯ 外したカバーおよびベルトを取付け、脱こくサイドカバー（上、下）、カッタサイドカバーを取付けてください。
- ⑰ こぎ胴部を閉じてください。（コンポアップ収納）

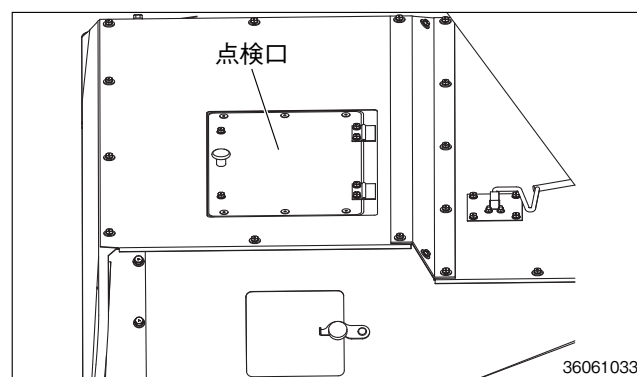
17. グレンタンク部の掃除

警告 傷害事故防止のために

◆ グレンタンクの掃除をするときは平坦な場所でエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ各部の動きが止まってから行なってください。

① グレンタンク内の掃除

グレンタンク上部の点検口より確認し、必要によりホウキなどでホコ리를払い、ゴミはタンク下部ラセンカバーを開いて外に出します。



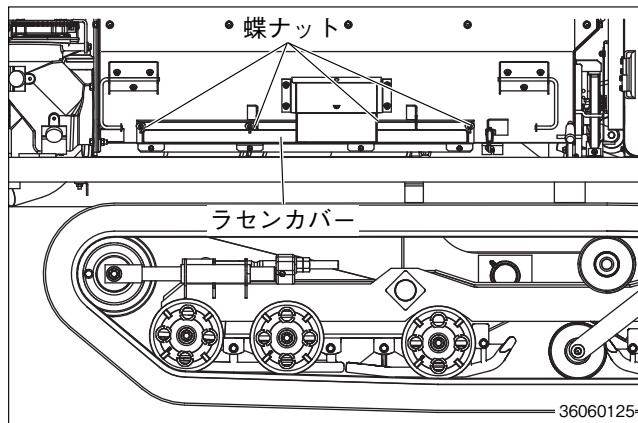
② 縦ラセン筒上部の掃除

排出オーガを上げ、上部ラセン掃除蓋を開いて掃除をします。



③ 横ラセン部の掃除

- (1) グレンタンクの下部カバーを取外します。
- (2) タンクを一杯に回転し、ストoppaをフレームにかけます。(117～118ページ参照)
- (3) 蝶ナットをゆるめて外し、ラセンカバーを開いて、掃除します。
- (4) ラセンカバーを蝶ナットで固定し、タンクを閉じてグレンタンク下部カバーを取付けます。



④ 縦ラセン筒下部の掃除

- (1) グレンタンクの下部カバーを取外します。
- (2) 縦ラセン筒下部の掃除蓋を開いて、掃除します。
- (3) 作業後、グレンタンク下部カバーを取付けます。



取扱いのポイント

- 各掃除蓋（カバー）はモミ嚙などによるすき間がないことを確認して、確実に締めてください。

18. 刈取部の開閉のしかた [RET, RH仕様を除く]

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆ 刈取部をオープンするときは、機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。
- ◆ 刈取部をオープンしたまま、走行しないでください。
- ◆ 枕木などで刈取部の落下防止の固定をしてください。
- ◆ 刈取部をオープンしたまま機体をジャッキアップしないでください。
- ◆ 機体をジャッキアップしたまま刈取部をオープンしないでください。

⚠注意

- ◆ 取外したカバー類は、作業後取付けてください。

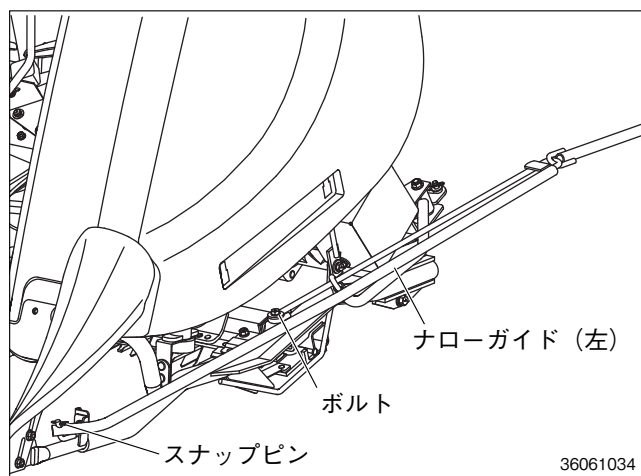
取扱いの手順書は刈取部サイドカバー（左）の内側に貼ってあります。

① 刈取部の開き方

- (1) 機体を下げます。水平操作レバーで機体を最下降位置にします。
- (2) 刈取部を床面まで降ろしたあと、エンジンを停止します。



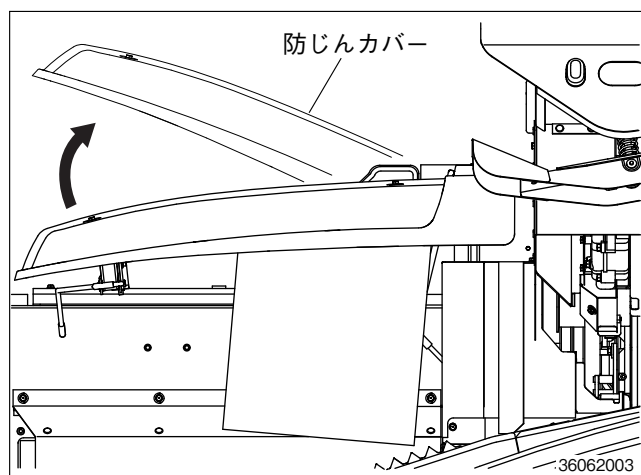
- (3) ナローガイド(左)のボルト1本とスナップピンを外しナローガイド(左)の前側のみ外します。



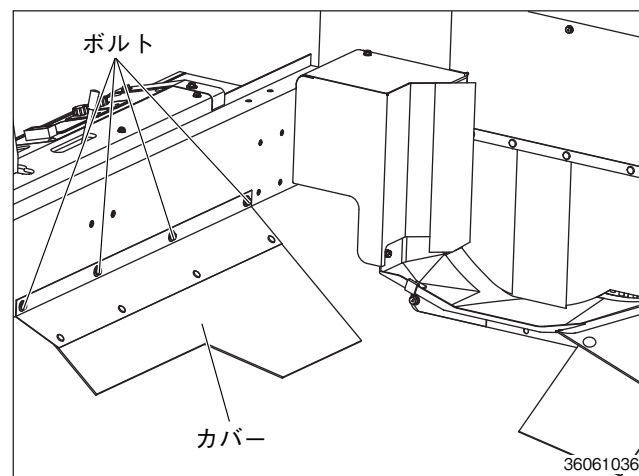
- (4) 脱こくサイドカバー (上) を取外しコンポアップをします。



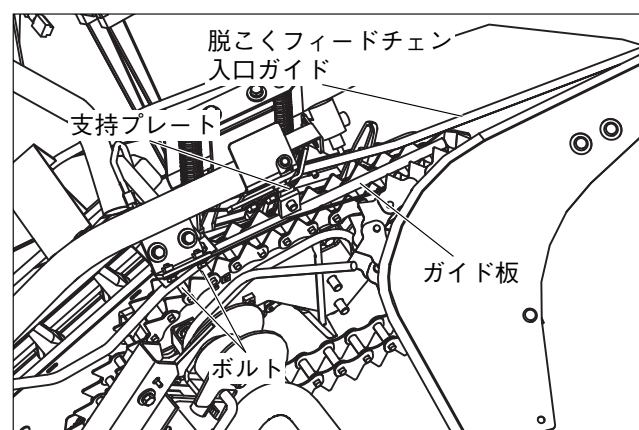
- (5) 防じんカバー付は防じんカバーを開いておきます。(ディーラーオプション)[X仕様を除く]



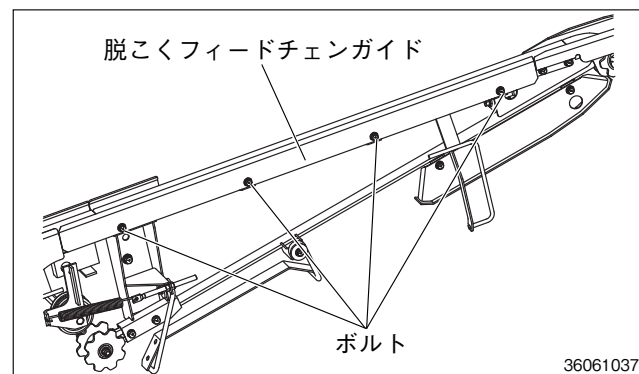
- (6) 運転席横カバーのボルト4本を外しカバーを取外します。



- (7) 支持プレートを外し、脱こくフィードチェンガイド (入口ガイド) を取外します。
ガイド板のボルト2本を外し、ガイド板を取外します。



- (8) 脱こくフィードチェン先端部を下方へ回します。
① 脱こくフィードチェンガイドのボルト4本を外して脱こくフィードチェンガイドを取外します。

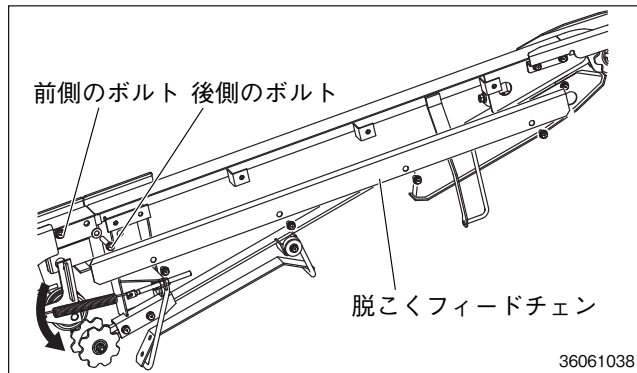


- ② 脱こくフィードチェンガイドを外すと脱こくフィードチェン固定ボルトが2本あります。後側のボルトを外し、前側のボルトをゆるめます。

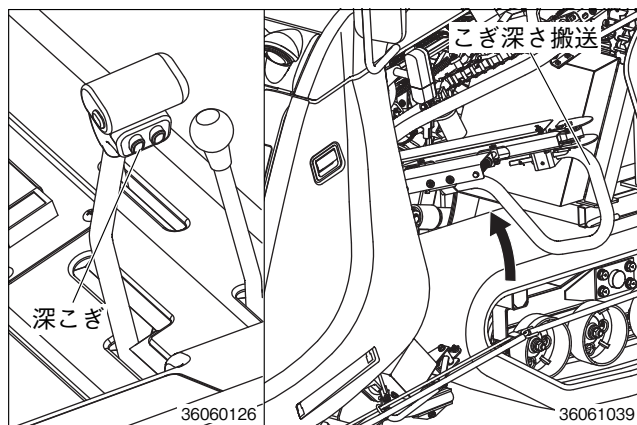
手入れの
しかたの

手入れのしかた

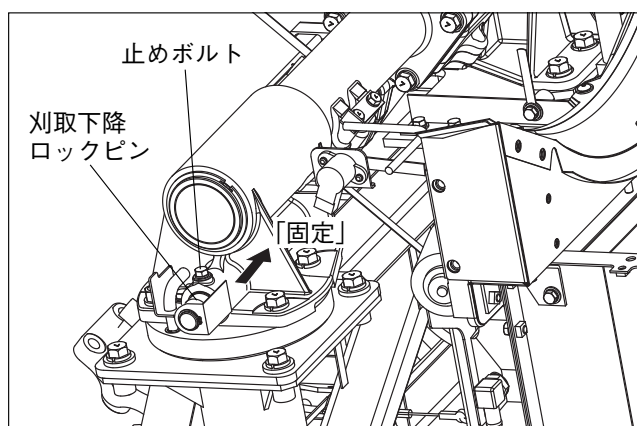
- ③ 脱こくフィードチェン先端部を矢印方向に回します。



- (9) スタータスイッチを《入》位置にしたあと、こぎ深さ手動スイッチの《深こぎ》を押してこぎ深さ搬送チェン最上昇位置にします。



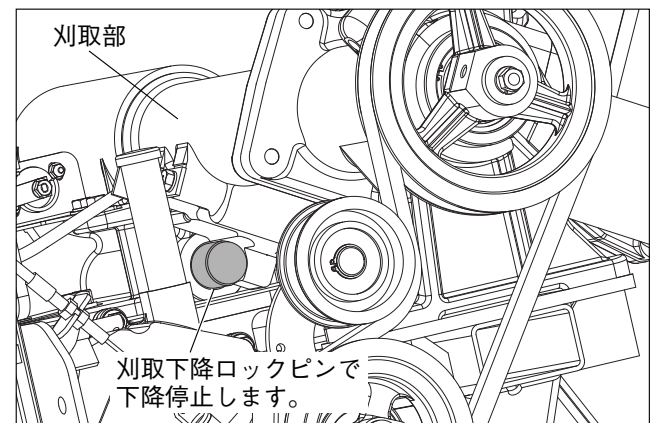
- (10) エンジンを始動したあと、刈取部を最上昇位置にし、エンジンを停止させます。
- (11) 刈取下降ロックピンを「固定」位置にします。
・止めボルトをゆるめてロックピンを矢印方向へいっぱい押し込んで再度ボルトで締付けます。



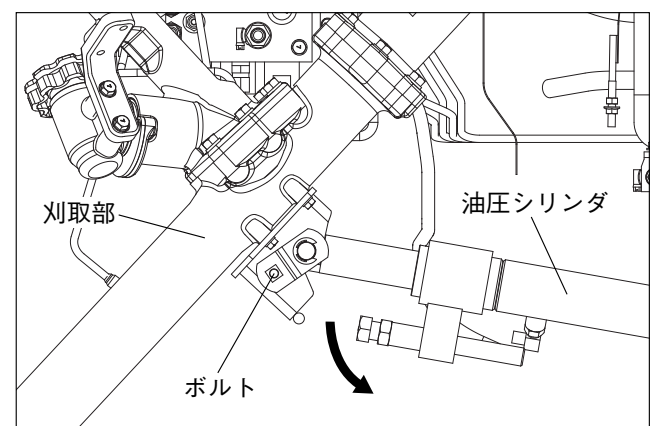
警告 傷害事故防止のために

◆刈取下降ロックピンが作用していることを確認します。作用していないと刈取部が下がるおそれがあります。

- (12) 再びエンジンを始動させ、マルチステアリングレバーで刈取部の下降が停止するまで刈取部を下降させ、エンジンを停止させます。



- (13) 刈取部と油圧シリンダを固定しているボルトを外し、油圧シリンダを下方へ外します。

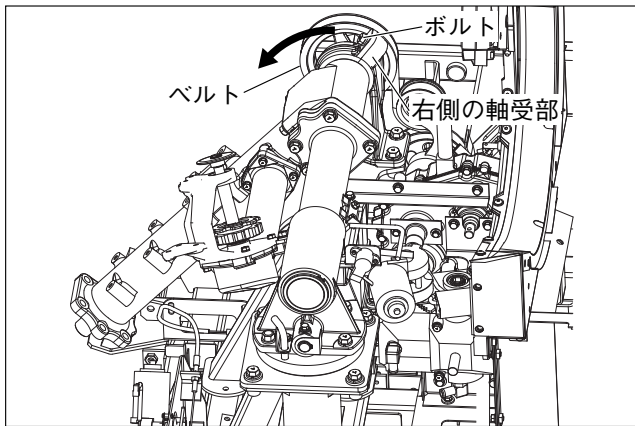


取扱いのポイント

- 油圧シリンダが外しにくい場合はシリンダ先端部を押さえながら下げてください。

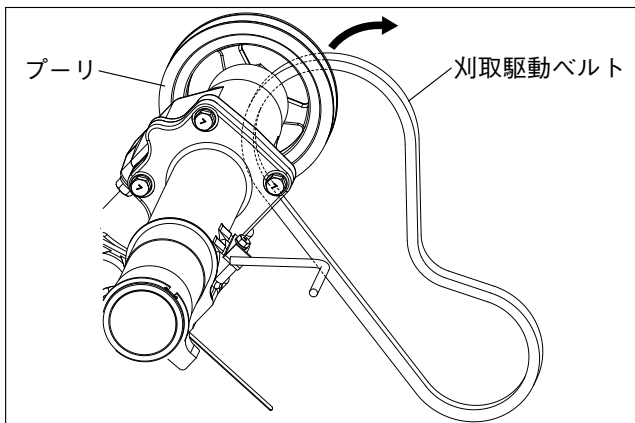
(14) 右側の軸受部ボルトを外し、軸受けを前側に倒します。

このとき刈取駆動ベルトも外しておきます。



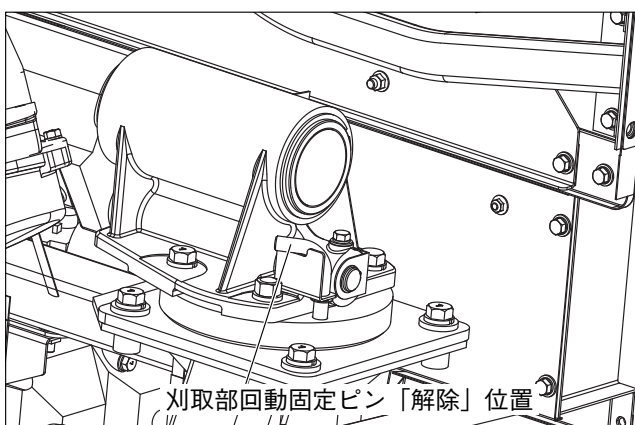
取扱いのポイント

●外した刈取駆動ベルトをそのままの状態ですと刈取部オープン時にプーリに引っ掛かることがありますので刈取駆動ベルトを脱こく側におき、プーリ位置を外すと、容易に刈取部がオープンできます。



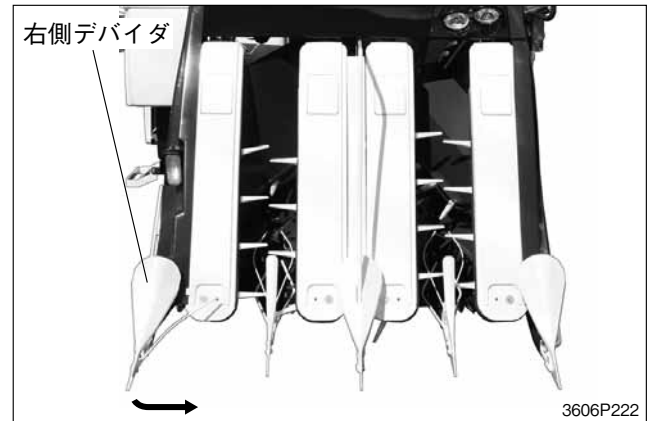
(15) 刈取部をオープンします。

① 刈取部回転固定ピンを解除位置にします。

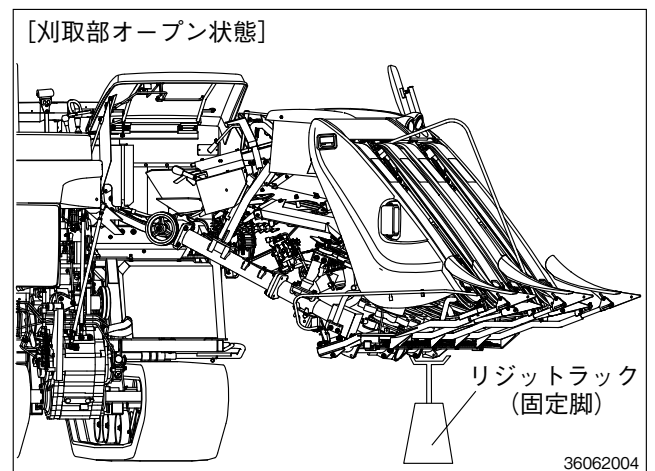
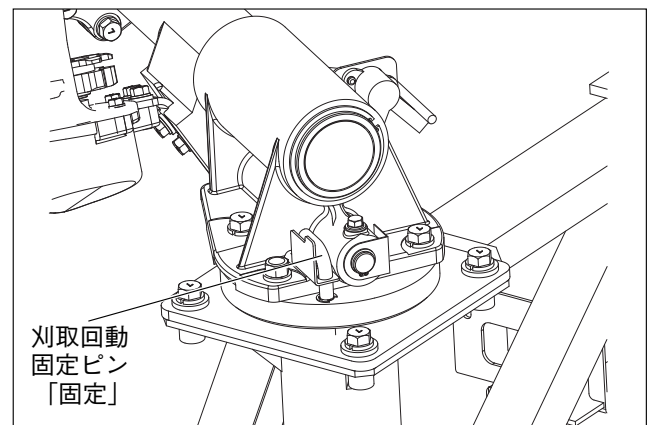


② 刈取部を持上げ少し開き、刈取部回転固定ピンを「解除」位置から外します。

③ 右側のデバイダを持ち機体左側へ回転させて刈取部下方にリジットラック（固定脚）をセットします。



④ 刈取部を刈取オープン穴位置まで回転させて回転固定ピンで固定します。



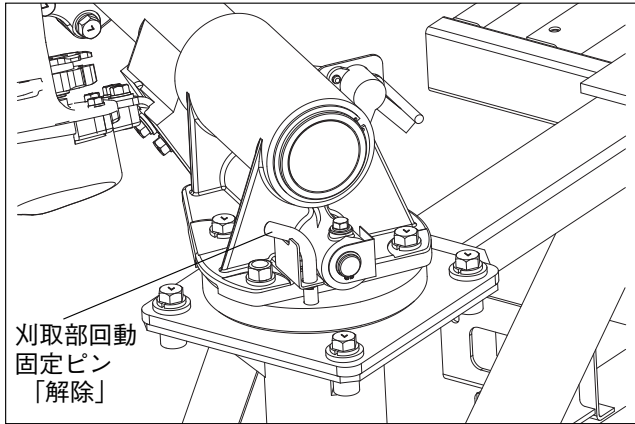
手入れのしかた

手入れのしかた

② 刈取部の閉じかた

(1) リジットラック（固定脚）を外し刈取部を閉じます。

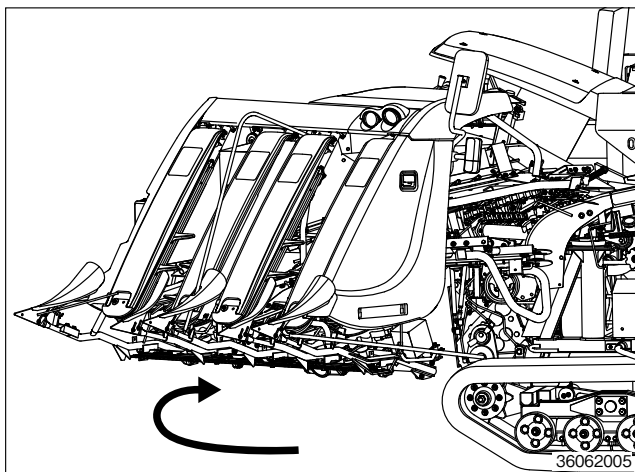
① 回動固定ピンを「解除」位置にします。



② 脱こく入口ゴムプレートを穂先ガイドで固定（はさんだ状態）してください。

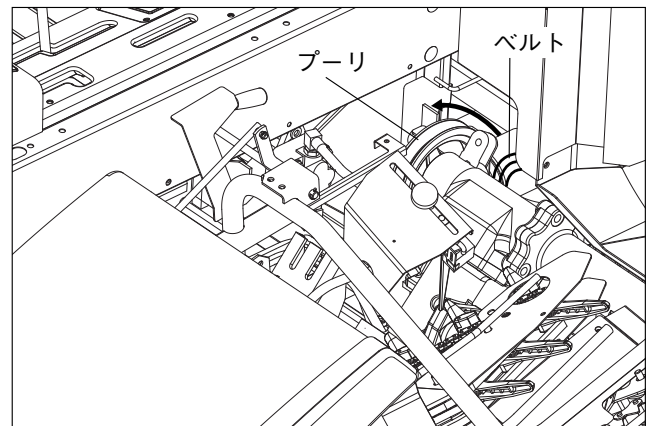


③ 刈取部を機体右側へ軸受けに軸が入るまで回動します。



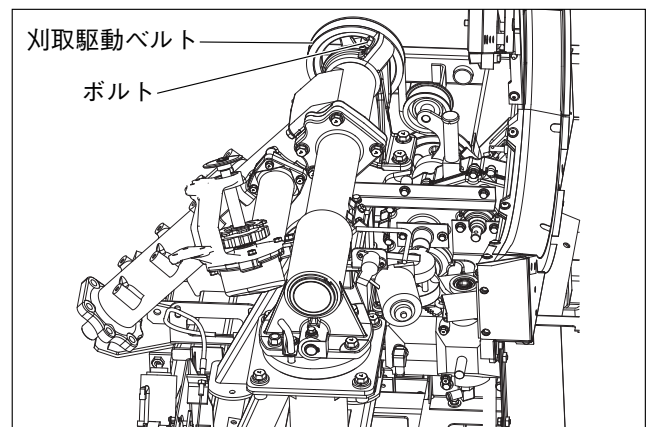
取扱いのポイント

● 刈取駆動ベルトがプーリの左側（内側）に入っているときは、刈取部を少し開いて刈取駆動ベルトをプーリ右側（外側）の位置にしてください。



(2) 刈取軸右側の軸受けをボルトで締付けます。

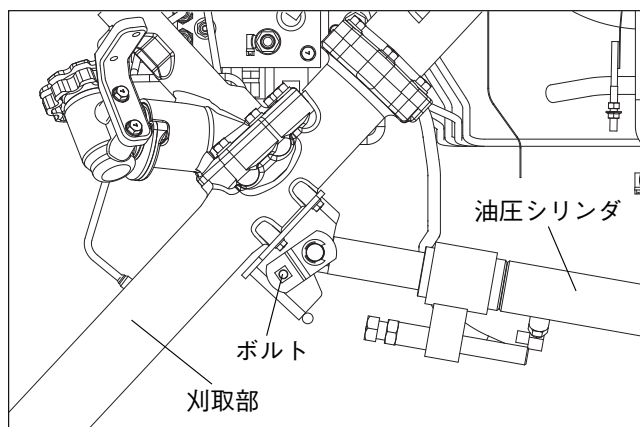
(3) 刈取駆動ベルトをプーリに掛けます。



取扱いのポイント

● 軸受けを組付ける前に、軸受にグリスを塗布してください。

(4) 刈取部と油圧シリンダをボルトで固定します。



取扱いのポイント

- 油圧シリンダが穴位置に合わないときは、油圧シリンダの長さを調整して行なってください。

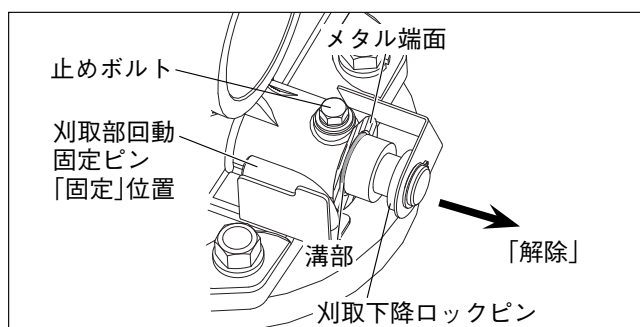
(5) 油圧固定スイッチを《作業時》位置にします。



(6) エンジンを始動したあと、刈取部を最上昇位置にし、エンジンを停止させます。

(7) 刈取下降ロックピンを「解除」位置にします。
・止めボルトをゆるめてロックピンを引出し溝部がメタル端面と重なる位置（ボルトの締付けができる位置）で再度ボルトを締付けます。

(8) 刈取部回転固定ピンは「固定」位置にします。

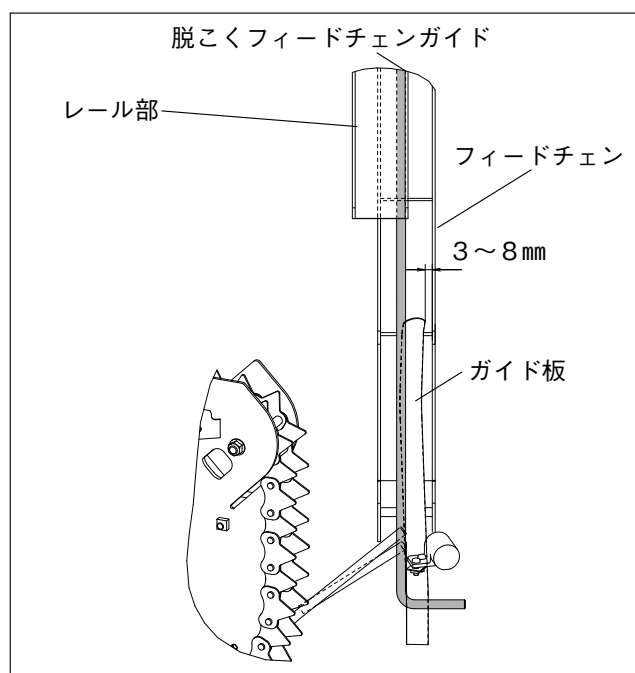


(9) エンジンを始動し、刈取部を床面まで降ろしスタータスイッチを《切》位置にします。

(10) 開き方の手順(3)~(8)と逆の手順で各部品を取付けます。

取扱いのポイント

- 脱こくフィードチェンガイド（入口ガイド）がレール部の内部にあることを確認します。
- ガイド板の先端寸法が **3~8mm** になっていることを確認します。



手入れのしかた

4. 各部の点検と部品交換のしかた

1. カッタ刃組品の取外しと分解

⚠危険 傷害事故防止のために

- ◆カッタをオープンしてカッタ刃組品の取外し、分解をするときはエンジンを停止し、平坦な場所に機械を静置してください。
- ◆刃の交換作業は、厚手の手袋を着用し2人作業で合図をし合って行なってください。

⚠注意

- ◆各部の点検と調整で外したカバー類は、全て元の位置に取付けてください。

カッタ刃組品（ノコ刃、スターホイル刃）の交換方法

- ノコ刃軸はカッタをオープンせず後側より取外します。
- スターホイル軸はカッタをオープンして前側より取外します。

① ノコ刃軸の交換

(1) カッタサイドカバーを取外します。

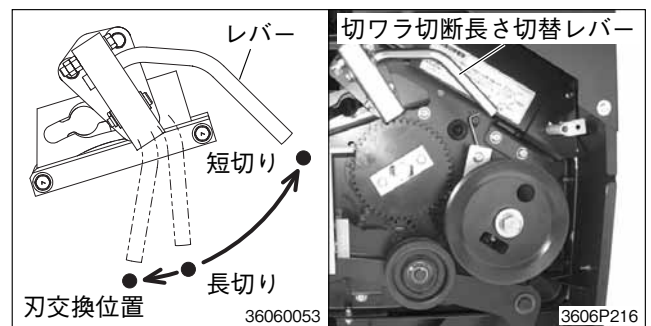


(2) カッタ刃の交換は、カッタ排ワラ切替レバーを《カッタ》位置にして行ってください。



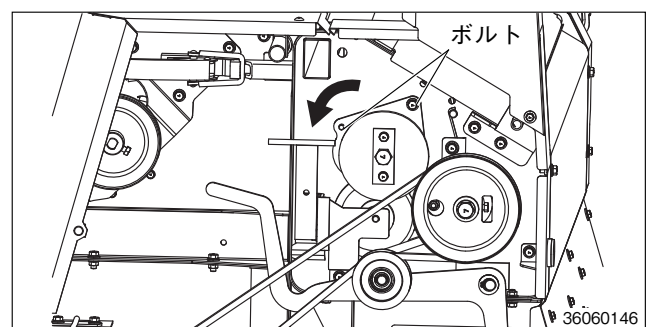
(3) 切ワラ切断長さ切替レバーを刃交換位置にする。
[RET, RH仕様を除く]

- ・刃交換位置への切換は、ロックが外れる位置まで切ワラ切断長さ切替レバーを引き回動します。



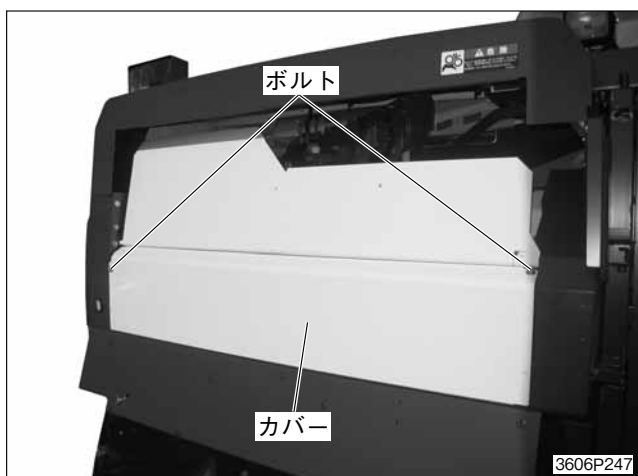
[RET仕様, RH仕様]

- ・両側のボルト2箇所を外して、下図の矢印方向に倒します。

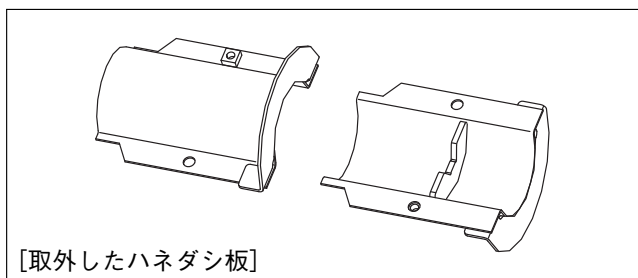
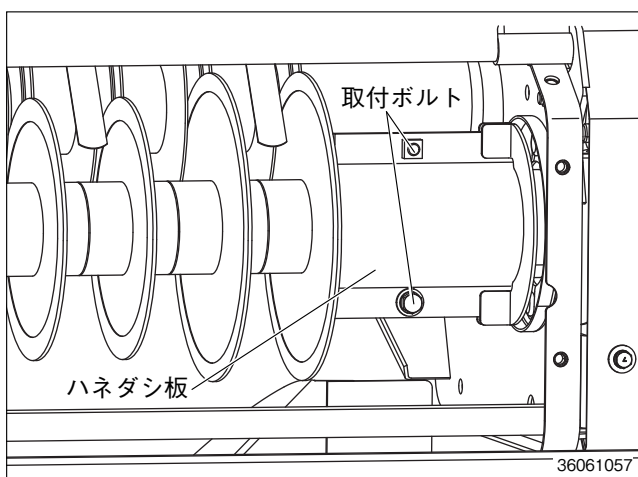


- ・ボルトが外れにくい場合は、カッタを回動して、カバーを外して作業をしてください。(139ページ参照)

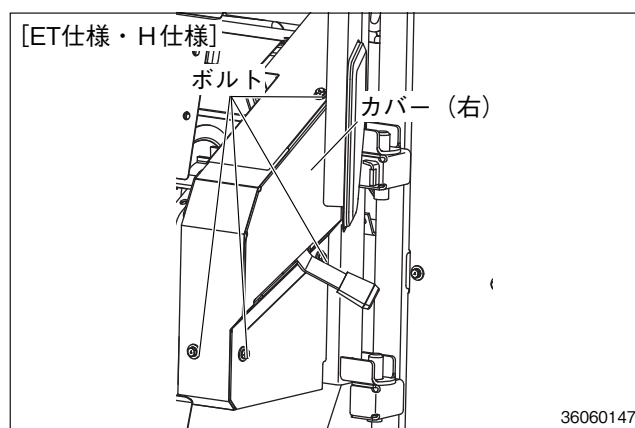
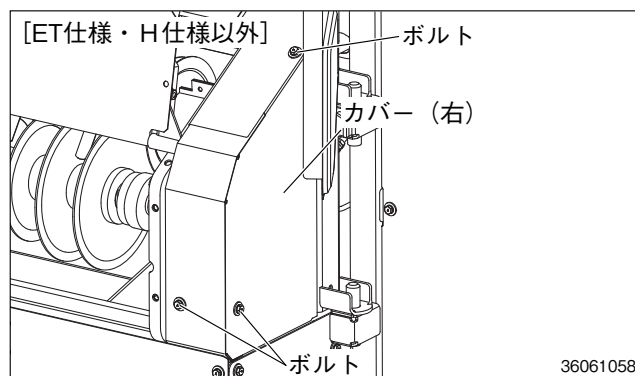
- (4) カッタ後部のカバーを外します。
 ・カバーの取付ボルトは下記の2個です。このボルトを取外してカバーを外します。



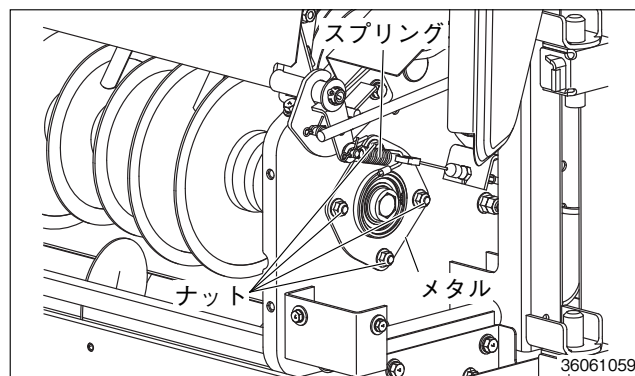
- (5) ハネダシ板の取付ボルト（2個）を外して、ハネダシ板を取外します。



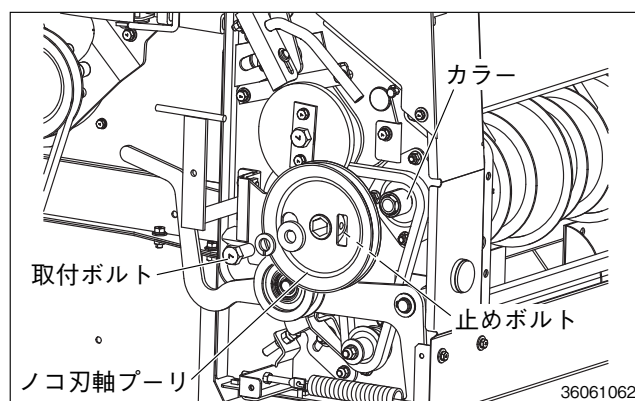
- (6) カバー（右）のボルトを外し、カバー（右）を取外します。



- (7) メタルのナットを外し、スプリングを上に上げながらメタルを取外します。



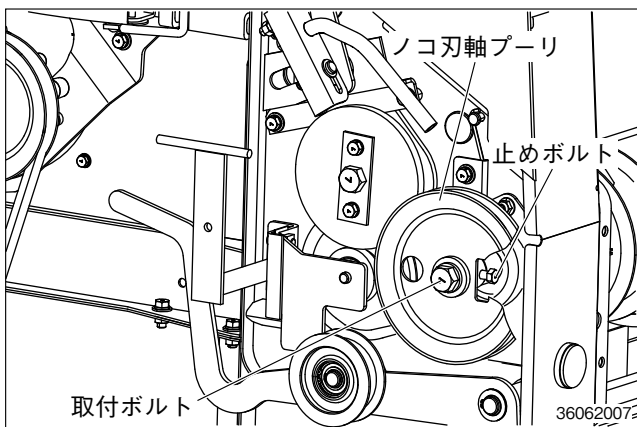
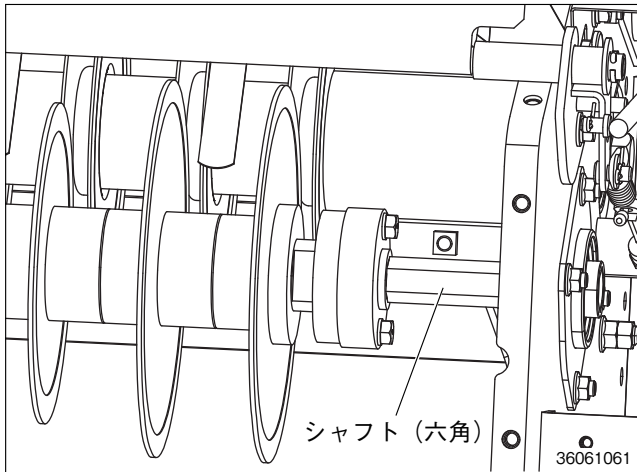
- (8) ノコ刃軸プーリの取付ボルトと止めボルトを外しプーリ、カラーを外します。



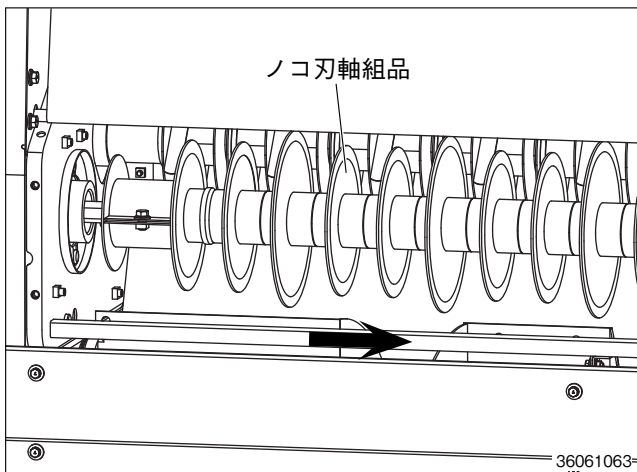
手入れのしかた

取扱いのポイント

- スパナで取付ボルトを回すと、ノコ刃軸ごと回転してボルトがゆるみません。ノコ刃軸を固定するには、ハネダシ板の中のシャフト（六角）をスパナで固定して行くと容易に外れます。

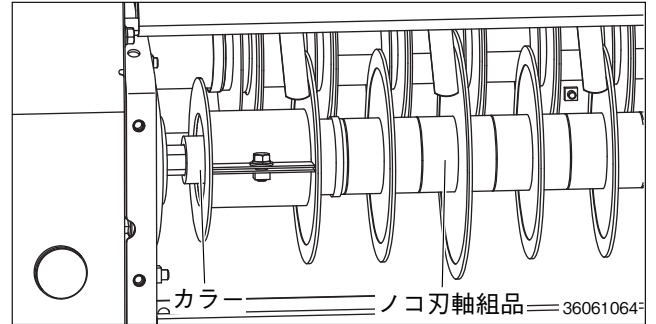


- (9) 矢印の方向にノコ刃軸組品をずらしながら外します。



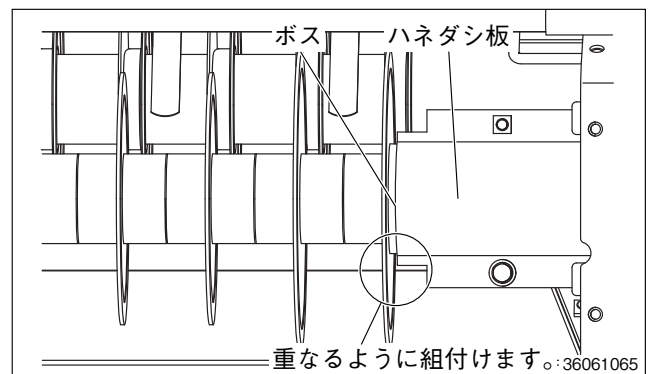
取扱いのポイント

- ノコ刃軸組品のシャフト部にカラーが入っています。落とさないように注意してください。また、組立時に忘れずに取付けてください。



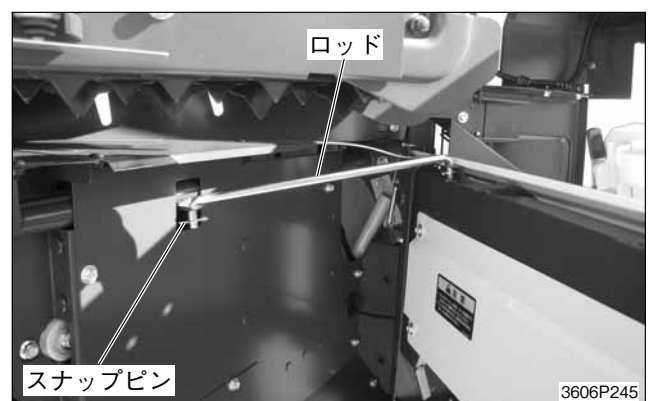
取扱いのポイント

- ノコ刃軸組品を組付けるときは取外しと逆の手順で行なってください。
- ハネダシ板を組付けるときはボスとハネダシ板が重なるように組付けます。

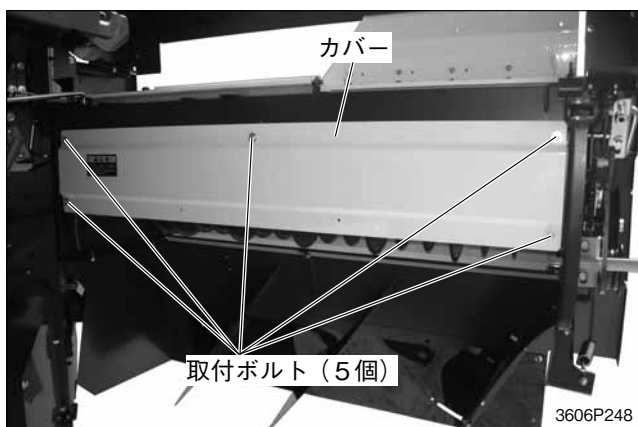


② スターホイール軸の交換

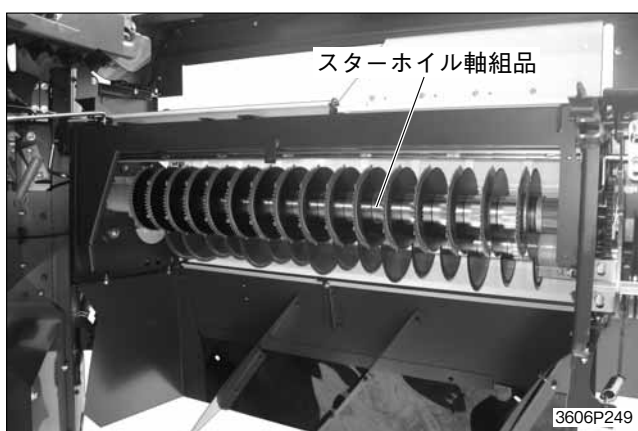
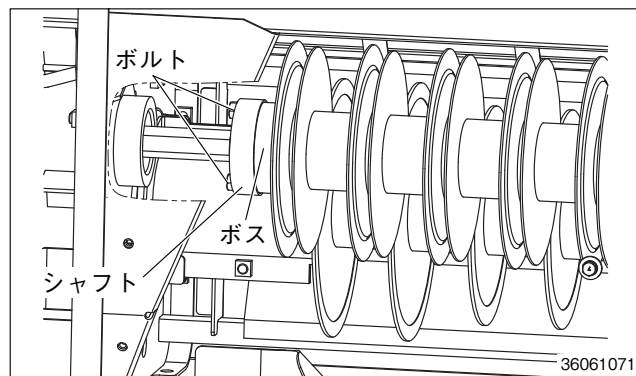
- (1) サイドカバーを取外し、排ワラ切替レバーを《カッタ》位置にし、刃交換位置にします。
(136ページ参照)
- (2) カッタをオープンし、ロッドで固定します。



(3) カッタのカバーを外します。

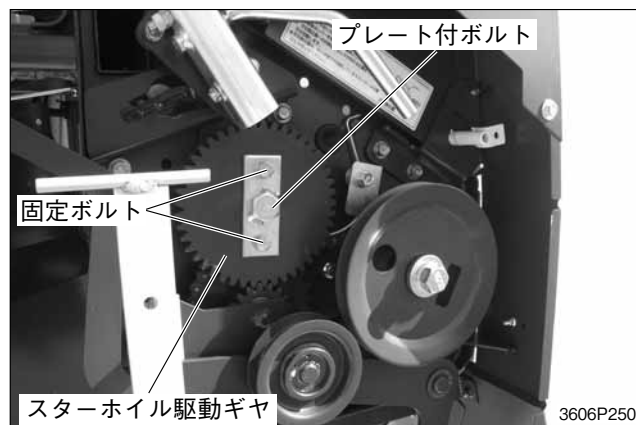


(5) シャフトとボスを固定しているボルト (2個) をゆるめます。

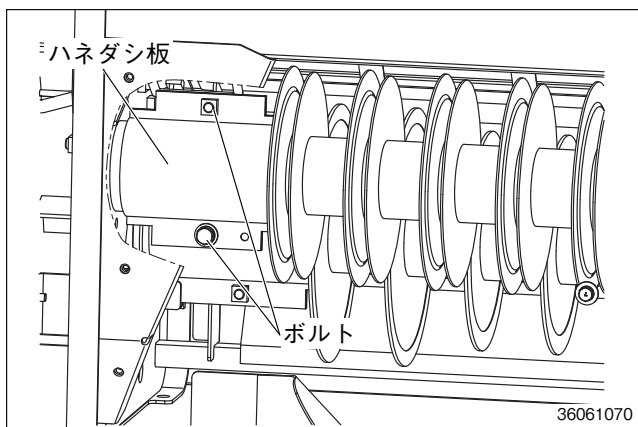


(6) スターホイール駆動ギヤを固定しているプレート付ボルトの固定ボルト (2個) を外します。

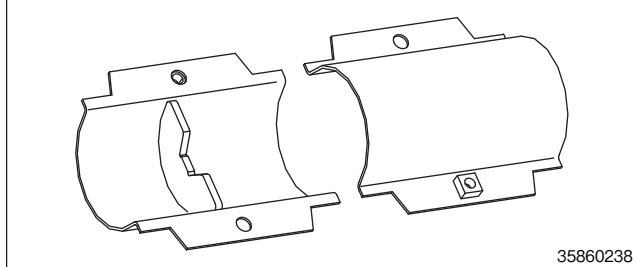
(7) プレート付ボルトを外します。



(4) ボルト (2個) を外してハネダシ板を外します。



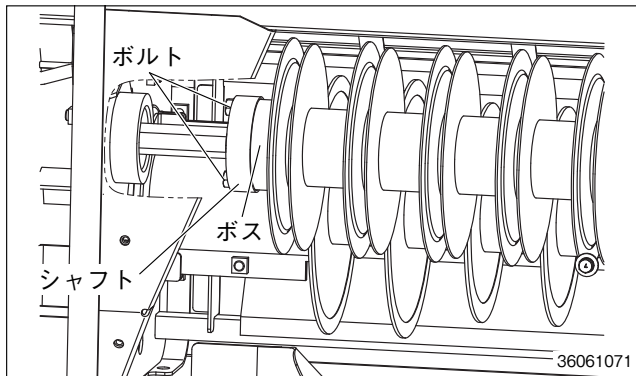
[取外したハネダシ板]



手入れのしかた

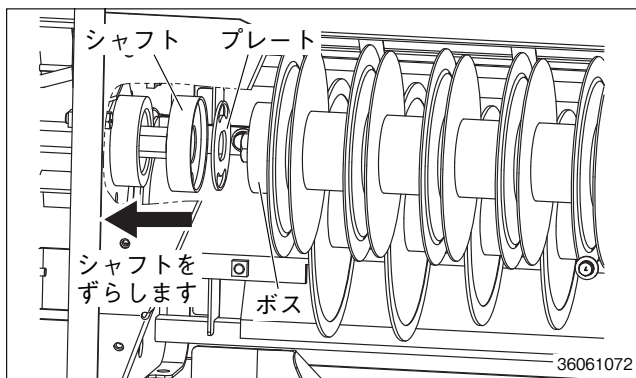
手入れのしかた

- (8) シャフトとボスを固定しているボルト（2個）を外してシャフトとボスを分離します。

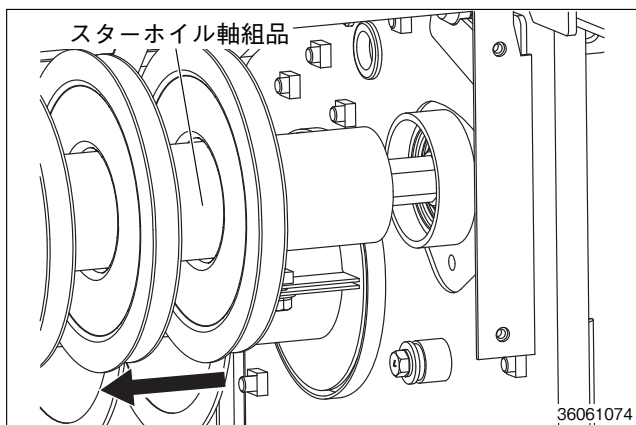


取扱いのポイント

- ボスとシャフトの間にプレートが入っています。落とさないように注意してください。また、組立時に、忘れずに取付けてください。

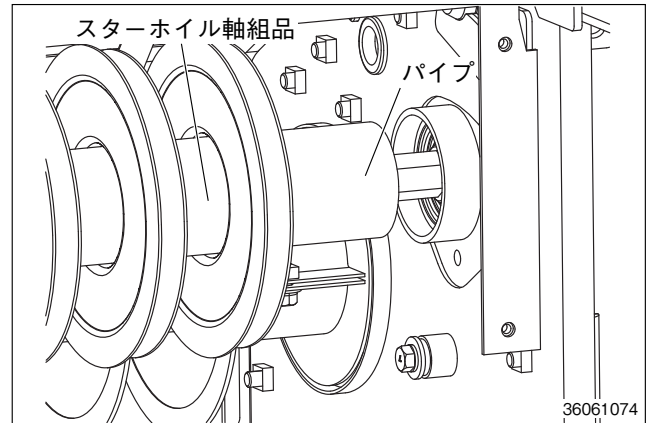


- (9) 矢印の方向にずらしながら、スターホイール軸組品を外します。



取扱いのポイント

- スターホイール軸組品のシャフトにパイプが付いています。落とさないように注意してください。また、組立時に、忘れずに取付けてください。

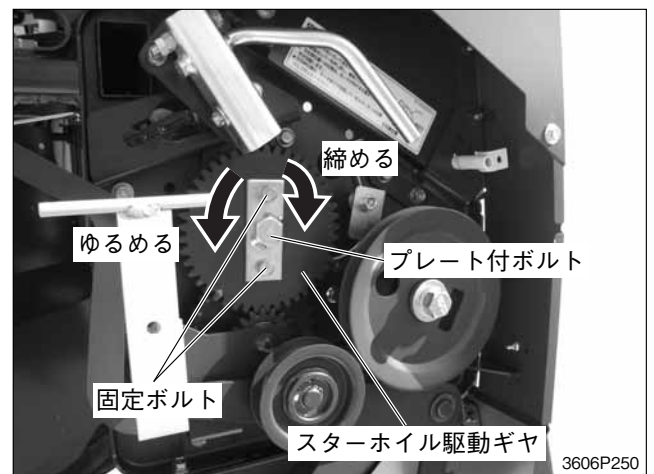


取扱いのポイント

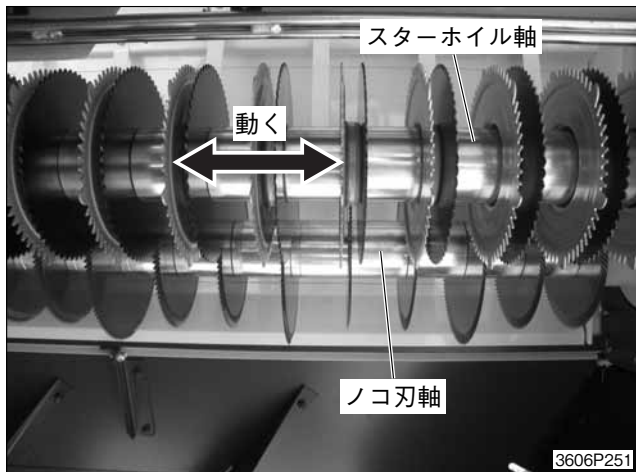
- スターホイール軸組品を組付けるときは取外しの逆の手順で行なってください。

③ ノコ刃とスターホイールのスキマ調整

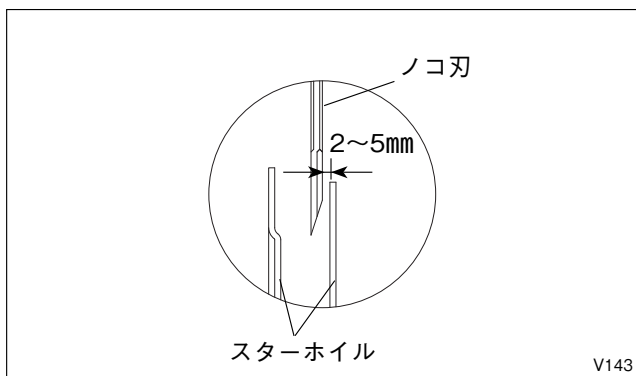
- (1) カッターをオープンし、ロッドで固定します。
- (2) スターホイール駆動ギヤを固定しているプレート付ボルトの固定ボルト（2個）を外します。



- (3) プレート付ボルトを締込むと（あるいはゆるめると）、スターホイール軸が少しずつ動きます。
- (4) カッターのカバーを外した状態で、下から目視でスキマを確認します。



(5) ノコ刃とスターホイールのスキマが「2～5mm」になるようにプレート付ボルトを回して、調整終了後は固定ボルトで固定します。



(6) カッタのカバーを取付け、カッタを閉めます。
 (7) 切ワラ切断長さ切替レバーを「長切り」または「短切り」位置にします。[RET, RH仕様を除く]

・ [RET, RH仕様] の場合は、メタルを戻しボルトで固定します (136ページ参照)

(8) 取外したカバーを全て取付けます。

④ 刃の交換のしかた

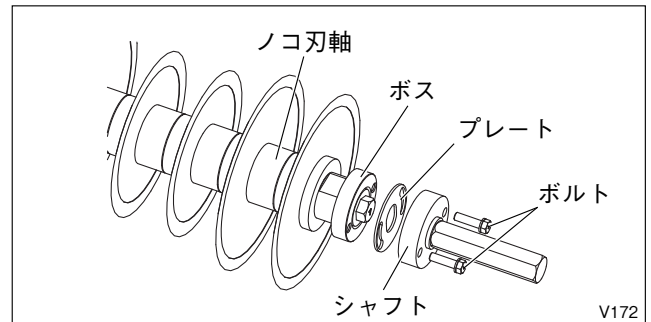
危険 傷害事故防止のために

◆刃の交換作業は2人作業で行なってください。

◆刃の交換のときは厚手の手袋を着用し、刃先に手が触れないようにしてください。

(1) 刃先を傷つけないよう板または布を下に敷いてください。

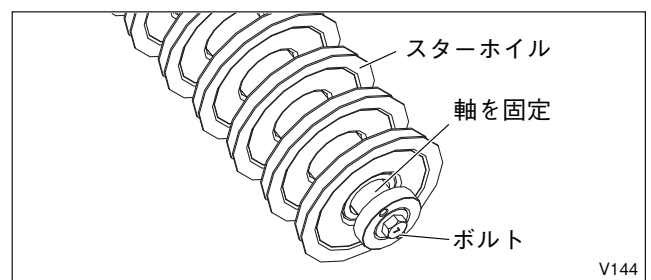
(2) ノコ刃軸は、シャフトとボスを固定しているボルト (2個) を外して、分離します。



取扱いのポイント

●ボスとシャフトの間にプレートが入っていますので、組立時に忘れずに取付けてください。

(3) ノコ刃やスターホイールは片方のスパナで軸を固定し、先端のボルトを外します。



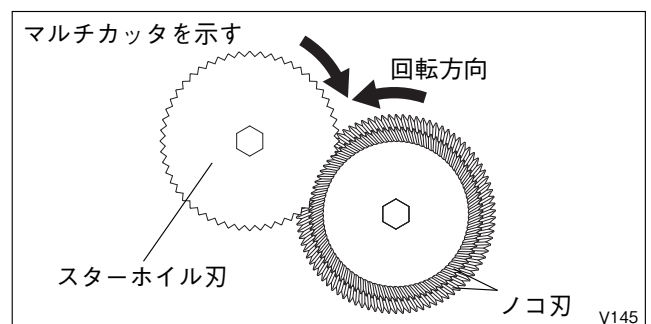
(4) 軸にそって部品を取外します。

(5) 作業後、カッタを閉じカッタサイドカバーを取付けます。

取扱いのポイント

●カッタはギヤ側が、組立て基準になっています。刃の交換後、スターホイール刃とノコ刃の接触がないことを、確かめてください。刃のスキマは2～5mmが最適です。

●ノコ刃、スターホイール刃の取付けのときは刃の方向を間違えないように、元どおりに組付けます。



手入れのしかた

**[RET, RH仕様] ディスク
カッタ60mmノコ刃軸, スタ
ーホイール軸組み立て要領**

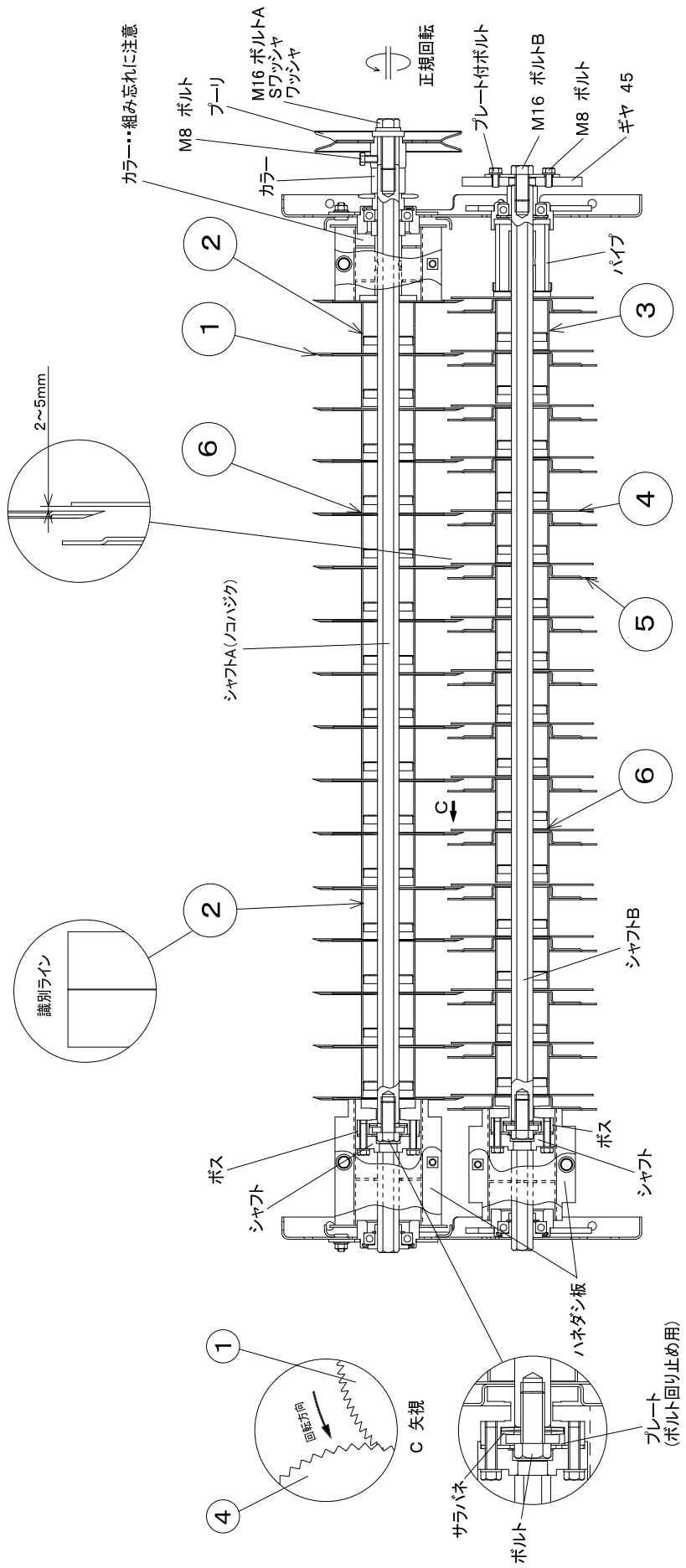
取扱いのポイント

- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。順序を違えたとスターホイール刃とノコ刃が合わなくなります。

組付要領

1. 本機の取り扱い説(カッタのオープン仕様の仕方)を参照し、カッタをオープンします。
2. 刃の組み付け方向に、注意してください。(C 矢視参照)
3. シャフトA、シャフトBを組み立てる際にはシャフトを垂直に立てて組付け、各部品がシャフトに対し垂直になるように組み立てます。識別ライン付きをシャフトA(ノコバジク)側に取り付けます
4. ハブアッシーの識別に注意し挿入方向は図示通りに組立てます。
5. サラハネの組み付け方向は、下図の通りとし、ボルトの締め付けトルクは64~74N・m(650~750kgf・cm)とする。(2箇所)
6. M16ボルトAは、スリーボンド1344N相当品を塗付し、64~74N・m(650~750kgf・cm)にて締め付けます。
7. ①ノコハと④スターホイールのスキマは、2~5mmになるようM8ボルトを締め付ける前にM16ボルトBをギヤ45に対し回して、ジグツシーをスライドさせ調整します。
8. 7項にてスキマ管理ができない場合には、⑥ライナにて調整し直してください。
9. 組み換え終了後、手でゆっくり正規回転し刃のスキマの管理ができているか確認願います。

番号	部品名称	部品番号	16枚刃の総個数
1	ノコハ(φ160)	3830 0415 000	16
2	パイプA	3574 8786 000	15
3	パイプB	3574 8816 000	15
4	スターホイールA	3574 8808 000	16
5	オサエバン	3574 8813 000	16
6	ライナ	3829 0518 000	(6)必要に応じ



**[RET, RH仕様を除く]
マルチカッタ60/180mm
ノコ刃軸, スターホイール軸
組み立て要領**

組付要領

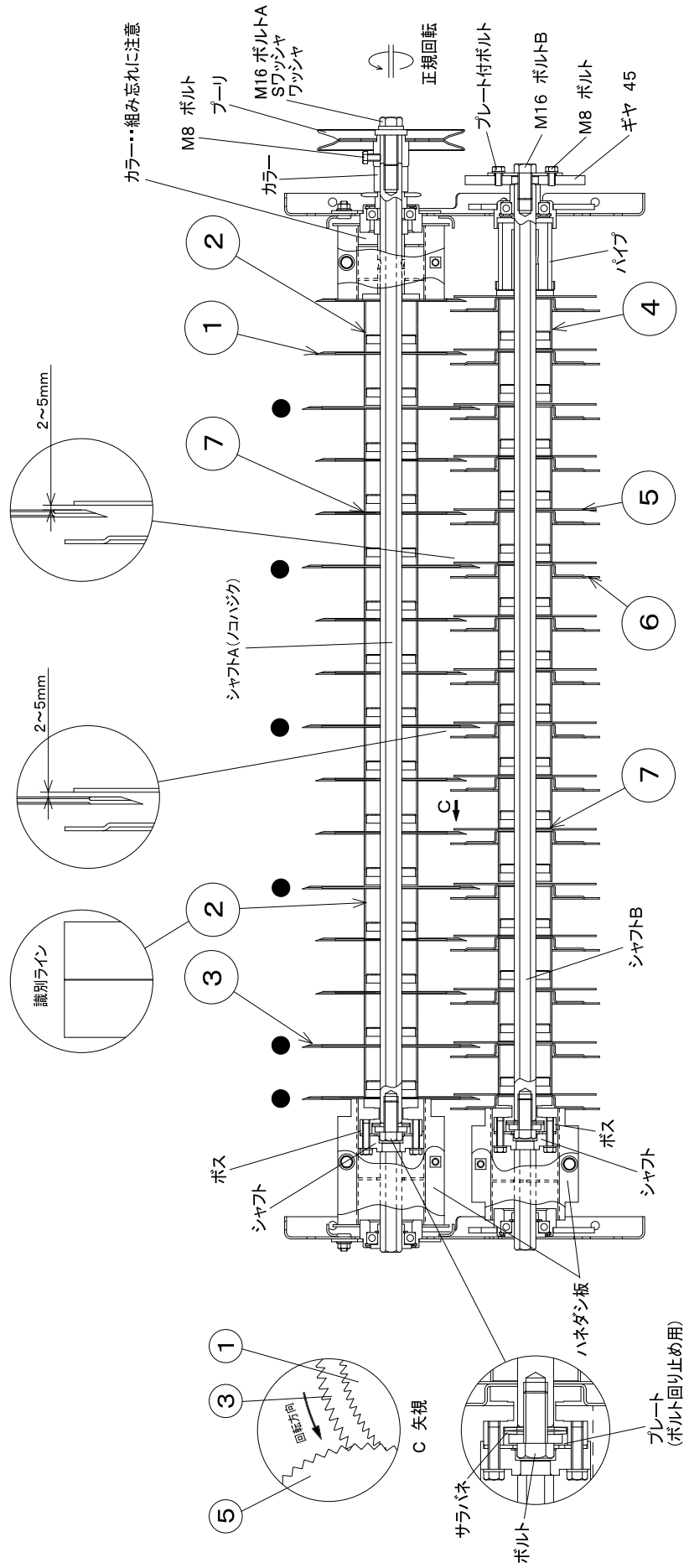
1. 本機の取説(カッタのオープンの方)を参照し、カッタをオープンします。
2. 刃の組み付け方向に、注意してください。(C 矢視参照)
3. シャフトA, シャフトBを組み立てる際にはシャフトを垂直に立てて組付け、各部品がシャフトに対し垂直になるように組み立てます。識別ライン付きをシャフトA(コハジク)側に取り付けます
4. ハイプアッシーの識別に注意し挿入方向は図示通りに組立てます。
5. サラハネの組み付け方向は、下図の通りとし、ボルトの締め付けトルクは64~74N・m(650~750kgf・cm)とする。(2箇所)
6. M16ボルトAは、スリーボンド1344N相当品を塗付し、64~74N・m(650~750kgf・cm)にて締め付けます。
7. ①・③ ノコハと ⑤ スターホイールバのスキマは、2~5mmになるようM8ボルトを締め付ける前にM16ボルトBをギヤ45に対し回して、ジグアッシーをスライドさせ調整します。

取扱いのポイント

- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。順序を違えるとスターホイール刃とノコ刃が合わなくなりまます。

番号	部品名称	部品番号	16枚列の総個数
1	ノコハ(φ170)	3574 8785 000	10
2	パイプA アッシー	3574 8786 000	15
3	ノコハ(φ200)	3829 0414 000	6
4	パイプB アッシー	3574 8816 000	15
5	スターホイールバ	3574 8808 000	16
6	オサエハン	3574 8813 000	16
7	ライナ	3829 0518 000	(6)必要に応じ

● ...ノコハ(φ200)の位置を示す。



36060148

手入れのしかた

[RET, RH仕様を除く]
マルチカッタ40/160mm
ノコ刃軸, スターホイール軸
組み立て要領

取扱いのポイント

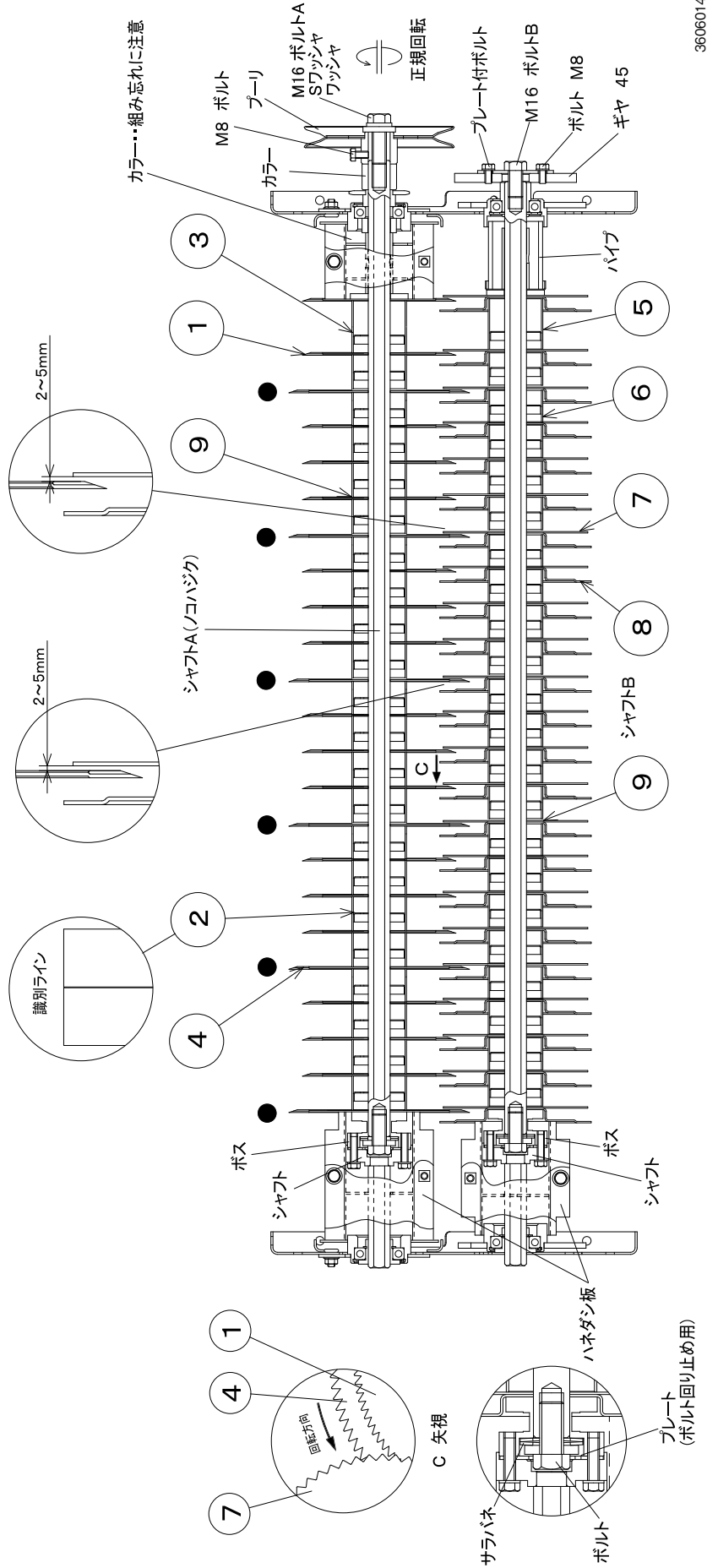
- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。順序を違えるとスターホイール刃とノコ刃が合わなくなりまます。

組付要領

1. 本機の取り扱い説《カッタのオープンの方》を参照し、カッタをオープンします。
2. 刃の組み付け方向に、注意してください。(C 矢羽参照)
3. シャフトA、シャフトBを組み立てる際にはシャフトを垂直に立てて組付け、各部品がシャフトに対し垂直になるように組み立てます。識別ライン付きをシャフトA(ノコハジク)側に取り付けます。
4. パイプアッシーの識別に注意し挿入方向は図示通りに組立します。
5. サラパネの組み付け方向は、下図の通りとし、ボルトの締め付けトルクは64~74N・m(650~750kgf・cm)とする。(2箇所)
6. M16ボルトAは、スリーボンド1344N相当品を塗付し、64~74N・m(650~750kgf・cm)にて締め付けます。
7. ①・④・ノコハと ⑦ スターホイールバのスキマは、2~5mmになるようM8ボルトを締め付ける前にM16ボルトBをギヤ45に対し回して、ジグアッシーをスライドさせ調整します。
8. 7項にてスキマ管理ができない場合には、⑨ ライナにて調整し直してください。
9. 組み替え終了後、手でゆっく正規回転し刃のスキマの管理ができているか確認願います。

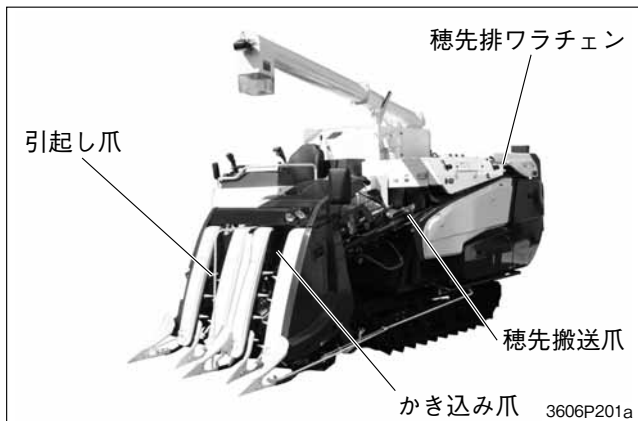
番号	部品名称	部品番号	23枚刃の総個数
1	ノコハ(φ170)	3574 8785 000	17
2	パイプC アッシー	3574 8784 000	21
3	パイプA アッシー	3574 8786 000	1
4	ノコハ(φ200)	3829 0414 000	6
5	パイプB アッシー	3574 8816 000	1
6	パイプD アッシー	3574 8817 000	21
7	スターホイールバ	3574 8808 000	23
8	オサエハン	3574 8813 000	23
9	ライナ	3829 0518 000	(6)必要に応じ

●ノコハ(φ200)の位置を示す。



2. 爪の交換のしかた

引起し爪, 穂先搬送爪, かき込み爪, 穂先排ワラチェン



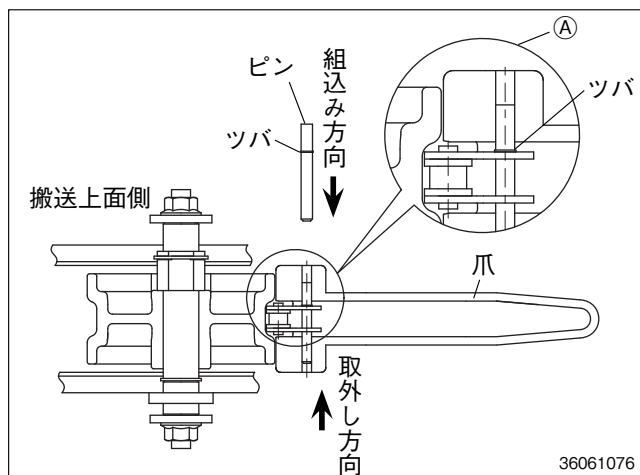
① 爪の取外し

爪を取付けているピンを、突き出ている側から叩いて抜取り、爪を取外します。(ピンは、強く叩かなくても抜けます)

② 爪の組込み

ピンは、ツバがある側を搬送上面側にし、ピンの端面と爪が同じ高さになるまで打込みます。

(図示①部参照)



3. ホース類の点検と交換

⚠警告 火傷や火災防止のために

- ◆燃料ホースの損傷（割れ、破れ、継ぎ部のゆるみ）、外皮の剥れおよび継ぎ部より燃料が漏れてないか確認し、損傷したり漏れている場合は、火災の原因となりますので交換してください。
- ◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると、熱湯が吹き出し火傷をする場合があります。

燃料ホース、ラジエータホースなどの燃料漏れ、水漏れがないかを点検します。また、締付けているバンドや油圧ホースの継ぎ部が、ゆるんでいないか点検をします。

取扱いのポイント

- 燃料ホースは、定期交換部品ですので、2年ごとに交換してください。
- 燃料ホースを交換したときは、燃料のエア抜きをしてください。(105ページ参照)

4. ワラ切カマの手入れ

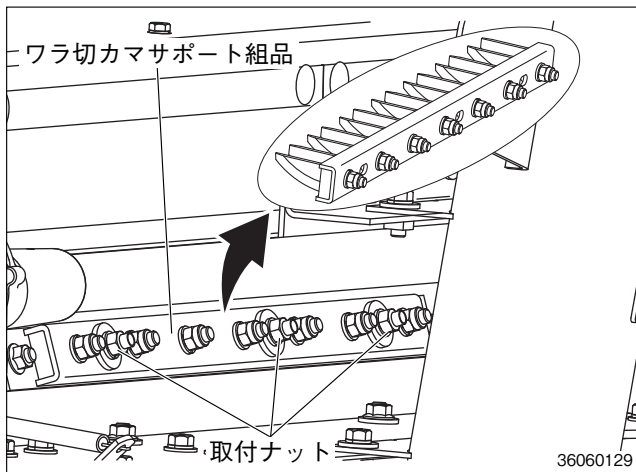
⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆こぎ胴部を開くときは、エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
- ◆こぎ胴部を開くときは、自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持ち上げ、ゆっくりと手を離します。
- ◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは、アームを支えて行なってください。このときは、回動範囲内には手や体を入れないでください。
- ◆ワラ切カマの着脱作業は、手袋をして行なってください。
- ◆刃部に手をかけないでください。

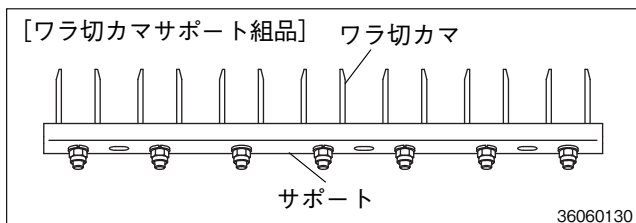
① ワラ切カマの取外し

(1) 脱こく右側天板とグレンタンク部の境界部にあるワラ切カマ

1. グレンタンクを開きストッパを掛けます。(117～118ページ参照)
2. ワラ切カマサポート組品で取外します。

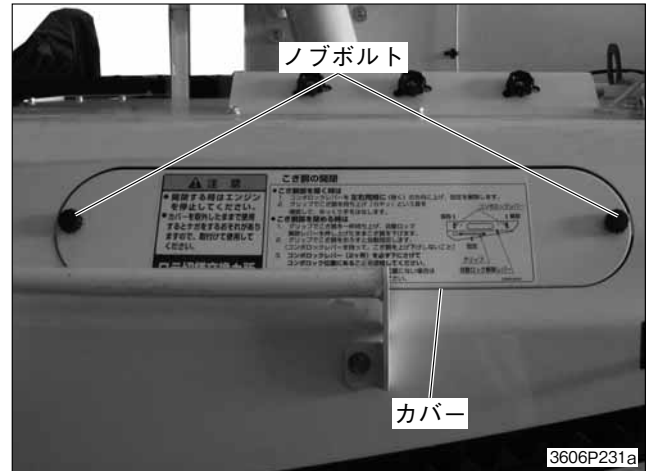


3. ワラ切カマをサポートから取外します。

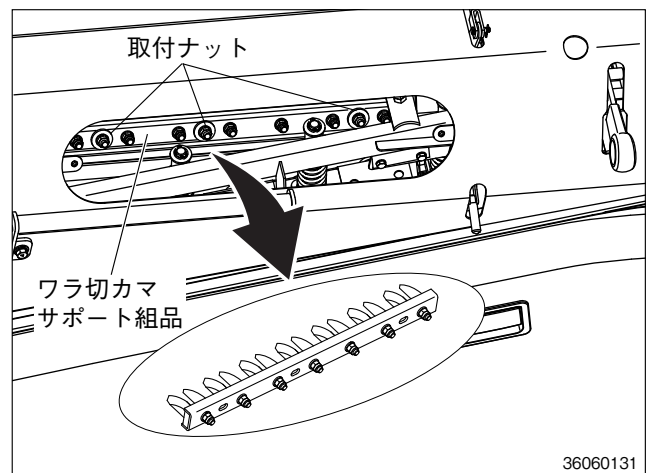


(2) 脱こく左側コンポロックレバー付近のワラ切カマ

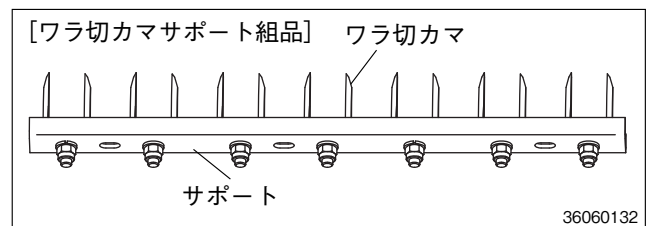
1. カバーを外します。



2. ワラ切カマサポート組品で取外します。

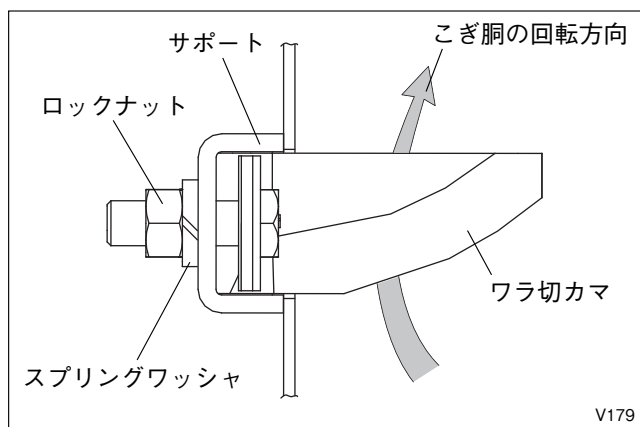


3. ワラ切カマをサポートから取外します。



② ワラ切カマの取付け

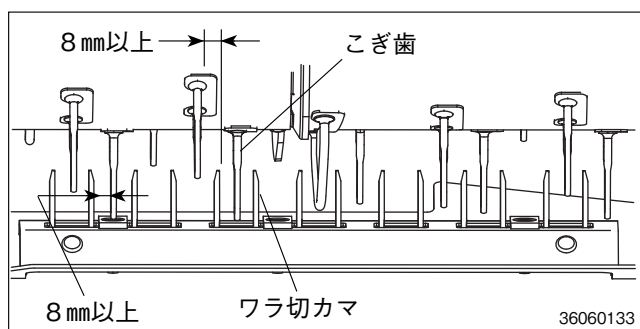
- (1) ワラ切カマの組付け方向を確認して真直ぐに締付けます。



- (2) 作業後、グレンタンクを閉じ、カバー類を取付けます。

取扱いのポイント

- ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下し脱こく能率が低下しました、性能も悪くなります。ワラ切カマを交換してください。
- こぎ歯の中央にワラ切カマがくるように取付けてください。
- 組付けるときは、こぎ歯とワラ切カマのすき間を8mm以上空けてください。

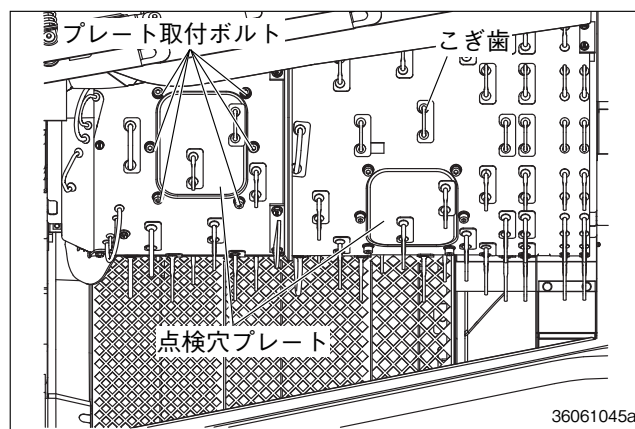


5. こぎ歯の点検と交換

警告 傷害事故防止のために

- ◆こぎ胴部を開くときは、エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
- ◆こぎ胴部を開くときは、自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持ち上げ、ゆっくりと手を離します。
- ◆こぎ胴部を開くときは、グリップでこぎ胴をもちあげ、「カチッ」という音を確認して、ゆっくり手を離してください。
- ◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは、レールカバーの端部を持って行ってください。このときは、回動範囲内には手や体を入れないでください。

- ① こぎ胴部を開きます。



- ② こぎ歯を点検します。

摩耗のはげしいものは交換します。こぎ歯の締付けが緩んでいるものは、取付ナットを締めます。こぎ歯の交換および取付ナットの締込みは、点検穴プレートを外して行います。

取扱いのポイント

- こぎ胴の点検穴プレートの取付ボルトの頭が摩耗すると外せなくなりますので取付ボルトが摩耗し始めたときも取付ボルトの交換が必要です。
- ③ 作業後こぎ胴部を閉じます。

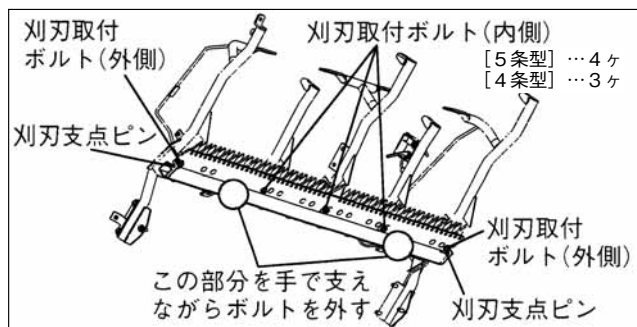
6. 刈 刃

⚠危険 傷害事故防止のために

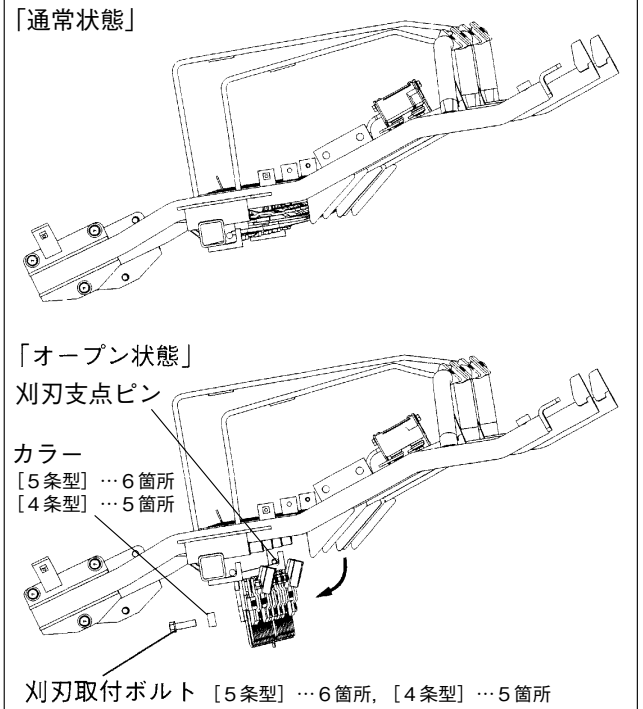
- ◆刈刃の着脱作業をするときは、厚手の手袋をして行なってください。刈刃は内側のボルトを外してから、外側のボルトを外してください。
- ◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いて怪我をすることがあります。
- ◆刈刃の点検調整するときは、刈取部を上げ、油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にして、フックをかけ、刈取部の下に固定脚などを入れて作業してください。

① 刈刃のオープン

- ・刈刃は、手入れをしやすくするため、刈刃支点ピンを軸にして、オープン（回動）します。
- (1) エンジンを始動し、マルチステアリングレバーを操作して刈取部を上げます。
- (2) エンジンを停止し、油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にして、刈取部の下に固定脚などを入れます。
- (3) 刈取部の下方から刈刃部を見ると、下図のような取付け状態になっています。



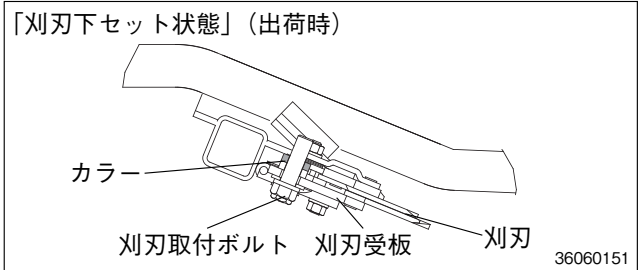
- (4) 内側の刈刃取付ボルトを取外します。
- (5) 刈刃組品を手で支えながら、外側の刈刃取付ボルト（2ヶ）を取外します。（2人作業）
- ※刈刃取付ボルトには、それぞれカラーがついています。そのカラーも取外します。



- (6) 刈刃組品を支えながら、ゆっくり降ろし刈刃をオープン（回動）します。

② 刈刃の上下調節

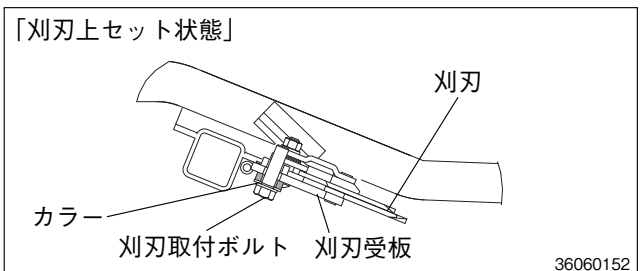
- ・出荷のとき、刈刃は「下セット」になっています。



うね栽培の麦刈りの場合および刈刃が土をかむことが多い刈取り時は、カラーを入替えて刈刃を「上セット」にします。

「上セット」にする場合、カラーの組替えを行います。

- (1) 刈刃をオープンします。
- (2) 刈刃取付ボルトのカラーを、刈刃受板の「上側」から「下側」に入替えて、ボルトを締付けます。

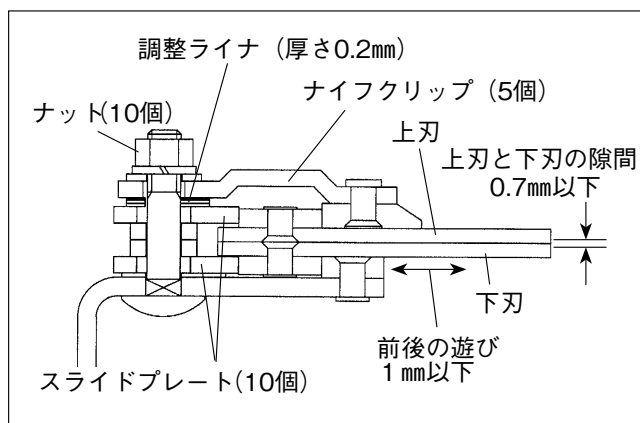


③ 刈刃の調整

刈跡が揃わなくなったときは、刈刃のすき間を調整してください。

調整は「お買いあげ先」に依頼してください。

- (1) 刈刃に付着している泥やワラクズを、取除きます。
- (2) ナット(10個)をゆるめ、ナイフクリップ(5個)の下側の調整ライナ(厚さ0.2mm)で、上刃と下刃の隙間が0.7mm以下になるように調整します。



- (3) 上刃、下刃の前後の遊びが1mm以下になるように、ナイフクリップとスライドプレートの位置を調整し、ナットを締付けます。
- (4) 上刃、下刃共スムーズ(15kg程度)に作動することを確認します。

取扱いのポイント

- 1日の作業終了後には、刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き、注油をしてください。
- 刈跡が揃わなくなったりした場合は、刈刃に注油をし、刈刃の調整または交換してください。

5. 各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが、使用による摩耗や伸びが生じてくる場合がありますので点検を行い、再調整が必要な場合や、損耗の限度をこえた部品は調整・交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

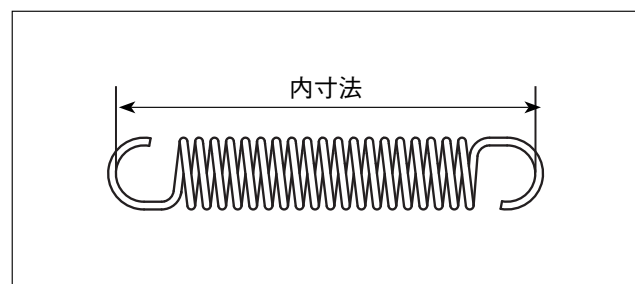
- ◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。
- ◆調整後は、異常なく作動することを試運転で確認してください。

⚠注意

- ◆各部の点検と調整で外したカバー類は全て、元の位置に取付けてください。

取扱いのポイント

- スプリングの取付け長さは、フックの内寸法を測定してください。



「レバー・ペダルの点検・調整」

1. 走行クラッチペダル・駐車ブレーキ

⚠警告 傷害事故防止のために

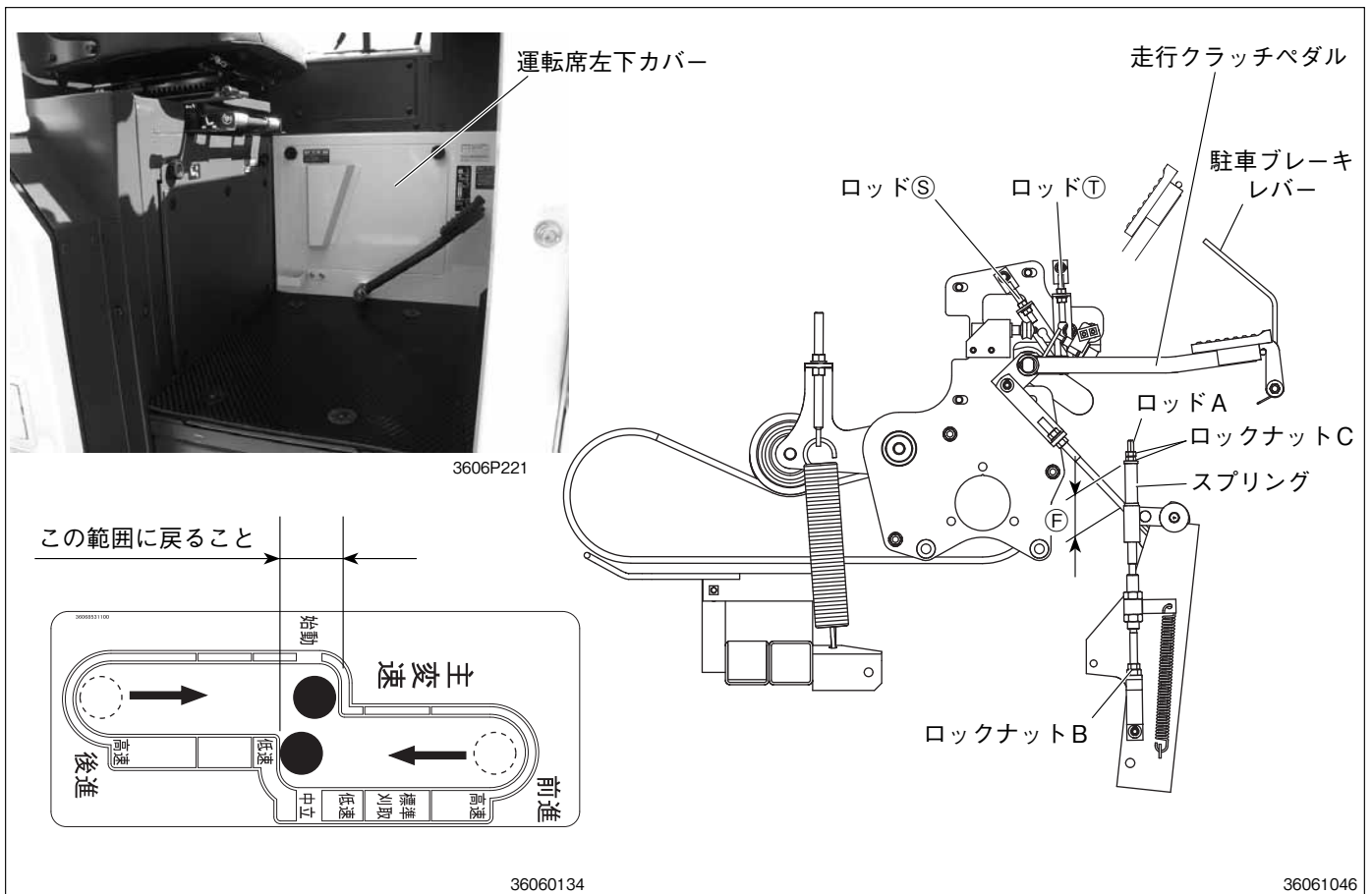
◆走行クラッチペダルやブレーキロッドの遊びが大きいと、クラッチの切れやブレーキの効きが悪くなり、事故を引起こす原因となることがあります。

① 点検

- (1) 走行クラッチペダルフリー状態でスプリングのⒻ長さが [570型] 36～38mm [463型, 563型] 59～61mm ですか。
- (2) 走行クラッチペダルをブレーキフックに掛けた状態でスプリングのⒻ寸法が [570型] 31～33mm [463型, 563型] 53～55mm ですか。
- (3) 坂道 (17°) で駐車ブレーキをかけたときに、機械が停止していますか。

② 調整

- ・運転席左下カバーを外します。
- (1) 走行クラッチペダルがフリーの状態ですプリングのⒻ寸法を [570型] 36～38mm [463型, 563型] 59～61mm になるようにロックナット Cで調整します。
 - (2) 次に駐車ブレーキをかけた状態でスプリングのⒻ寸法を [570型] 31～33mm [463型, 563型] 53～55mm になるようにロッド Aを調整します。
 - (3) 調整後、ロックナット B, Cを締付けます。
 - (4) 主変速レバーが前進・後進から中立位置に確実に戻るようロッドⒼ (前進から戻す) とロッドⒽ (後進から戻す) を調整してナットを締付けます。
 - (5) 運転席左下カバーを取付けます。



2. 脱こく・刈取クラッチ

① 点検

[脱こくクラッチ]

エンジンを始動させパワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《脱こく》にし、エンジンを停止させます。スプリング寸法が **129~131mm** になっていますか。

[刈取クラッチ]

エンジンを始動させパワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《刈取》にし、エンジンを停止させます。このときスプリング寸法が **102~104mm** になっていますか。

② 調整

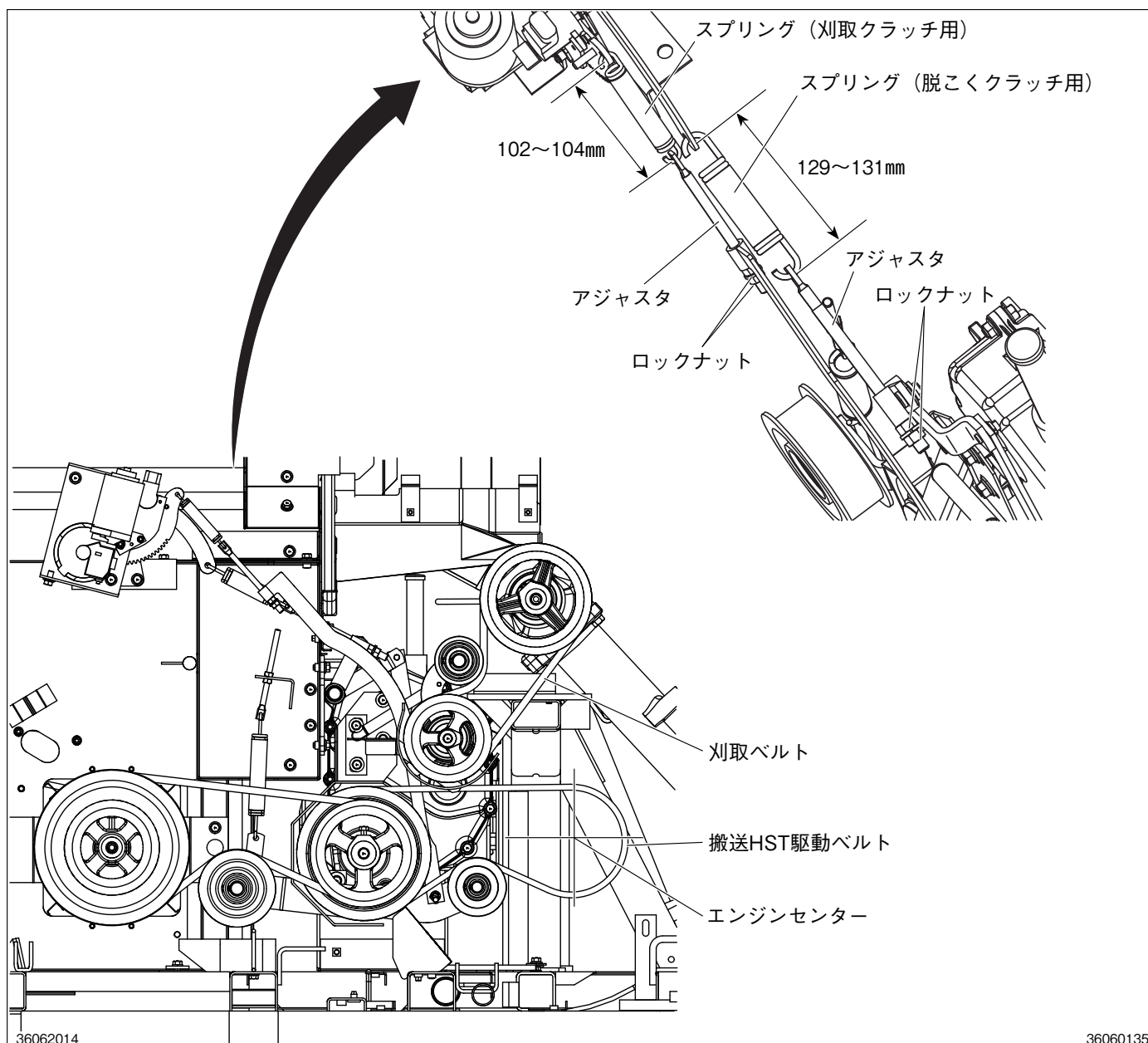
・グレンタンクをオープンしストッパを掛けます。
(117~118ページ参照)

[脱こくクラッチ]

・ロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整しスプリング長さを調整します。

[刈取クラッチ]

・ロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整しスプリング長さを調整します。
・グレンタンクを閉じます。(117~118ページ参照)



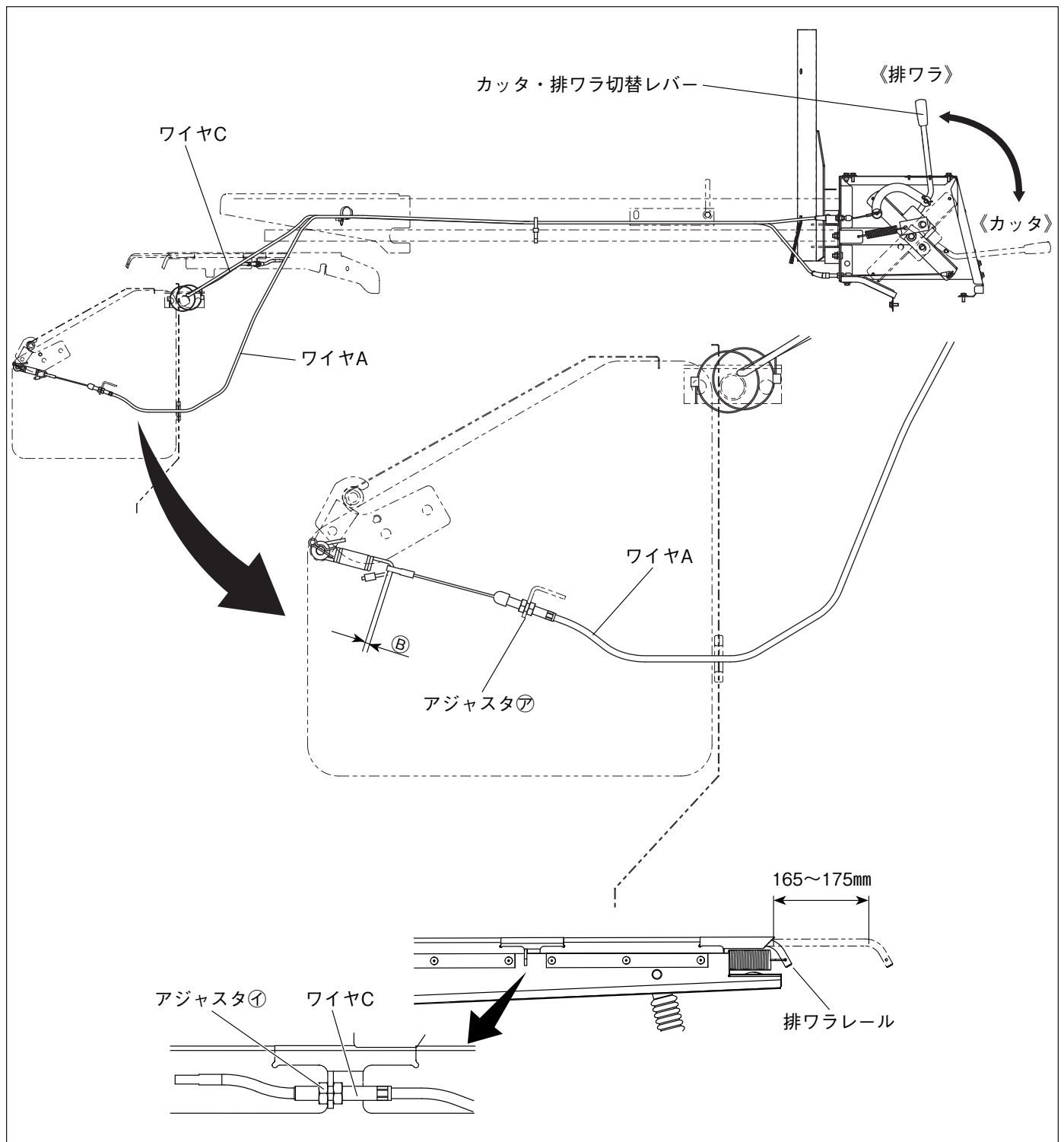
3. カッタ・排ワラ切替レバー [RET, RH仕様を除く]

① 点検

- (1) 切替レバーが《排ワラ》のとき、ワイヤAが ⑧部で **2~3mm** 遊んでいますか。(カッタ切替板が確実に閉状態になっていますか。)
- (2) 切替レバーが《排ワラ》のとき、排ワラレールが出る長さが **165~175mm** になっていますか。

② 調整

- (1) ⑧寸法が **2mm~3mm** になるようにアジャスタ⑦で調整します。
- (2) 排ワラレールが出る長さが **165~175mm** になるようワイヤCのアジャスタ④で調整します。



「ベルトの点検・調整」

取扱いのポイント

- 調整ができなくなったら、新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換したときは、各スプリングの寸法や、ベルトガイドなどを正規の寸法に調整してください。

4. 走行ベルト

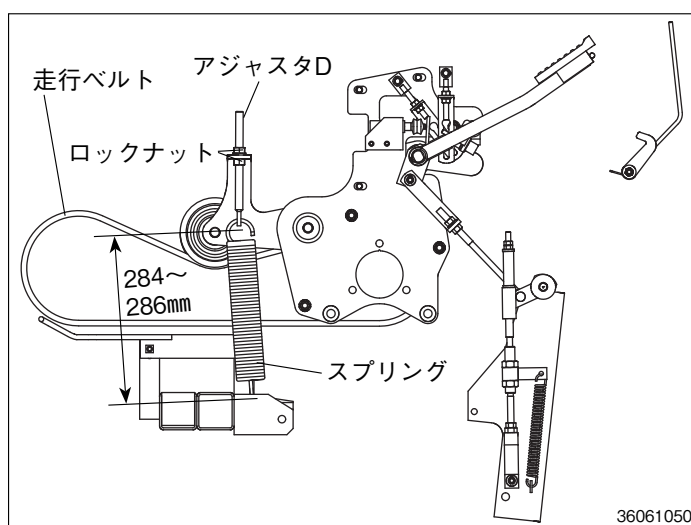
① 点検

- (1) スプリング長さが **284~286mm** になってい
ますか。

② 調整

- ・運転席左側の足元カバーを、ノブをゆるめて取
外します。

- (1) アジャスタDのロックナットをゆるめて、ス
プリング長さを調整します。
- (2) 作業後足元カバーを取付けます。



36061050

5. コンプレッサ [X仕様]

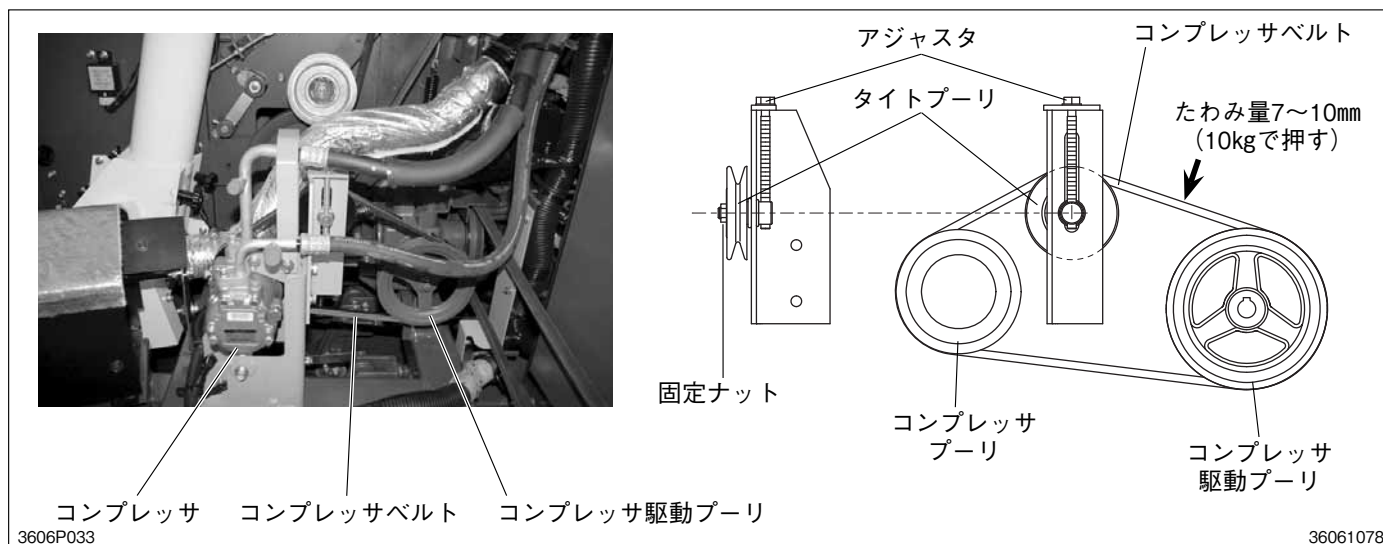
① 点検

- コンプレッサベルトの下側の中央部を[10kg]で
押し、たわみ量が **7~10mm** となっていますか。

② 調整

- (1) グレンタンクを回動し、ストoppaを掛けます。
(117~118ページ参照)

- (2) タイトプーリの固定ナットをゆるめます。
- (3) アジャスタボルトを締込みコンプレッサベル
トの張り調整をします。
- (4) 調整後固定ナットを締付けます。
- (5) グレンタンクを閉じます。(117~118ページ参
照)



3606P033

36061078

6. かき込みベルト (刈取部)

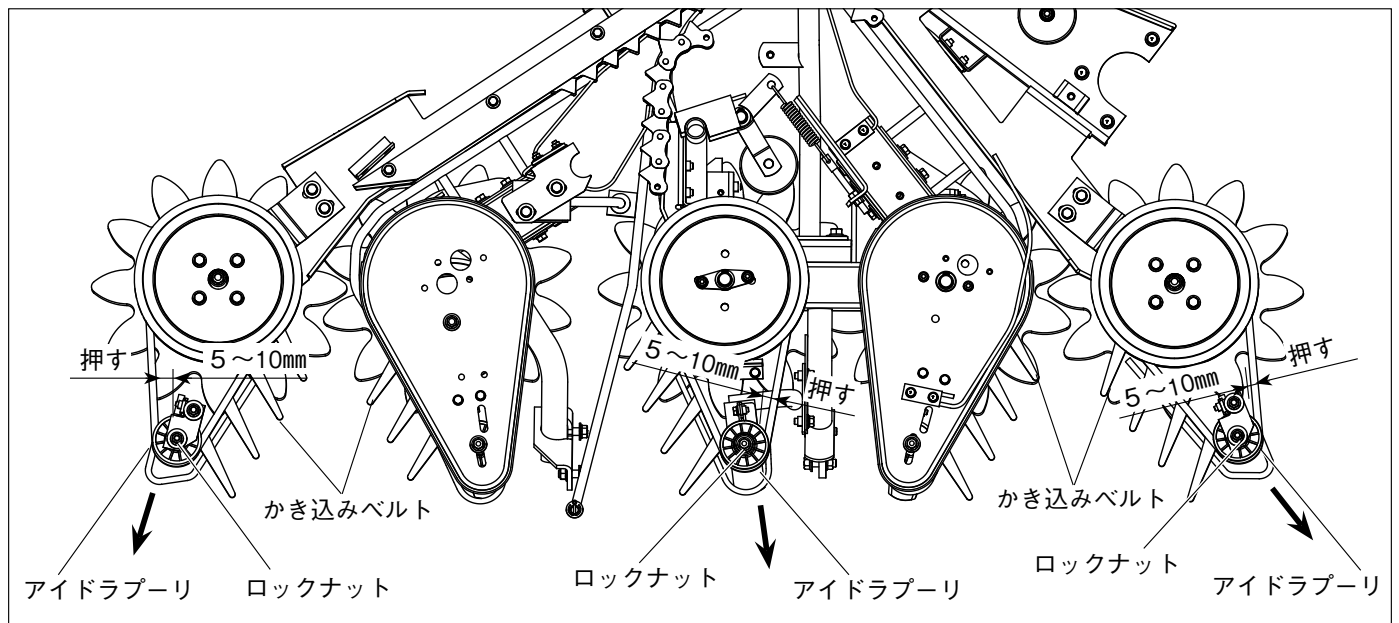
[5条型]

① 点検

ベルトの搬送中央部を押さえ、ベルトのたわみが **5~10mm** になっていますか。4箇所 (右, 中, 左)

② 調整

- (1) 刈取部サイドカバー (右), (左) を外し, アイドラプーリのロックナットをゆるめて, アイドラプーリで調整します。
- (2) 作業後刈取部サイドカバー (右), (左) を取付けます。



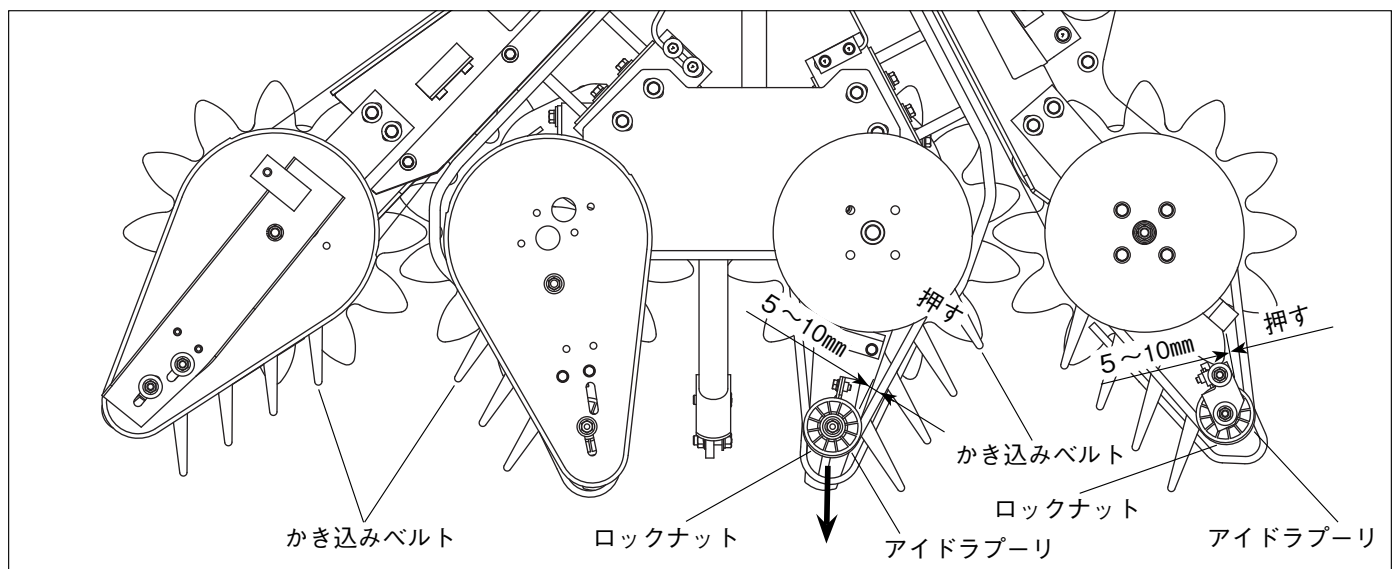
[4条型]

① 点検

ベルトの搬送中央部を押さえ、ベルトのたわみが **5~10mm** になっていますか。4箇所 (右, 中, 左)

② 調整

- (1) 刈取部サイドカバー (右), (左) を外し, アイドラプーリのロックナットをゆるめて, アイドラプーリで調整します。
- (2) 作業後, 刈取部サイドカバー (右), (左) を取付けます。



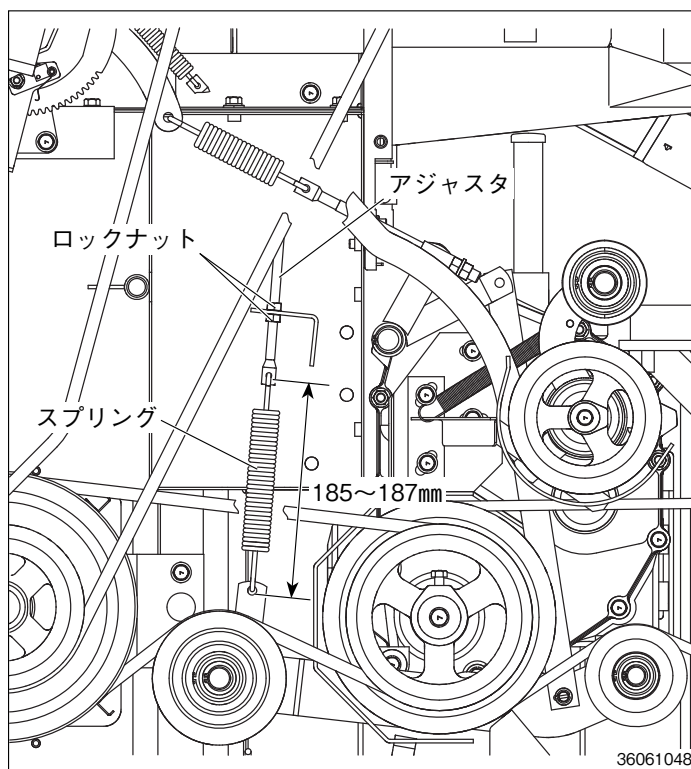
7. 脱こく入力ベルト

① 点検

スプリング寸法が **185~187mm** になっていま
すか。

② 調整

- (1) グレントankをオープンします。(117~118ペ
ージ参照)
- (2) ロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整
します。
- (3) グレントankを閉じます。(117~118ページ参
照)



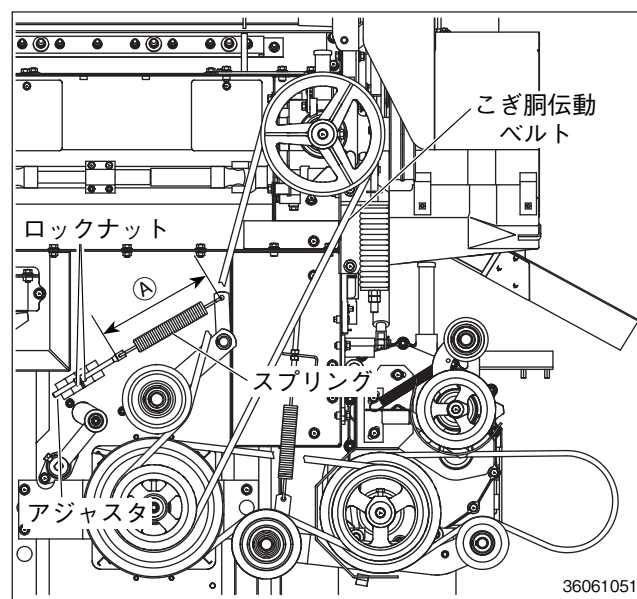
8. こぎ胴伝動ベルト

① 点検

スプリング長さ[Ⓐ] **[570型] 196~198mm** **[463
型, 563型] 192~194mm** になっていま
すか。

② 調整

- (1) グレントankをオープンしストッパを掛けま
す。(117~118ページ参照)
- (2) アジャスタのロックナットをゆるめて、スプ
リング長さを調整します。
- (3) グレントankを閉じます。(117~118ページ参
照)



手
入
れ
の
し
か
た

9. こぎ胴ベルト

① 点検

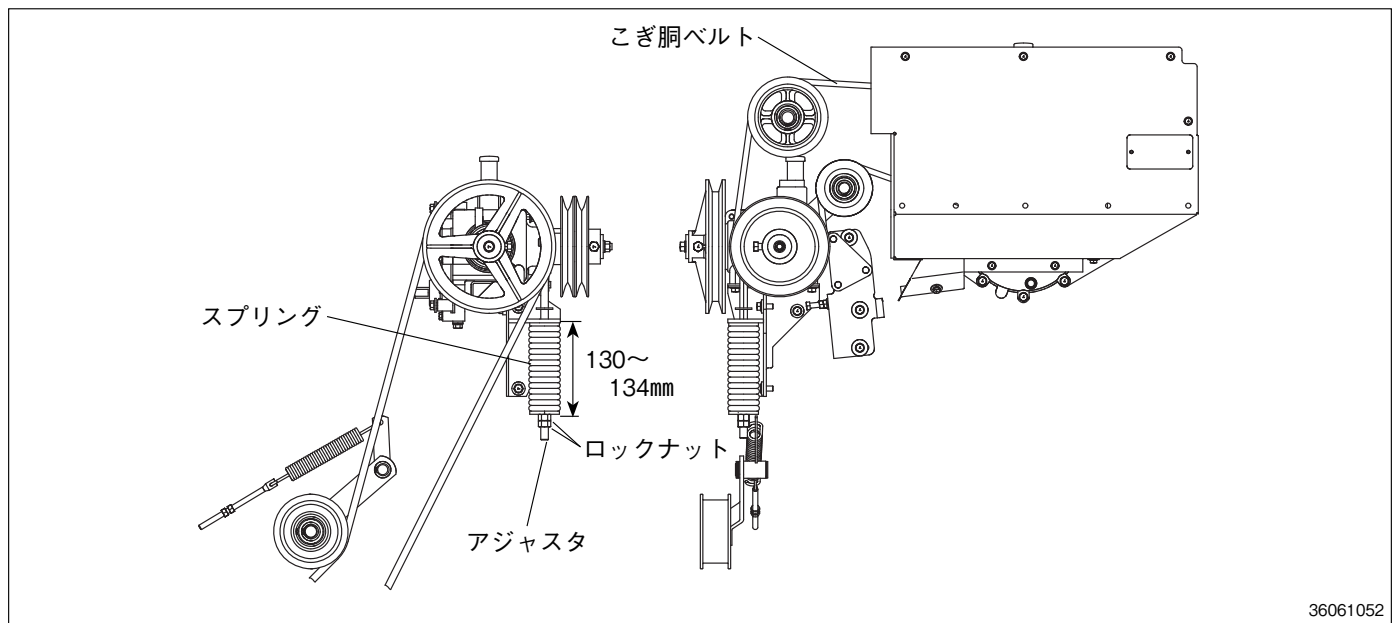
こぎ胴を閉じた状態でスプリングのセット寸法が **130~134mm** になっていますか。

② 調整

(1) グレンタンクを回動し、ストッパを掛けます。
(117~118ページ参照)

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて、スプリングのセット長さを調整します。

(3) グレンタンクを閉じます。(117~118ページ参照)



36061052

10. 選別ベルト

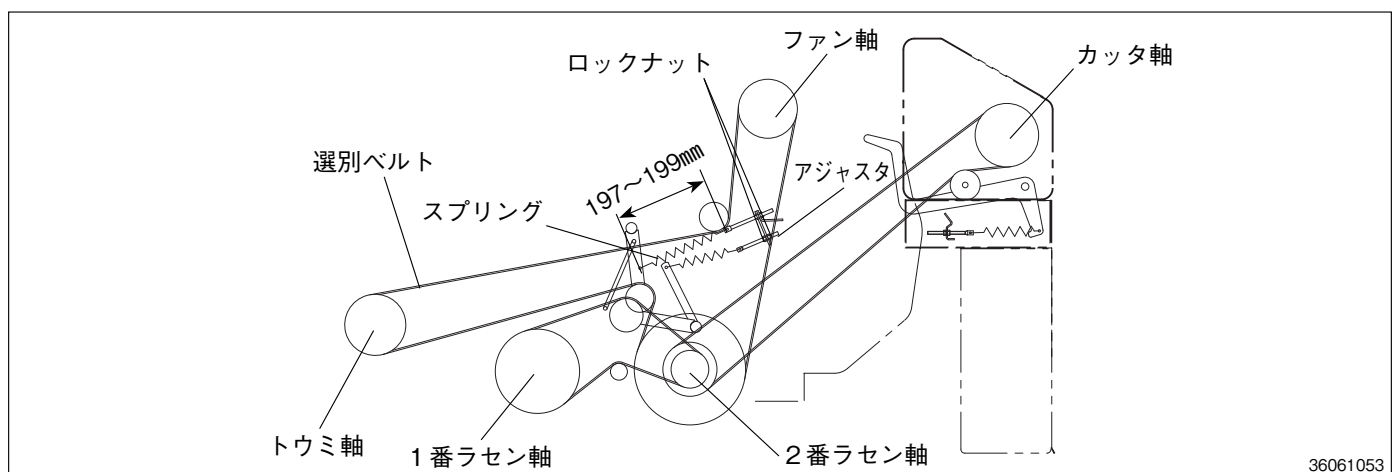
① 点検

スプリング長さが **197~199mm** になっていますか。

② 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上）、（下）、（前）を外し、アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

(2) 脱こくサイドカバー（上）、（下）、（前）を取付けます。



36061053

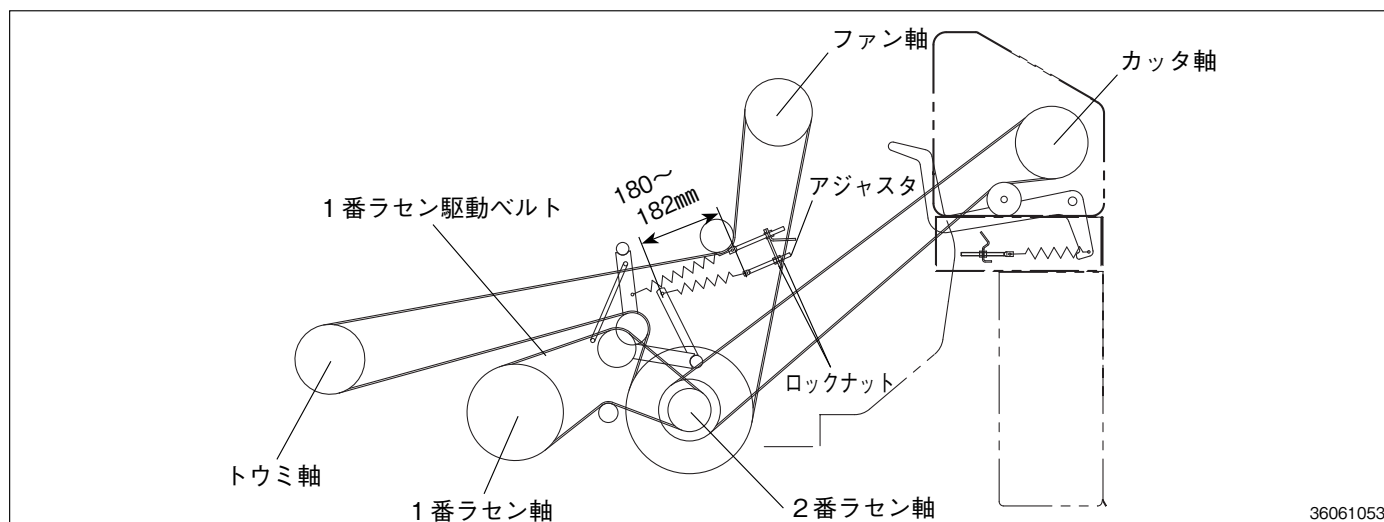
11. 1番ラセン駆動ベルト

① 点検

スプリング長さが **180~182mm** になっていま
すか。

② 調整

- (1) 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を外し、アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。
- (2) 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を取付けます。



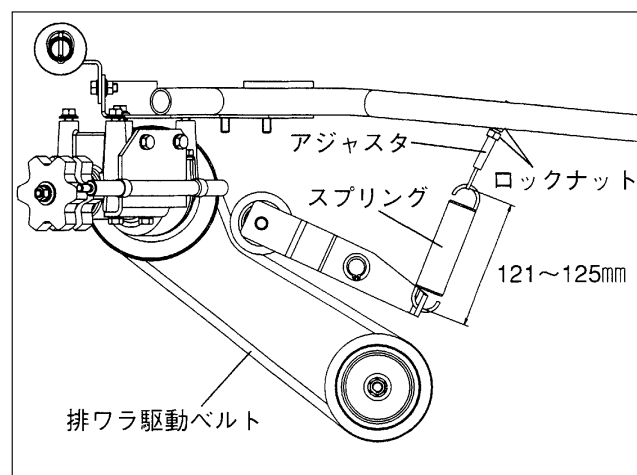
12. 排ワラ駆動ベルト

① 点検

スプリング長さが **121~125mm** になっていま
すか。

② 調整

- (1) こぎ胴部を開き、自動ロックをかけます。
(118~119ページ参照)
- (2) アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。
- (3) 作業後、こぎ胴部を閉じます。



手入れの
しかたの

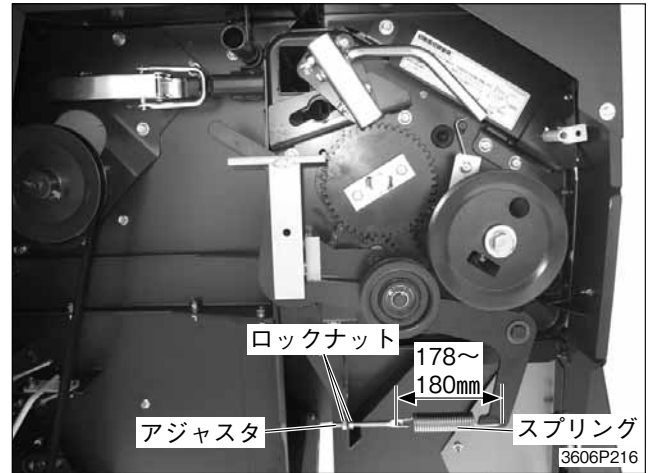
13. カッタベルト

① 点検

カッタのサイドカバーを外します。
 スプリングの寸法が **178~180mm** になっていま
 すか。

② 調整

- (1) ロックナットをゆるめて、アジャスタを調整
 します。
- (2) カッタサイドカバーを取付けます。



14. グレン入力ベルト

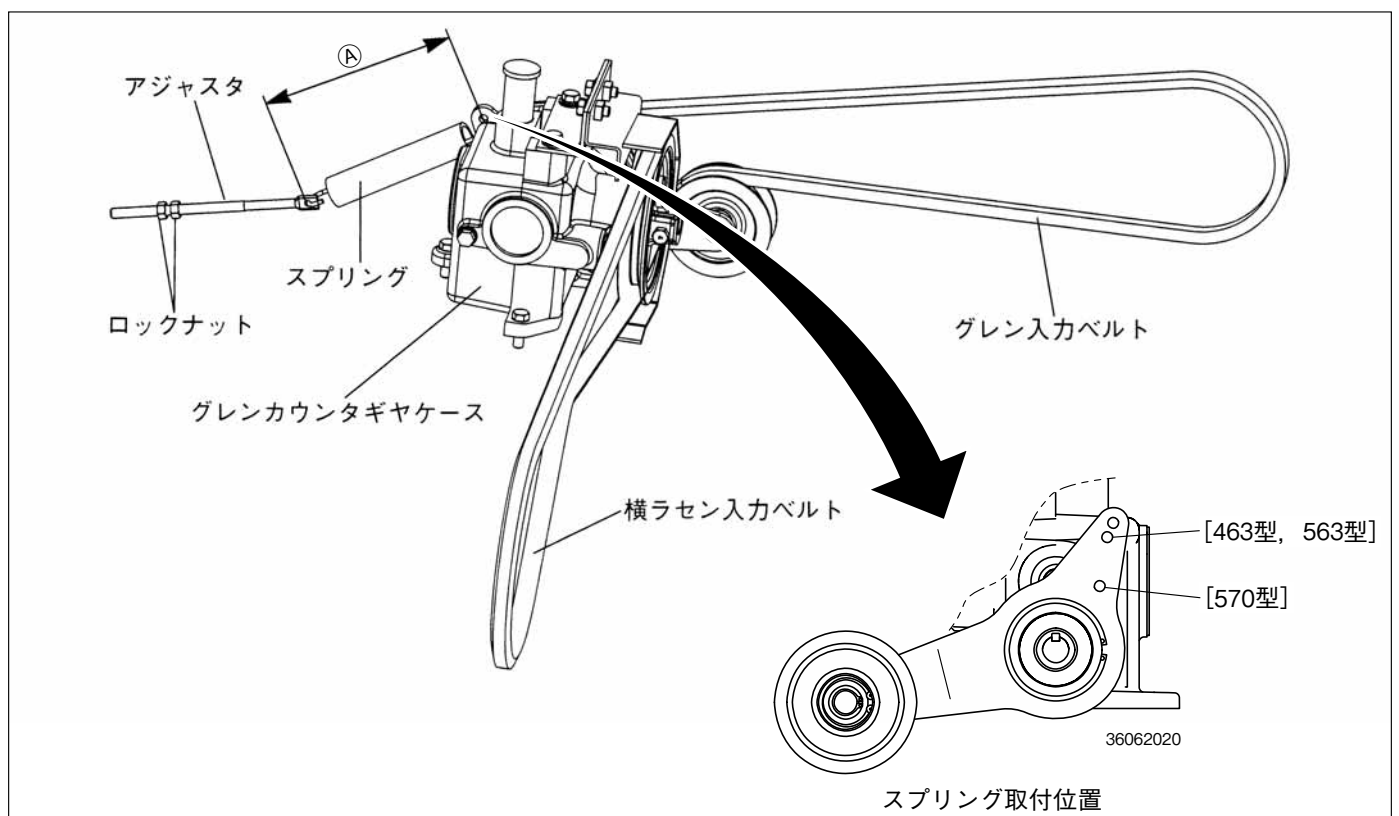
① 点検

※グレン入力ベルトはグレンタンクを回動（オー
 プン）すると見るができます。(117~118ペ
 ージ参照)

スプリング①の長さが **[570型] 175~177mm**
[463型, 563型] 158~160mm になっていま
 すか。

② 調整

- (1) ロックナットをゆるめて、アジャスタを調整
 します。
- (2) グレンタンクを閉じます。(117~118ページ参
 照)



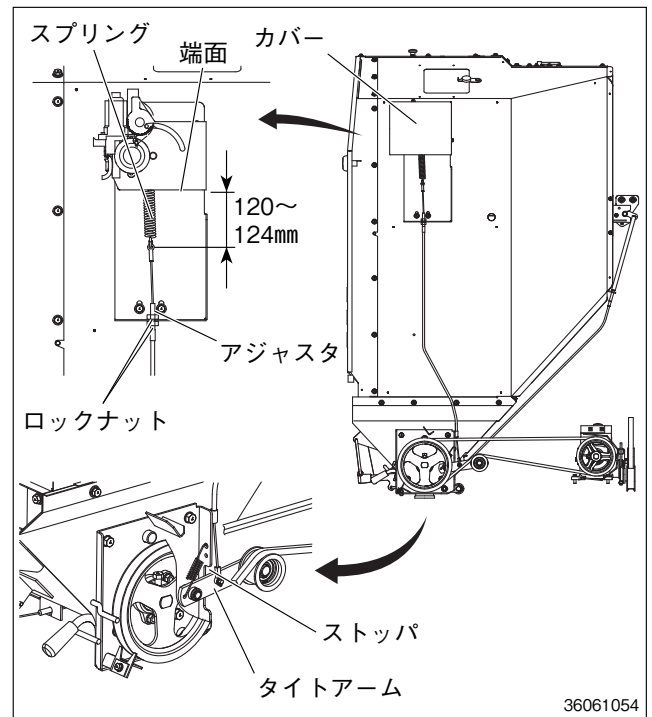
15. 横ラセン駆動ベルト [X仕様]

① 点検

- (1) カバーを外します。
- (2) エンジンを始動し周囲の障害物に注意して排出オーガをこく粒排出範囲に移動させます。(51～54ページ参照)
- (3) こく粒排出スイッチを《入》にします。このときグレンタンク内および排出オーガ内にこく粒が残っていると排出されるので注意してください。
- (4) こく粒排出スイッチが《入》の状態ではエンジンを停止します。
- (5) スプリング長さが **120～124mm** となっていますか。

② 調整

- (1) キースイッチを《入》にしスプリングの張りを元にもどします。(エンジンを始動する必要はありません。)
- (2) グレンタンクをオープンします。(117～118ページ参照)
- (3) ワイヤのロックナットをゆるめアジャスタ部で調整します。
- (4) グレンタンクを閉じます。(117～118ページ参照)
- (5) エンジンを始動しこく粒排出スイッチを《入》にします。
- (6) こく粒排出スイッチが《入》の状態ではエンジンを停止し、スプリング長さを確認します。
- (7) カバーを取付けます。



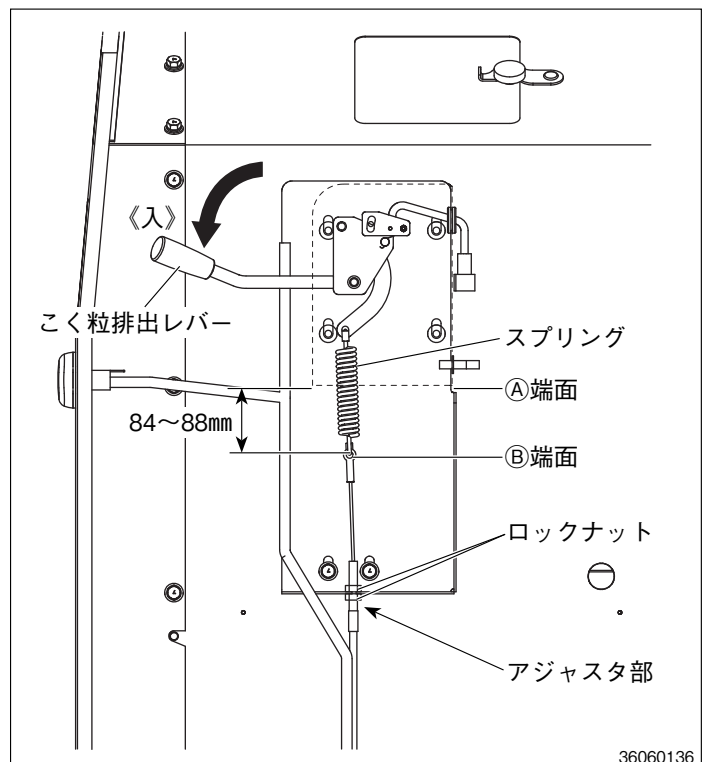
16. こく粒排出レバー [X仕様を除く]

① 点検

こく粒排出レバー《入》のときA端面からB端面までのスプリング長さが **84～88mm** になっていますか。

② 調整

- (1) こく粒排出レバーを《切》にしてグレンタンクをオープンします。(117～118ページ参照)
- (2) ワイヤのロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整します。
- (3) グレンタンクを閉じます。(117～118ページ参照)
- (4) こく粒排出レバーを《入》にしてスプリング長さを確認します。



17. ファンベルト（オルタネータ） [463型, 563型仕様]

警告 火傷防止のために

◆ファンベルトの点検・調整は、エンジンが冷えてから行ってください。

① 点検

ファンベルト（オルタネータ）の長い方の中央部を指で押し、たわみ量が **10～13mm** となっていますか。

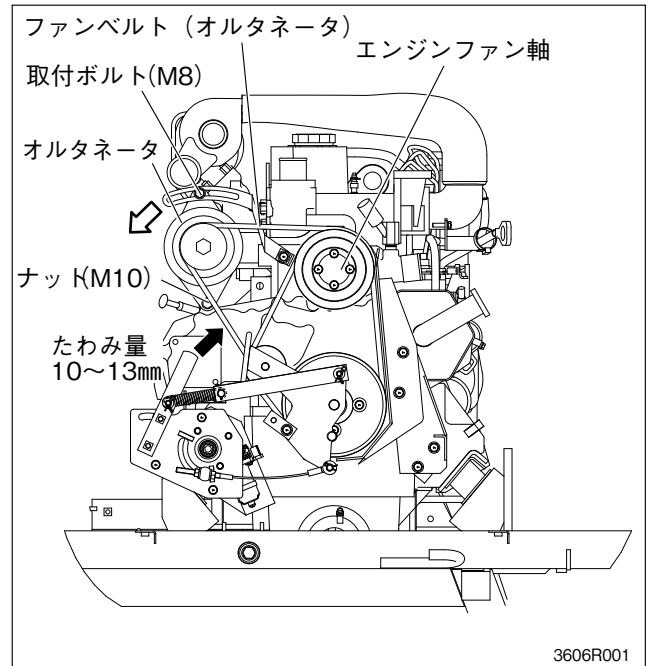
② 調整

・グレンタンクを回動し、エンジンカバー（後）を取外します。

オルタネータ取付ボルト，ナット（各1個）をゆるめ、オルタネータを矢印（⇨）側に倒し、ベルトを張ります。

調整後、取付ボルト，ナットを締付けます。

作業後にカバーを取付けます。



18. ファンベルト（ラジエータ） [463型, 563型仕様]

警告 火傷防止のために

◆ファンベルトの点検・調整は、エンジンが冷えてから行ってください。

① 点検

スプリング長さが **92～94mm** となっていますか。

② 調整

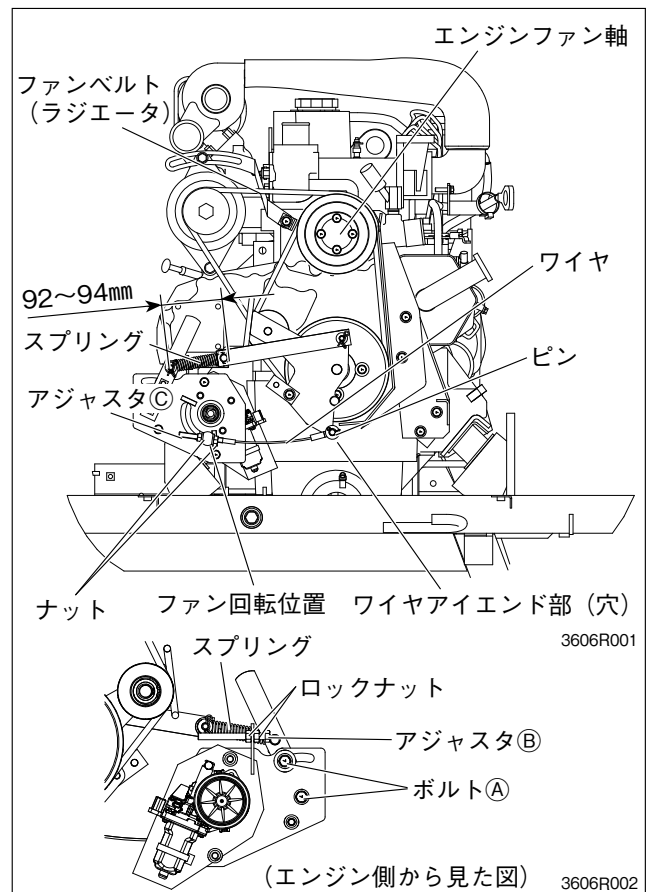
(1) クラッチモータのアーム位置がファン回転位置であることを確認します。

(2) ワイヤにたるみがある状態でボルト①(2ヶ)をゆるめます。

(3) アジャスタ②のロックナットをゆるめスプリング長さを **92～94mm** に調整し、ボルト①(2ヶ)を締付けます。

(4) 上記調整後、ワイヤアイエンド部の穴とピンの遊びが **12～14mm** となるようにアジャスタ③部のナットをゆるめて調整します。

(5) 調整後、ゆるめたナットは締付けます。



19. エンジンファンベルト (オルタネータ) [570型仕様]

警告 火傷防止のために

◆ファンベルトの点検・調整は、エンジンが冷えてから行ってください。

① 点検

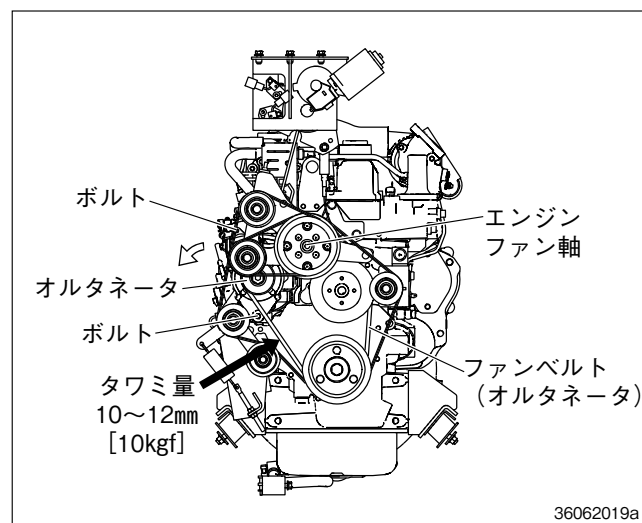
ファンベルト (オルタネータ) の中央部を指で押し [10kgf], タワミ量が **10~12mm** となっていますか。

② 調整

・グレンタンクを回動し、エンジンカバー (後) を取外します。

オルタネータ取付ボルト (2個) をゆるめ、オルタネータを矢印 (⇒) 側に倒しベルトを張ります。

調整後、取付ボルト、ナットを締付けます。作業後にカバーを取付けます。



20. エンジンファンベルト [570型仕様]

警告 火傷防止のために

◆ファンベルトの点検・調整は、エンジンが冷えてから行ってください。

① 点検

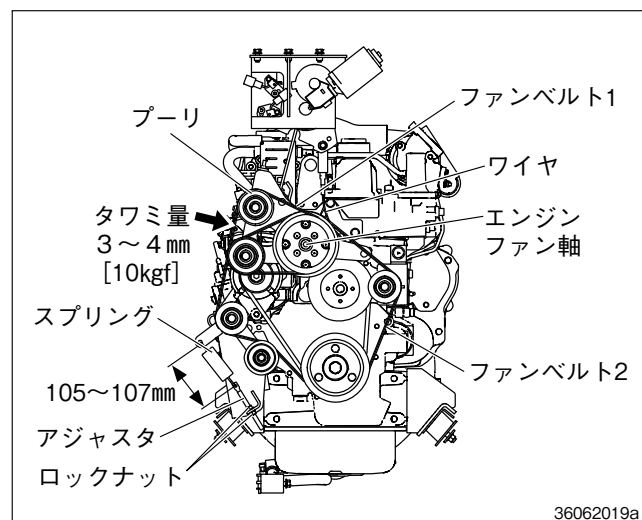
- (1) ファンベルト1の中央部を指で押し [10kgf], タワミ量が **3~4mm** となっていますか。
- (2) ファンベルト2のスプリング長さが **105~107mm** となっていますか。

② 調整

- (1) グレンタンクを回動し、エンジンカバー (後) を取外します。
- (2) プーリの後側にあるアジャスタ部で調整し、ファンベルト1を張ります。調整後、締付けます。
- (3) アジャスタのロックナットをゆるめ、スプリング長さを **105~107mm** に調整し、ファンベルト2を張ります。調整後、締付けます。

取扱いのポイント

- 調整ができなくなったら、新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換したときは、各スプリングの寸法や、ベルトガイドなどを正規の寸法に調整してください。



「チェーンの点検・調整」

取扱いのポイント

- 調整ができなくなったら、新しいチェーンに交換してください。チェーンを新しいものに交換した場合は、スプリングの寸法を、正規な寸法に調整してください。

21. 株元搬送チェーン (右) [5条型]

① 点検

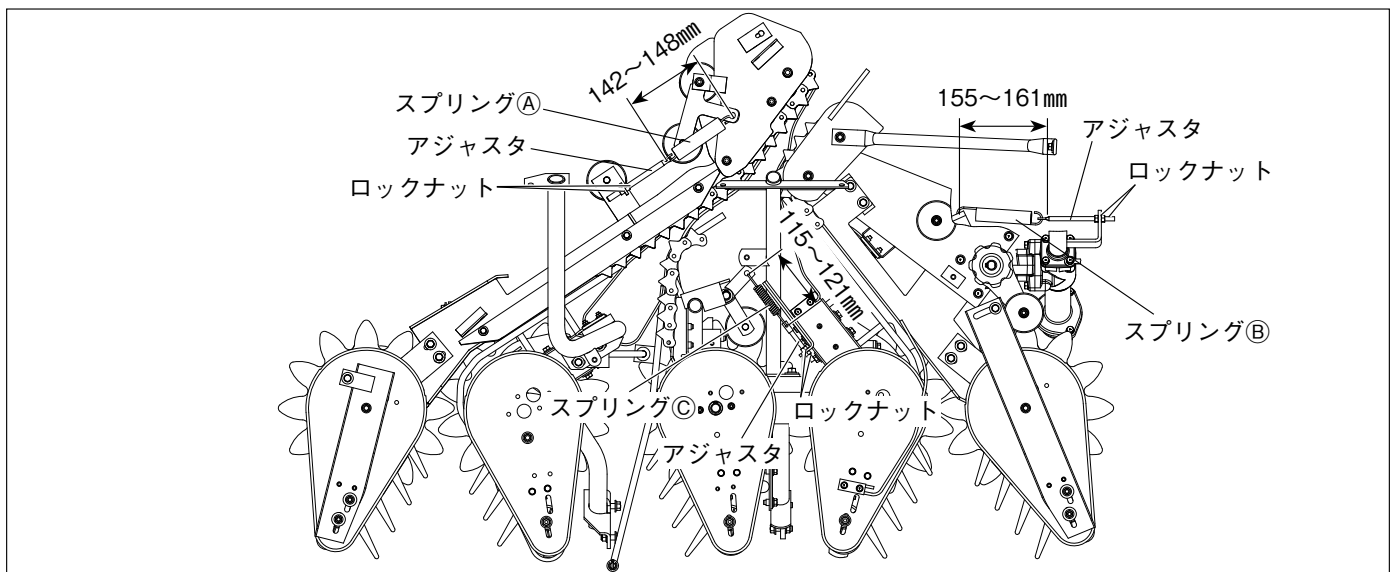
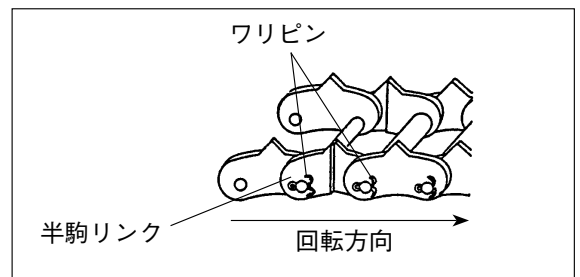
スプリング①の長さが **142~148mm** になっていますか。

② 調整

- (1) 刈取部サイドカバー (右), (左) を外します。
- (2) アジャスタのロックナットをゆるめ、スプリングの長さを調整します。

なお調整できなくなったときは、チェーンの半駒リンクを外し、チェーンの長さを修正します。

- (3) 刈取部サイドカバー (右), (左) を取付けます。



22. 株元搬送チェーン (左) [5条型]

① 点検

スプリング②の長さが **155~161mm** になっていますか。

② 調整

- (1) 刈取部サイドカバー (左) を外し、アジャスタロックをゆるめ、スプリングの長さを調整します。
なお調整できなくなったときは、チェーンの半駒リンクを外し、チェーンの長さを修正します。
- (2) 刈取部サイドカバー (左) を取付けます。

23. 株元搬送チェーン (中) [5条型]

① 点検

スプリング③の長さが **115~121mm** になっていますか。

② 調整

- (1) アジャスタロックをゆるめ、スプリングの長さを調整します。
なお調整できなくなったときは、チェーンの半駒リンクを外し、チェーンの長さを修正します。

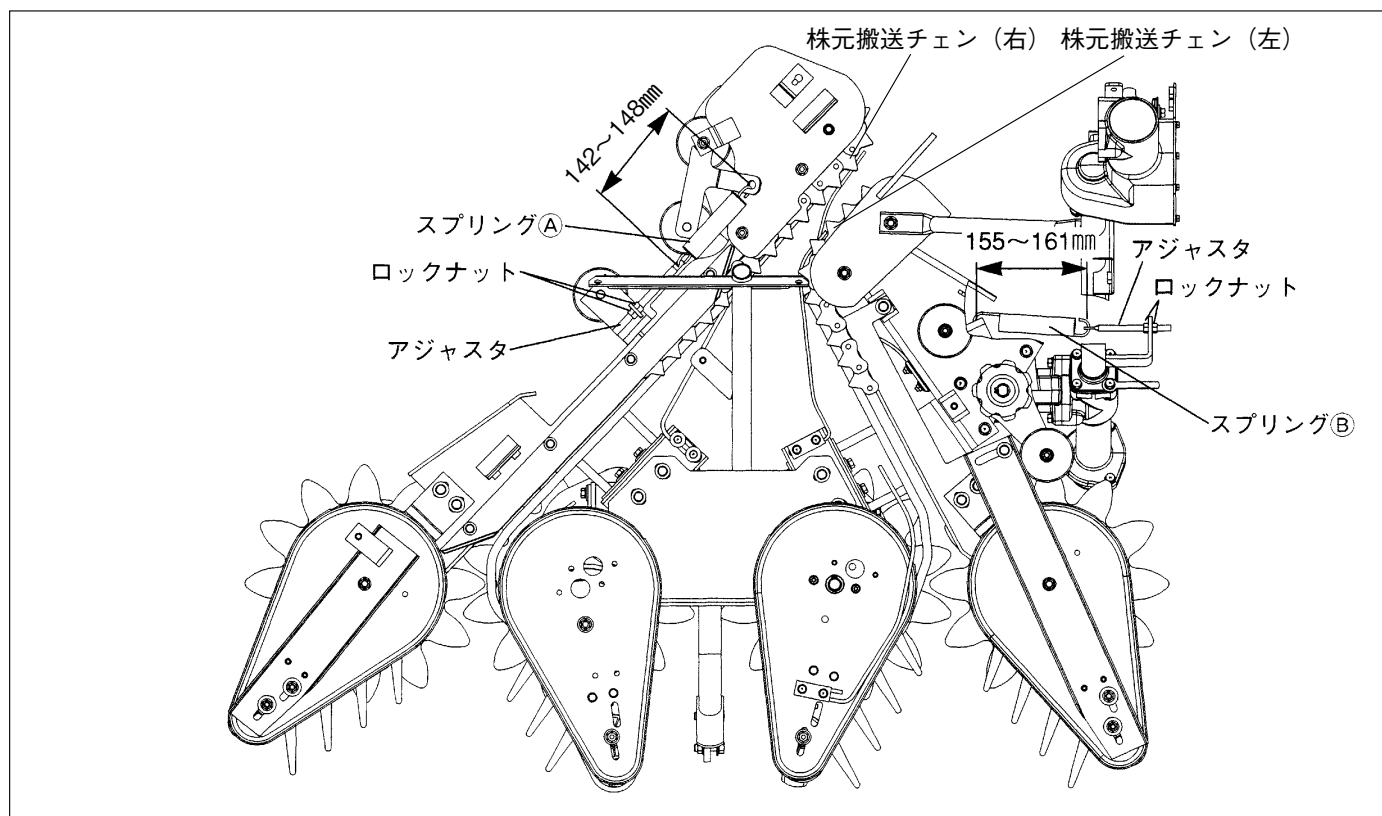
24. 株元搬送チェーン (右)[4条型]

① 点検

スプリング①の長さが **142~148mm** になっていますか。

② 調整

- (1) 刈取部サイドカバー (右) を外します。
- (2) アジャスタのロックナットをゆるめ、スプリングの長さを調整します。
なお調整できなくなったときは、チェーンの半駒リンクを外し、チェーンの長さを修正します。
- (3) 刈取部サイドカバー (右) を取付けます。



25. 株元搬送チェーン (左)[4条型]

① 点検

スプリング②の長さが **155~161mm** になっていますか。

② 調整

- (1) 刈取部サイドカバー (左) を外し、アジャスタロックをゆるめ、スプリングの長さを調整します。
なお調整できなくなったときは、チェーンの半駒リンクを外し、チェーンの長さを修正します。
- (2) 刈取部サイドカバー (左) を取付けます。

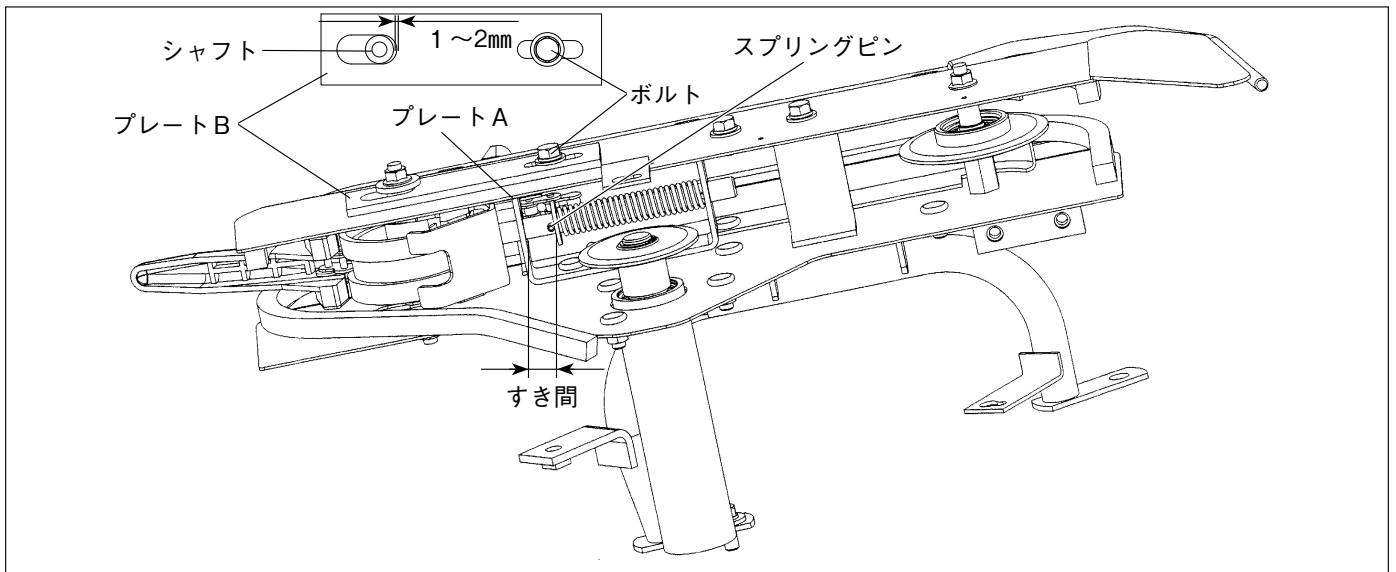
26. かき込み搬送チェン（左・中） 左… [5条型・4条型] 中… [5条型]

① 点検

- (1) スプリングがプレートAに当たっていませんか。
- (2) プレートBとシャフトのすき間が **1~2mm** になっていますか。

② 調整

- (1) チェンが伸びてスプリングピンがプレートAに当たっている場合はチェンの半駒リンクを外し、チェンの長さを修正します。
- (2) プレートBとシャフトのすき間が **1~2mm** になるようボルトをゆるめてプレートBで調整します。



27. 穂先搬送チェン

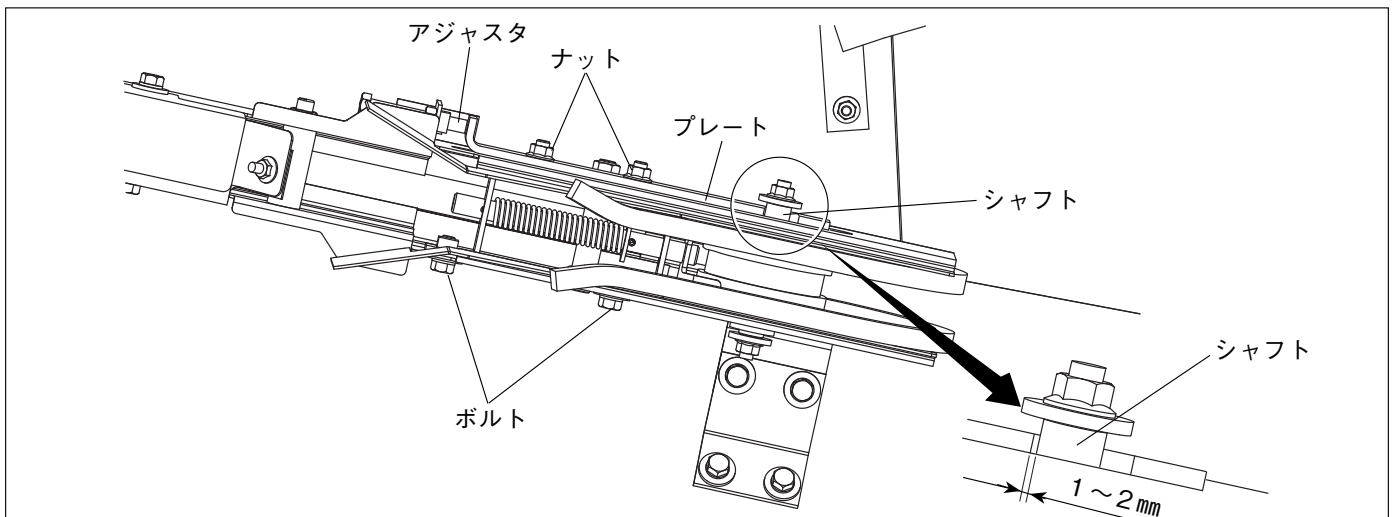
① 点検

- プレートとシャフトのすき間が **1~2mm** になっていますか。

② 調整

ナット、ボルト各2ヶをゆるめ、アジャスタを締込んですき間を無くします。

なお調整できなくなったときは、チェンの半駒リンクを外し、チェンの長さを修正します。



28. 補助搬送チェン（上）

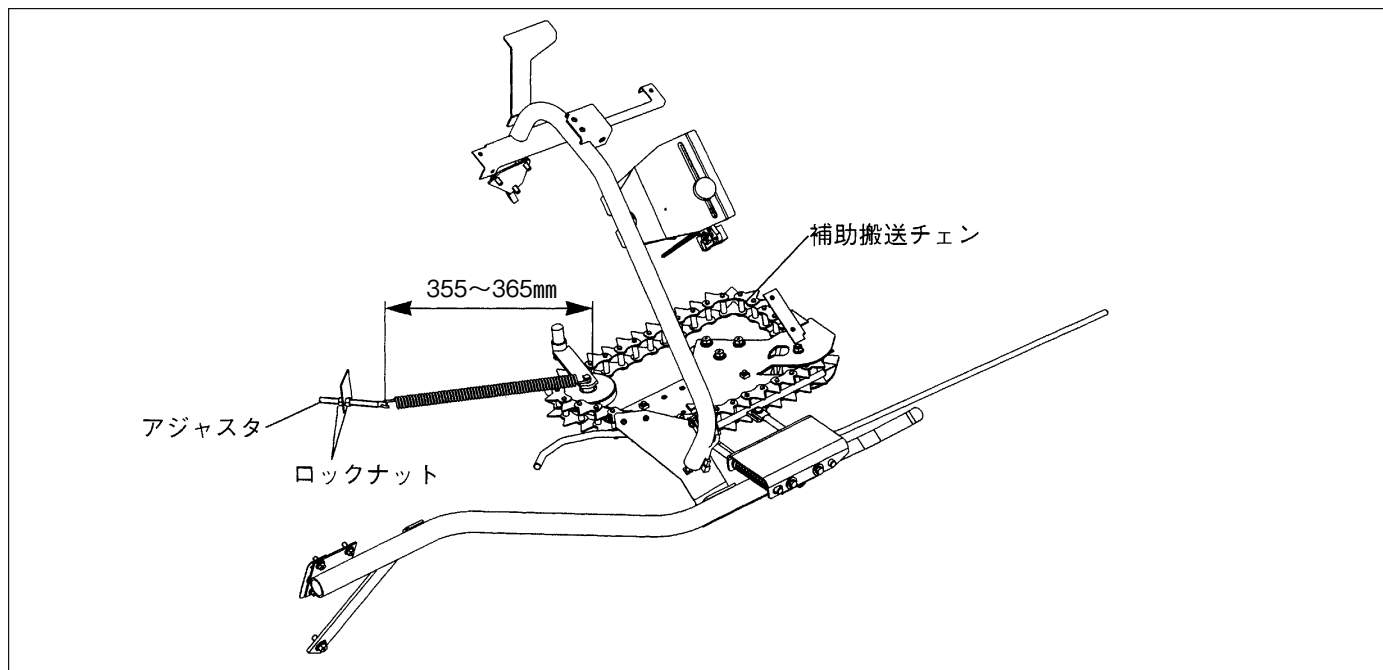
① 点検

スプリングの長さが **355~365mm** になっていますか。

② 調整

アジャスタのロックナットをゆるめ、スプリングの長さを調整します。

なお調整できなくなったときは、チェンの半駒リンクを外し、チェンの長さを修正します。



29. 引きしチェン

① 点検

スプリング長さが **198~202mm** になっていますか。

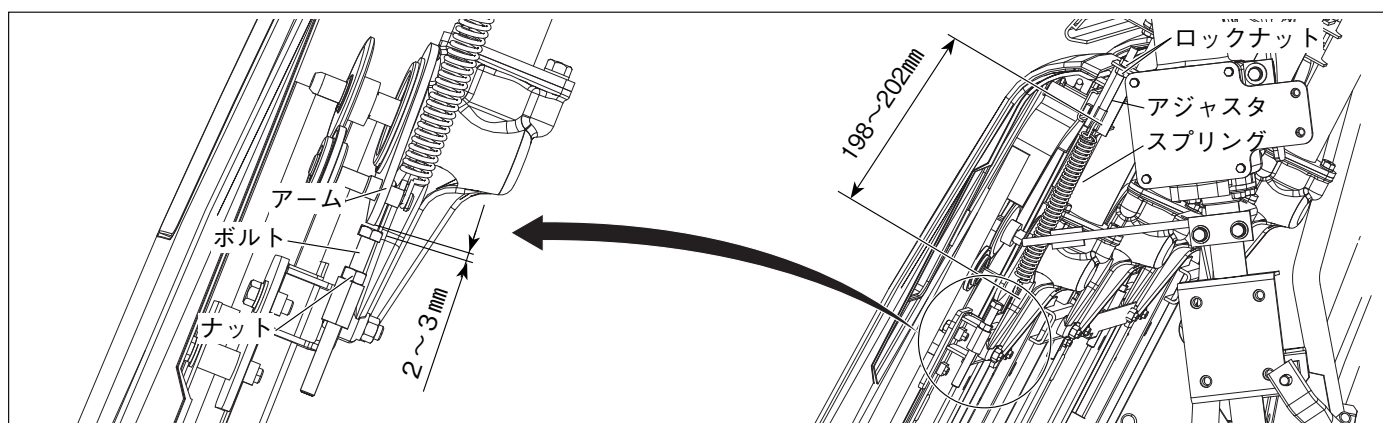
アームとボルトのすき間が **2~3mm** になっていますか。

② 調整

アジャスタのロックナットをゆるめ、スプリングの長さを調整します。

ナットをゆるめ、アームとボルトのすき間を調整します。

なお調整できなくなったときは、チェンの交換を行います。



手入れの
しかたの

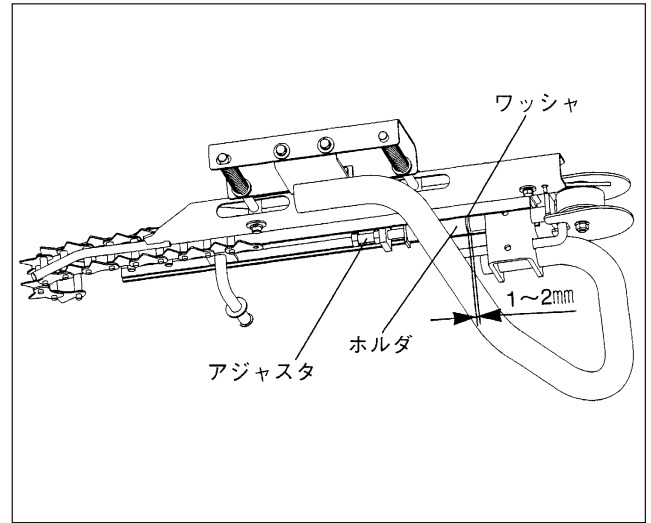
30. こぎ深さ搬送チェーン

① 点検

ホルダとワシヤのすき間が **1～2mm** になっていますか。

② 調整

アジャスタを締込んですき間を調整します。
なお調整できなくなったときは、チェーンの半駒リンクを外し、チェーンの長さを修正します。



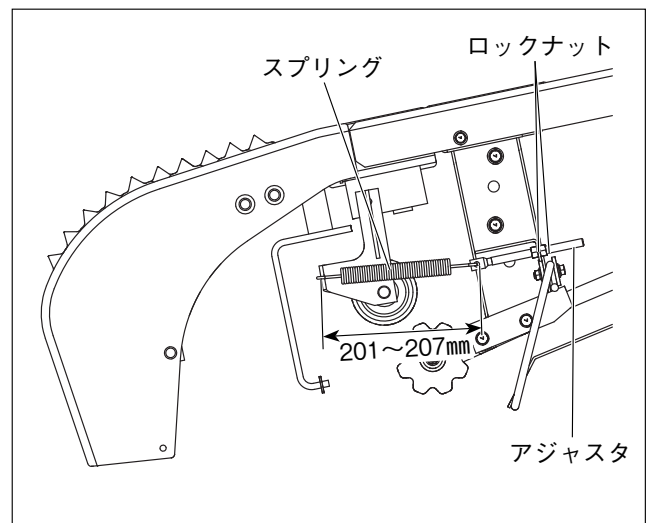
31. 脱こくフィードチェーン

① 点検

スプリング長さが **201～207mm** になっていますか。

② 調整

- (1) 脱こくサイドカバー（上）、（下）を外し、アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。
- (2) 脱こくサイドカバー（上）、（下）を取付けます。



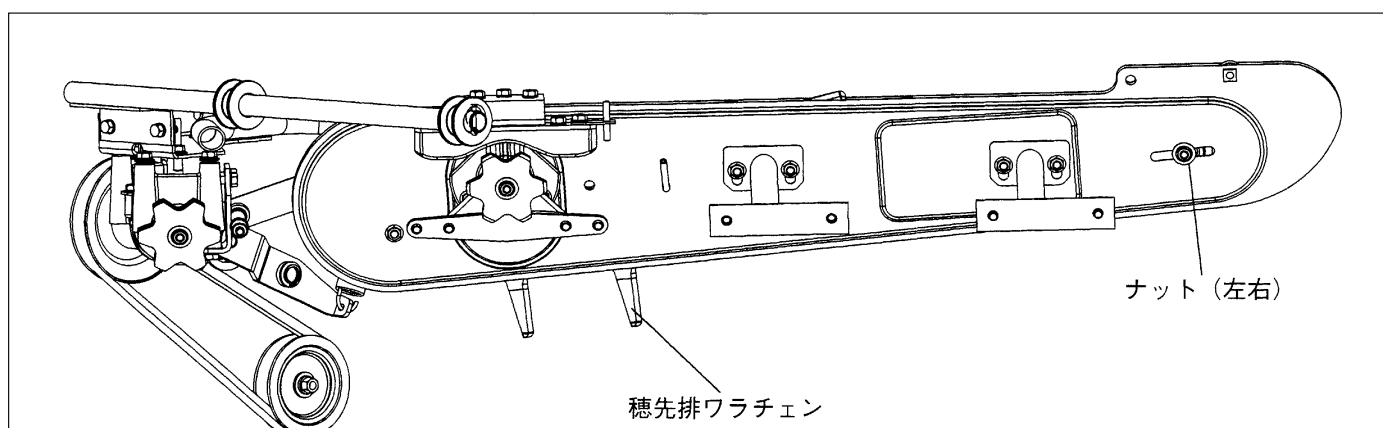
32. 穂先排ワラチェン

① 点検

穂先排ワラチェンがたるんでいませんか。

② 調整

- (1) こぎ胴部を開き、自動ロックをかけます。
- (2) 左右のナットをゆるめると、自動的にチェーン張り調整ができます。
- (3) 調整後、ナット（左右）を締付けます。
なお、調整できなくなったときは、チェーンの交換を行います。
- (4) こぎ胴部を閉じます。



33. 排ワラチェン

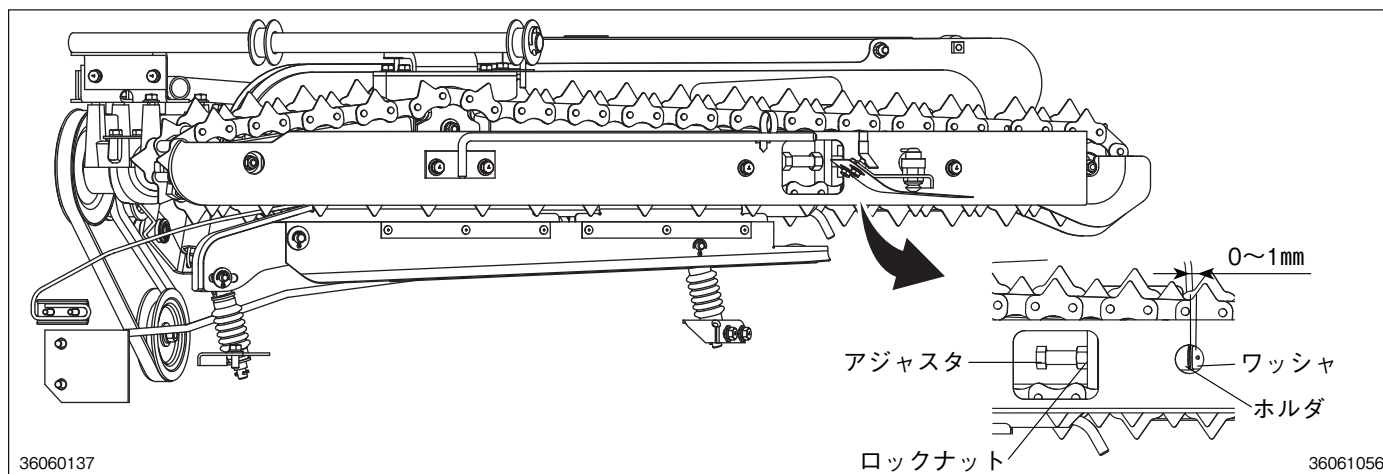
① 点検

排ワラチェン部のホルダとワッシャのすき間が **0～1mm** になっていますか。

② 調整

- (1) カッタサイドカバーを取外し、カッタをオープンし、ストッパを掛けます。(123ページ参照)

- (2) ロックナットをゆるめたアジャスタで調整しロックナットを締付けます。なお調整ができなくなったときはチェーンの半駒リンクを外し、チェーンの長さを修正します。
- (3) カッタを閉じ、カッタサイドカバーを取付けます。(123ページ参照)



36060137

36061056

34. カキコミ軸駆動チェン

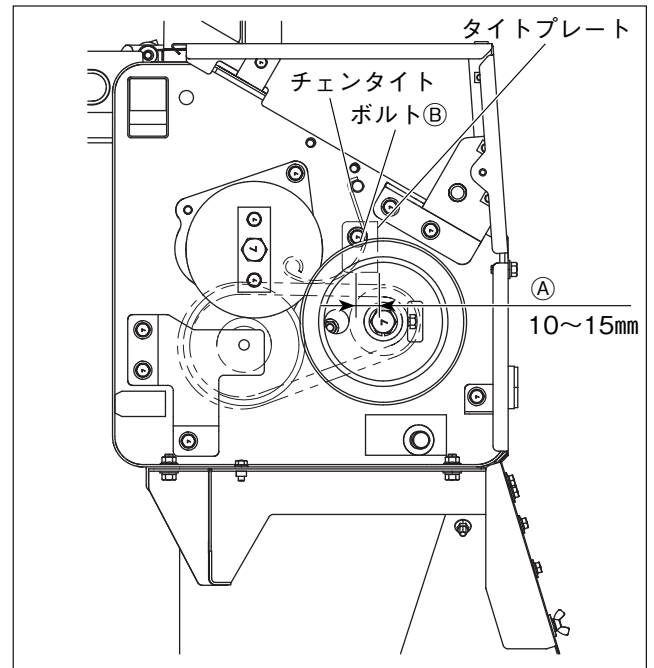
① 点検

カッタサイドカバーを外します。

- (1) タイトプレートとチェンタイトのスキマ[Ⓐ]は
10~15mm ですか。

② 調整

- (1) ボルト[Ⓑ]をゆるめてタイトプレートを動かして[Ⓐ]寸法を調整します。
 (2) カッタサイドカバーを取付けます。



35. 拡散装置駆動チェン

[ディーラーオプション取付時]

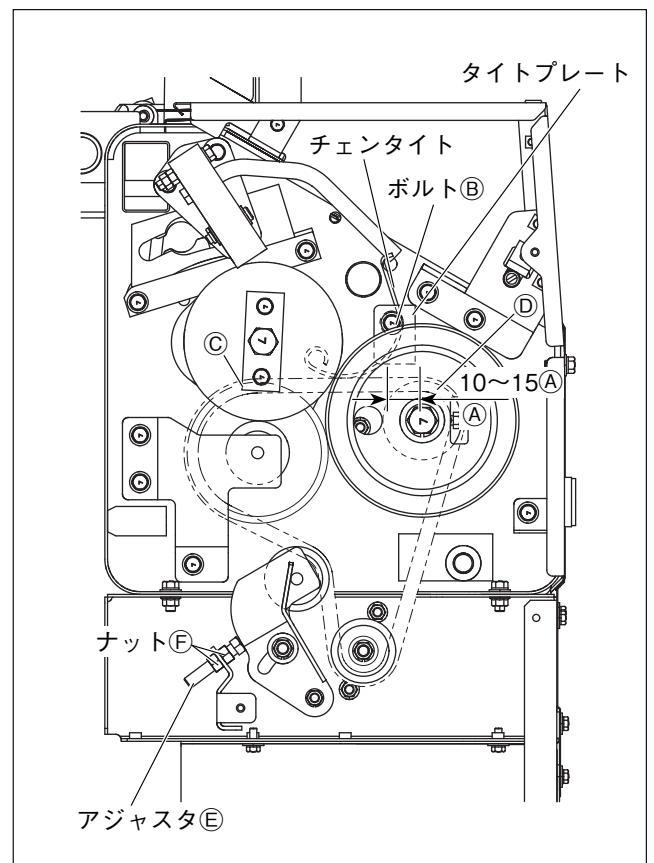
① 点検

カッタサイドカバーを外します。

- (1) チェン[Ⓒ]~[Ⓓ]間にたるみがありませんか。
 (2) タイトプレートとチェンタイトのすき間[Ⓐ]は
10~15mm ですか。

② 調整

- (1) チェン[Ⓒ]~[Ⓓ]間が真直ぐに張る様にアジャスタ[Ⓔ]を締めます。調整後、ナット[Ⓕ]を締め固定します。
 (2) ボルト[Ⓑ]をゆるめてタイトプレートを動かして[Ⓐ]寸法を調整します。
 (3) カッタサイドカバーを取付けます。



「クローラの点検・調整」

36. クローラ

クローラの点検・調整は「お買いあげ先」に依頼してください。

警告 傷害事故防止のために

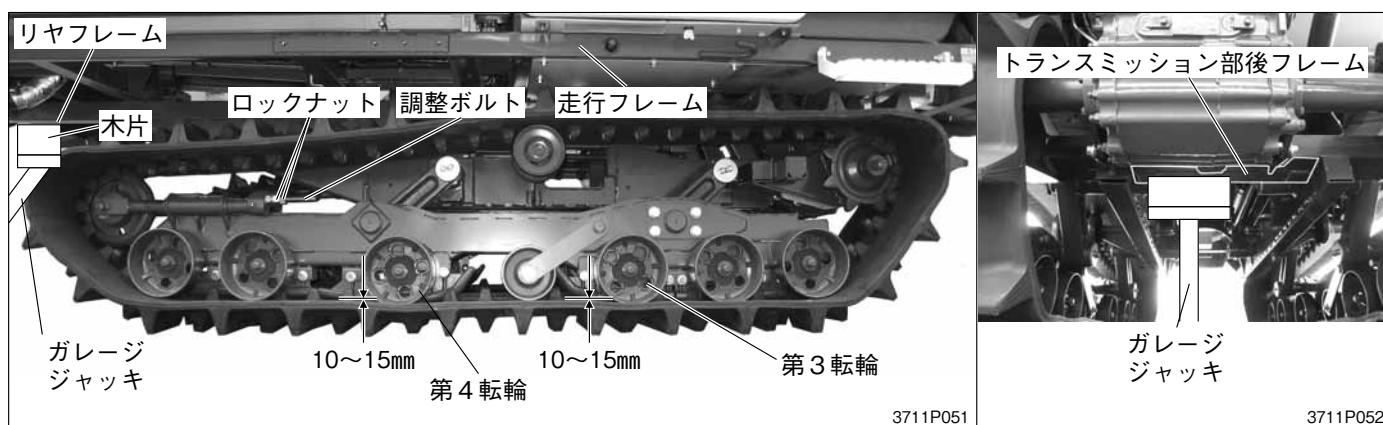
- ◆ガレージジャッキがめり込んだり、移動したりしない、平坦な場所で行なってください。
- ◆ガレージジャッキは、2 t以上の仕様のもを使用してください。
- ◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は、機体のバランスを確認しながらゆっくり行い、必要以上の高さに上げないでください。
- ◆ジャッキアップしたら、固定脚または安全ブロックを走行フレームに噛ませて、落下・転倒防止をしてください。
- ◆ジャッキアップされた機械の下に、入らないでください。

① 点検

- (1) 図示のように、トランスミッション部後フレームとリヤフレーム部の右または左側に木片を介し、ガレージジャッキでジャッキアップし、片方のクローラを浮かせ、固定脚または安全ブロックを走行フレームに噛ませ固定します。
- (2) クローラ下面を地面から浮かせた状態で、第3転輪および第4転輪とクローラのすき間量が **10～15mm** になっていますか。

② 調整

- (1) 調整ボルトのロックナットをゆるめ、調整ボルトを締込んで、第3転輪および第4転輪とクローラのすき間が **10～15mm** になるまで張ります。



手
入
れ
の
し
か
た

取扱いのポイント

- クローラの張り調整を行う前に、ガレージジャッキを掛ける部分や、クローラ回りに付着しているワラ泥などを取除いてください。
- トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けると、ケースが破損するおそれがありますので、行なわないでください。

長期格納のしかた

・シーズンが終わったら、次の作業をして格納します。

警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは、エンジンを停止して、各部の動きが止まってから行なってください。

◆電気配線およびバッテリー⊕コードが損傷していると、ショートや漏電で火傷や損傷することがあります。点検し、傷んだ配線は交換、修理してください。

◆燃料ホースの老化や、傷による燃料漏れがあると火災の原因になります。作業前後に点検し、損傷したり漏れている場合は、交換してください。

◆エンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリー周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

◆機械にシートカバーをかけるときは、エンジンが冷えてから行なってください。エンジンが熱いときに、シートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1. 機械の掃除と洗浄

- ① 泥・ワラクズ・雑草などを取除き、汚れをきれいに水洗いし、乾いた布で拭取ります。
- ② 脱こく内部およびグレンタンクのゴミ・残留こく粒などを、掃除口よりきれいに取除きます。
(119～122ページ脱こく内部の掃除の項を参照)
(124～129ページ揺動流板の掃除の項を参照)
(129～130ページグレンタンク部の掃除の項を参照)

2. 錆止めと注油

- ① 刈刃は掃除したのち、全面にグリースを塗布し錆止めをします。
- ② チェン・ワイヤ類にも注油をし、錆びないようにします。
- ③ 塗装が剥げた箇所は、補修塗装を行います。

3. エンジンの手入れ

エンジンの手入れを行うときは、平坦な格納場で駐車ブレーキをかけ、各クラッチを《切》にして、エンジンが冷えてから行います。

- ① エンジンコントロールレバーは、いっぱいに戻しておきます。
- ② 新しい燃料を入れ、タンクの燃料を満タンにしておきます。
- ③ 冬期気温が0℃以下になるときは、エンジンの凍結割れを防ぐため、冷却水を交換し、不凍液を入れます。(91～92ページ参照)

4. 点検・整備

「定期点検整備表」の項を参考に、該当する項目について点検・整備します。

(85～86ページ参照)

取扱いのポイント

- エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には、水をかけないでください。

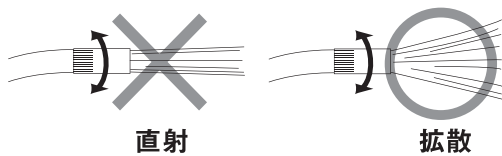
注意 洗浄時の注意

◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2m以上離して洗車してください。もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

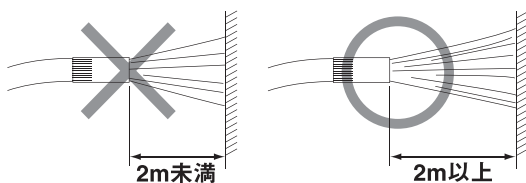
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。
2. ホースの破損により、油・燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

- 例) (1) シール・ラベルの剥がれ
 (2) 電装部品, エンジン, ラジエーターキャビン内などへの侵入による故障
 (3) クローラ, オイルシールなどのゴム類, 樹脂類, ガラスなどの破損
 (4) 塗装, メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



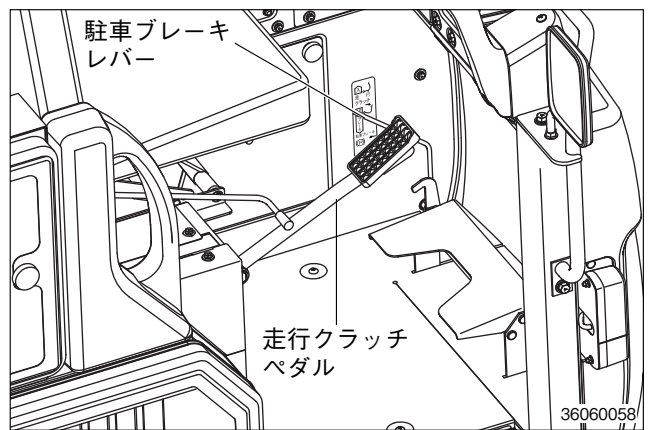
近距離洗車厳禁



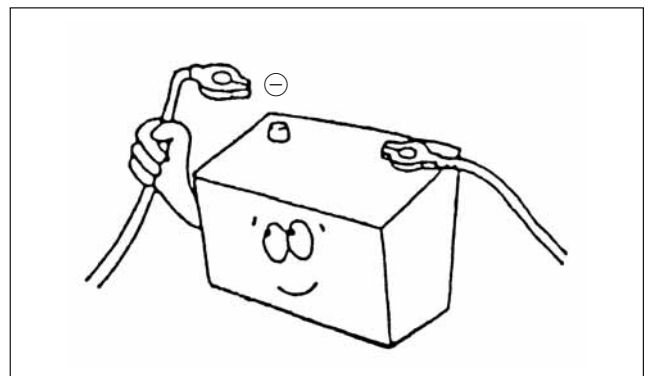
5. 格納

機体の掃除・点検・整備を終えたら、風通しのよい乾燥した屋内を選び、シートをかけて保管します。

- ① 「クローラ」の下には板などを敷いておきます。
- ② 各レバーは《切》・《中立》の位置にします。
- ③ 「ナローガイド (左右)」を収納し、デバイダ先端に「バンパ」を取付けておきます。
- ④ 刈取部を下げて、スタートスイッチの「始動キー」を抜取ります。
- ⑤ 走行クラッチペダルに駐車ブレーキレバーをかけます。



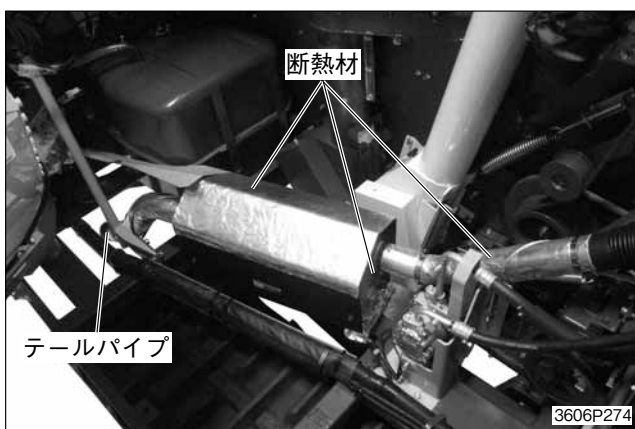
- ⑥ クローラに「車止め」をします。
- ⑦ 「バッテリー」は取外して、日陰の乾燥した場所に保管するか、⊖側のコードを外しておきます。1ヶ月に1回、バッテリー補充電のため、エンジンを約10分間回します。



の長期格納

取扱いのポイント

- 錆の発生を防止するため、塩分の強い貯蔵物や肥料と、同じ場所に格納するのは避けてください。
- マフラ部断熱材の損傷（破れ、剥れ）を確認し、損傷の場合は火災の原因となりますので「お買いあげ先」にて交換してください。
[570型] はテールパイプにも断熱材が貼り付けてあります。



6. 再使用にあたって

格納後、初めて使用するときには、各部の点検を入念に行なった後に運転します。

- ① エンジンを回す前に、バッテリーターミナルなど保管するときに、処置した項目を正しく復元します。
- ② 始業点検、注油を確実にを行います。

取扱いのポイント

- エンジンを回す前に、バッテリーターミナルなど保管するときに、処置した項目を正しく復元してください。

不調時の処置

- ・不調が発生したら、直ぐにその原因を調べて処置をし、故障を大きくしないようにします。
- ・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは、「お買いあげ先」に相談し点検を受けます。
- ・そのときは、「型式名」、「機械番号（製造番号）」、「エンジン番号」を合わせてお知らせください。

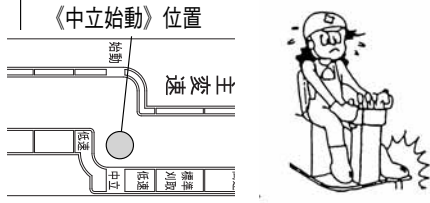
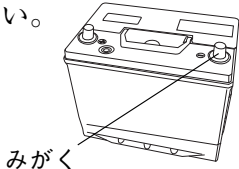
⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆掃除・点検・調整は、機械を平坦な場所に置いて、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、各部の動きが止まってから行なってください。点検処置は、参照ページの安全上の項目をよく読んでから行なってください。
- ◆ソレノイドバルブの操作をするときは、機械の周囲に人がいないことを確認してから行なってください。
- ◆調整を必要とするバルブ以外は、操作しないでください。他のバルブを操作すると、不意に他の装置が動いて事故になることがあります。

⚠注意

- ◆外したカバー類は全て元の位置に取付けてください。

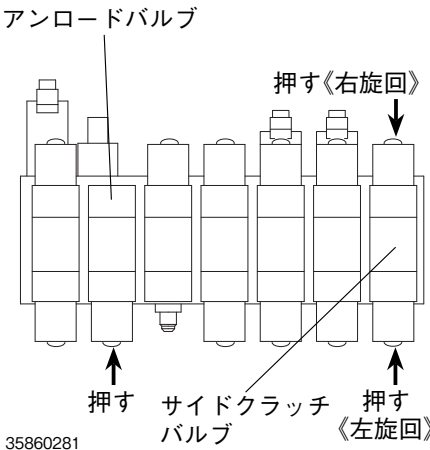
1. エンジン部

不調の状況	原因（点検箇所）	処置	参照ページ
セルモーターが回らない	① 主変速レバーを《中立始動》位置にしていない。 クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。	●主変速レバーを《中立始動》位置にし、走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでください。 主変速レバー 《中立始動》位置 	31
	② バッテリターミナルのゆるみ（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けてください。 	111
	③ メインヒューズが切れている。	●配線の短絡箇所を点検し、修正後、メインヒューズ（60A）を交換してください。	108～110
	④ バッテリが放電している。	●バッテリーを充電してください。	111～117
	⑤ 《スタータ》ヒューズが切れている。	●スタータヒューズ（10A）を交換してください。	108～110

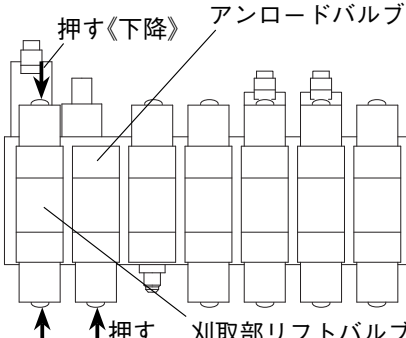
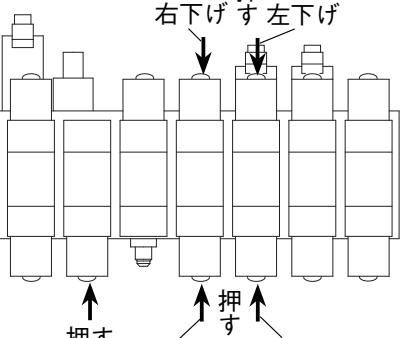
不調時の処置

不調の状況	原因（点検箇所）	処置	参照ページ
セルモータは回るが 始動しない	① 燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し、エア抜きをしてください。（ディーゼル軽油）	89 105
	② ・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアが溜まっている。	●エア抜きをしてください。	105
	③ 《ランプ・計器（本機）》ヒューズが切れているため、燃料ポンプが作動しない。	●ランプ・計器（本機）ヒューズ（15A）を交換してください。	108～110
	④ 《キー切り》ヒューズが切れている。	●キー切りヒューズ（10A）を交換してください。	108～110
	⑤ 燃料コックが「閉」のままになっている。	●燃料コックを開けてください。	104
エンジンの馬力が出 ない、または自然に 止まる	① 燃料系統に水・ゴミの混入	●燃料系統の点検・掃除をしてください。 ●燃料フィルタを交換してください。	104
	② エアクリーナが目詰まり。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換してください。	103
	③ エンジンオイルの不良（汚れ） または不足	●指定のオイルを補給または交換してください。	89～90
	④ 冷却水の不足	●冷却水を補給してください。	91～92
	⑤ エンジンファンベルトのゆるみ。	●ファンベルトを調整してください。	160
	⑥ 《ランプ・計器（本機）》ヒューズが切れているため、燃料ポンプが作動しない。	●ランプ・計器（本機）ヒューズ（15A）を交換してください。	108～110
	⑦ 《キー切り》ヒューズが切れている。	●キー切りヒューズ（10A）を交換してください。	108～110
刈取走行するとエンジンが停止すると同時に倒伏刈ランプ点滅し、ホーン吹鳴	《搬送》ヒューズが切れている。	●搬送ヒューズ（20A）を交換してください。	108～110

2. 走行・運転操作部

不調の状況	原因 (点検箇所)	処置	参照ページ
主変速レバーを操作しても走行しない	① 副変速レバーが《中立》位置になっている。	●条件に合わせ《標準》,または《走行》位置にセットしてください。	19
	② 油圧オイルタンクのオイル不足	●規定量まで油圧作動油を補給してください。	93
マルチステアリングレバーを操作しても旋回しない	① 《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 リフト・操向ヒューズ……15A マイコンヒューズ……………10A	108~110
	② 油圧バルブへのゴミ噛み。 アンロードバルブ 	●各操作レバーを《中立》にしてエンジンを始動してください。アンロードバルブを押しながら、サイドクラッチバルブの《右旋回》および《左旋回》の手動プッシュを数回押すと、ゴミ噛みが解消する場合があります。(バルブユニットは運転席ステップの下にあります。)	—
	③ 副変速レバーのスピンドライブターンが確実に切替っていない。	●確実に切替えます。	19

不調時の処置

不調の状況	原因（点検箇所）	処置	参照ページ
マルチステアリングレバーを操作しても刈取部が上昇または下降しない	① 《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 リフト・操向ヒューズ……15A マイコンヒューズ……………10A	108～110
	② 油圧バルブへのゴミ噛み。 	●各操作レバーを《中立》にしてエンジンを始動してください。アンロードバルブを押したり、刈取部リフトバルブの《上昇》および《下降》の手動プッシュを数回押すと、ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	-
	③ 油圧固定スイッチが《油圧固定》位置になっている。	●油圧固定スイッチを《作業時》位置にしてください。	12
水平操作レバーを操作しても作動しない 水平自動制御が作動しない	① 《水平・オーガバルブ》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズまたは《リフト・操向》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 水平・オーガバルブヒューズ…10A マイコンヒューズ……………10A リフト・操向ヒューズ……15A	108～110
	② 油圧バルブへのゴミ噛み。 	●各操作レバーを《中立》にしてエンジンを始動してください。メインバルブユニットのアンロードバルブを押しながら、水平制御用バルブユニットの手動押しボタンを数回押すと、ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下側にあります。）	-

3. 電気・自動制御部

不調の状況	原因（点検箇所）	処置	参照ページ
モニタランプ・前照灯・作業灯・バックブザー・ホーンが点灯または作動しない	① 《ランプ・計器（パネル）》ヒューズ, 《作業灯》ヒューズ, 《マイコン》ヒューズ, 《ランプ・計器（本機）》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 ランプ・計器(パネル)ヒューズ…15A 作業灯ヒューズ……………30A マイコンヒューズ……………10A ランプ・計器(本機)ヒューズ…15A	108～110
	② バッテリーの放電。	●バッテリーを充電・交換してください。	111～117
方向指示器が点灯しない	《フラッシュ・制動灯》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 フラッシュ・制動灯ヒューズ…15A	108～110
こぎ深さ自動制御が作動しない	① 《こぎ深さ・注油》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 こぎ深さ・注油ヒューズ…20A マイコン……………10A	108～110
	② 刈取部のこぎ深センサにワラクズが溜まっている。	●ワラクズを取除いてください。	—
刈高さポジションコントロールが作動しない	《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 リフト・操向ヒューズ…15A マイコン……………10A	108～110
選別自動制御が作動しない	① 《選別制御》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 選別制御ヒューズ……………20A マイコンヒューズ……………10A	108～110
	② スイングシーブ部にワラクズが溜まっている。	●ワラクズなどがきれいに排出されるまで、脱こく部の空運転をしてください。	—
方向自動制御が作動しない [ディーラーオプション]	① 《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 リフト・操向ヒューズ…15A マイコンヒューズ……………10A	108～110
	② 刈取部の方向センサに草・泥・ワラクズなどが溜まっている。	●草・泥・ワラクズなどを取除いてください。	—

不調の状況	原因 (点検箇所)	処置	参照ページ
方向自動制御が作動しない [ディーラーオプション]	<p>③ 油圧バルブへのゴミ噛み。</p> <p>アンロードバルブ サイドクラッチバルブ</p> <p>《右旋回》押す 35860281 押す 押す《左旋回》</p>	<p>●エンジンを始動し、アンロードバルブを押しながら、サイドクラッチバルブの《右旋回》および《左旋回》の手動プッシュを数回押すとゴミ噛みが解消する場合があります。(バルブユニットは運転席ステップの下にあります。)</p>	—

4. 刈取部

不調の状況	原因 (点検箇所)	処置	参照ページ
刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない	<p>① 搬送経路に詰まりがある。</p>	<p>●つぎの操作手順で処置してください。</p> <p>①パワークラッチ (脱こく・刈取) スイッチを《切》にしてください。</p> <p>②エンジンを停止してください。</p> <p>③刈取搬送部の詰まり箇所を取除いてください。</p> <p>④エンジンを始動してください。</p> <p>⑤パワークラッチ (脱こく・刈取) スイッチを《刈取》にして確認してください。</p> <p>※副変速《中立》で主変速を《前進・低速》にしてください。</p> <p>取扱いのポイント</p> <p>●デバイダが土中に突っ込んで、株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。</p>	13, 19
	<p>② 刈取クラッチスプリングの調整不良(ベルトがスリップしている)</p>	<p>●刈取クラッチスプリングの調整をしてください。</p>	151
刈株の長さにムラがある	<p>① 刈刃の注油不足</p>	<p>●刈刃に十分注油してください。</p>	101~102
	<p>② 刈刃の調整不良 (刈刃のすき間が広い)</p>	<p>●調整ライナですき間を調整してください。</p>	149
	<p>③ 刈刃の摩耗</p>	<p>●刈刃を交換してください。</p>	148~149
	<p>④ マルチステアリングレバーの操作不良。</p>	<p>●刈取り条に沿って運転するとき、急激な操作は避けてください。</p>	21

5. 脱こく部

不調の状況	原因 (点検箇所)	処置	参照ページ
脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した	<p>(1)脱こくフィードチェン部に詰まりがある。 (脱こくフィードチェンエンジン停止スイッチ作動)</p> <p>(2)排ワラチェン部に詰まりがある。 (排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動)</p>	<p>●つぎの手順により処置してください。</p> <p>①パワークラッチ (脱こく・刈取) スイッチを《切》にしてください。</p> <p>②脱こく排ワラ関係の詰まり箇所を取除いてください。</p> <p>③排ワラフィードチェンの張りを点検・調整してください。</p> <p>④エンジンを始動してください。</p> <p>⑤パワークラッチ (脱こく・刈取) スイッチを《脱こく》にして確認してください。</p> <p>取扱いのポイント</p> <p>●処置後、脱こく部の空運転をし、脱こく内部に溜まったワラクズをきれいに排出してから、刈取りを開始してください。</p>	<p>13</p> <p>118～119</p> <p>166</p>
グレンタンク内にこく粒が出ない (脱こく部の詰まり)	① こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て、《稲・麦、種子》の各マークの範囲内になるようにして使用してください。	8～9
	② ベルトがスリップしている。	<p>●脱こく入力ベルトを張ります。</p> <p>●1番ラセン駆動ベルトを張ります。</p> <p>●こぎ胴ベルトを張ります。</p> <p>●選別ベルトを張ります。</p>	<p>—</p> <p>155～157</p>
	③ こぎ深さが「深こぎ」のため、こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「穂先マーク」に合わせてください。	65～66
	④ 作物が雨・露のために濡れている。(受網の目詰まり)	<p>●作物がよく乾燥してから刈取りしてください。</p> <p>●受網の掃除してください</p>	119～121
	⑤ 刈取り時期が早く、青い作物を刈取っている。	<p>●刈取り適期まで待って刈取りしてください。</p> <p>●作業速度を下げ、できるだけ低能率で作業をしてください。</p>	18～19

不調時の処置

不調の状況	原因（点検箇所）	処置	参照ページ
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	⑥ 選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	● 稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットしてください。	70～71
	⑦ 1番ラセン底板，2番ラセン底板の掃除口が開いている。	● 開閉レバーを《閉じる》位置にし，ストッパをかけてください。	121
能率が上がらない （こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	① 作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	● 作物がよく乾燥してから刈取りしてください。 ● 受網の掃除をしてください。	119～121
	② こぎ深さが「深こぎ」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	● こぎ深さを「穂先マーク」位置に合わせてください。	65～66
	③ こぎ胴回転が規定より低い。	● 刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《イネ・ムギ，種子》の各マークの範囲内になるようにして使用してください。	8～9
	④ 刈取り速度が早すぎる。	● 主変速レバーで速度を下げてください。	18～19
	⑤ 送じんがスムーズでない。	● 送じん量調節位置を《多い》方向へ調節してください。 （必要に応じてガイドを固定します。）	73
	⑥ ワラ切カマが切れない。	● ワラ切カマの交換をしてください。 取扱いのポイント ● ワラ切カマは，こぎ歯に当たらないように取付けてください。 ● ワラ切カマの取付け方向を確認して，取付けてください。	146～147
	⑦ 選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	● 稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットしてください。	70～71

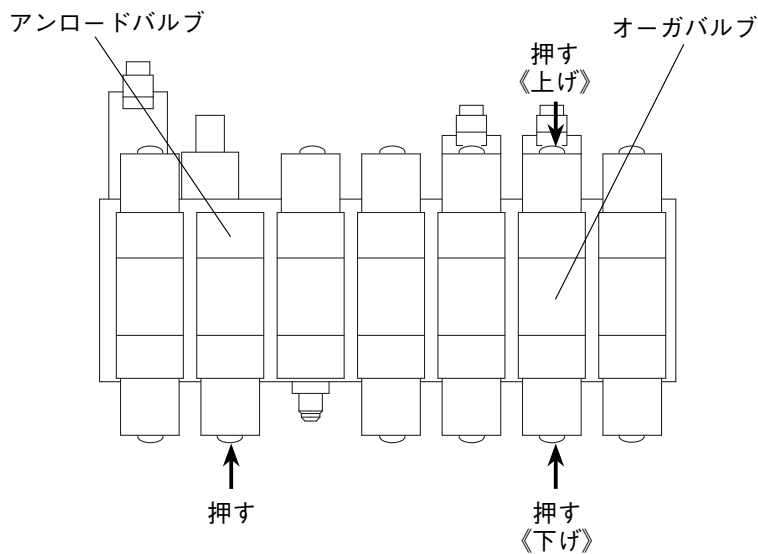
不調の状況	原因（点検箇所）	処置	参照ページ
スレッシングロスが多い	① こぎ深さが「深こぎ」のため、こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●こぎ深さを「穂先マーク」位置に合わせてください。	65～66
	② 作業速度の上げ過ぎにより、揺動流板にワラクズなどが停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり、作業速度を下げ作業をしてください。	18～19
	③ 作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取りしてください。 ●受網の掃除をしてください。	119～121
	④ 刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取りしてください。 ●作業速度を下げ、できるだけ低能率で作業をしてください。	18～19
	⑤ 選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類、作業条件に合わせてダイヤルをセットしてください。	70～71
こぎ残しが多い	① こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを「穂先マーク」位置にあわせてください。	65
	② こぎ胴の回転が低い。	●こぎ胴回転を規定回転に合わせて、マークの範囲内になるようにして作業をしてください。	8～9
	③ デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように、条間に沿ってデバイダを合わせてください。 ●条合わせは、マルチステアリングレバーを小刻みに操作してください。（強く操作すると、「ブレーキ」が効き、条を外れたり株元を押し倒したりし、高刈りとなります） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去してください。 ●横刈りをするとき、刈幅いっぱい刈取りは行わない。	45～50

6. ワラ処理部

不調の状況	原因（点検箇所）	処置	参照ページ
巻きつきが発生し馬力をとる	① 刃の摩耗によりカッタの切れ味が悪い。	●刃を交換してください。	136～144
	② 排ワラの搬送姿勢が悪い。	●こぎ深さ位置を適正にしてください。	65～66
	③ 排ワラ量の増加	●作業速度を適正にしてください。	47
排ワラ姿勢が悪い (カッタ部での搬送姿勢が悪い)	① 排ワラチェーンの張り不良	●チェーンを張ってください。	166
	② こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にしてください。	65～66

7. グレンタンク部

不調の状況	原因 (点検箇所)	処置	参照ページ
排出オーガ操作スイッチを操作しても、動かない	① 《水平・オーガバルブ》ヒューズ, 《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 水平・オーガバルブヒューズ…10A マイコンヒューズ……………10A	108~110
	② 油圧バルブへのゴミ噛み。	●エンジンを始動し, アンロードバルブを押しながら, オーガバルブの《上げ》および《下げ》の手動プッシュを数回押すと, ゴミ噛みが解消する場合があります。 (下図のバルブユニットは, 運転席ステップの下にあります。)	—
こく粒排出スイッチを操作してもこく粒が出ない [X仕様]	① ベルトのスリップ。	●ベルトの張りを調整してください。	—
	② 《排出クラッチ・オーガ》, 《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 排出クラッチ・オーガヒューズ…20A マイコンヒューズ……………10A	108~110



35860281

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は, 配線接続部の外れ, 接触不良およびアース不良の点検も併せて行なってください。
- ヒューズの熔断が再発するときは, 点検を受けてください。

8. キャビン部 [X仕様]

不調の状況	原因 (点検箇所)	処置	参照ページ
ワイパが作動しない	① 《ワイパ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 ワイパヒューズ……………15A	108~110
ウォッシュ液が出ない	① ウォッシュ液が不足している。	●ウォッシュ液を補給してください。	99
	② 《ワイパ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 ワイパヒューズ……………15A	108~110
クーラが作動しない	① 《エアコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 エアコンヒューズ……………20A	108~110
クーラの風量が少ない	① 吸気口のフィルタが目詰まりしている。	●フィルタを掃除してください。	—
室内灯が点灯しない	① 電球 (バルブ) が切れている。	●電球 (バルブ) を交換してください。	—
	② 《室内灯・時計》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 室内灯・時計ヒューズ………10A	108~110
作業灯が点灯しない	① 電球 (バルブ) が切れている。	●電球 (バルブ) を交換してください。	—
	② 《作業灯》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 作業灯ヒューズ……………30A	108~110
	③ 作業灯リレーが破損している。	●作業灯リレーを交換してください。 (「お買いあげ先」で点検を受けてください。)	—
カーステレオが作動しない	① 《カーステ・シガライタ》ヒューズが切れている。	●運転席下のヒューズを交換してください。 カーステ・シガライタ ヒューズ……………20A	108~110
シガライタが作動しない	① 《カーステ・シガライタ》ヒューズが切れている。	●運転席下のヒューズを交換する。 カーステ・シガライタ ヒューズ……………20A	108~110
クーラが冷えない	① ガスがない。	「お買いあげ先」で点検を受けてください。	—

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は、配線接続部の外れ、接触不良およびアース不良の点検も併せて行なってください。
- ヒューズの熔断が再発するときは、点検を受けてください。

不調の状況	原因（点検箇所）	処置	参照ページ
モニタに映像が映らない	① カメラの配線が正しく接続されていない。	●カメラ用の配線, コネクタの接続を確認してください。	—
	② BACK GEARスイッチが「ON」になっている。	●BACK GEARスイッチを「OFF」にしてください。	83
モニタの電源が入らない	① 電源の配線が正しく接続されていない。	●配線を確認してください。	—
	② 《モニタ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 モニタヒューズ……………3 A 再度切れる場合は、「お買いあげ先」にご相談ください。	108~110
モニタの映像が薄い	① 使用状況が悪い。	●車内温度が0℃以下, または60℃以上になっている場合が考えられます。車内温度を適温（25℃前後）にして確認してください。	—

・上記の対処を行っても復帰しない場合は、本体の電源を切り、「お買いあげ先」にご相談してください。

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は、配線接続部の外れ、接触不良およびアース不良の点検も併せて行ってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは、点検を受けてください。

付 表

1. 主要諸元

型 式 名	三菱VY463			三菱VG563	
名 称	三菱VY463R			三菱VG563R	
区 分	ET	SLM	XSLYM	ET	
車 両 型 式 名	三菱 KDN - VC63A				
機 体 寸 法	全 長 (mm)	4490			
	全 幅 (mm)	2040			
	全 高 (mm)	2360	2600	2360	
機 体 質 量 (重 量) (kg)	3030	3130	3335	3190	
エ ン ジ ン	型 式	三菱S4Q2 - T12C			
	種 類	水冷4サイクル4気筒立型ディーゼルトーボ			
	総 排 気 量 (L {cc})	2,505 {2,505}			
	出 力 / 回 転 速 度 (kW/PS/rpm)	46.6 {63.4} / 2800			
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油			
	使 用 タ ン ク 容 量 (L)	60			
	始 動 方 式	セルモータ式			
バ ッ テ リ (V · Ah)	12 · 55				
走 行 部	ク ロ ー ラ	幅 × 接 地 長 (mm)	450 × 1,670	500 × 1,670	450 × 1,670
		中 心 距 離 (mm)	1,030		
	平 均 接 地 圧 (kPa/kgf/cm ²)	19.8 {0.202}	20.4 {0.208}	19.6 {0.199}	20.8 {0.212}
	変 速 方 式	油圧モータ式 (HST)			
	変 速 段 数 (段)	前進無段, 後進無段 (副変速2段)			
走 行 速 度 (m/s)	前 進	標準: 0 ~ 1.60, 高速: 0 ~ 2.60		標準: 0 ~ 1.40, 高速: 0 ~ 2.28	
	後 進	標準: 0 ~ 1.60, 高速: 0 ~ 2.60		標準: 0 ~ 1.40, 高速: 0 ~ 2.28	
刈 取 部	刈 取 条 数 (条)	4		5	
	デ バ イ ダ 先 端 間 隔 (mm)	1,400 ~ 1,450		1,700 ~ 1,750	
	刈 刃 装 置 形 式	往復動刃式 (ツイン)			
	刃 幅 (mm)	1,440		1,690	
	変 速 段 数 (段)	2 (車速連動式)			
	刈 高 さ 調 整 範 囲 (mm)	40 ~ 150			
こ ぎ 深 調 節 方 法	電動式 (自動, 手動併用)				
脱 こ く 部	脱 こ く 方 式	複胴下こぎ軸流式 (増速ツインこぎ胴)			
	こ ぎ 胴	こ ぎ 胴 経 × 幅 (mm)	410 × 810		
		回 転 速 度 (rpm)	前457 · 後562		
	処 理 胴	こ ぎ 胴 経 × 幅 (mm)	140 × 880		
		回 転 速 度 (rpm)	1,545		
揺 動 板 幅 × 長 さ (mm)	600 × 1,370				
処 理 部 粒	こ ぐ 粒 処 理 方 式	グレンタンク式 (オーガ排出)			
	タ ン ク 容 量 (L)	1,500			
	排 出 高 さ (mm)	1,900 ~ 4,800			
排 ワ ラ 処 理 装 置	ディスク形カッタ				
適 応 作 物 全 長 (mm)	550 ~ 1,300				
倒 伏 適 応 性 (度)	追刈: 85° 向刈: 70° 以下				
作 業 能 率 (分/10a)	10 ~ 54 (計算値)		10 ~ 46 (計算値)		
運 転 免 許	大型特殊免許				

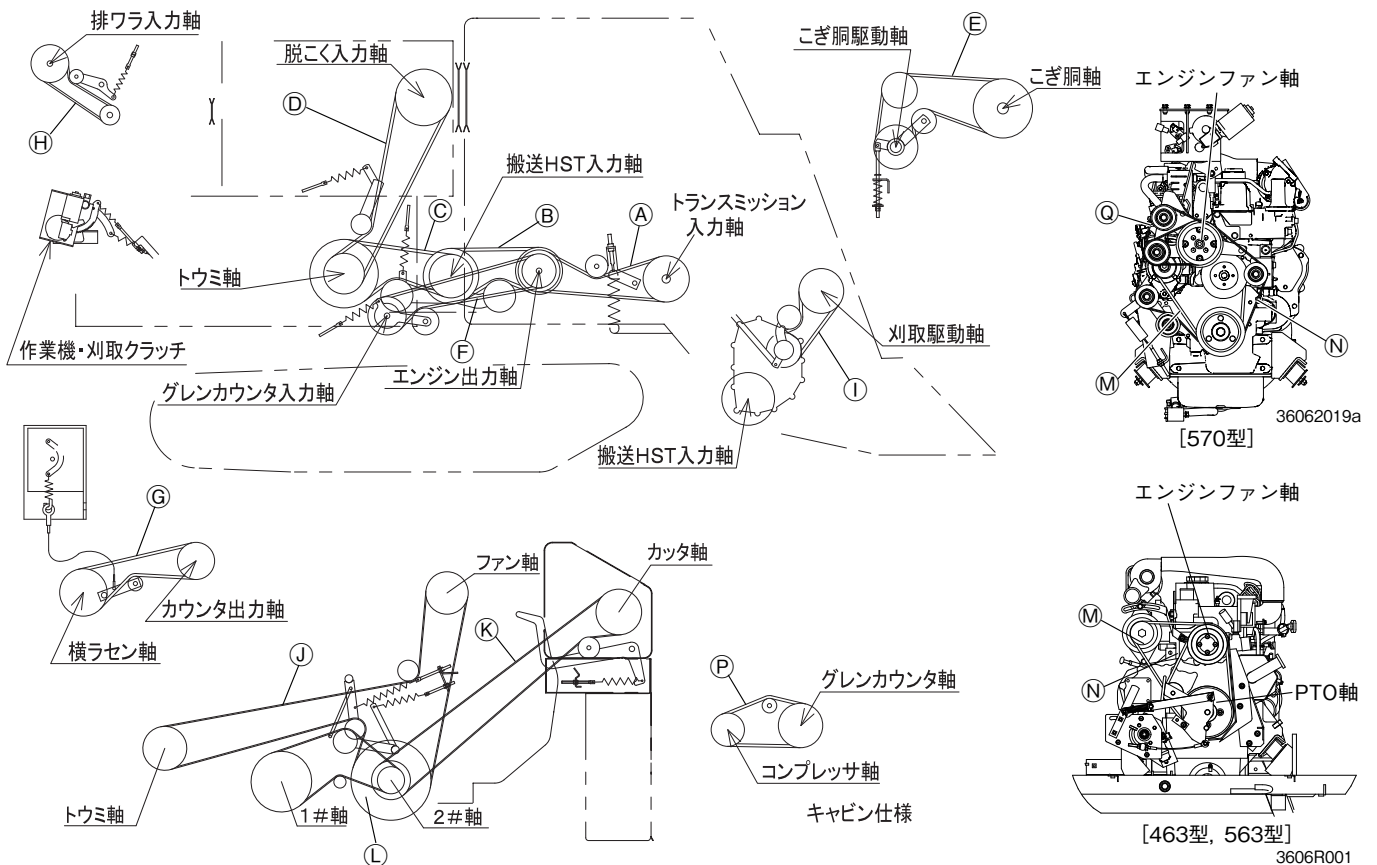
・この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

型 式 名	三菱VG563			
名 称	三菱VG570R			
区 分	ET	SLYM	XSLYM	
車 両 型 式 名	三菱 KDN-VC70A			
機 体 寸 法	全 長 (mm)	4490		
	全 幅 (mm)	2040		
	全 高 (mm)	2360	2700	
機 体 質 量 (重 量) (kg)	3280	3360	3510	
エ ン ジ ン	型 式	V3307-DI-T		
	種 類	水冷4サイクル4気筒立型ディーゼルトーボ		
	総 排 気 量 (L{cc})	3.331 {3,331}		
	出 力 / 回 転 速 度 (kW{PS}/rpm)	51.5 {70} / 2600		
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油		
	使 用 タ ン ク 容 量 (L)	80		
	始 動 方 式	セルモータ式		
バ ッ テ リ (V・Ah)	12・64			
走 行 部	ク ロ ー ラ	幅 × 接 地 長 (mm)	450×1,670	500×1,670
		中 心 距 離 (mm)	1,080	
	平 均 接 地 圧 (kPa{kgf/cm ² })	21.4 {0.218}	19.7 {0.201}	20.6 {0.210}
	変 速 方 式	油圧モータ式 (HST)		
	変 速 段 数 (段)	前進無段, 後進無段 (副変速2段)		
走 行 速 度 (m/s)	前 進	標準: 0~1.52, 高速: 0~2.48		
	後 進	標準: 0~1.52, 高速: 0~2.48		
刈 取 部	刈 取 条 数 (条)	5		
	デ バ イ ダ 先 端 間 隔 (mm)	1,700~1,750		
	刈 刃 装 置 形 式	往復動刃式 (ツイン)		
	刃 幅 (mm)	1,690		
	変 速 段 数 (段)	2 (車速連動式)		
	刈 高 さ 調 整 範 囲 (mm)	40~150		
脱 こ く 部	こ ぎ 深 調 節 方 法	電動式 (自動, 手動併用)		
	脱 こ く 方 式	複胴下こぎ軸流式 (増速ツインこぎ胴)		
	こ ぎ 胴	こ ぎ 胴 経 × 幅 (mm)	410×810	
		回 転 速 度 (rpm)	前463・後569	
	処 理 胴	こ ぎ 胴 経 × 幅 (mm)	140×880	
回 転 速 度 (rpm)		1,571		
揺 動 板 幅 × 長 さ (mm)	600×1,370			
処 理 部 粒	こ ぐ 粒 処 理 方 式	グレンタンク式 (オーガ排出)		
	タ ン ク 容 量 (L)	1,500		
	排 出 高 さ (mm)	1,900~4,800		
排 ワ ラ 処 理 装 置	ディスク形カッタ			
適 応 作 物 全 長 (mm)	550~1,300			
倒 伏 適 応 性 (度)	追刈: 85° 向刈: 70° 以下			
作 業 能 率 (分/10a)	10~46 (計算値)			
運 転 免 許	大型特殊免許			

・この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

2. ベルト一覧表

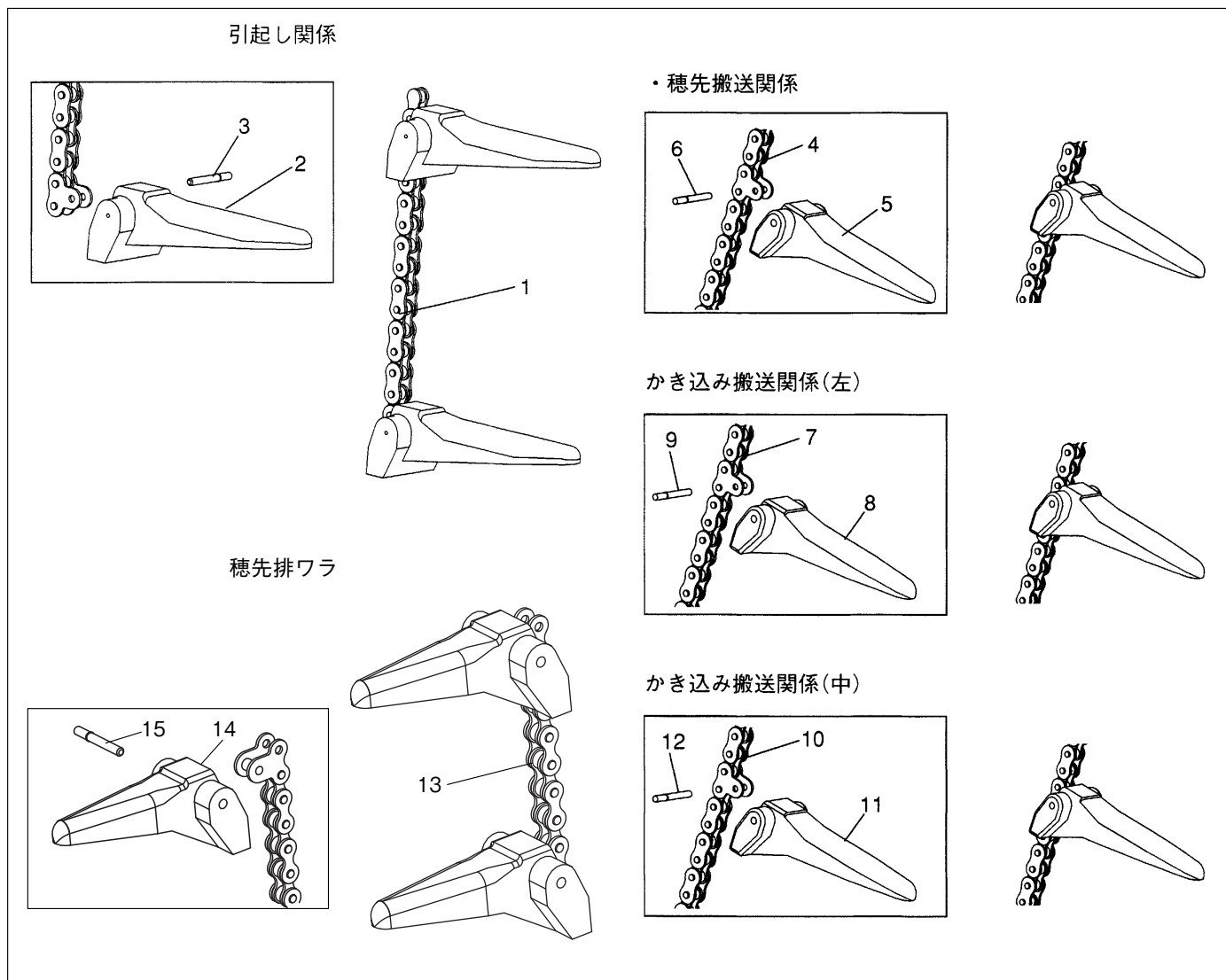
記号	伝動系統	本数	部品番号	仕 様	
A	エンジン出力軸～トランスミッション入力軸	2	3553 0054 001	LB59	走行ベルト [463型, 563型]
		2	3592 9027 000	SB61	走行ベルト [570型]
B	エンジン出力軸～搬送HST入力軸	2	3583 6217 500	LB49	搬送HST駆動ベルト [463型, 563型]
		2	3685 6217 500	SB50	搬送HST駆動ベルト [570型]
C	搬送HST入力軸～トウミ軸	1	3583 6537 001	SC56	脱こく入力ベルト [463型, 563型]
		1	3685 6537 000	SC55	脱こく入力ベルト [570型]
D	トウミ軸～脱こく入力軸	1	3583 6107 001	SC77	こぎ胴伝動ベルト [463型, 563型]
		1	3685 6107 000	SC79	こぎ胴伝動ベルト [570型]
E	こぎ胴駆動軸～こぎ胴軸	2	3553 6161 000	SB66	こぎ胴ベルト [463型, 563型]
		2	3685 6123 000	SB73	こぎ胴ベルト [570型]
F	エンジン出力軸～グレンカウンタ入力軸	1	3553 0054 001	LB59	グレン入力ベルト [463型, 563型]
		1	3583 9007 000	LB60	グレン入力ベルト [570型]
G	カウンタ出力軸～横ラセン軸	1	3559 9023 000	SB69	横ラセン駆動ベルト
H	こぎ胴軸～排ワラ入力軸	1	0852 1500 036	SB36	排ワラ駆動ベルト
I	搬送HST入力軸～刈取駆動軸	1	3584 4012 000	SC40	刈取ベルト [563型]
		1	3583 4012 000	LC39	刈取ベルト [463型, 570型]
J	トウミ軸～ファン軸	1	0852 1500 139	SB139	選別ベルト
K	2番軸～カッタ軸	1	0852 1500 097	SB97	カッタベルト
L	1番軸～2番軸	1	3553 6625 000	SB46	1番ラセン駆動ベルト
M	エンジンPTO軸～エンジンファン軸	1	05910-10041	1060mm	ファンベルト (オルタネータ) [463型, 563型]
		1	9982 0002 491	890mm	ファンベルト (オルタネータ) [570型]
N	エンジンPTO軸～エンジンファン軸	1	3606 0234 500	LA36	ファンベルト (ラジエータ) [463型, 563型]
		1	3685 0236 000	1150mm	ファンベルト [570型]
P	コンプレッッサ	1	3583 3959 000	FM37	コンプレッサベルト [X仕様]
Q	エンジンPTO軸～エンジンファン軸	1	3685 0223 000	630mm	ファンベルト [570型]



3. 主な消耗部品

1. 爪関係

[5条型]

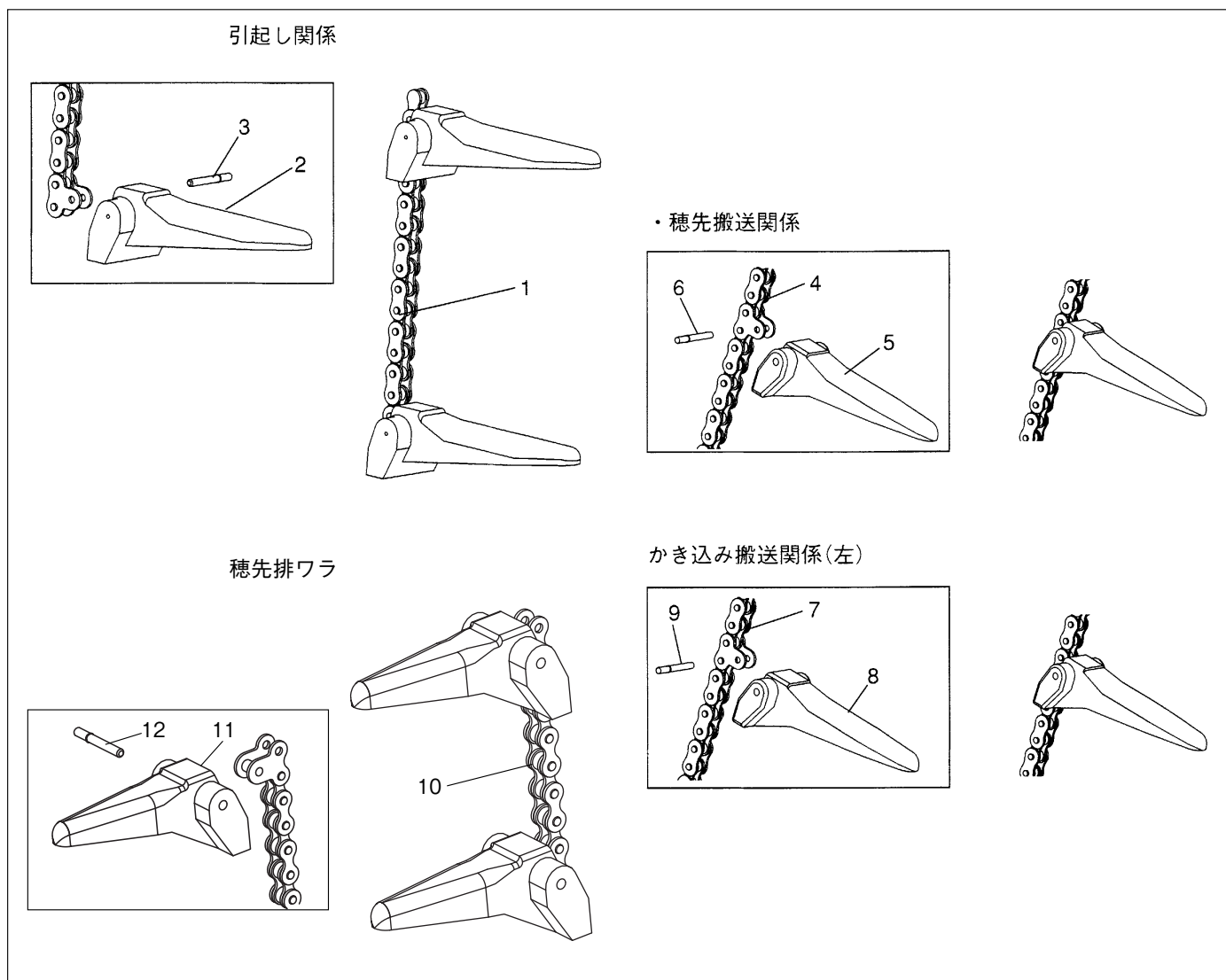


No.	部品名称	部品番号	備考
1	チェン (5本)	3520 4438 000	引きし搬送
2	ツメ (50本)	3586 4419 000	
3	ピン (50本)	3523 4428 000	
4	チェン (1本)	3584 5232 001	穂先搬送
5	ツメ (31本)	3193 3338 000	
6	ピン (31本)	3523 4428 000	
7	チェン (1本)	3518 5252 000	かき込み搬送 (左)
8	ツメ (10本)	3193 3338 000	
9	ピン (10本)	3523 4428 000	
10	チェン (1本)	3584 4978 000	かき込み搬送 (中)
11	ツメ (8本)	3193 3338 000	
12	ピン (8本)	3523 4428 000	
13	チェン (1本)	3583 7841 001	穂先排ワラ
14	ツメ (16本)	3579 5295 201	
15	ピン (16本)	3523 4428 000	

・ご用命のときは、「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

付 表

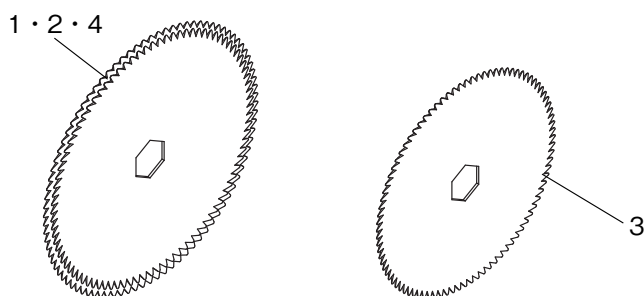
[4条型]



No.	部品名称	部品番号	備考
1	チェン (4本)	3520 4438 000	引きし搬送
2	ツメ (40本)	3586 4419 000	
3	ピン (40本)	3523 4428 000	
4	チェン (1本)	3583 5232 001	穂先搬送
5	ツメ (31本)	3193 3338 000	
6	ピン (31本)	3523 4428 000	
7	チェン (1本)	3583 4922 000	かき込み搬送 (左)
8	ツメ (10本)	3193 3338 000	
9	ピン (10本)	3523 4428 000	
10	チェン (1本)	3583 7841 001	穂先排ワラ
11	ツメ (16本)	3579 5295 201	
12	ピン (16本)	3523 4428 000	

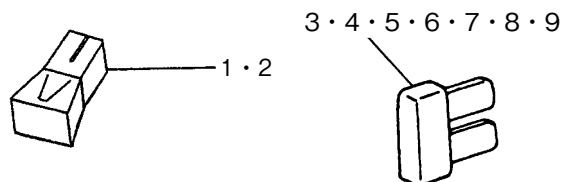
・ご用命のときは、「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

2. カッタ関係



No.	部 品 名 称	部 品 番 号	個 数 (1 セ ャ ッ ト 分)		
			マルチカッタ60/180mm	マルチカッタ40/160mm	ディスクカッタ60mm
1	ノ コ 刃 (φ170)	3574 8785 000	10	17	—
2	ノ コ 刃 (φ200)	3829 0414 000	6	6	—
3	ス タ ー ホ イ ル 刃	3574 8808 000	16	23	16
4	ノ コ 刃 (φ160)	3830 0415 000	—	—	16

3. ヒューズ

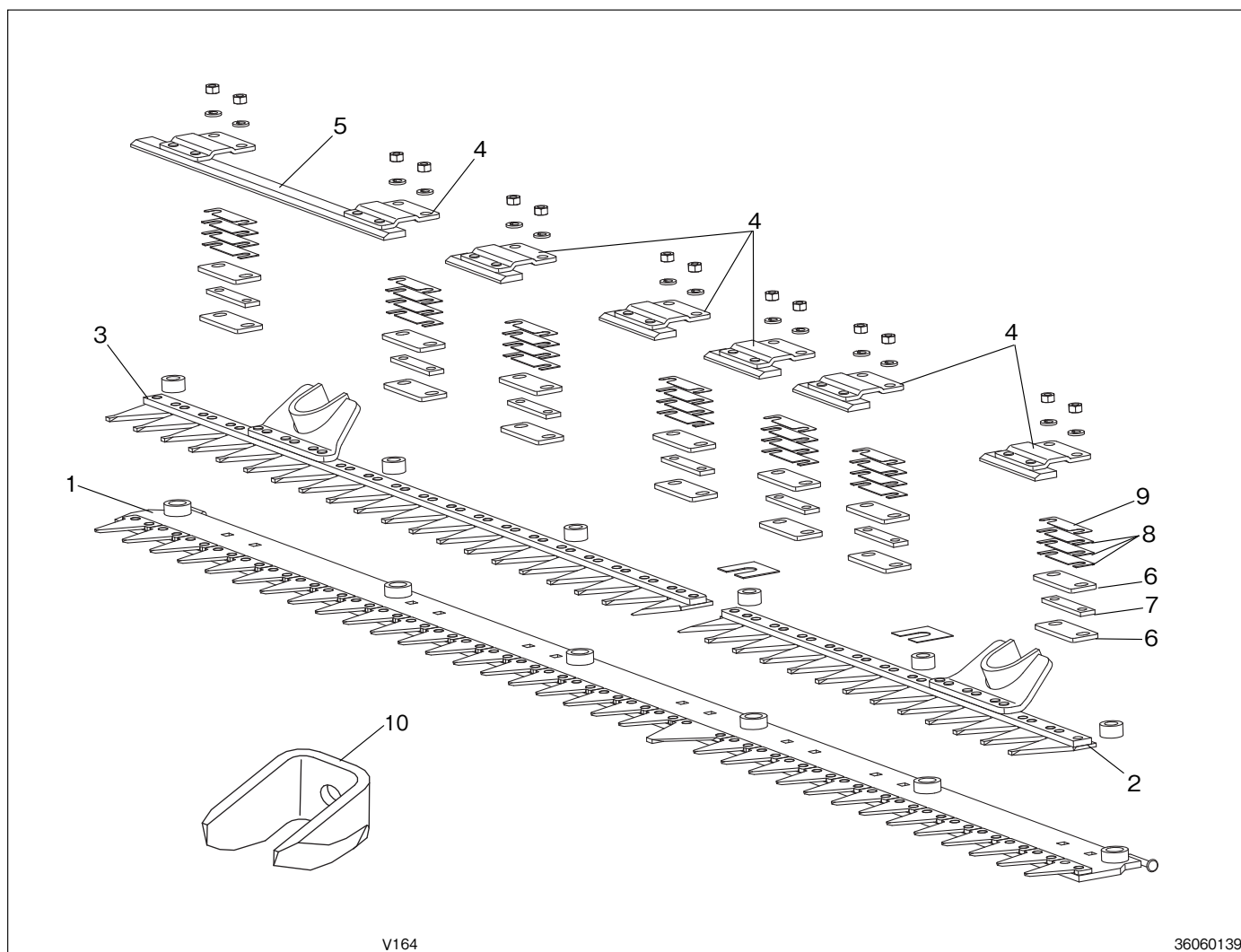


No.	部 品 名 称	部 品 番 号	備 考
1	ヒ ユ ー ズ	3559 0861 200	40 A (グレンオーガ回転モータ用)
2	ヒ ユ ー ズ	1037 5502 200	60 A (メイン)
3	ヒ ユ ー ズ	0980 1001 006	10 A
4	ヒ ユ ー ズ	0980 1001 506	15 A
5	ヒ ユ ー ズ	0980 1002 006	20 A
6	ヒ ユ ー ズ	0980 1003 006	30 A
7	ヒ ユ ー ズ	0980 1002 005	20 A (ファンベルト, 570型:逆転ファン)
8	ヒ ユ ー ズ	0980 1003 005	30 A (防塵電動ファン [570型仕様を除く])
9	ヒ ユ ー ズ	0980 1000 305	3 A (バックモニタ)

・ご用命のときは、「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4. 刈刃・カマ関係

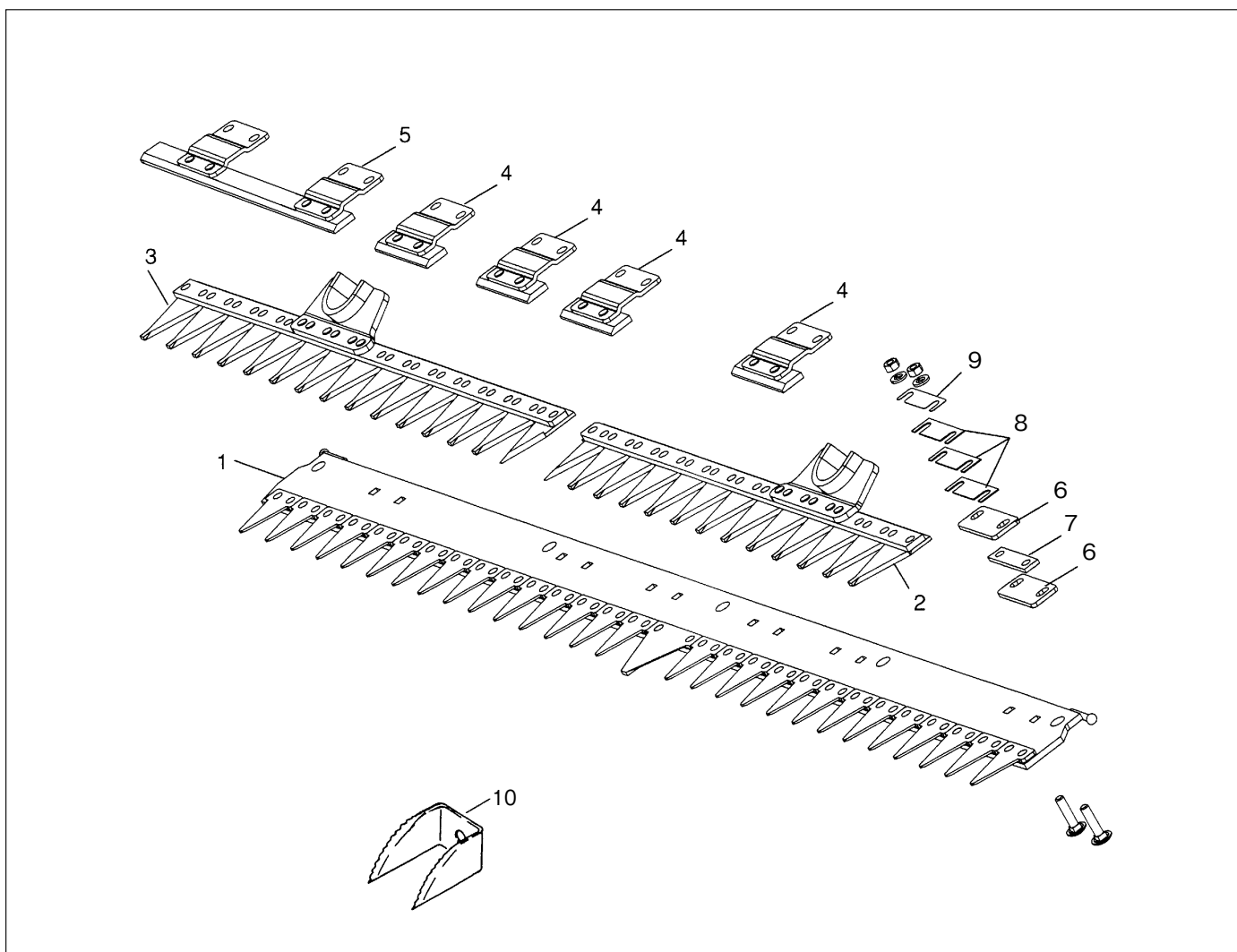
[5条型]



No.	部品名称	部品番号	備考
1~10	カリハアッセンブリ	3607 4351 000	
1	ウケハダイ	3607 4352 000	
2	ウエハヒダリアッシ	3595 4355 000	
3	ウエハミギアッシ	3607 4359 000	
4	ナイフクリップ (5個)	3583 4368 000	
5	ナイフクリップ (1個)	3584 4364 000	
6	スライドプレート (14個)	3532 4365 200	
7	ライナ (7個)	3532 4365 300	
8	シム (21個)	3532 4365 400	t = 0.8mm
9	シム	3532 4365 500	t = 0.2mm
10	ワラキリカマ (14個)	3735 7321 001	

・ご用命のときは、「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

[4条型]



No.	部品名称	部品番号	備考
1~10	カリハアッセンブリ	3595 4351 000	
1	ウケハダイアッシ	3595 4352 000	
2	ウエハヒダリアッシ	3595 4355 000	
3	ウエハミギアッシ	3595 4359 000	
4	ナイフクリップ (4個)	3583 4368 000	
5	ナイフクリップ (1個)	3583 4364 001	
6	スライドプレート (12個)	3532 4365 200	
7	ライナ (6個)	3532 4365 300	
8	シム (18個)	3532 4365 400	t = 0.8mm
9	シム	3532 4365 500	t = 0.2mm
10	ワラキリカマ (14個)	3735 7321 001	

・ご用命のときは、「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4. 付属品一覧表

No	品 名	個 数	備 考
1	取扱説明書	1	
2	バンパ (スナップピン付き)	1	
3	コンバインシート	1	
4	保証書	1	
5	メンテナンスノート	1	
6	キー (4×12)	4	引起し伝動部

5. アタッチメント (別売り)

	型 式	品 名	備 考
基本 作業機 ・ 部品	KN-Y463	自動スライドノック	株元・穂先結束両用, 大玉バスケット付
	R-KSY60	スタンド装置	
	D-KNVY1	ノック用ドロップ	
	SP-Y60W	スーパーデバイダ	2連
	SP-Y463TQ	スーパーデバイダ	3連用追加キット
	SP-G563F	スーパーデバイダ	
	K-RCVSVCH	無線リモコンキット	
	CH-60	コンバインフード	
	Y463-H-KIT	方向自動キット	
	K-Y463DF	電動クラッチ+フラップキット	

6. 潤滑油について

オイルは、三菱純正オイルをお奨めします。

1. エンジンオイル

メーカ	商 品 名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル (SAE・10W-30, SD/CD/GL-4) スーパーマルチGDオイル (SAE・10W-30, SL/CF)
全 農	クミアイディーゼルオイルCFマルチ (SAE・10W-30)
JX日鉱日石エネルギー	ファームユニバーサルオイル

・やむをえず他メーカーのオイルを使用される場合は、APIサービス分類CF級オイルをお使いください。

2. 油圧作動油

メーカ	商 品 名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル (SAE・10W-30, SD / CD / GL-4)
JX日鉱日石エネルギー	スーパーハイランド46

3. ギヤオイル

メーカ	商 品 名
三菱農機純正油	マルチSHPギヤオイル (SAE90, GL-5)
JX日鉱日石エネルギー	スーパーハイポイドギヤ (SAE90, GL-5 SAE140, GL-5)

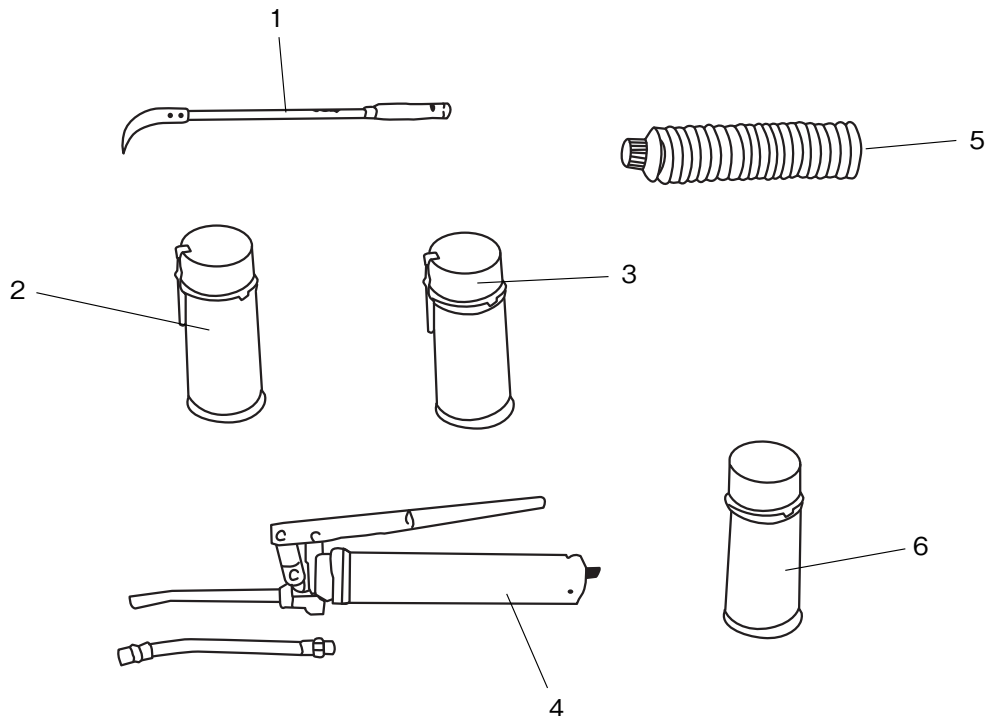
取扱いのポイント

- トランスミッションケースのオイルは、ギヤオイルAPI・GL-5, SAE・90を使用してください。

7. コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商 品 名	商 品 番 号		
1	万能鎌 (ノコ刃)	S309DX	土, ワラの除去に最適	
2	ダイヤモンドプレー (防錆・潤滑)	K1-420DX	金属部品の防錆, 潤滑	
3	スプレーグリス	SP300	金属部品の防錆, 潤滑	
4	グリースポンプ	N850-666	フレキシブルパイプ付	
5	グリース	NMP400	グリースポンプ詰替え用	
6	カラスプレー (グレー)	0975 0000 690	(BN色)	補修用塗料
	〃 (ハイグレードグレー)	0975 0000 710	(BR色)	
	〃 (白)	0975 0000 650	(ZC色)	
	〃 (黒)	0975 0000 470	(AG色)	



V180

・ご用命のときは、「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、下記の点を明確にして、お買いあげ先へお問合わせください。

- ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…?

型 式

機械番号(製造番号)

- ご使用状況は…?

(どんな作業のとき)

- どのくらい使用されましたか?

(約 _____ アール使用後)

- トラブルが発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



どんなに小さなことでも、
お気軽にお問合わせ
ください。

(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL ()

 **三菱農機株式会社**

本 社	〒699-0195 島根県松江市東出雲町揖屋 6 6 7 - 1	☎ (0852) 52-2111(代)
事業本部(東京事務所)	〒340-0203 埼玉県久喜市桜田 2 - 1 3 3 - 4	☎ (0480) 58-7050(代)

販売会社 (販売会社は広域販売会社のみを記載)

三菱農機販売株式会社	〒340-0203 埼玉県久喜市桜田 2 - 1 3 3 - 4	☎ (0480) 58-9524
北 海 道 支 社	〒066-0077 北海道千歳市上長都 1 0 4 6	☎ (0123) 22-1234
東 北 支 社	〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東 3 丁目 1 - 1	☎ (022) 207-3711
関 東 甲 信 越 支 社	〒340-0203 埼玉県久喜市桜田 2 - 1 3 3 - 4	☎ (0480) 58-9521
東 海 支 社	〒453-0862 愛知県名古屋市中村区岩塚町字高道 1 (三菱重工業株式会社 岩塚工場内)	☎ (052) 419-6721
北 陸 支 社	〒918-8231 福井県福井市問屋町 2 - 3 8	☎ (0776) 27-3078
西 日 本 支 社	〒701-4254 岡山県瀬戸内市邑久町豆田 1 6 1 - 1	☎ (0869) 24-0820
九 州 支 社	〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜 7 - 1	☎ (0942) 84-1888